

## 古屋敷遺跡（G区）

2017年 7月

国土交通省松江国道事務所  
島根県教育委員会



## 古屋敷遺跡（G区）

2017年 7月

国土交通省松江国道事務所  
島根県教育委員会



# 序

現在、中国地方整備局松江国道工事事務所では、一般国道9号の大田市静間町～仁摩町間にについて、緊急時の代替路線の確保、医療・観光・物流活動の支援を目的として、静間・仁摩道路を平成20年度に事業化し、整備を進めています。

道路整備にあたり、埋蔵文化財の保護に十分留意しつつ関係機関と協議を行っていますが、回避することのできない埋蔵文化財については、道路事業者の負担により必要な調査を実施し、記録保存を行っています。本事業においても、静間・仁摩道路建設地内にある遺跡について島根県教育委員会の協力のもとに発掘調査を実施しました。

この報告書は平成27年度に実施した大田市仁摩町大国地内に所在する古屋敷遺跡（G区）の発掘調査をとりまとめたものです。今回の調査では、縄文時代のトチやクルミといった堅果類の、採集貯蔵・加工・廃棄、あるいはアワ・アズキ・ダイズなどを栽培していたという人々の生産活動を具体的に知ることができる資料を得ることができました。本報告書がふるさと島根の歴史を伝える貴重な資料として、学術並びに歴史教育のために広く活用されることを期待します。

最後に、当初の道路整備事業にご理解、ご支援をいただき、本埋蔵文化財発掘調査および調査報告書の編集にご協力いただきました地元の方々や関係諸機関の皆様に対し、深く感謝いたします。

平成29年7月

国土交通省中国地方整備局

松江国道事務所長 鈴木 祥弘

## 序

本書は、島根県教育委員会が国土交通省中国地方整備局松江国道事務所から委託を受けて実施した一般国道9号（静間・仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査のうち、平成27年度に実施した古屋敷遺跡（G区）の発掘調査の成果をとりまとめたものです。

古屋敷遺跡は、大田市仁摩町大國に所在し、縄文時代晚期を中心とした遺跡です。この調査では、縄文時代晚期の堅果類を貯蔵・加工・廃棄した場所や、アワ・アズキ・ダイズなどを食した可能性の痕跡など、人々の具体的な生産活動を知る上で貴重な資料を得ることができました。本書がこの地域の歴史を解明していくための基礎資料として、広く活用される事を願っております。

最後になりましたが、発掘調査と報告書の作成にあたりご協力をいただきました国土交通省中国地方整備局松江国道事務所をはじめ、大田市教育委員会、多くの地元の方々並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成29年7月

島根県教育委員会  
教育長 鴨木朗

## 例　言

1. 本書は、国土交通省中国地方整備局松江国道事務所から委託を受けて、島根県教育委員会が平成 27 年度に実施した一般国道 9 号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査のうち、古屋敷遺跡（G 区）（大田市仁摩町大国 133 番地他）の成果をまとめたものである。

### 2. 調査組織

調査主体 島根県教育委員会

平成 27 年度 現地調査

【事　務　局】廣江耕史（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、

渡部宏之（総務課長）、池淵俊一（管理課長）

【調査担当者】林 健亮（調査第二課長）、内田律雄（調査第二課嘱託職員）、

渡辺 聰（調査第二課調査補助員）、幸村康子（調査第二課調査補助員）

平成 28 年度 報告書作成

【事　務　局】萩 雅人（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、

渡部宏之（総務課長）、柳浦俊一（企画幹）

【調査担当者】守岡正司（調査第二課長）、内田律雄（調査第二課嘱託職員）、

米田美江子（調査第二課調査補助員）

### 3. 現地調査及び整理作業において、以下の方々からご指導をいただいた。

（五十音順・肩書きは当時）

小畑弘己（熊本大学文学部教授）、佐々木由香（株式会社パレオ・ラボ総務部長）、中村唯史（島根県立三瓶自然館主幹）、濱田竜彦（鳥取県立むきばんだ史跡公園調査整備担当係長）

### 4. 発掘調査作業（安全管理、発掘作業員の雇用、掘削、測量等）については、島根県教育委員会から株式会社トーワエンジニアリングに委託した。

### 5. 指図の中の北は、測量法による第Ⅲ平面直角座標系 X 軸方向を示し、座標系の X Y 座標は世界測量地系による。また、レベルは海拔高を示す。

### 6. 本書第 2 図は、国土地理院発行の 1/25,000 地図（仁万）を使用して作成したものである。

### 7. 本書に掲載した写真は内田と渡辺聰が撮影した。

### 8. 本書の執筆と編集は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター職員の協力を得て、内田と米田が行った。

### 9. 本書に掲載した遺物及び写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターで保管している。

## 目 次

第1章 調査に至る経緯と経過 ······	1
第2章 古屋敷遺跡の位置と歴史的環境 ······	2
第3章 古屋敷遺跡（G区）の調査	
1. 調査の概要 ······	6
2. 遺構と遺物（土器及び石器） 第1遺構面～第6遺構面 ······	9
3. 遺物（石器及び木製品）	
石 器 ······	77
木製品 ······	78
第4章 自然科学的分析	
1. 古屋敷遺跡（G区）から出土した赤色顔料付着遺物について（上山） ······	108
2. 古屋敷遺跡出土の種実および土器圧痕調査報告（小畠） ······	112
3. 古屋敷遺跡G区における放射性炭素年代(AMS測定)(㈱加速器分析研究所) ······	120
4. 古屋敷遺跡G区出土木材の樹種(㈱加速器分析研究所) ······	124
第5章 まとめ ······	127
遺物観察表 ······	131

# 挿図目次

- 第1図 古屋敷遺跡の位置  
第2図 古屋敷遺跡の位置と周辺の道路  
第3図 古屋敷遺跡調査区配置図  
第4図 G区グリッド配置図  
第5図 第1遺構面 全体図  
第6図 第1遺構面 弥生の川跡平面及び断面図  
第7図 第1遺構面 弥生の川跡出土土器実測図  
第8図 第1遺構面 包含層出土土器実測図  
第9図 第2遺構面 全体図  
第10図 第2遺構面 検出遺構図1  
第11図 第2遺構面 検出遺構図2  
第12図 第2遺構面 検出遺構図3  
第13図 第2遺構面 遺構内出土土器実測図  
第14図 第2遺構面 包含層遺物出土状況図  
第15図 第2遺構面 包含層遺物出土状況詳細図及びA-B拡大図  
第16図 第2遺構面 クルミ集中範囲拡大図  
第17図 第2遺構面 出土クルミ計測値  
第18図 第2遺構面 クルミ集中範囲出土クルミ動物留痕比  
第19図 第2遺構面 包含層出土土器実測図1  
第20図 第2遺構面 包含層出土土器実測図2  
第21図 第3遺構面 全体図  
第22図 第3遺構面 検出遺構図1  
第23図 第3遺構面 検出遺構図2  
第24図 第3遺構面 包含層遺物出土状況図  
第25図 第3遺構面 包含層遺物出土状況詳細図及び拡大図、出土石器実測図  
第26図 第3遺構面 遺構内及び包含層出土土器実測図1  
第27図 第3遺構面 包含層出土土器実測図2  
第28図 第3遺構面 包含層出土土器実測図3  
第29図 第4遺構面 全体図  
第30図 第4遺構面 検出遺構図及びSR断面図  
第31図 第4遺構面 SX32出土土器実測図  
第32図 第4遺構面 新及び包含層遺物出土状況図  
第33図 第4遺構面 SR新及び包含層遺物出土状況詳細図及び拡大図  
第34図 第4遺構面 SR新出土土器実測図1  
第35図 第4遺構面 SR新出土土器実測図2  
第36図 第4遺構面 SR新出土土器実測図3  
第37図 第4遺構面 SR新出土土器及び土製品実測図4  
第38図 第4遺構面 包含層出土土器実測図  
第39図 第5遺構面 (無い範囲) 全体図  
第40図 第5遺構面 (無い範囲) 拡大図  
第41図 第5遺構面 哄果類集中範囲1実測図  
第42図 第5遺構面 出土クルミ計測値  
第43図 第5遺構面 哄果類集中範囲1～3・7出土土器実測図  
第44図 第5遺構面 包含層出土土器実測図  
第45図 第6遺構面 全体図  
第46図 第6遺構面 土層断面図  
第47図 第6遺構面 SR古及び包含層(68-375)土器及び土製品出土状況図  
第48図 第6遺構面 SR古石器(自然礫)出土状況図  
第49図 第6遺構面 SR古木製品(自然木)出土状況図  
第50図 第6遺構面 SR古遺物出土状況断面図  
第51図 第6遺構面 SR古出土土器実測図1  
第52図 第6遺構面 SR古出土土器実測図2  
第53図 第6遺構面 SR古出土土器実測図3  
第54図 第6遺構面 SR古出土土器実測図4  
第55図 第6遺構面 SR古出土土器実測図5  
第56図 第6遺構面 SR古出土土器実測図6  
第57図 第6遺構面 SR古出土土器実測図7  
第58図 第6遺構面 SR古出土土器実測図8  
第59図 第6遺構面 SR古出土土器実測図9  
第60図 第6遺構面 SR古出土土器実測図10  
第61図 第6遺構面 SR古出土土器実測図11  
第62図 第6遺構面 SR古出土土器実測図12  
第63図 第6遺構面 SR古出土土器実測図13  
第64図 第6遺構面 SR古出土土器実測図14  
第65図 第6遺構面 SR古出土土器実測図15  
第66図 第6遺構面 SR古出土土器実測図16  
第67図 第6遺構面 SR古出土土器及び土製品実測図17  
第68図 第6遺構面 SR古下の包含層出土土器実測図  
第69図 古屋敷G区 出土石器実測図1  
第70図 古屋敷G区 出土石器実測図2  
第71図 古屋敷G区 出土石器実測図3  
第72図 古屋敷G区 出土石器実測図4  
第73図 古屋敷G区 出土石器実測図5  
第74図 古屋敷G区 出土石器実測図6  
第75図 古屋敷G区 出土石器実測図7  
第76図 古屋敷G区 出土石器実測図8  
第77図 古屋敷G区 出土石器実測図9  
第78図 古屋敷G区 出土石器実測図10  
第79図 古屋敷G区 出土石器実測図11  
第80図 古屋敷G区 出土石器実測図12  
第81図 古屋敷G区 出土石器実測図13  
第82図 古屋敷G区 出土石器実測図14  
第83図 古屋敷G区 出土石器実測図15  
第84図 古屋敷G区 出土石器実測図16  
第85図 古屋敷G区 出土石器実測図17  
第86図 古屋敷G区 出土石器実測図18  
第87図 古屋敷G区 出土石器実測図19  
第88図 古屋敷G区 出土石器実測図20  
第89図 古屋敷G区 出土石器実測図21  
第90図 古屋敷G区 出土石器実測図22  
第91図 古屋敷G区 出土石器実測図23  
第92図 古屋敷G区 出土石器実測図24  
第93図 古屋敷G区 出土石器実測図25  
第94図 古屋敷G区 出土石器実測図26  
第95図 古屋敷G区 出土石器実測図27  
第96図 古屋敷G区 出土石器実測図1  
第97図 古屋敷G区 出土石器実測図2

# 写真図版目次

- 図版 1 古屋敷遺跡G区及びH・I区空中撮影(南から)  
(西から)
- 図版 2 第1遺構面検出状況 第1遺構面弥生の川跡  
H-G区の境界
- 図版 3 第2遺構面 SX02 半裁状況、SX04 半裁状況、  
SX05 半裁状況、SX06 半裁状況、SX07  
半裁状況、SX08 半裁状況、SX09 半裁状況、  
SX10 完掘状況
- 図版 4 第2遺構面 SX11 半裁状況、SX12 半裁  
状況、SX13 ブラン検出状況、SX15 完掘状  
況、SX14 ブラン検出状況、SX14 半裁状況、  
SX17 完掘状況、SX21 完掘状況
- 図版 5 第2遺構面 SX22 完掘状況、SX23 半裁状況、  
SX集中状況、M2 20-47とケルミ集中範囲、  
N3 ケルミ集中範囲
- 図版 6 第2遺構面 自然木出土状況、流木出土状況  
南東山上から調査区遠景 第3遺構面  
O2 27-71 出土状況、O3 26-60 出土状況
- 図版 7 第3遺構面 SX20 半裁状況、SX26 半裁状況、  
SX28 完掘状況、P06 半裁状況、地床炉遺構  
群
- 図版 8 第3遺構面 N3 ピット群 第4遺構面  
SR 新全体遠景
- 図版 9 第4遺構面 SR 新35-104 出土状況、SR 新  
44-143 出土状況、SX32 半裁状況、SX32 完  
掘状況 第5遺構面 堅果類集中範囲1検出  
状況、堅果類集中範囲1・3～6 第6遺構面  
O3 SR 古53-183 出土状況、杭1(O-O')半裁  
状況
- 図版 10 第6遺構面 中央トレンチ東西南北土層断面  
交差付近、O2 SR 古東西土層断面流木出土状  
況
- 図版 11 第6遺構面 SR 古 96-3,96-5 出土状況、半裁  
状況、O2 SR 古 96-6,96-7 半裁状況、N3 SR  
古 96-2 周辺流木及び石群出土状況、流木出  
土状況
- 図版 12 第6遺構面 O2 SR 古 97-16 出土状況、  
N4 SR 古木 179 出土状況
- 図版 13 第6遺構面 N2 SR 古磨石集中箇所、SR 古  
上半掘削状況
- 図版 14 第6遺構面 O2・3 SR 古黒色有機物層及び粘  
土層範囲、SR 古完掘状況
- 図版 15 第6遺構面 SR 古完掘状況 古屋敷遺跡G区  
完掘状況遠景
- 図版 16 第1遺構面 弥生の川跡及び包含層出土土器  
第2遺構面 SX00 出土土器、SX01・05・12・  
14・15・18・23 及び包含層出土土器
- 図版 17 第2遺構面 包含層出土土器
- 図版 18 第3遺構面 SX25、包含層出土土器
- 図版 19 第3遺構面 包含層出土土器
- 図版 20 第3遺構面 包含層出土土器 第4遺構面  
SX32 及び SR 新出土土器
- 図版 21 第4遺構面 SR 新出土土器
- 図版 22 第4遺構面 SR 新及び包含層出土土器 第5  
遺構面 堅果類集中範囲 1-3 出土土器
- 図版 23 第4遺構面 包含層出土土器 第5遺構面  
堅果類集中範囲 2-7、包含層出土土器 第6  
遺構面 SR 古出土土器
- 図版 24 第6遺構面 SR 古出土土器
- 図版 25 第6遺構面 SR 古出土土器
- 図版 26 第6遺構面 SR 古出土土器
- 図版 27 第6遺構面 SR 古出土土器
- 図版 28 第6遺構面 SR 古出土土器
- 図版 29 第6遺構面 SR 古出土土器
- 図版 30 第6遺構面 SR 古出土土器
- 図版 31 第6遺構面 SR 古出土土器
- 図版 32 第6遺構面 SR 古出土土器
- 図版 33 第6遺構面 SR 古出土土器
- 図版 34 第6遺構面 SR 古出土土器
- 図版 35 第6遺構面 SR 古出土土器
- 図版 36 第6遺構面 SR 古出土土器 SR 古下の包含  
層出土土器
- 図版 37 第2・3遺構面 包含層出土土器 第4遺構  
面 SR 新出土土器 第6遺構面 SR 古出土  
土器
- 図版 38 第6遺構面 SR 古出土土器及び土製品
- 図版 39 古屋敷遺跡G区 出土石器
- 図版 40 古屋敷遺跡G区 出土石器
- 図版 41 古屋敷遺跡G区 出土石器
- 図版 42 古屋敷遺跡G区 出土石器
- 図版 43 古屋敷遺跡G区 出土石器
- 図版 44 古屋敷遺跡G区 出土石器
- 図版 45 古屋敷遺跡G区 出土石器
- 図版 46 古屋敷遺跡G区 出土石器
- 図版 47 古屋敷遺跡G区 出土石器
- 図版 48 古屋敷遺跡G区 出土石器
- 図版 49 古屋敷遺跡G区 出土石器
- 図版 50 古屋敷遺跡G区 出土石器 第2遺構面 ク  
ルミ集中範囲出土クルミ 第5遺構面 堅果  
類集中範囲 1 出土トチ・クルミ 第6遺構面  
SR 古 96-2 周辺出土トチ
- 図版 51 古屋敷遺跡G区 出土木製品
- 図版 52 古屋敷遺跡G区 出土木製品

## 第1章 調査に至る経緯と経過

国道9号線は京都府京都市から山口県下関市に至る総延長約750kmで、山陰地方の諸都市を結ぶ幹線道路である。それはほぼ古代山陰道に沿っており、都と山陰道諸国を結ぶ七道の一つであった。

このうち、大田市の静間仁摩間の現状は急カーブや急勾配が連続し、重大事故が発生しやすい状況にあった。この区間では、国際規格コンテナの通行支障や、事故・災害発生時の通行止めなどに際しては、大規模な迂回路が必要となるなど、社会経済活動に大きな障害をきたしていた。こうした問題を解決するため、島根県大田市静間町から仁摩町大国に至る延長7.9kmの自動車専用道路が計画され、平成20年度から「静間仁摩道路」として事業着手されている。

この「静間仁摩道路」建設予定地内には、古屋敷遺跡、大国地頭所遺跡、垂水遺跡、少林寺遺跡、庵寺石塔群などの遺跡が存在し、このうちの古屋敷遺跡については、平成25年度にA・B区、平成26年度にC・D・E・F区を、平成27年度にI・H・G区の発掘調査を行った。

G区の発掘調査は、平成27年5月から表土掘削を行い、6月1日からグリッドの設定と遺構の検出を開始した。これまでのA～F区の調査で湧水があると予想されたので、土層観察を兼ね、調査作業の安全を確保するために、調査区の周囲に安全勾配で排水溝を設けることと、調査区内の遺構検出を同時にを行うこととした。その結果、水田耕作土と造成土の下は、薄緑灰色微砂粒土を基盤層として、砂礫土、微砂粒土、有機物層の堆積が繰り返され、縄文晩期の突帯紋土器が出土するということがわかった。

6月中旬には、遺物包含層が標高7.5mほどのところで、N2～M2グリッドにかけて流木、突帯紋土器、石器と共に、クルミが特に集中する範囲を確認し、これを取り上げた。同時にO2～N2グリッドに地床炉が検出され始めた。また、M1～M3グリッドには縄文時代晩期の河道(SR新)があることが土層観察から判明した。

夏季の7月に入ると、地床炉はO2・O3・N2・N3グリッドが接するところに群をなして存在していることが判明し、河道SR新の中の砂礫層からは、河道の方向に沿った流木、多くの突帯紋土器や石皿・磨石などが出土した。8月に入ると、調査区内を掘り下げたため排水がきかなくなったり、周囲に設けた排水溝をさらに深くして作業を進めたが、雨天時に壁が崩落し始め、調査区南側の生活道路にも影響が出ると判断されたため、周囲の溝を大型土糞で全面的に保護した。同時に調査区中央に幅2メートルのトレンチを設定し、層序を確かめようとしたところ、もう一つの縄文時代晩期の河道(SR古)の存在がわかり、7ヶ所の堅果類の殻の廃棄場も検出した。SR古からは、多量の河道方向に沿った流木、石器、縄文土器、堅果類をはじめとする植物遺存体が出土した。

秋季に入った10月22・23日には、植物遺存体の調査方法について熊本大学小畠弘己教授に調査指導を受けた。堅果類集中範囲は、クルミ・トチの殻を人工的に割った後に捨てられた廃棄場であることが判明した。

調査の終盤で、G区はそのほぼ全域を縄文時代晩期に流れていた新旧二つの河道が埋まつたものであることがわかったので、11月14日に現地説明会を開催して、調査の成果を公開した。

12月11日にG区の発掘作業を完了し、以後、撤収作業をして発掘調査を完了した。

## 第2章 古屋敷遺跡の位置と歴史的環境

旧国名が石見国であった島根県西部は、出雲が島根半島という大きな防波堤があるのに対し、中国山地から伸びる丘陵が日本海に直接迫り、長い砂丘地帯を形作っている。しかし、処々に丘陵が砂丘を突き破り、複雑な地形を呈し、いわゆる後背湿地をもとにできた沖積平野をみることができる。古屋敷遺跡もそのような自然環境の中にある。この平野の中を流れる潮川（うしおがわ）にはいくつかの支流があったと思われるが、いずれも灘あたりで合流して一つになり日本海へ注いでいたと考えられる。その河口は現在では仁摩港となっている。この平野に古代条里が敷かれたのが最初の大規模開発である。これはいくたびかの補修を経ながら20世紀まで残った。20世紀後半になると、圃場整備や河川改修などで2回目の開発が行われた。それにもかかわらず水田下には、弥生時代前期と縄文時代の層が整然と堆積していた。

この平野と周辺には今のところ旧石器時代の遺跡は発見されていない。縄文時代前期の土器を出土しているのは、久根ヶ曾根遺跡（52）、鳥居原遺跡（55）、仁万大橋遺跡（24）など、砂丘上の遺跡である。中期・後期では、潮川沿いの川向遺跡（26）、海に近い坂灘遺跡（29）、古屋敷遺跡（1）に近い五丁遺跡（8）がある。縄文晚期の突帯紋土器の時期になると庵寺遺跡（6）、千後田遺跡（14）で土器の出土が知られている。恐らく、庵寺遺跡、五丁遺跡、千後田遺跡は古屋敷遺跡の一連の遺跡と考えられる。つまり、古屋敷遺跡は潮川左岸において広範囲に広がっているものと考えられる。

弥生時代の遺跡としては、仁摩町教育委員会が古屋敷遺跡の北東部を1995～1996年に発掘調査して、弥生時代前期の土坑群を検出している。2014年から始まった県教委の調査でも、縄文時代晩期の上層に同時期の溝や土坑を検出しているので、弥生時代前期の遺跡は平野の上流部に広

がっていることが判明した。また、県教委の行った2005年の調査では、前期の溝が検出されており、一連の遺跡と考えられる。これに続く中期の遺跡としては潮川下流部の川向遺跡（26）がある。古くより弥生土器が採集されていたが、1989～1991年の仁摩町教育委員会の発掘調査では、弥生時代中期の木製農工具作成に関わる平面が長方形をした杭列状遺構が多数検出された。この遺構はカシ類を材料とした加工途中の木製農工具を河川に水漬けしておく施設で、松江市西川津遺跡でも弥生時代前期～中期のものが発見されている。両遺跡は石器組成も酷似しており、川向遺跡は石見部での弥生時代の拠点集落の一つとして注目される。また、坂灘遺跡（29）でも中期の土器が採集されている。

弥生時代後期の遺跡としては、庵寺古墳群（5）と同一丘陵上に竪穴建物2棟とピットを伴う加工段がある。地すべりなどで崩壊した可



第1図 古屋敷遺跡の位置



1 古屋敷遺跡	2 大国地頭所遺跡	3 松林寺遺跡	4 廃寺石塔群
5 廃寺古墳群	6 廃寺遺跡	7 於才追遺跡	8 五丁遺跡
9 孫四田遺跡	10 大月遺跡	11 コフスミ遺跡	12 ヒヨトリヶ市遺跡
13 京円原遺跡	14 千後田遺跡	15 入石遺跡	16 清石遺跡
17 白石遺跡	18 千人塚遺跡	19 榆ノ木谷横穴群	20 榆ノ木遺跡
21 安養寺古墳群	22 飯田遺跡	23 善興寺橋遺跡	24 仁万大橋遺跡
25 中配前遺跡	26 川向遺跡	27 毘沙門塚古墳	28 毘沙門遺跡
29 坂灘遺跡	30 坂灘古墳	31 矢迫屋横穴群	32 田尻遺跡
33 蔽田遺跡	34 大井手遺跡	35 大寺遺跡	36 高浜遺跡
37 明神古墳	38 墓原遺跡	39 打落し遺跡	40 立平浜遺跡
41 赤崎山横穴群	42 宝隆寺裏古墳群	43 石見城跡	44 志源寺遺跡
45 大国城跡	46 天垣内城跡	47 横屋前遺跡	48 白石上屋敷遺跡
49 半城跡	50 ナメラ追遺跡	51 狐城跡	52 久根ヶ曾根遺跡
53 琴ヶ浜遺跡	54 鳥居原古墳	55 鳥居原遺跡	56 虹ヶ谷城跡
57 茶臼山城跡	58 駒岩遺跡		

第2図 古屋敷遺跡の位置と周辺の遺跡

能性もあり、元は数棟から十数棟の堅穴建物からなる集落であったかもしれない。

古墳時代前期には標高約 70 m の庵寺の尾根上に 24 基の箱式石棺墓・木棺直葬墓と、土器棺墓からなる庵寺古墳群（5）が築かれる。尾根の方向に直交するかたちで溝を切削し、墓域を方形に区画している。このうち、5 号墳はガラス小玉 1 個と刀子、15 号墳からガラス小玉 1 個と刀片、8 号墳から鏡片、高坏、鼓形器台、鎧、鋤先、鐵鎌、9 号墳からは鼓形器台、劍、砥石、13 号墳からは刀子片、及び 1-B 墳の箱式石棺からは、刀子と八禽鏡、管玉などが出土している。副葬品としては少ないが、限られた古墳に鉄製品が検出されている。

古墳時代中期では清石遺跡（16）が仁摩町教育委員会によって調査されている。豐形土器、小型丸底壺、高坏を中心に、初期須恵器、製塙土器などが、幅 15m、長さ 20m の範囲に廃棄された状況で検出されている。祭祀後の状態と考えられる。また、庵寺古墳群（5）の中には箱式石棺を主体部とする切削溝を有する径 6.0m ほどの円墳が築かれる。刀子と滑石製勾玉が出土している。

後期になると、庵寺古墳群（5）のなかに 1-A 古墳のような割石を利用した横穴式石室墳が築かれる。墳形は不明であるが、石室内及び墳丘裾から、須恵器（6 世紀後半）、管玉、耳輪、鐵鎌、鐵劍などが出土している。これに続く横穴式石室としては、砂丘上にこの平野最大規模の家形石棺を内蔵する横穴式石室を主体部とする明神古墳（37）がある。銅碗が出土している。また、田台の櫓の木谷横穴群（19）は 7 世紀代の横穴墓群である。

古代にはこのあたりは石見国邇摩郡大国郷に属したと思われるが、現在の JR 線あたりには古代山陰道が通っていた。以前はこの平野に石見国府や国分寺があり、ある時期に那賀郡伊甘郷（浜田市下国府）に遷ったという説もあった。しかし、国府や国分寺は当初から浜田の下国府にあったことは近年の石見国分寺の調査で明らかになっている。但し、邇摩郡家の所在地についてはこの平野をおいて他に候補地は考えられないので、今後、留意すべき問題である。また、中澤四郎の研究によれば 20 世紀までは仁摩高校の南側に整然とした長地型の条里遺構が残っており、それは大国あたりまで認められたという。

中世・近世には、仁万田台の潮川左岸の白石遺跡（17）では、掘立柱建物跡 11 棟、溝状遺構が検出され、これに伴い 12 ~ 14 世紀ごろの中国製白磁、青磁、中世陶器、土師質土器、砥石、木製品などが出土している。在地の富裕層の屋敷跡と考えられる。また、世界遺産になった石見銀山関係では、仁万から石見銀山に通る街道がこの潮川沿いにあり、宮村の石見八幡宮の背後には岩山が聳えており、石見国の地名起源の社伝を持つ。背後の岩山は竜岩山と呼ばれ、中世には石見城（43）となった。さらに、古屋敷遺跡南側の丘陵麓にも巨石があり、そこに掘られた岩窟には元禄二年（1688）の紀年銘のある宝篋印塔や正徳五年（1715）銘の石塔がある。

#### 〔引用参考文献〕

- 『朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書』IV（海崎地区 2）1988 島根県教育委員会
- 『朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書』V（海崎地区 3）1989 島根県教育委員会
- 『庵寺古墳群Ⅱ・大迫ツリ遺跡・小釜野遺跡』2014 島根県教育委員会
- 『潮川小規模河川改修工事に伴う川向遺跡発掘調査報告書（1）』1993 仁摩町教育委員会
- 内田律雄 1996 「島根県の石器」『農耕開始期の石器組成 I』国立歴史民俗博物館
- 『清石遺跡外発掘調査報告書』1998 仁摩町教育委員会

- 『五丁地区遺跡群発掘調査報告書』1999 仁摩町教育委員会  
『五丁遺跡・庵寺遺跡Ⅰ・於才迫遺跡』2009 島根県教育委員会  
『坂灘遺跡』『島根県埋蔵文化財調査報告書』第VII集 1987 島根県教育委員会  
飛田恵美子 2002 「山陰地方の製塩土器について」『出雲古代史研究』第12号出雲古代史研究会  
中澤四郎 1991 「隱岐・出雲・石見の条里—その地域と地理的背景—」  
『梨ノ木坂遺跡・庵寺古墳群・庵寺遺跡Ⅱ』2010 島根県教育委員会  
『仁摩健康公園造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1989 仁摩町教育委員会  
『仁万大橋遺跡・善興寺橋遺跡』2005 仁摩町教育委員会

## 第3章 古屋敷遺跡（G区）の調査

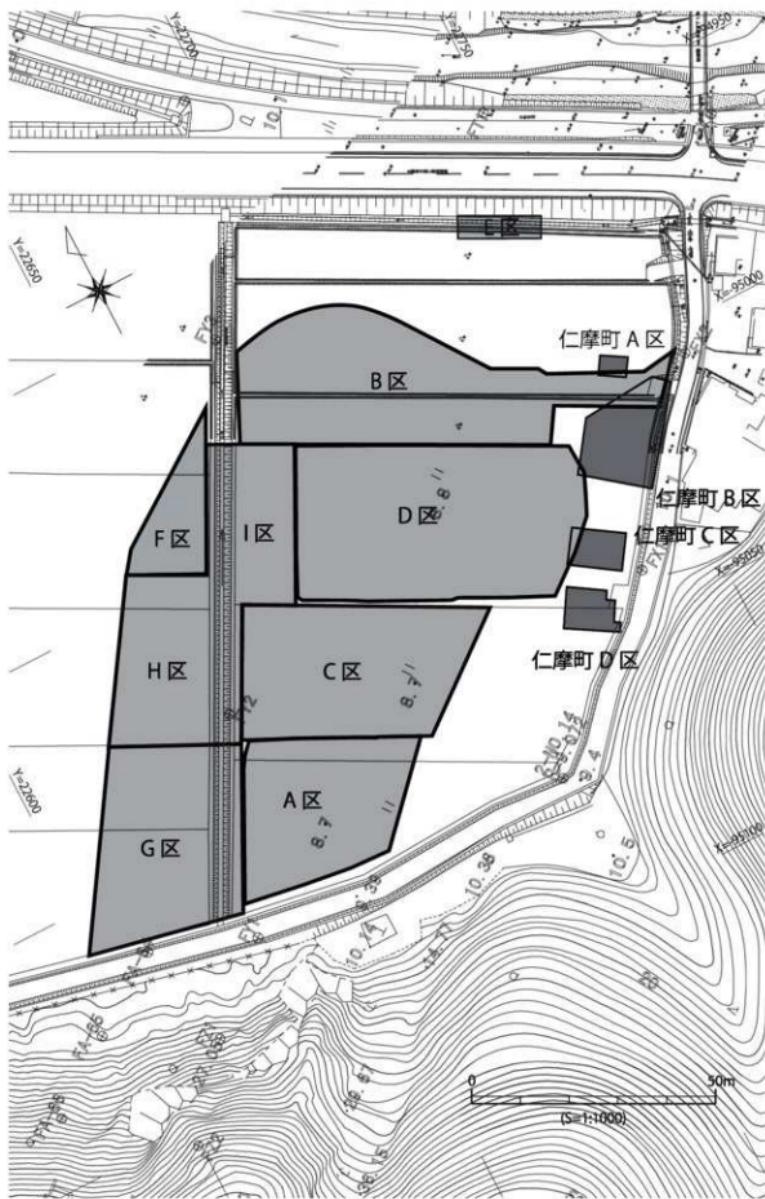
### 1. 調査の概要

古屋敷遺跡G区は、遺跡の南端の丘陵麓、東側はA区、北側はH区に接し、1045m<sup>2</sup>ある（第3図）。これを世界測量地系の座標系XY座標によって10mメッシュを組み、それぞれを小調査区（L1～3、M1～4、N1～4、O1～3、P1～3グリッド）とした（第4図）。調査前の状況は20世紀の区画整理事業後の水田と用水路、排水路があった。これを試掘調査で得られた土層の情報によって表土及び水田造成土を重機で取り除き、土層観察と排水を兼ねて、調査区周間に溝を設けた。掘削前の水田の標高は約8.3mである。後に判明するが、G区のほぼ全域が縄文時代の河道となっており湧水対策に追われることとなった。溝は安全勾配で掘削したが一夜にして大きく崩壊することもあり、発掘調査作業の安全と周辺水田への影響を考慮し、周囲の溝の位置には大型の土嚢で壁面を保護した。

調査は便宜上、上層から第1遺構面～第6遺構面に区分しながら行った。耕作土から弥生時代前期の川跡を検出した面を第1遺構面（標高南7.7～北7.3m）、その下から地床炉及びクルミの集中範囲を検出した面を第2遺構面（標高南7.4～北6.8m）、その下から地床炉及びピット群を検出した面を第3遺構面（標高南7.2～北6.6m）、その下から新旧河道（SR新）を検出した面を第4遺構面（標高7.0～6.6m）、その下から堅果類集中範囲を検出した面を第5遺構面（標高6.9～6.3m）、そして古旧河道（SR古）を検出した面を第6遺構面（標高6.9～5.6m）とした。遺構の説明は、各遺構面毎に行う。

層序は造成土の下に、縄文時代晚期、その下に縄文時代後期の遺物包含層がある。そして、縄文時代晚期の層を切るかたちで弥生時代前期の川跡が調査区の東端（L2～L3グリッド）に検出された。縄文時代晚期には、新古二つの河道（SR新・SR古）があり、一部は新古河道が重なっていたことを確認した。河道は後期の包含層を切っており、後期の土器も若干混在していた。後期の土器は主として古河道（SR古）から出土した。調査区の土層は基本的に淡灰色の微砂粒の堆積土からなっており、砂礫層の新古河道や、その他の遺構もその中に検出された。淡灰色微砂粒層は調査区周囲の溝の土層で層序を確認しようとしたが、分層が困難であり、遺構の平面プランを頼りに掘り下げた。その結果、N2・N3・O2・O3グリッドの接点あたりに集中的に地床炉を3層にわたり検出した。地床炉からは、焼土、炭化木材、縄文土器片や焼けた小動物骨片、魚介類片の他、石皿などが出土した。

縄文時代晚期には調査の結果旧河道が一部重なりながら新古2時期のものがあることが分かったので、周辺の遺構も少なくとも2時期あると考えられるが旧河道以外の遺構は地床炉や堅果類廃棄場以外は明確に把握することができなかった。但し、後述するように新古旧河道出土土器には若干の土器形式に違いがみられる。



第3図 古屋敷遺跡調査区配置図（1:1,000）



第4図 G区グリッド配置図 (1:250)

## 2. 遺構と遺物（土器及び石器）

### 【第1遺構面】（第5～8図）

耕作土及び造成土を取り除いた直下の縄文時代晚期の包含層を取り除いた面を第1遺構面とした。耕作土から約60cm下である。当遺構面地山は南から北へ傾斜していた。以後第4遺構面までこの傾斜は維持している（前記の各遺構面の標高参照）。

#### 弥生の川跡

L2～L3グリッドに幅約6.0m、深さ約1.0mの弥生時代前期の川跡を検出した（第5・6図）。この河道は南東から北西に向かってH区へ続いている。これまでの調査で、遺跡の東側のD区・C区・A区を通り、A区の南側で岩盤にぶつかりU字状に曲がってG区に流れていたと考えられる。平成28年度島根県埋蔵文化財調査センター講演会「新発見！石見最大級の縄文ムラ～古屋敷遺跡が語る縄文文化～」資料から、古屋敷遺跡の弥生時代前期の溝がほぼこの河道に沿って作られているのがわかる。

出土遺物には、流木や弥生前期土器、縄文晚期土器がある。第7図は弥生の川跡から出土した土器である。第7図1は無刻目突帯文系深鉢の小片、第7図2は縄文晚期系の浅鉢である。第7図3～5は弥生前期土器で、3は口縁端部に刻目を施した如意形口縁の甕である。

#### 包含層出土土器

第8図は包含層出土土器である。第8図6～7は縄文晚期刻目突帯文土器で刻目が退化した最終末のものと思われる。ただし6には口縁端部にも外からの刻目がほどこされており若干古いかもしれない。第8図9は弥生系土器の鉢である。外面にエゴマ痕が観察された。

### 【第2遺構面】（第9～20・70・78・83・84・97図）

第1遺構面から30～50cm掘削して確認した面である。

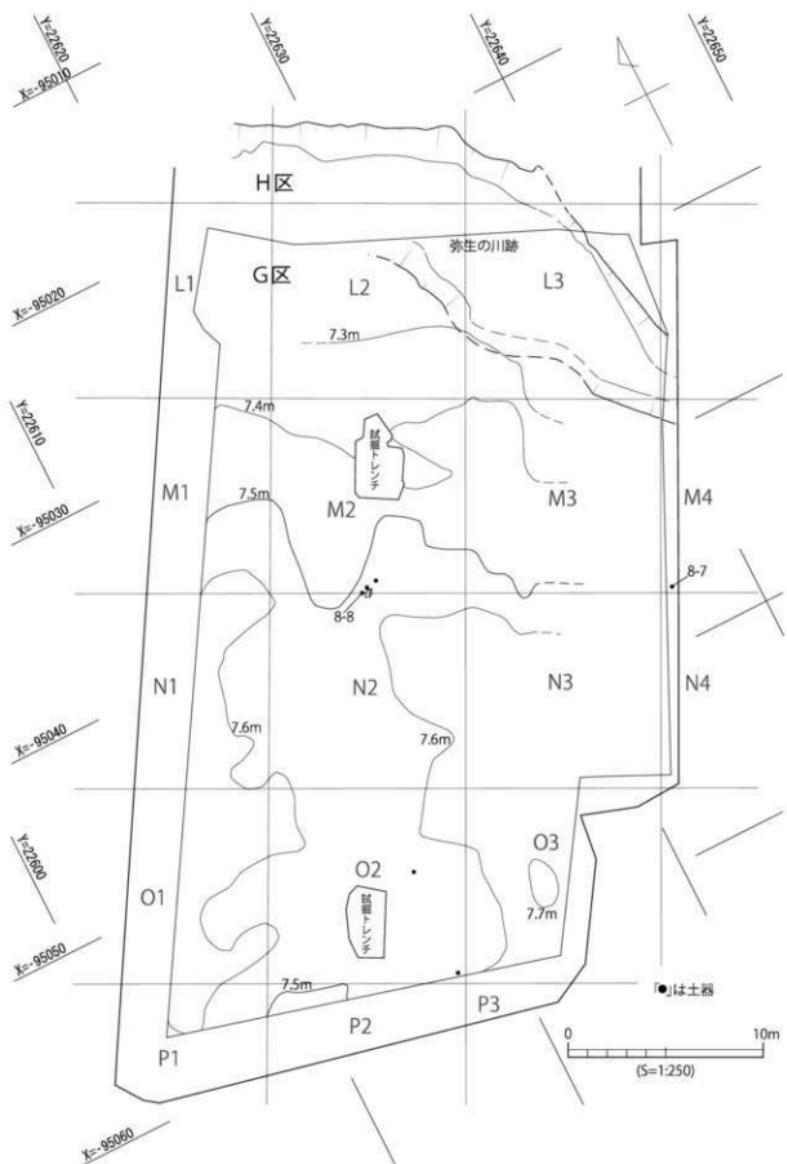
#### 溝状遺構（SD01）

調査区の北東隅に、長さ約3.0mが残る。幅50cm、深さ25cmで、淡灰色微砂粒層の中に検出した（第9・10図）。遺物は出土しなかったが土層から縄文時代晚期の溝と考えられる。

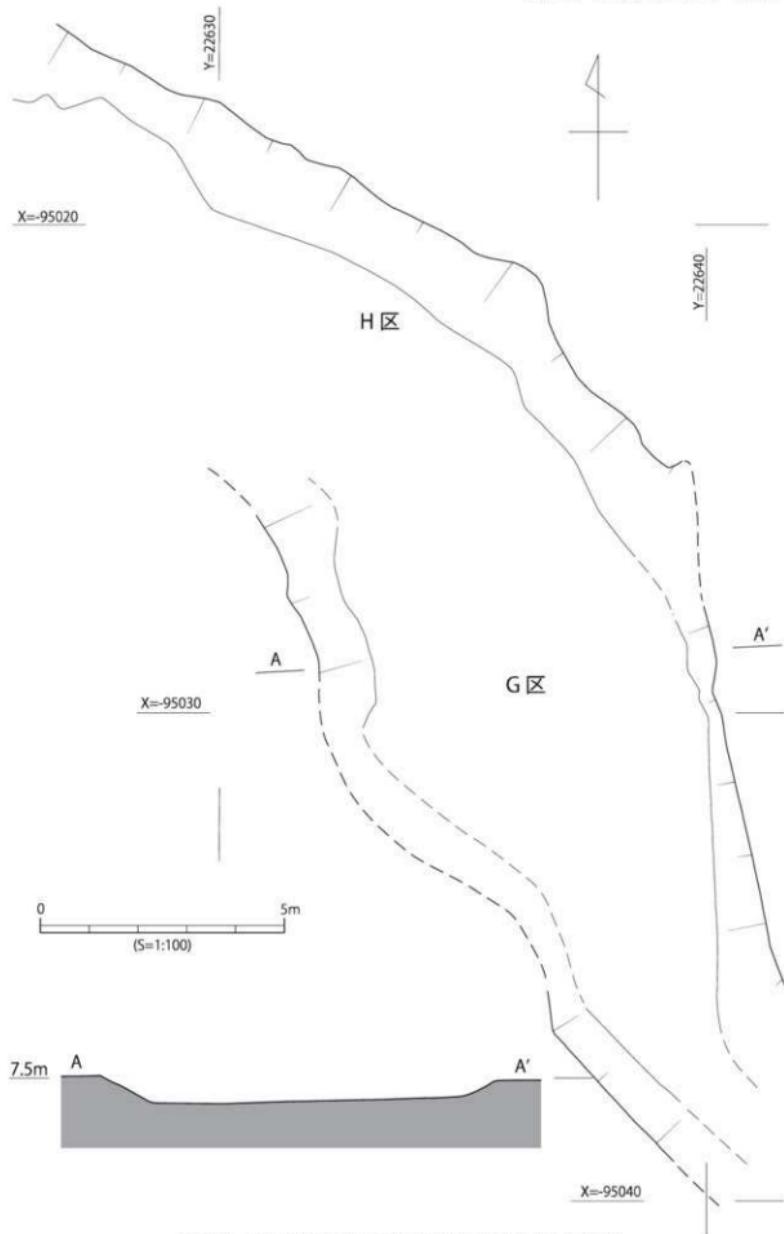
#### 地床炉群（SX00～19・21～24、P03）

地床炉についても淡灰色微砂粒層の中に検出しが、第3遺構面、第4遺構面でも検出している。第2遺構面では、N2・N3・O2・O3・P2グリッドに大小25ヶ所検出した（第9～12図）。いずれも不定形な平面プランで、炭化物を含むものが多い。土器片を出土したものもある。SX12のみ動物骨小片と貝が出土している。径が小さく浅いものは地床炉ではなく、杭や柱の痕跡かもしれない。地床炉はN2グリッドとN3グリッドに集中している。土器もこのあたりに集中している。

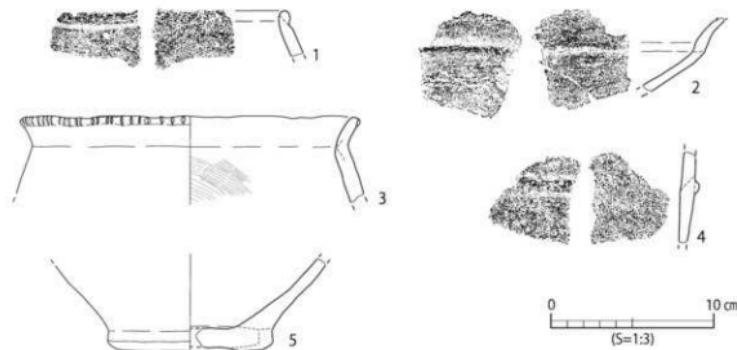
第13図は、地床炉遺構から出土した土器である。第13図10・11はSX00出土の縄文晚期土器で、2条刻目突帯文土器の下段と思われる胴部破片である。第13図12はSX01出土の縄文晚期土器で、刻目突帯文土器の口縁端部にも上から刻目が施されたものである。第13図13はSX05出土の縄文晚期土器で、小片ながら刻目突帯文土器の口縁部である。第13図14はSX12出土の縄文晚期



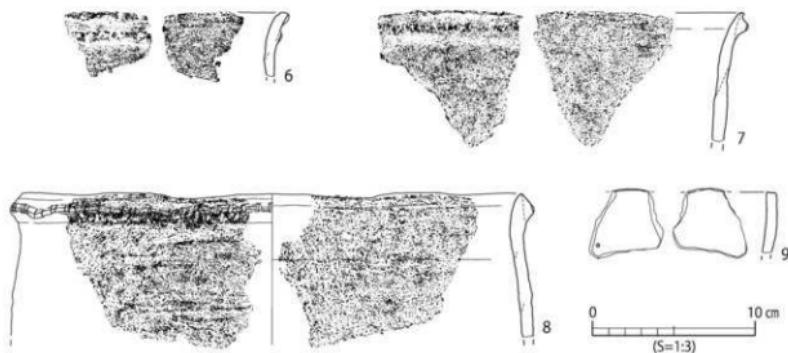
第5図 第1遺構面 全体図 (1:250) 標高南 7.7m ~ 北 7.3m



第6図 第1遺構面 弥生の川跡平面及び断面図 (1:100)

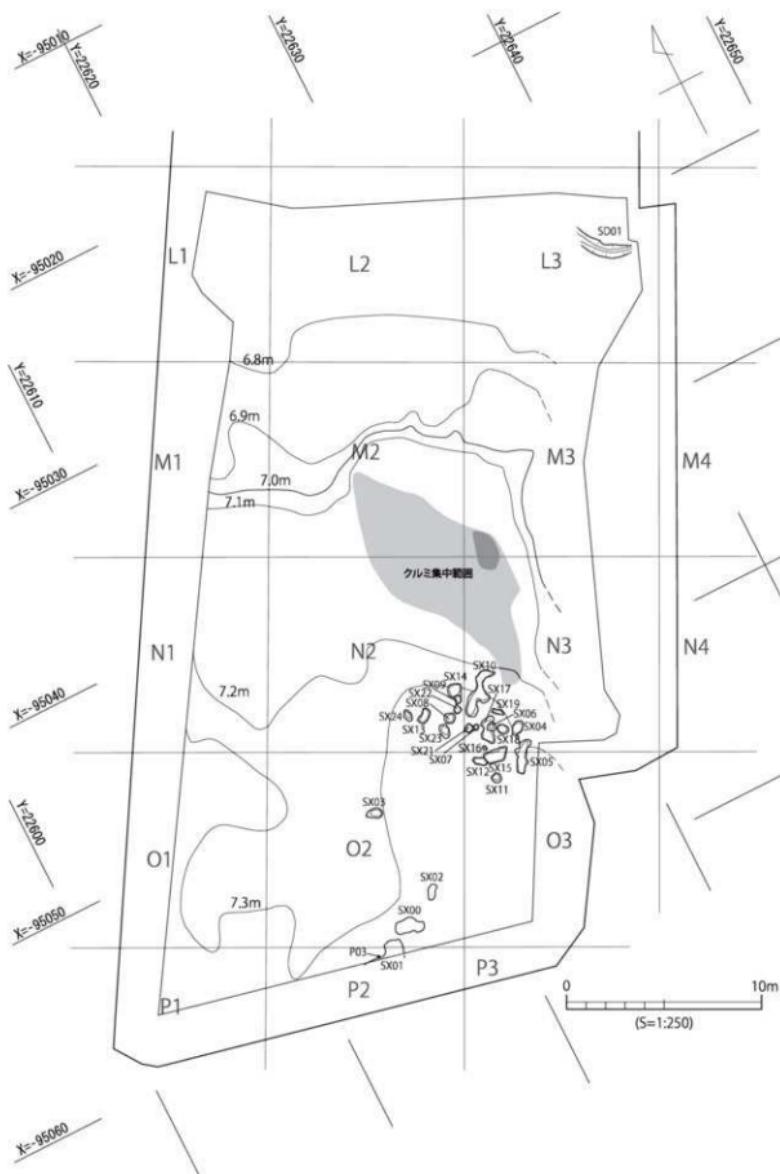


第7図 第1遺構面 弥生の川跡出土土器実測図 (1:3)

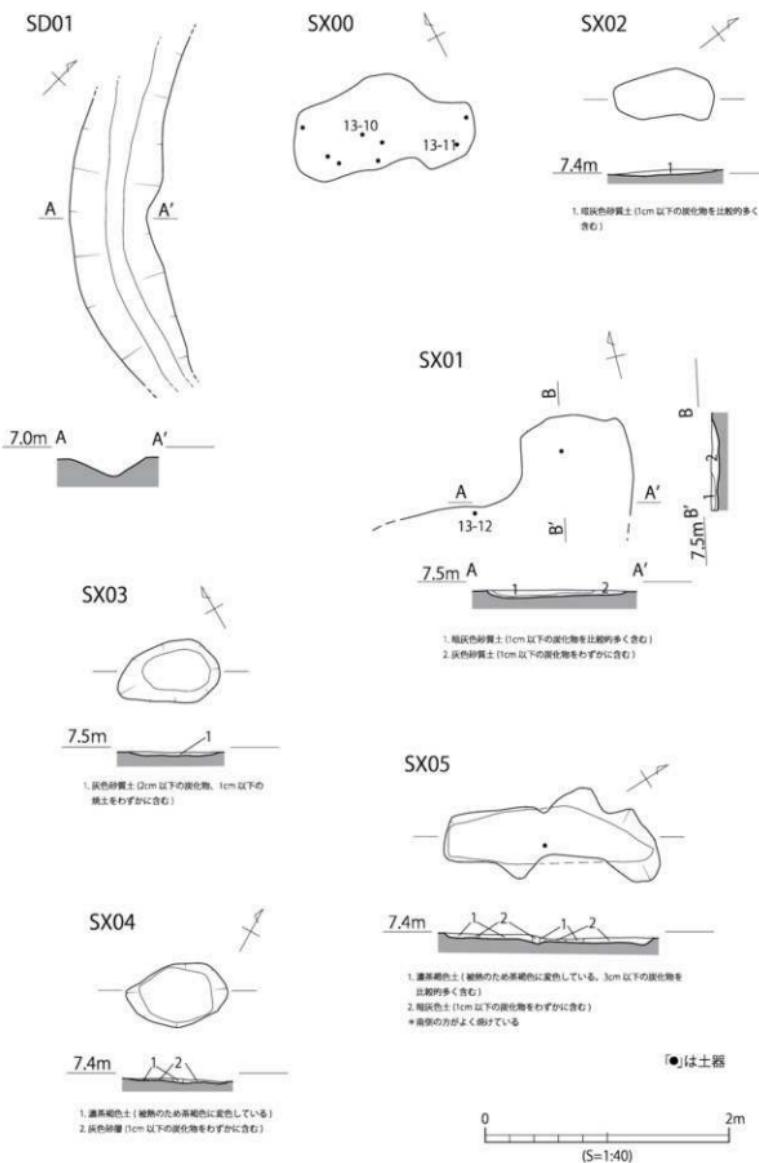


第8図 第1遺構面 包含層出土土器実測図 (1:3)

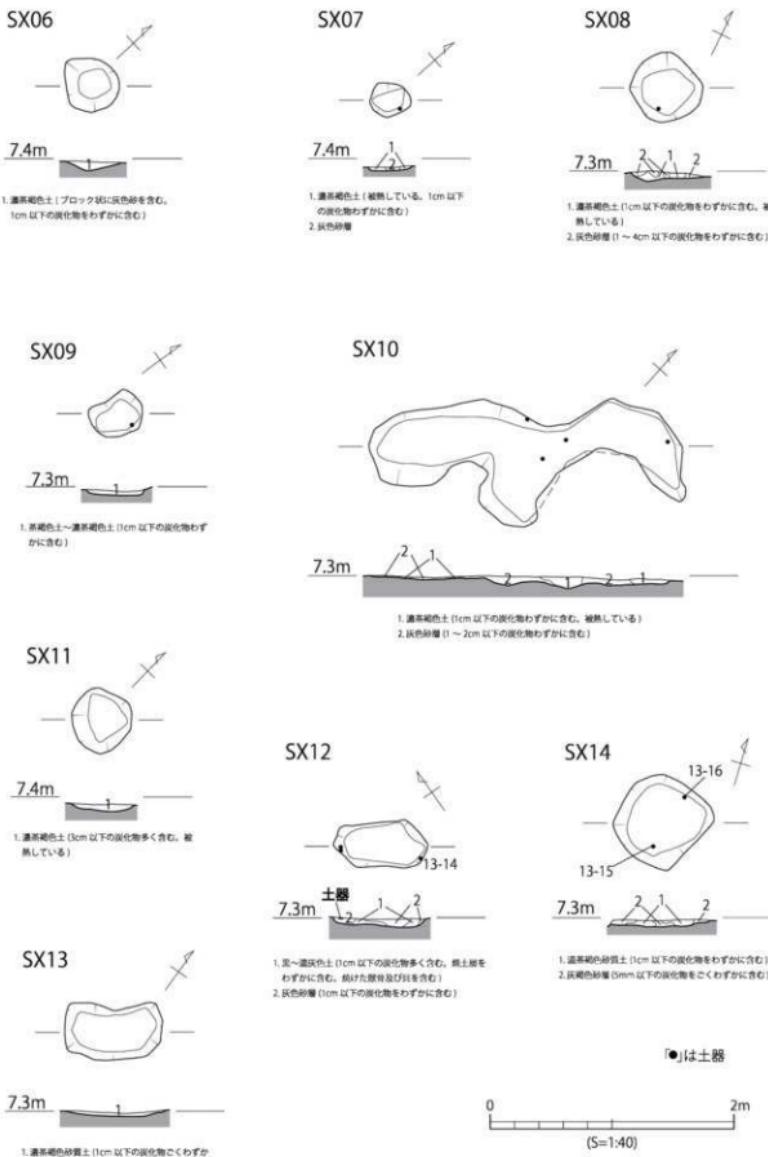
土器で、刻目突帯文土器の口縁部付近の小片である。第13図15・16はSX14出土の縄文晩期土器で、刻目突帯文土器である。16はSX15出土の破片と接合している。第13図17はSX15出土の縄文晩期土器で、刻目突帯文土器口縁部の小破片である。第13図18はSX18出土の縄文晩期土器で、黒色磨研土器と思われる浅鉢の口縁部である。第13図19はSX23出土の縄文晩期土器で、刻目突帯文土器の口縁端部にも外側向きに小さな刻目を施したものである。



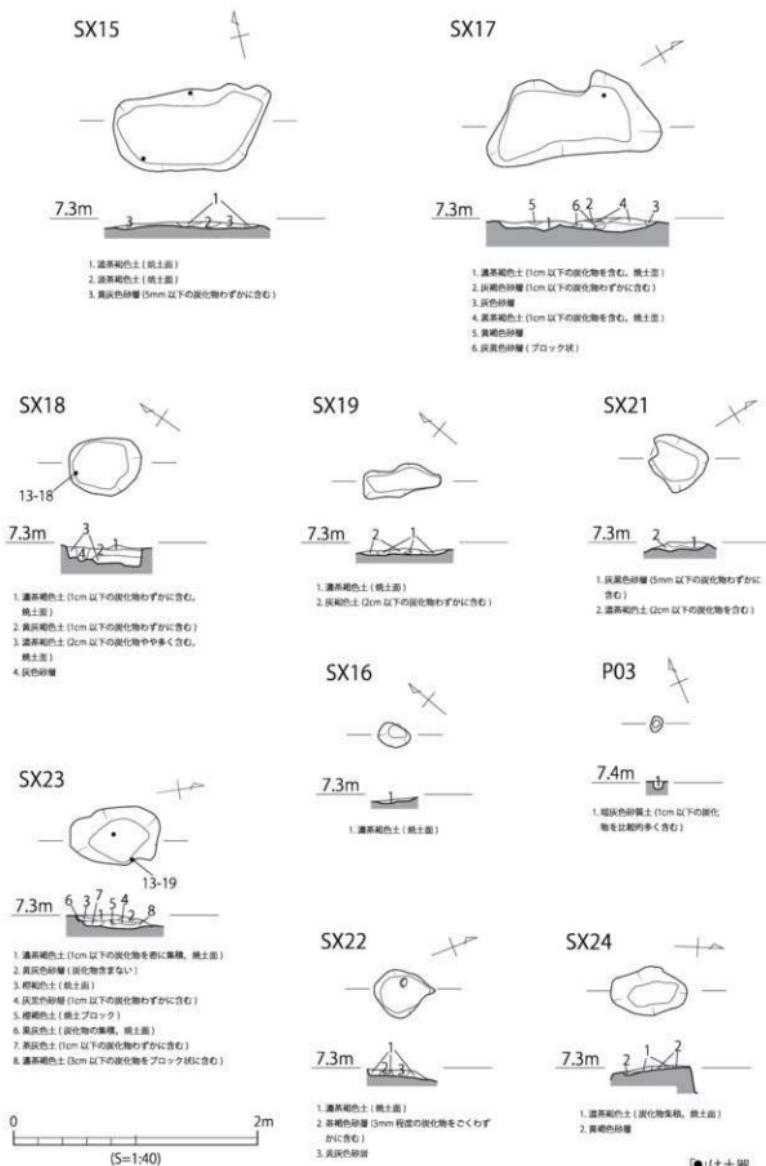
第9図 第2遺構面 全体図 (1:250) 標高南 7.4m ~ 北 6.8m



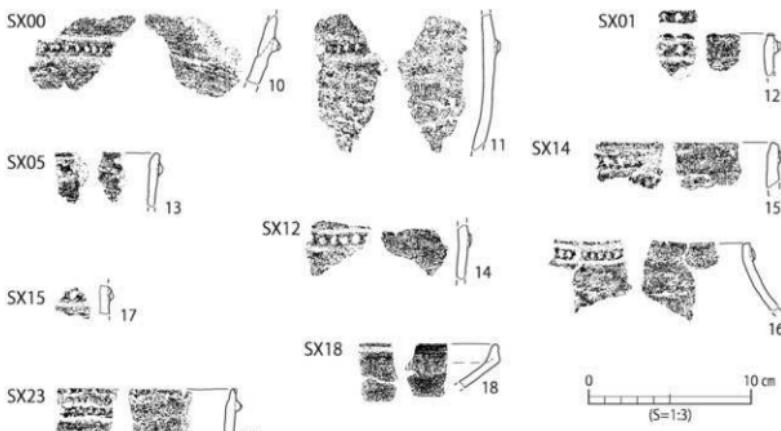
第10図 第2遺構面 検出遺構図1 (SD01, SX00～05)



第11図 第2遺構面 検出遺構図2 (SX06~14)



第12図 第2遺構面 検出遺構図3 (SX15～19・21～24、P03)



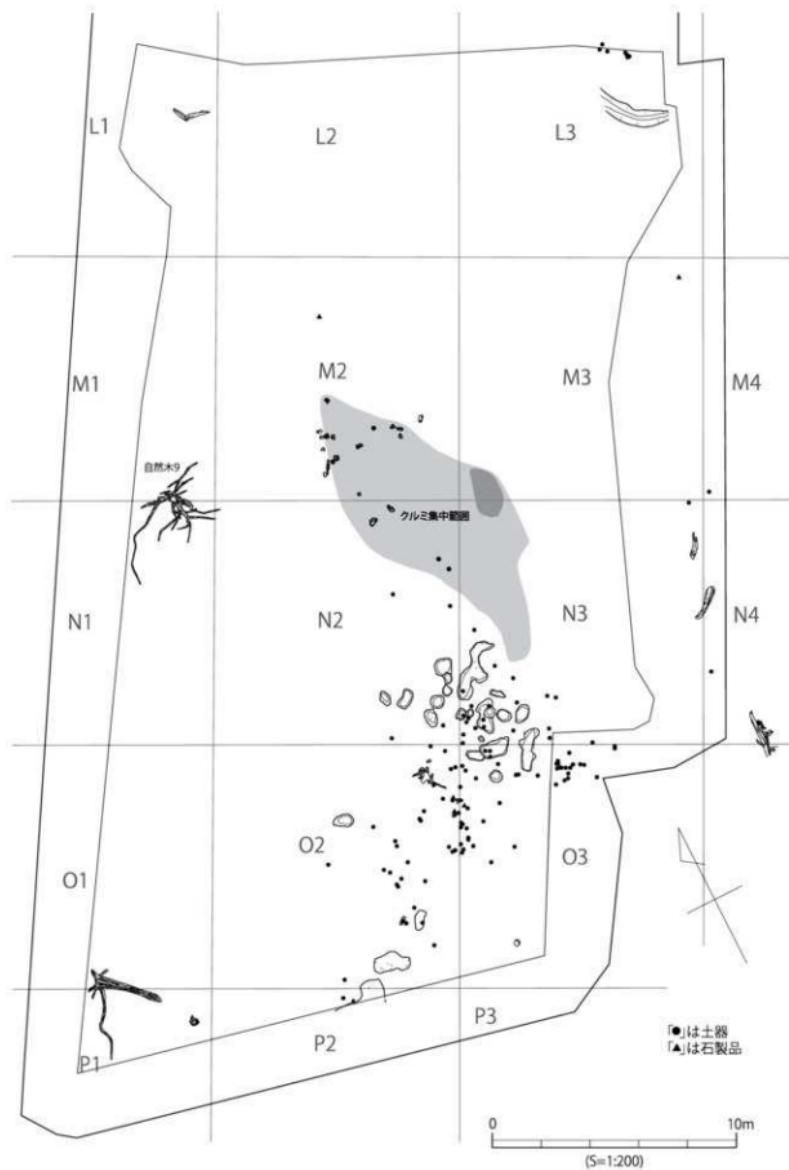
第13図 第2遺構面 遺構内出土土器実測図 (1:3)

### クルミ集中範囲

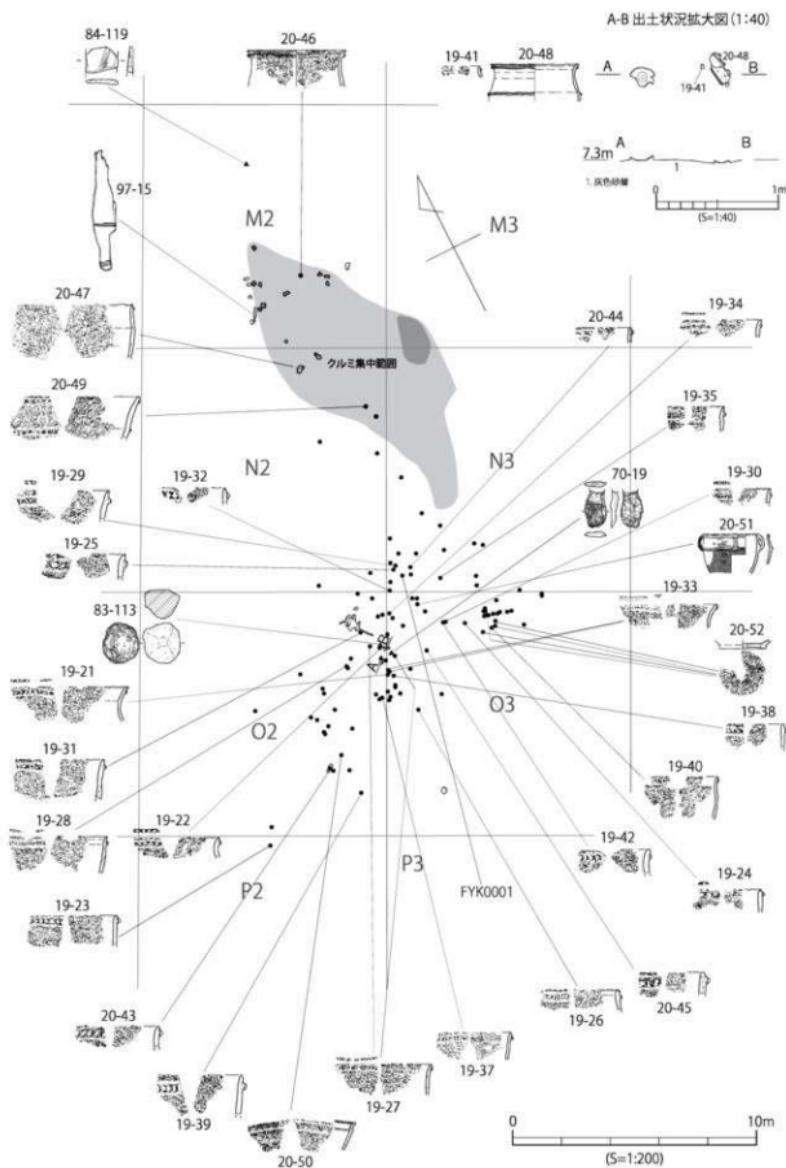
地床炉群に接して北東側には、およそ幅5.0m、長さ10mの不定形な範囲にクルミが集中する場所がみられた（第9・16図）。それらは標高7.5m～7.0mの50cmの厚さであったが、多くは、この中间のレベルで出土した。そして最下面にはおおよそ幅0.4m、長さ1.0mに特に集中する範囲があった（M3・N3グリッド）。取り上げたクルミの個体数は343個体で、人工的に割ったものはなかった。このうちの62%が、リスやネズミのような齧歯動物による孔が1～2孔あけられており、無孔のものは32%であり（第18図）、この第2遺構面でのクルミ集中範囲はクルミを採集してから貯蔵施設に貯蔵してあったものが何らかの原因で放棄され、その後拡散したものと思われる。最下面にある特に集中する範囲に貯蔵穴等の貯蔵施設があった可能性が高い。全個数から得られたクルミの平均値は、高さ25.26mm、幅22.21mmで、無孔の完形は、高さ26.85mm、幅22.29mmである。ほぼ高さ20.0～25.0mm、幅22.0～28.0mmにまとまっている（第17図）。これらクルミ集中範囲と地床炉群は密接な関係にあったと考えられる。住居跡、または広い作業小屋のようなものが想定されよう。

### 立木

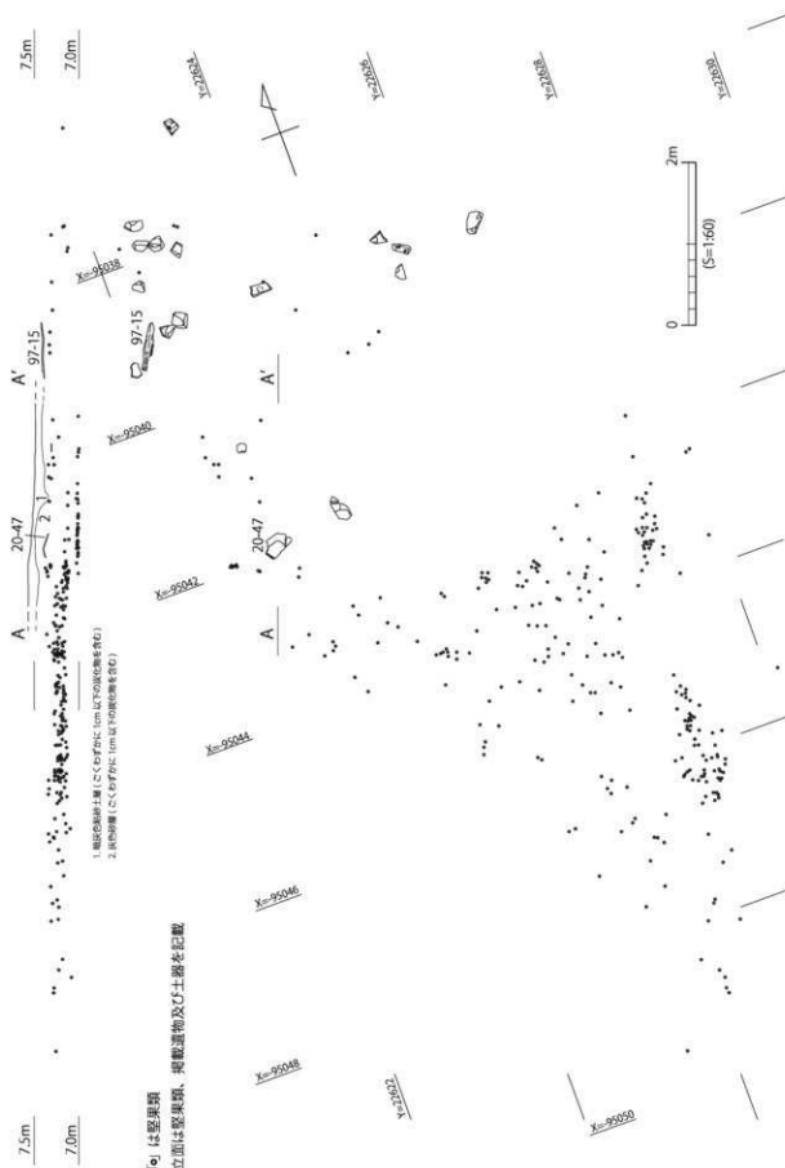
調査区の西側2ヶ所に立木を検出した（第14図）。根本と横に張った根が残っていた。このうち北側のもの（自然木9）は後述するように樹種鑑定によって、ヤマグワであり、年代測定では $2465 \pm 25$ BPという値が出ている（第4章 P.122 表1）。これらの流木は、第2遺構面の遺構に伴うか、あるいは地床炉が使われなくなってからあまり時間が経過しないうちに生え出したものと思われる。



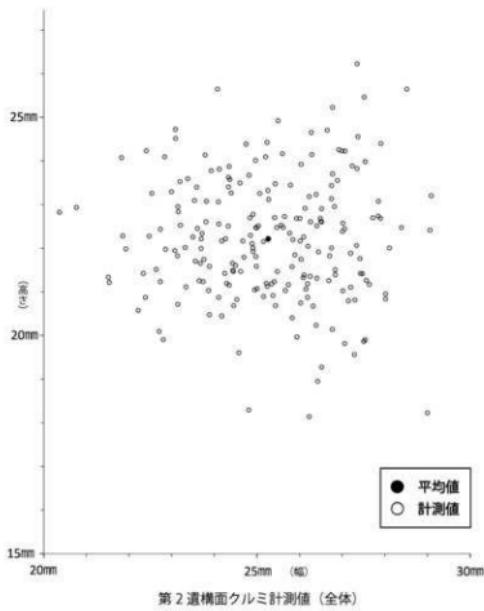
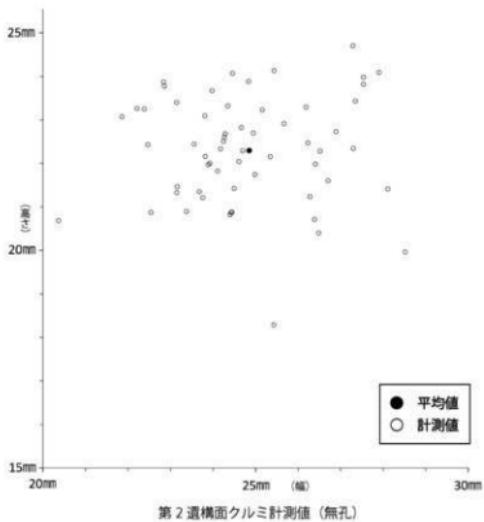
第14図 第2遺構面 包含層遺物出土状況図 (1:200)



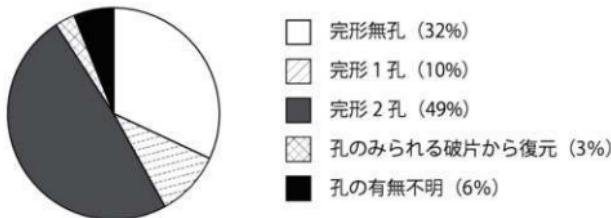
第15図 第2遺構面 包含層遺物出土状況詳細図 (1:200) 及び A-B 拡大図 (1:40)



第16図 第2遺構面 クレミ集中範囲拡大図 (1:60)



第17図 第2遺構面 出土クルミ計測値

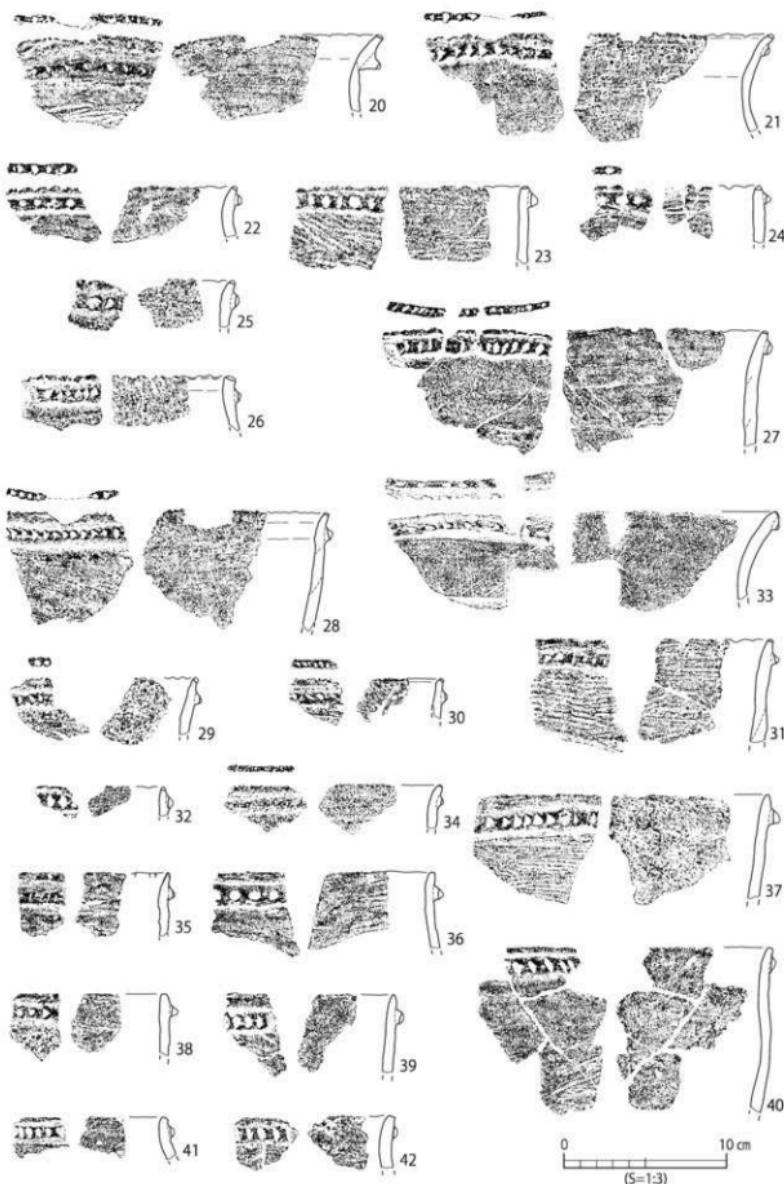


第18図 第2遺構面 クルミ集中範囲出土クルミ動物齧痕比（343個体）

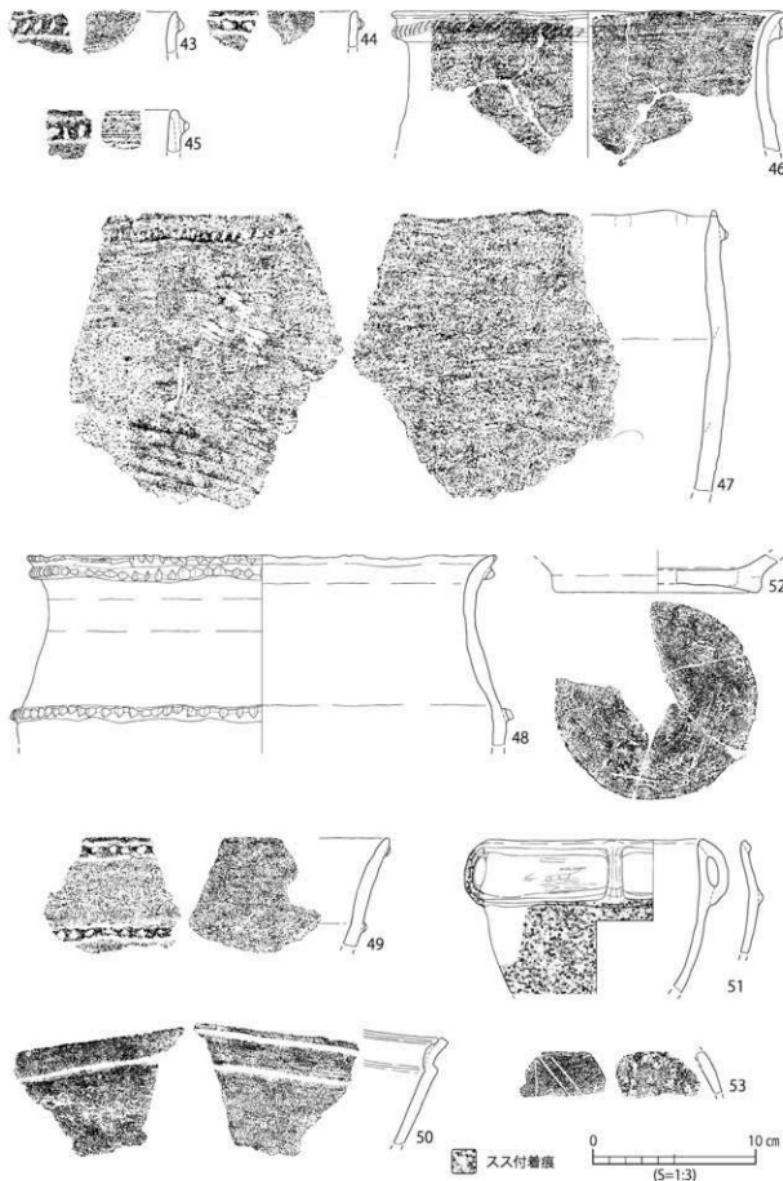
#### 包含層出土土器

第19・20図は、包含層出土土器で、第19図20～第20図52は縄文晩期土器である。20～34は刻目突帯文土器の口縁端部にも外側寄りに上から刻目を施したものである。口端部刻目と突帯刻目は同じ施文具と考えられ、D字状～V字状へと細く浅くなっていく。33は間隔を開けて浅い○字状の刻目が施され、突帯の下には意匠の不明なヘラ描き沈線文が浅く施されている。35～47は刻目突帯文土器である。48・49は2条刻目突帯文土器で、48は口縁端部にも上から外面に刻目が施されている。50は波状口縁の浅鉢で、口縁部の屈曲に特徴がある。51は把手付の鉢である。断面形状は観察すると2条突帯文土器のプロポーションに似ている。把手は現状では1ヶ所完形、欠損部が1ヶ所残存しているが、位置的に本来は4ヶ所あったものと思われる。小型で特殊な器形だが外面に煤、内面に内容物が付着しており、何らかの熱使用が考えられる。52は底径16.4cmもある凹底の底部である。深鉢のものであるか浅鉢のものであるか確定できない。

第20図53は弥生前期土器である。壺胴部の破片で、外面には強いミガキによる界線とヘラ描き沈線文が施されている。



第19図 第2遺構面 包含層出土土器実測図1 (1:3)



第20図 第2遺構面 包含層出土土器実測図2 (1:3)

### 【第3遺構面】（第 21～28・81・86・87・90・92 図）

第2遺構面から約 20cm 挖削して確認した面である。

#### 地床炉群（SX20・25・26・28・29・31）

地床炉は第2遺構面と同じ状況であるが、数が減り、N3 グリッドの南西角に集中するかのようにみえる（第21図）。SX29以外は小型のもので6ヶ所検出した。いずれも不定形な平面プランで、炭化物を含むものが多い（第22図）。SX28からは石皿が出土し、自然礫及び割石、土器片を出土したものもある。

地床炉群とその周辺からは、石皿や磨石、敲石がいくつか出土しており（第24・25図）、堅果類や栽培穀物の加工・調理が行われていたと考えられる。

第26図にはSX25から出土した縄文晚期土器第26図54を掲載した。精製の浅鉢の口縁部小片である。

#### ピット群（P05～20・26・28）

地床炉を囲むように、径5mほどの範囲に円形に並んでいるように見える。浅くほぼ円形で、柱根は検出されなかったが、地床炉を覆う簡単な屋根の施設があったかもしれない。ピットの中に浅くて炭化物を含むものもあり小型地床炉の可能性もある。

#### 流木

当該検出面から出土した流木は、いずれも調査区北側にほぼ南北方向で検出されている（第24図）。次段階で検出した旧河道一新（SR新）の方向に一致しているので、上面のものが検出し始めたものと思われる。

#### 包含層出土土器

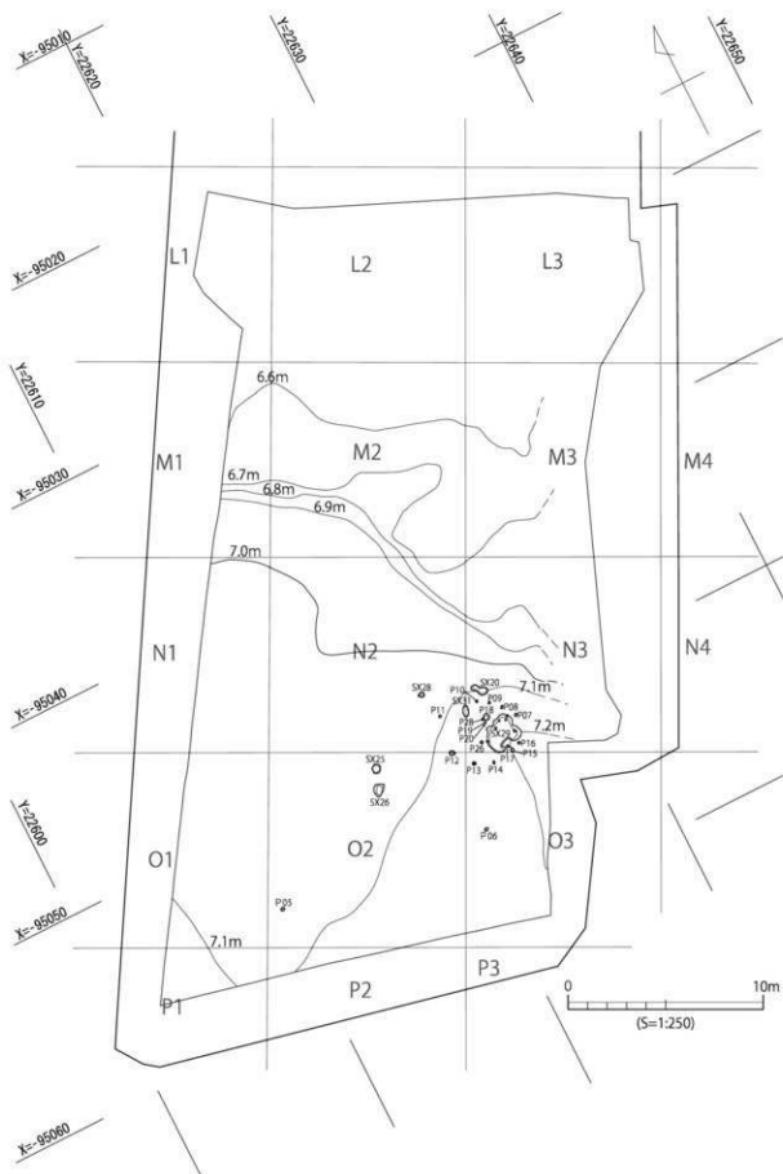
第26～28図は包含層出土土器で、地床炉、ピットなどの周辺からまとめて出土している（第24・25図）。

第28図75・76は縄文後期のものと思われる浅鉢で、75は外面に刺突文を多用した文様が施された小片、76はボウル形を呈したものである。

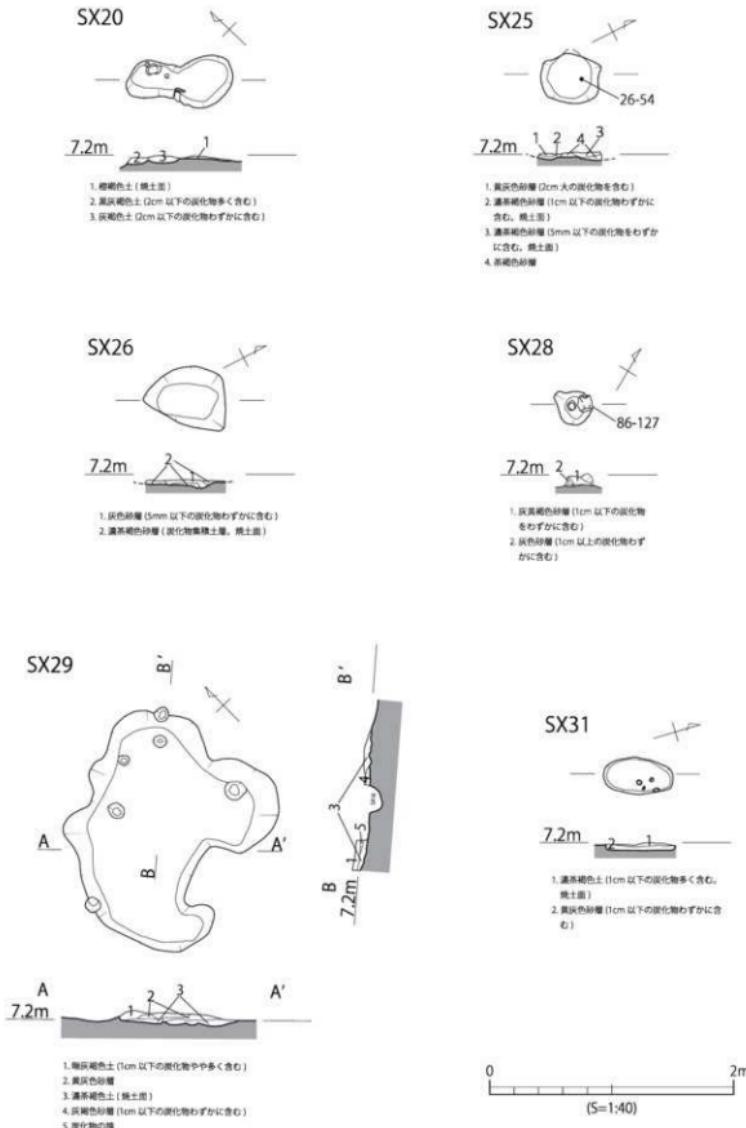
第26図55～第27図74、第28図77・78は縄文晚期土器である。55は深鉢の口縁部でリボン状の突起をもつものである。56～58は口縁端部に刻目が施された深鉢で、56は内面に57は外面上に58は上から刻目を施している。59は粗製の深鉢である。60～67は刻目突帯文土器の口縁端部にも外側寄りに上から刻目を施したものである。口端部刻目と突帯刻目は同じ施文具と考えられ、D字状～V字状へと細く浅くなっていく。口端部の刻目を64～67のように外面に向けて施されたものは、口縁部に2条刻目の意匠を意識したものと考えられる。68～71は刻目突帯文土器で、68のみは波状口縁である。72は無刻目突帯文土器で、口縁端部は内面に小さくおさめている。73・74は2条刻目突帯文土器で、73は胴部に突帯文が施されているので下段であろう。74は口縁端部にも押しつけたような刻目が施され薄手のものである。77・78はボウル形を呈した浅鉢で、特に78は精製されたもので現状で1ヶ所の焼成後穿孔がある。

第28図79・80は弥生土器である。79は如意形口縁をもち胴部に段を施した壺である。80は上げ底の底部である。

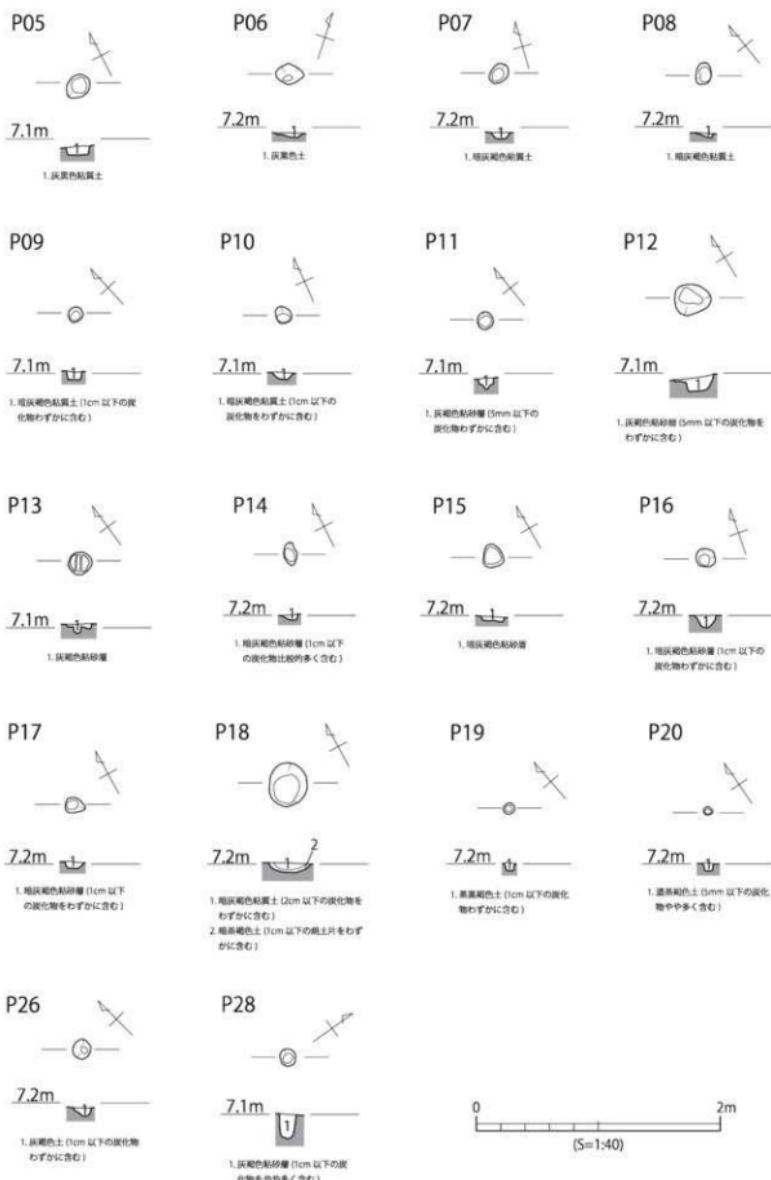
縄文後期土器は、これ以降少量出土がみられるが、第6遺構面で検出した旧河道一古（SR古）



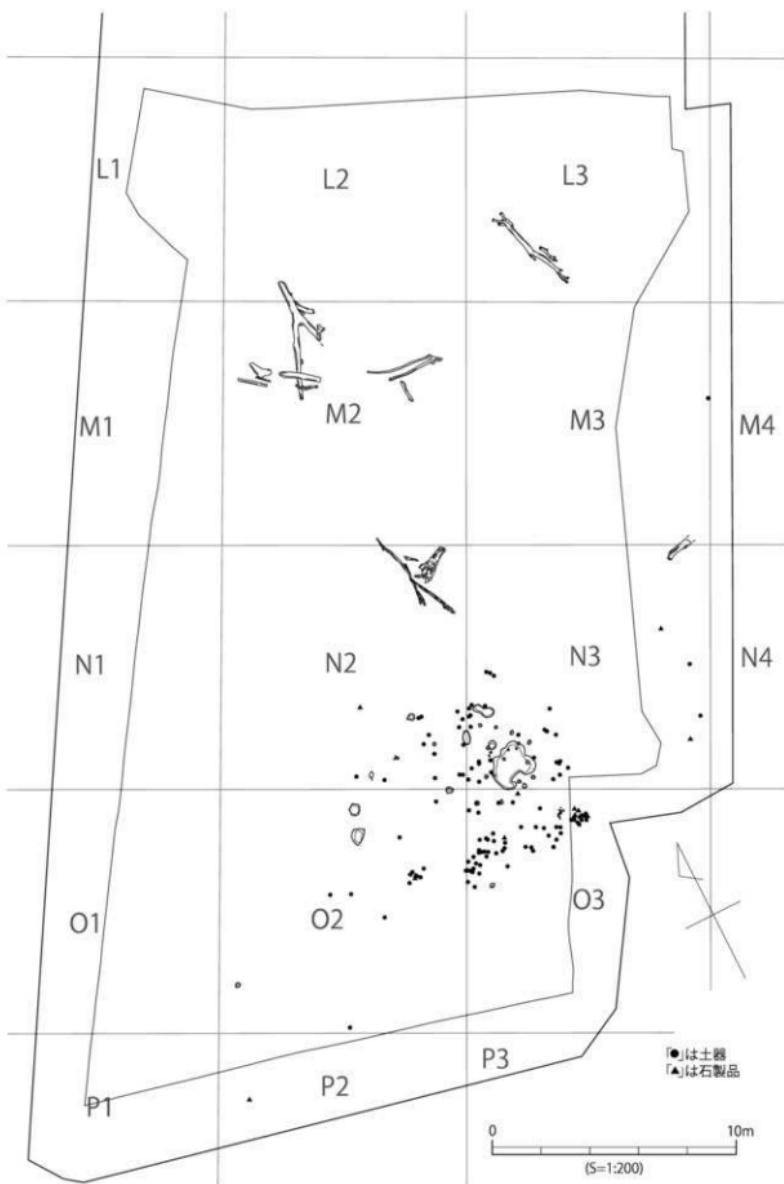
第21図 第3遺構面 全体図 (1:250) 標高南 7.2m～北 6.6m



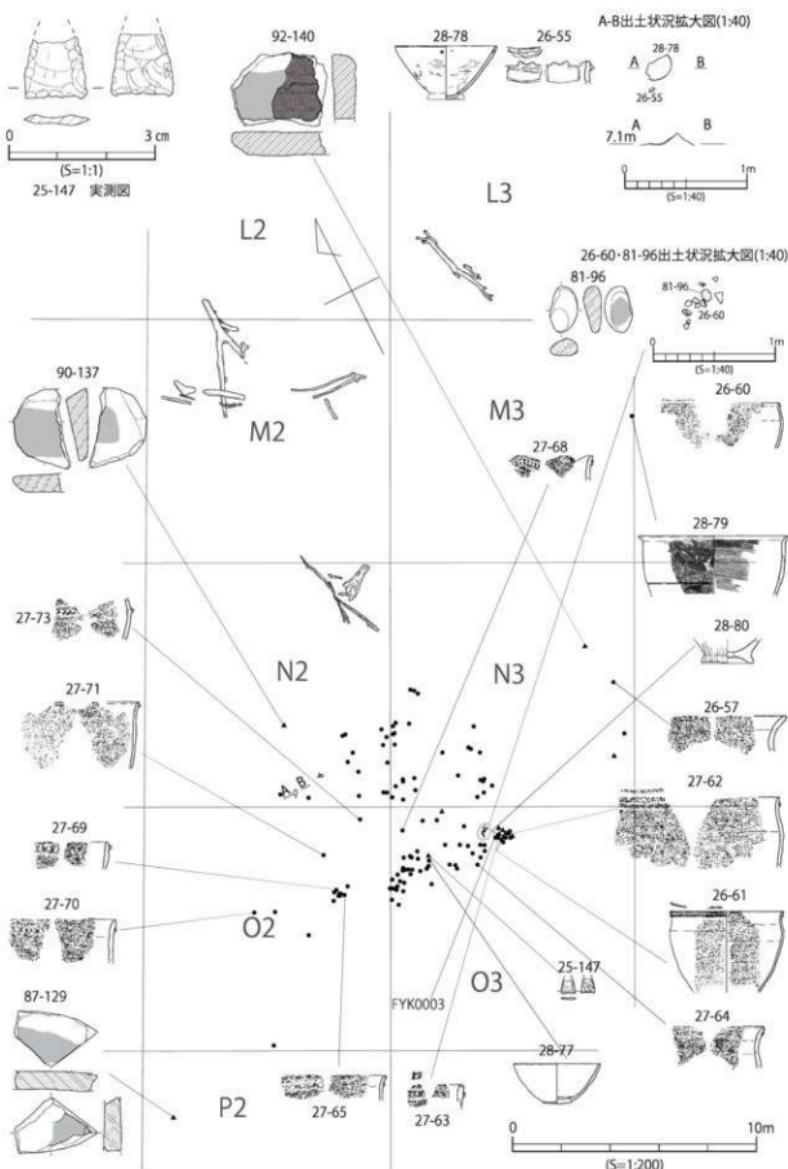
第22図 第3遺構面 検出遺構図1 (SX20-25-26-28-29-31)



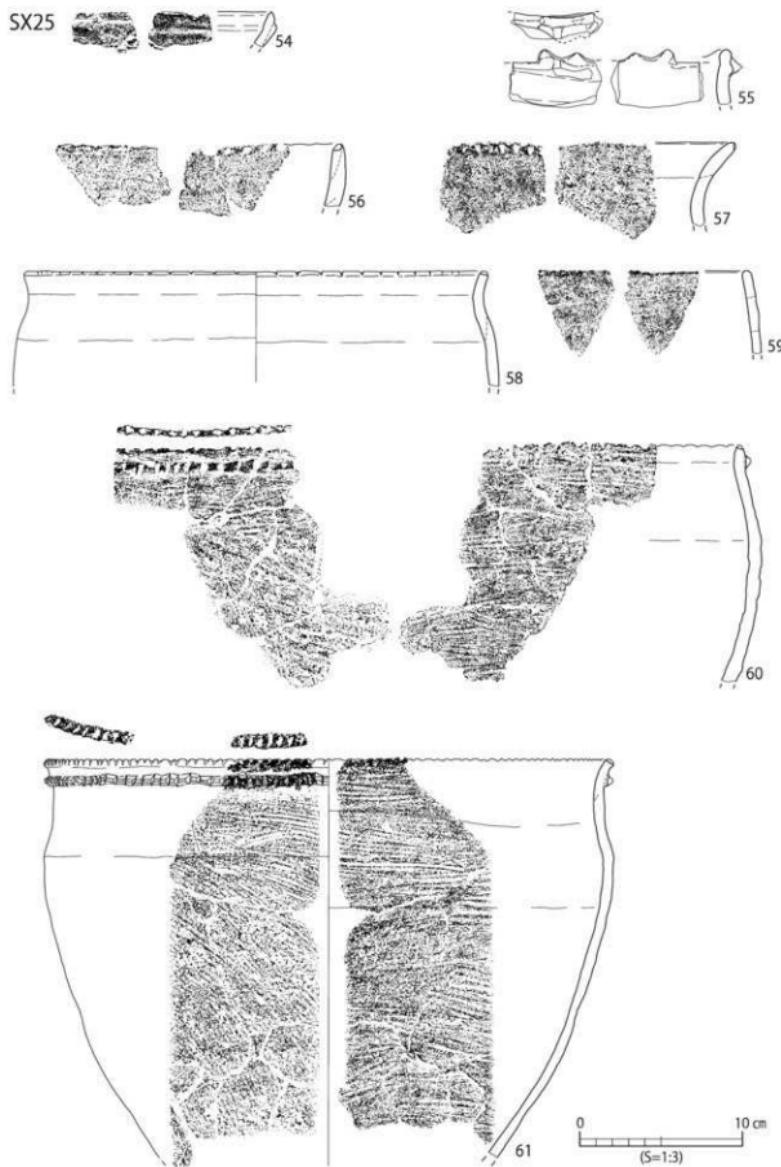
第23図 第3構造面 検出構造図2 (P05 ~ 20・26・28)



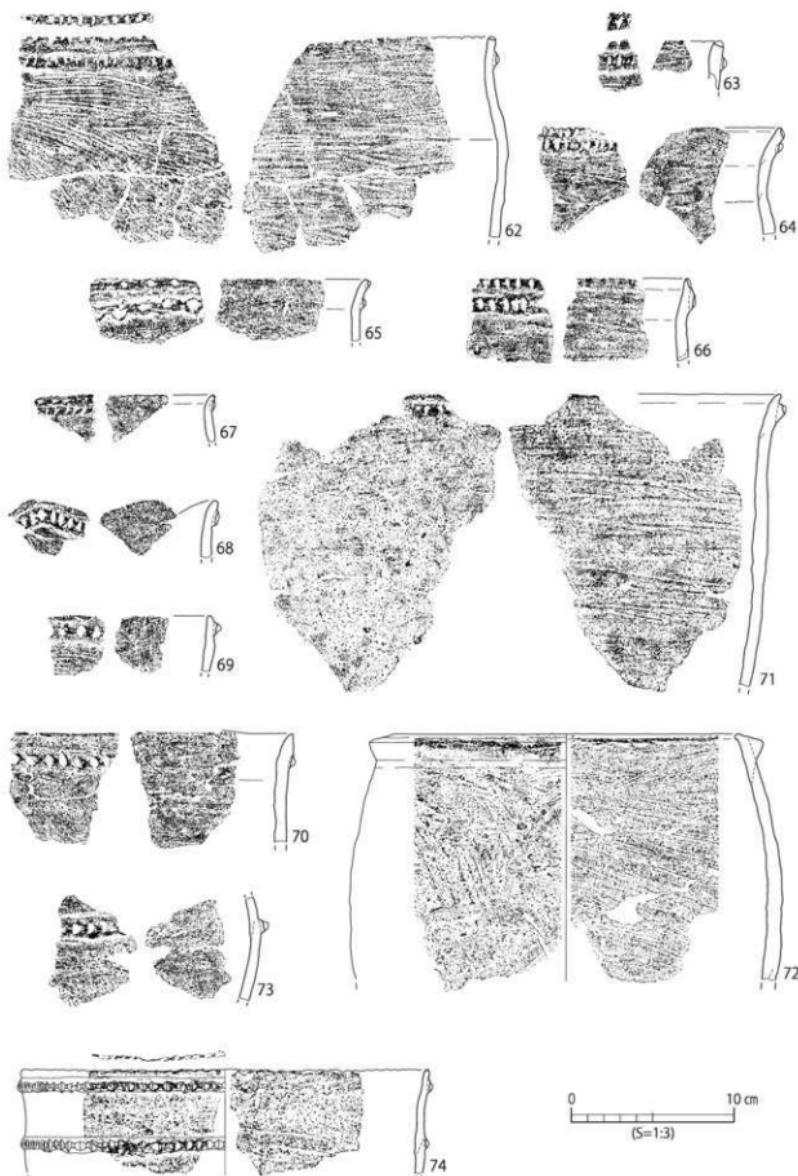
第24図 第3遺構面 包含層遺物出土状況図 (1:200)



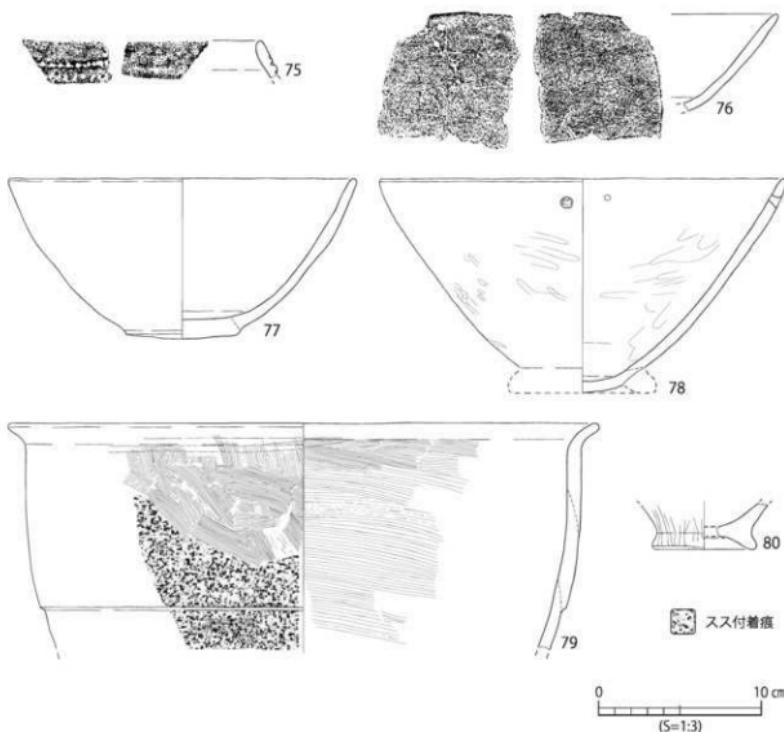
第25図 第3遺構面 包含層遺物出土状況詳細図 (1:200) 及び拡大図 (1:40)、出土石器実測図 (1:1)



第26図 第3遺構面 遺構内及び包含層出土土器実測図1 (1:3)



第27図 第3遺構面 包含層出土土器実測図2 (1:3)



第28図 第3遺構面 包含層出土土器実測図3 (1:3)

が後期の包含層を切っていることが判明しているので（第46図）、当該調査区では混入品の扱いとする。

#### 【第4遺構面】（第29～38・70～75・79・88・91・94図）

第3遺構面から20～40cm掘削して確認した面である。調査区北半分は旧河道（SR新）が占めている。

##### 地床炉（SX30・32・33）

地床炉は第2・3遺構面と同じ状況であるが、数が減り、大中小サイズのSX30・32・33の3ヶ所のみでN2～N3グリッドの南側に集中している（第29図）。いずれも楕円形を呈する平面プレンで、炭化物を含み、SX32・33からは小動物骨片も少量出土している（第30図）。土器もその周辺に分布している（第32・33図）。

第31図にはSX32から出土した縄文晩期土器を掲載した。3点とも口縁端部に刻目を施す刻目突帯文土器である。口端部の刻目は、第31図81は内寄りだが第31図82・83は外寄り上からの刻目である。83には現状で1ヶ所の焼成後穿孔が施されている。

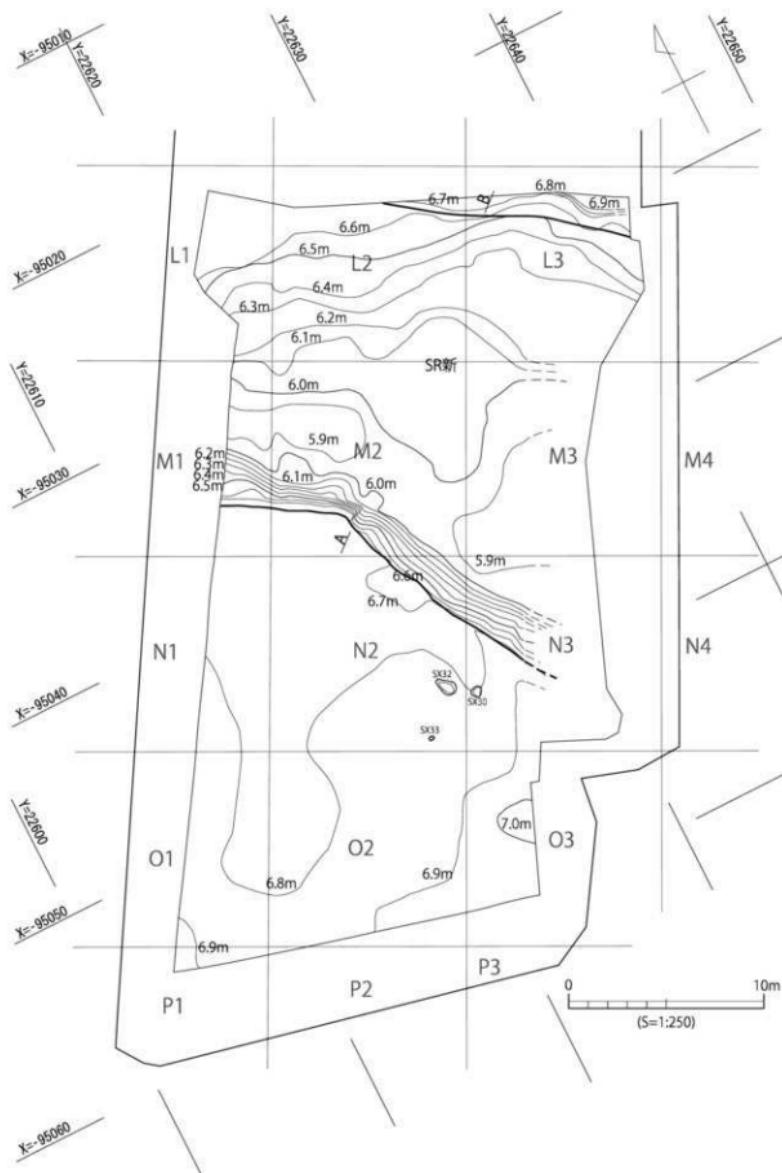
##### 旧河道一新（SR新）

当該旧河道は、南側淵がM1～N3グリッドの中央に向かい、対岸にあたる淵はL2～L3グリッドの東側寄りに検出された南南東から北北西に軸をとるものであるが、N3グリッドではほぼ南北に軸をとっている。調査区内での最大幅は24m、下幅は17mほどである。深さはN2グリッドで0.8mである。M2・M3グリッドにおいて下方は旧河道一古（SR古）と平面的に重なるが、実際の底面は明確には区別できなかった。第3遺構面から出土した流木とやや重なるように流木が出土している（第32図）。これらのことより、SR古からSR新へと流路が変わるほどの洪水があったことがうかがわれる。その後は弥生時代前期まで大きな洪水はなかったようで比較的安定し、地床炉群が遺構として残ったものと思われる。石皿、縄文土器、夜白系の土器も出土している。

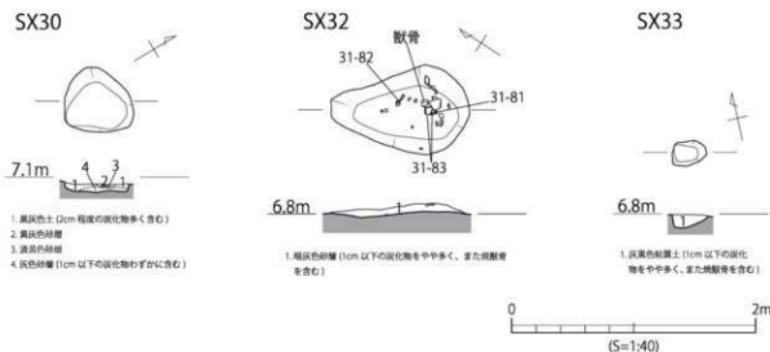
第34～37図はSR新から出土した土器である。

第34図84～87、第36図111は縄文後期土器で、84は貼付による口縁端部で、つまむように押しつけて尖らせているのが特徴である。85は深鉢の頸部破片で、縄文RL施文後に太い凹線文で区画し、縄文帯と磨消しを施したものである。86は波状口縁の、87は平坦口縁の、粗製深鉢である。111は浅鉢である。口縁部が内湾し端部は厚く丸みをもつもので、現状で3条の凹線文を施し、その間は縄文RLが観察されるため磨消し縄文と思われる。

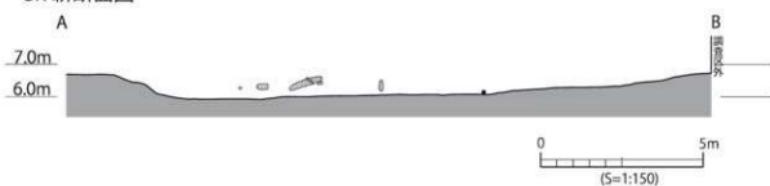
第34図88～第36図110、第36図112～122、第37図126～129は縄文晩期土器である。88～91は口縁端部に刻目が施された深鉢で、89は内寄りだが他は外寄りに上からの刻目である。92～110は刻目突帯文土器の深鉢である。92～101は口縁端部に刻目を施す刻目突帯文土器で、口端部の刻目は全て外寄り上からの刻目である。92には現状で2ヶ所の穿孔があり、口端部と突帯部には大きな刻目を施している。94は口端部の刻目を外面に向けて施し突帯は平べったく平行しているので、口縁部に2条刻目の意匠を意識したものと考えられる。95のみは口端部と突帯部の刻目の施文具が異なっており、口端部はO字状の工具を押しつけ小さな刻目をしているが、突帯部は半裁竹管状の施文具で右から左へ搔き上げるように施文している。また土器の内部に微小貝とシイ属種子が混入している（注1）。また99は口端部の刻目が完全に外面に施され、突帯は口端部から21mmも離れたものであるが、刻目は退化した感じを受けるものである。101は小型品である。



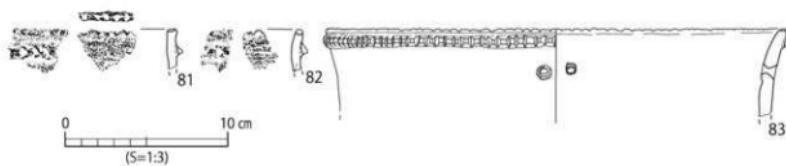
第29図 第4遺構面 全体図 (1:250) 標高 7.0m ~ 6.6m



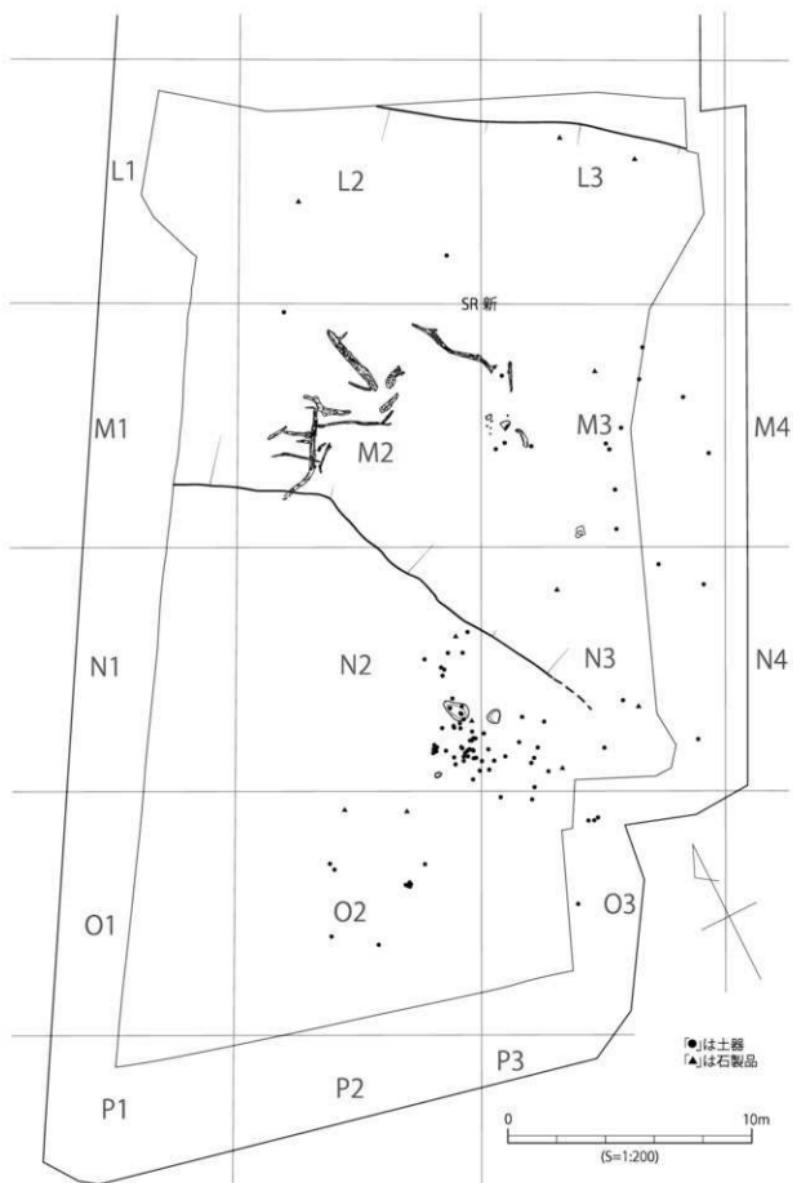
SR 新断面図



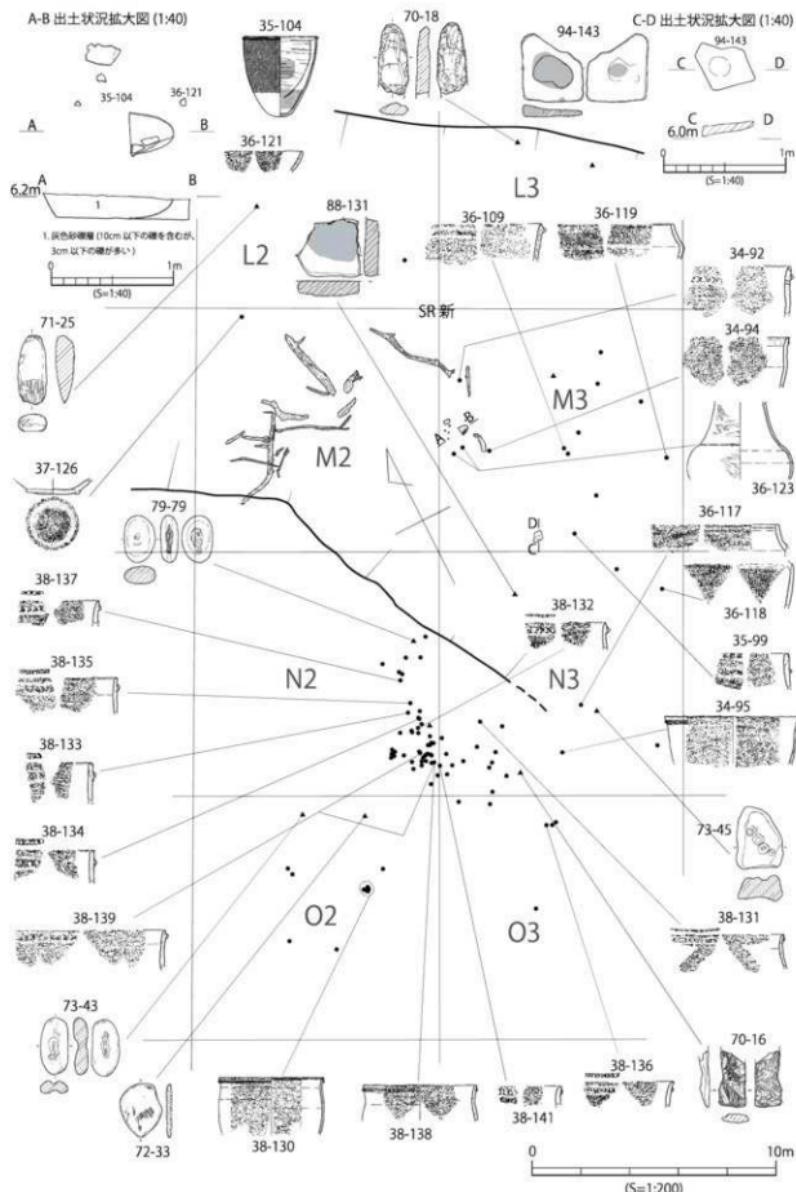
第30図 第4遺構面 検出遺構図 (SX30-32-33) 及び SR 新断面図



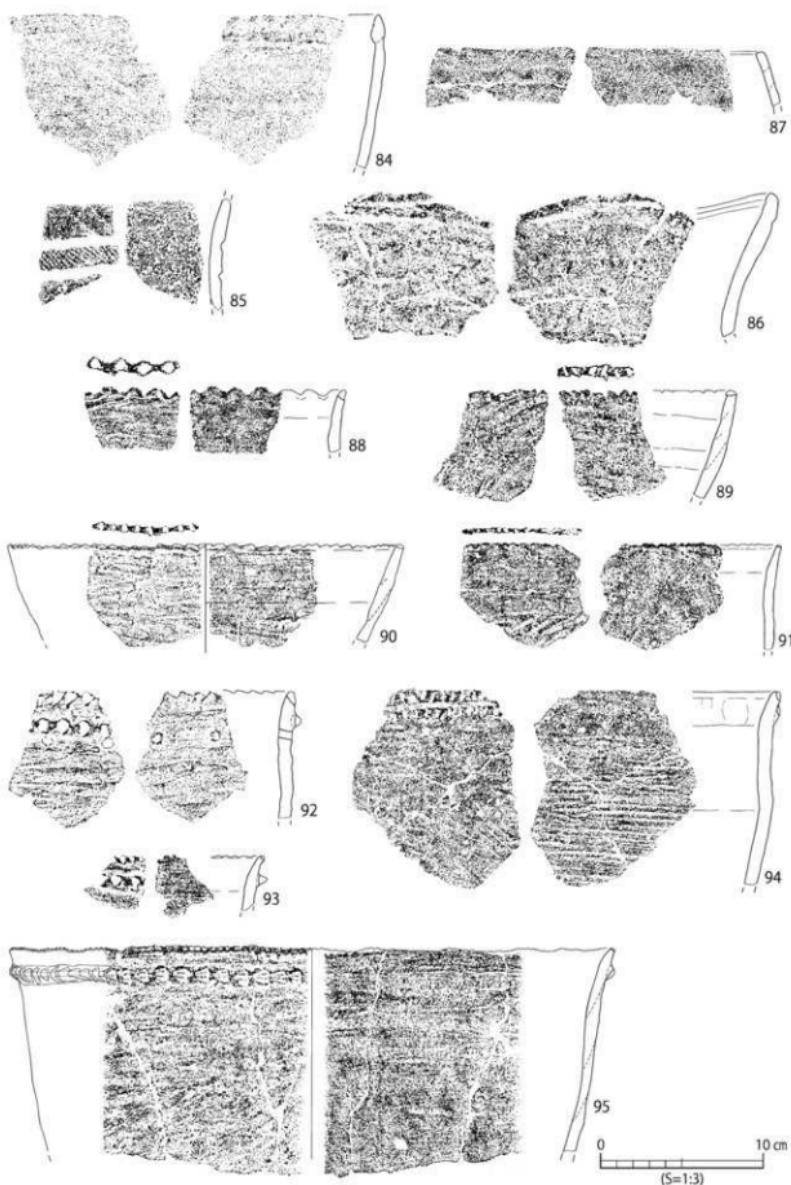
第31図 第4遺構面 SX32 出土土器実測図 (1:3)



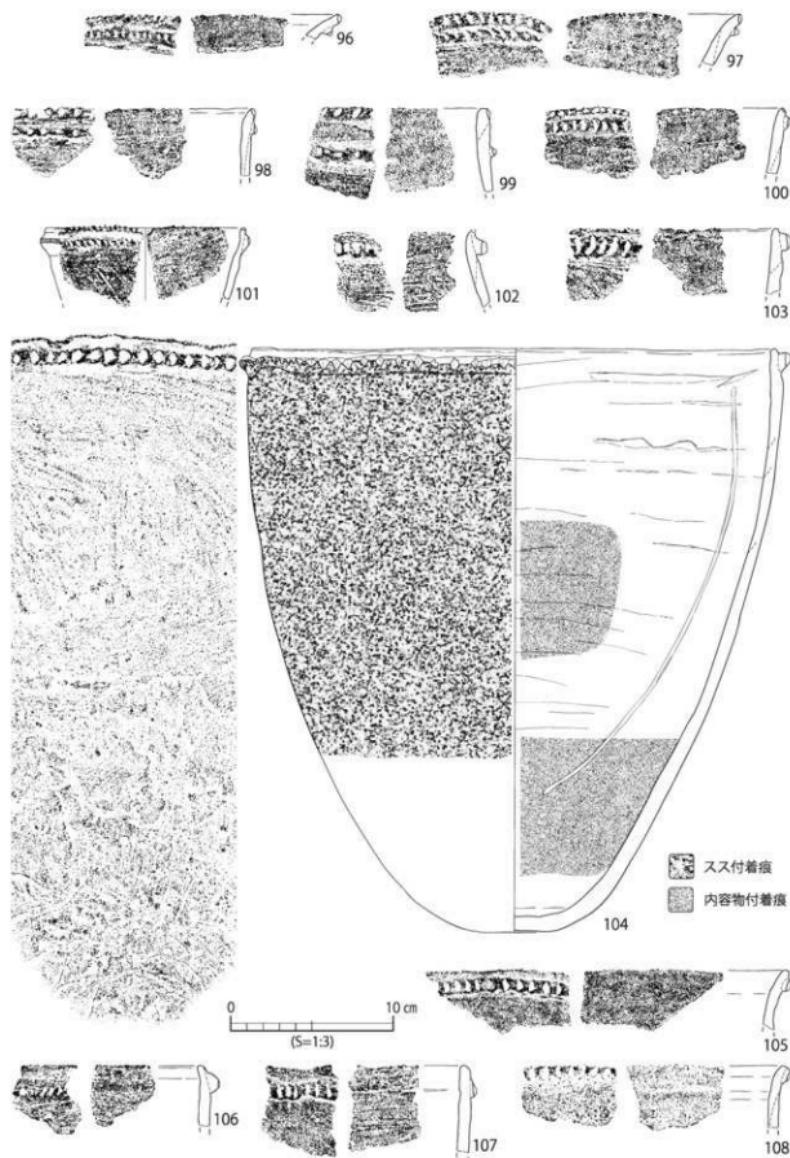
第32図 第4遺構面 SR新及び包含層遺物出土状況図 (1:200)



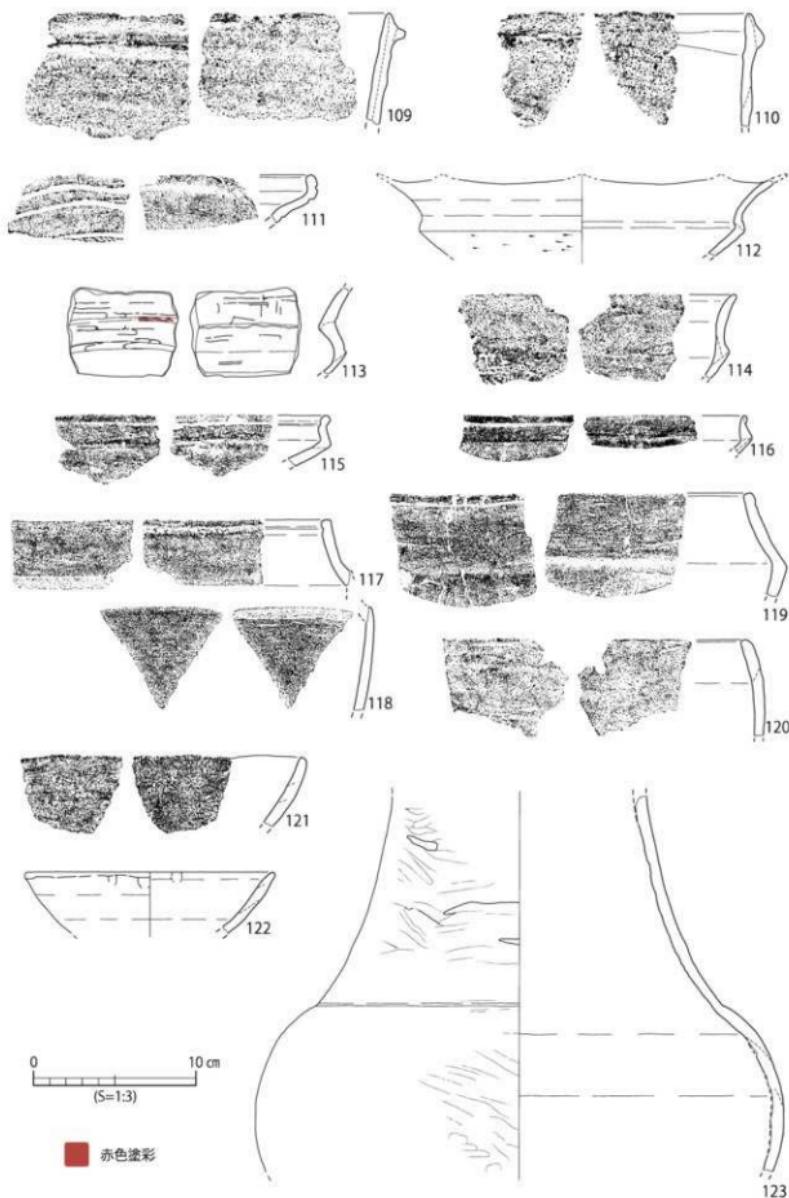
第33図 第4遺構面 SR新、包含層遺物出土状況詳細図 (1:200) 及び拡大図 (1:40)



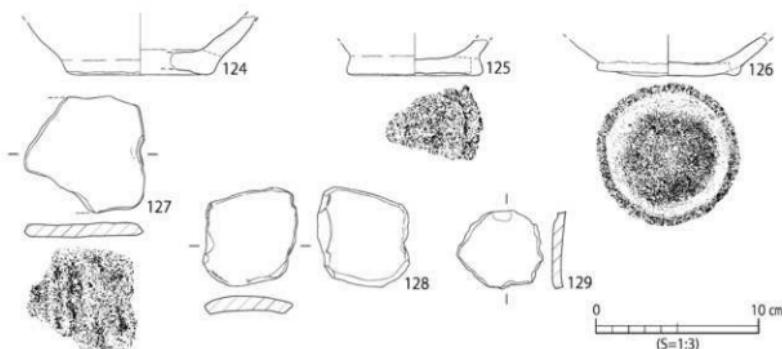
第34図 第4遺構面 SR 新出土土器実測図 1 (1:3)



第35図 第4遺構面 SR新出土土器実測図2 (1:3)



第36図 第4遺構面 SR 新出土器実測図 3 (1:3)



第37図 第4遺構面 SR新出土土器及び土製品実測図4 (1:3)

102～108は口縁端部に刻目を有しない刻目突帯文土器である。102～105のように口端距離が約5mmで突出高が5～6mmで一応D字状に近い刻目を有するもの、106～108のように突帯が口縁部にはば接して刻目が前記したものより幅狭くなって、退化傾向にあるものが存在する。

109・110は無刻目突帯文土器である。

112～122は浅鉢である。112は波状口縁で頸部が強く屈曲するプロポーションを有するものである。113は口縁部が欠損しているが112と近い形状と思われる。外面頸部に赤色塗彩が観察される。114は口縁が外反し、115・116は頸部が屈曲して短く口縁部へと立ち上がり丸くおさめたものである。117・118は直接接合はしないが、それぞれに粘土貼付痕が残存しており胎土焼成色調や接合面の角度などを考慮すると同一個体であることに間違いないとと思われる。117+118・119は頸部から内傾して口縁部へ立ち上がる。120～122はボウル形を呈するものである。

第37図124～126は底部である。124・125は縄文後期～晩期の深鉢の凹底を呈するもの、126は深鉢のものであるか浅鉢のものであるか確定でないが凸状底部である。

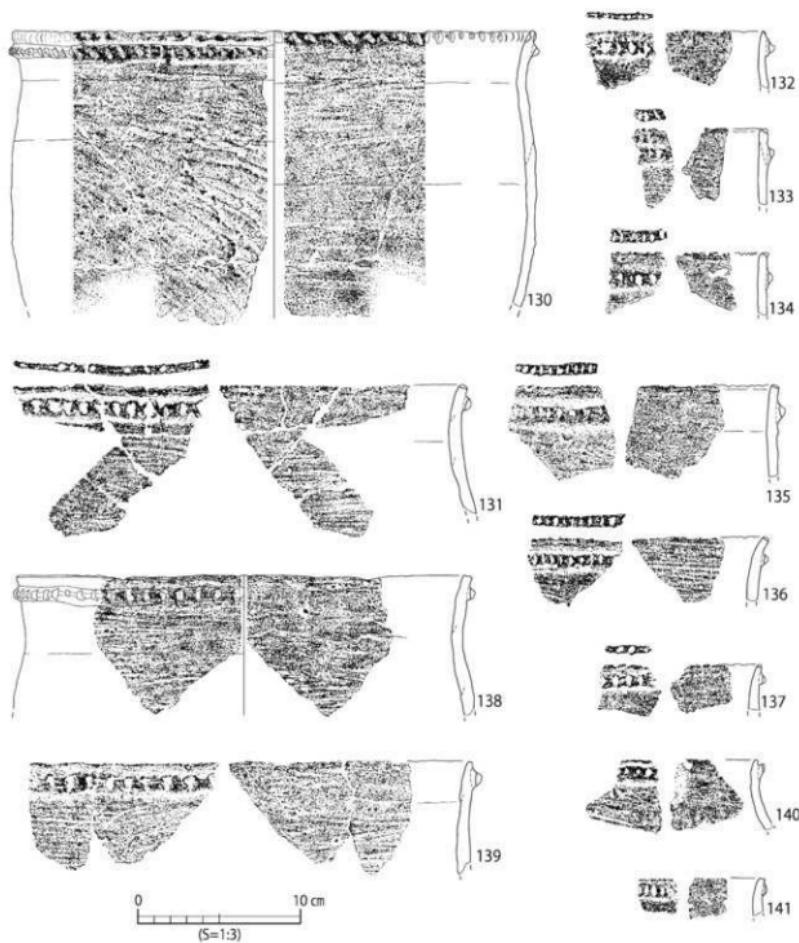
第36図123は弥生系（夜臼式）の壺である。胴部と頸部の界線に段を施し、丁寧なミガキが施されている。外面の丁寧さに比すると、内面は使用時または使用後（廃棄後）の被熱等によりもうく剥落している。

第37図127～129は縄文晩期土器片を利用した土器片錐と考えられる破片で、127は右側に、128は左右に、129は上下に抉りが入っているようである。

#### 包含層出土土器

第38図は包含層出土土器で、地床炉、SR新の南岸周辺からまとめて出土している（第32・33図）。

第38図130～141は縄文晩期の刻目突帯文土器である。130は内面に口縁部下から斜めに突く連続刺突文を有するもので、そのため外面は小さな連続瘤状となっている。131～137は口縁端部に外寄りの上から施された刻目をもつものである。133～135のように口端距離が10mm前後



第38図 第4遺構面 包含層出土土器実測図 (1:3)

あるが刻目はD字状～V字状と退化した様相を呈するものがある。138～141は口縁端部に刻目の入らないものである。139は138出土地点から出土した破片と接合していることと、138の口縁部は実測図では平坦面を表現したが実際には139のように尖っている箇所もあり、また刻目の施文に巻貝が使用されていると考えられる点も共通しており、同一個体の可能性が高いものである。

### 【第5遺構面】（第39～44・97図）

第4遺構面調査後も地山が検出されないため、確認のために調査区南半分のN2・N3・O1～O3・P1グリッドの範囲を約20cm掘削して確認した面である。後述する第6遺構面検出の旧河道－古（SR古）の上面に位置する。そのため沼地状であったと考えられる。

#### 堅果類集中範囲1～7

特にO2グリッドにおいて数箇所の堅果類の皮を捨てた廃棄場所が集中して発見されたが、沼地に向かい斜面になっている状態が土層断面から観察された（第40図A-B）。廃棄場所は少なくとも7ヶ所確認し、それぞれ堅果類集中範囲1～7と番号を打って取り上げを行った。第6遺構面で検出したSR古の淵の方向に沿って重なり合っており、低い方は水の作用を受けられた部分があると判断されたので、廃棄の段階では、池や沼の環境の中で水位の変化があったものと考えられる。廃棄されたいずれの集中範囲のクルミやトチは人工的に割られていた。

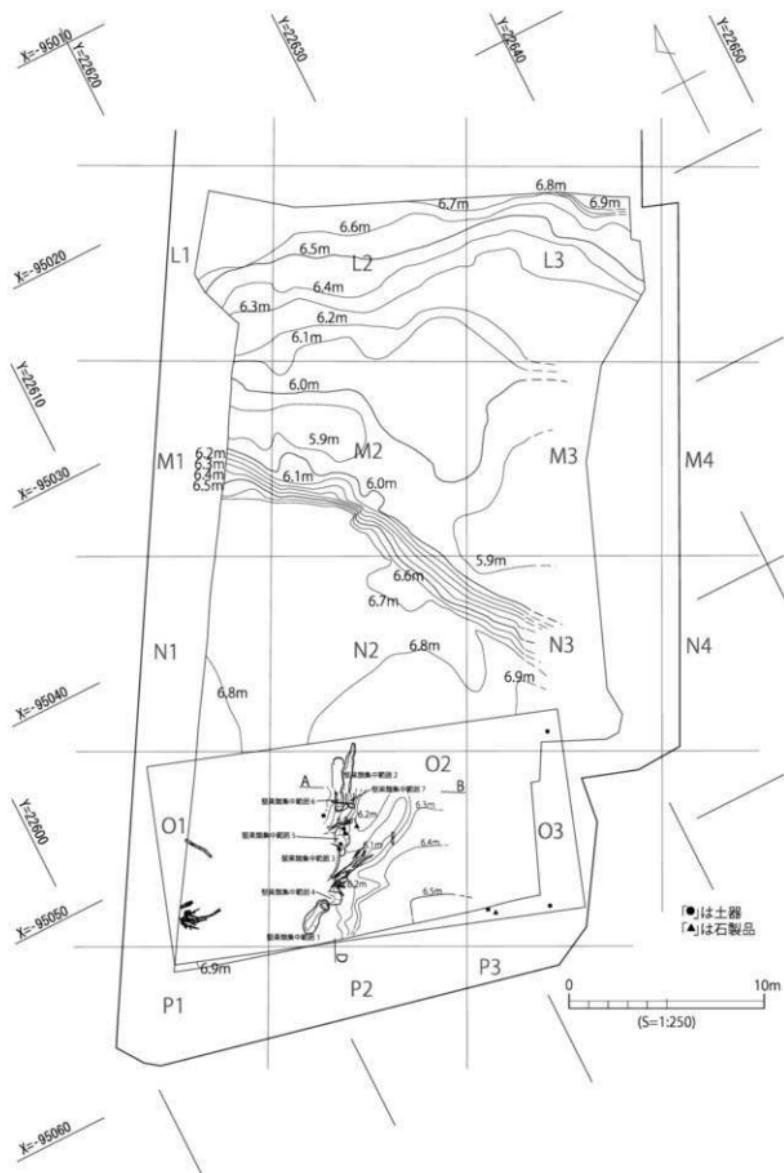
このうち、堅果類集中範囲1としたものは、残りが比較的よかつた廃棄のユニットである。長さ2.0m、最大幅0.7mの長楕円形の範囲に、トチとクルミの殻のまとまりがみられた（第41図）。その東側に長さ50cm、幅35cm、厚さ20cmの割石（第41図146）が置かれ、長さ9.5cm、幅8.0cm、厚さ5.7cm、重さ510gの円礫（第41図145）もあった。割石は堅果類の殻を廃棄する時の踏石（ステッピングストーン）と考えられ、廃棄場の環境がそれを必要とするような状況であったことを示している。円礫は磨面ではなく表面は風化したように見える。通常見る磨石の石材とは異なる。トチ・クルミ以外の食料となる植物遺存体では、焼けたフジの種が検出された（注2）。この堅果類集中範囲1のクルミ210個体分について計測したものが第42図上である。平均値は、高さ26.46mm、幅24.31mmである。第2遺構面出土資料と比較すると、やや幅広であるが、高さ24～29mm、幅17～21mmの間のまとまりがある。第42図下は、比較のために弥生時代前期後半松江市西川津遺跡のデータ（262個体分）を掲載した。平均値は、高さ25.11mm、幅21.7mmとやや小型になり、分布域も広がっている。環境や食料獲得戦略の違いなどを考える好資料が得られた。

この堅果類集中範囲1～7が廃棄時のままの状態であるのかは明確ではないが、比較的残りの良い堅果類集中範囲1は、1シーズン・1家族とも考えられなくもなく、これを前提にすれば7家族が存在したことが推定される。しかし、これらに時期差がある可能性もあるので、地床炉との関係と今後検討する必要がある。

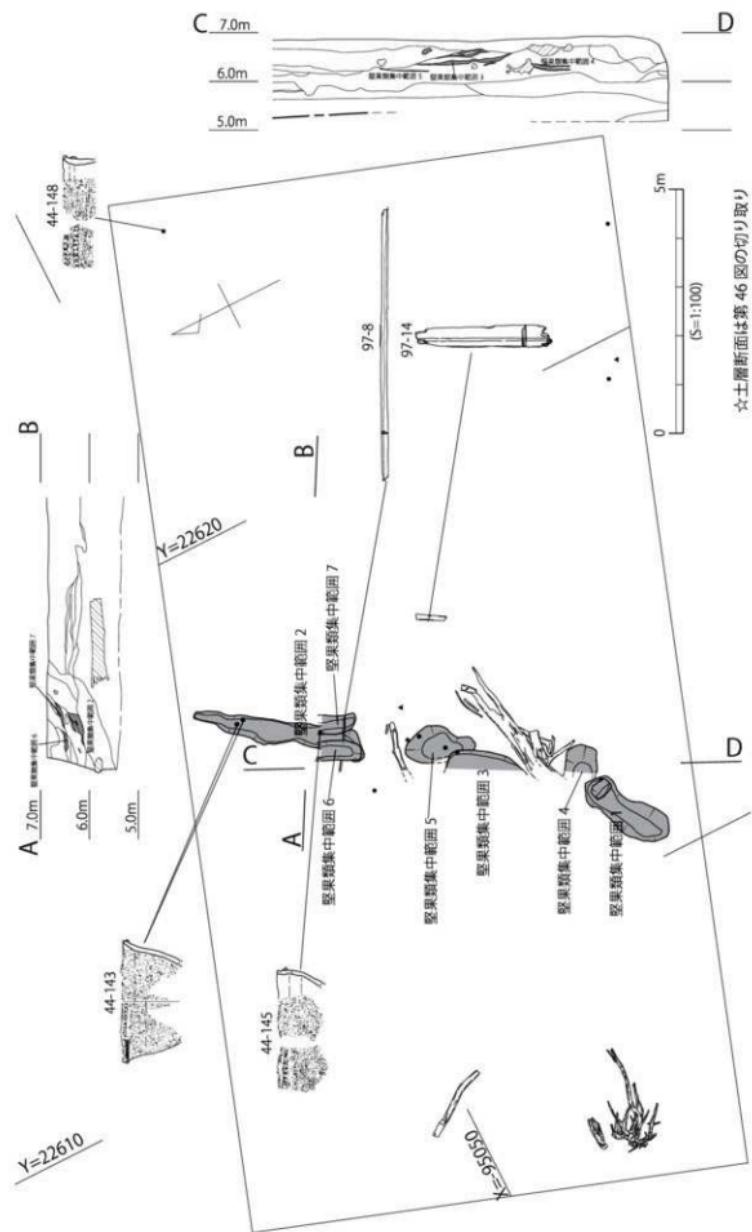
第43図は堅果類集中範囲1～3・7から出土した縄文晩期土器である。第43図142は堅果類集中範囲1から出土した浅鉢で頸部が屈曲し、やや短い口縁部へと立ち上がるものである。第43図143は堅果類集中範囲2から出土した刻目突帯文土器の小型深鉢である。口縁端部にも外寄り上からの小さな刻目が施されたものである。第43図144は堅果類集中範囲3から出土した浅鉢の口縁部である。第43図145は堅果類集中範囲7から出土した刻目突帯文土器の鉢である。刻目突帯文土器143・145は被熱によって外面に煤、内面に内容物がこびり付き煮沸による土器使用がなされている。

#### 包含層出土土器

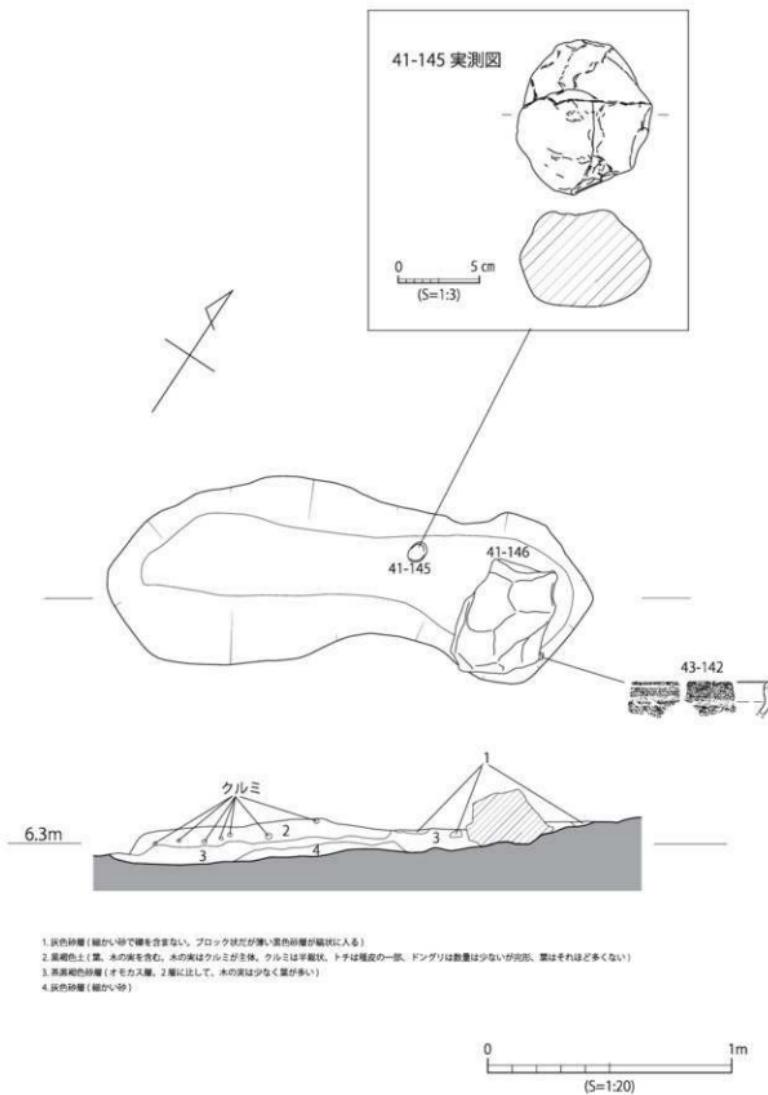
第44図は包含層出土土器である。



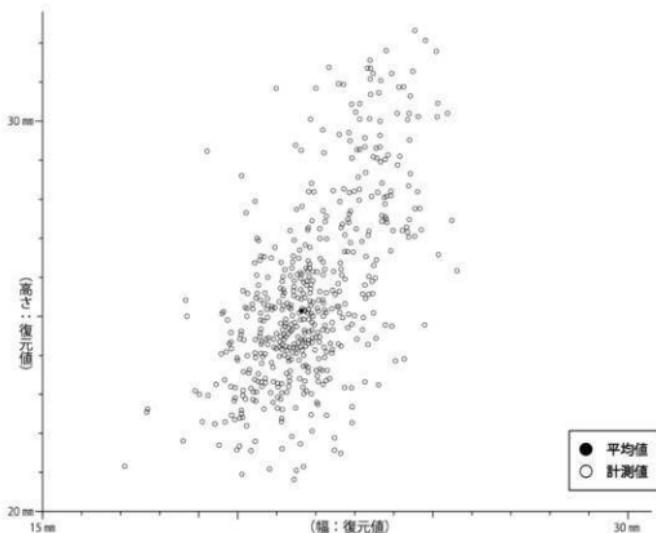
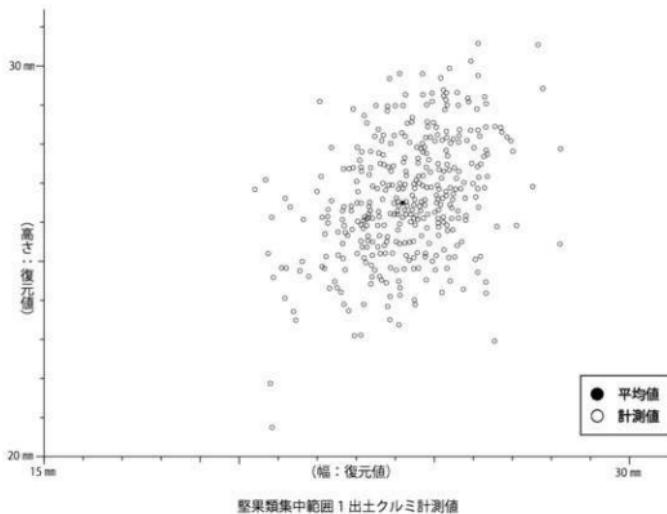
第39図 第5遺構面（囲い範囲）全体図（1:250） 標高 6.9m～6.3m



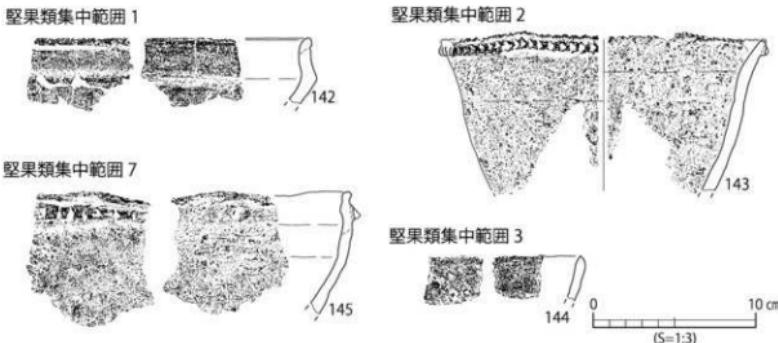
第40図 第5遺構面（囲い範囲）拡大図 (1:100)



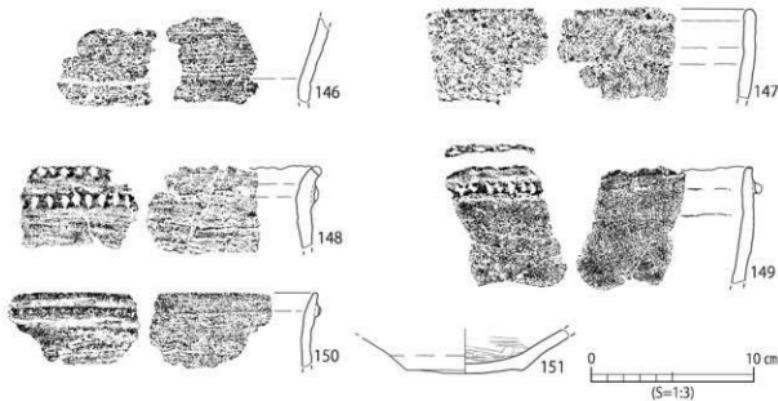
第41図 第5遺構面 堅果類集中範囲1 実測図（1:20及び1:3）



第42図 第5遺構面 出土クルミ計測値



第43図 第5遺構面 堅果類集中範囲1～3・7出土土器実測図（1:3）



第44図 第5遺構面 包含層出土土器実測図（1:3）

第44図146・147は縄文後期土器で、146は深鉢の頸部破片で、外面に1条の深い凹線文が施され、縄文らしき痕跡が観察される。147は粗製の深鉢である。

第44図148～151は縄文晩期土器で、148～150は突帯文土器の深鉢である。148・149は口縁端部に外寄りの上から施された刻目をもつもので、150は口縁端部に刻目を持たず、突帯の刻目は浅くて小さなD字状を呈するものである。151は凹底ぎみの平底で、浅鉢のものであろう。

### 【第6遺構面】（第45～91・93・95～97図）

調査区北側第4遺構面、調査区南側第5遺構面から30～90cm掘削して確認した面である。北側は第4遺構面で検出したSR新の立ち上がりで終えているが、南側とほぼ中央では新たに旧河道一古（SR古）の立ち上がりを検出した。この旧河道一古（SR古）はG区面積の3分の2を占めている。

この段階で、調査区に南北トレンチを入れてSR新、SR古を掘り込んでいる地層を確認した（第45図A-B、第46図）。北で隣接するH区と対応させてある。土層G区②とH区⑯、G区③とH区⑮、G区④とH区⑯が対応する。南側では東西トレンチも一部入れた（第45図C-D、第46図）。SR古は河道のため砂層、有機物粘土質層、砂礫層などが互層状に堆積しているが、大別すると4層に分層できる。第46図では、細分した上に大別をしておいた。【2層】の下部は深くなっているので、観察表には（2層深）と分類している。

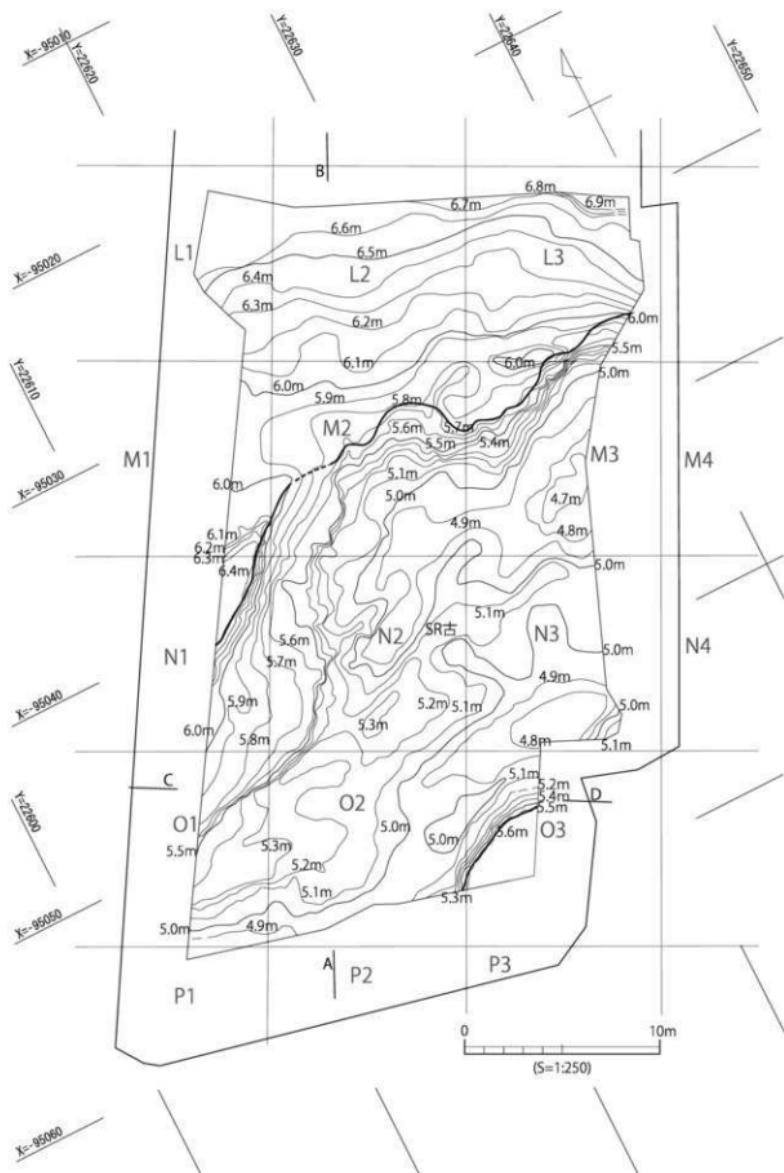
#### 旧河道一古（SR古）

当該旧河道は、ほぼ東西方向に軸を持ち、東から西へ流れている。上幅は中央で20m、下底幅は8mである。M2グリッドで深さは約1mである。このSR古から多くの遺物が出土した。SR古は主として砂礫層で埋まっていた（第46図）が、左岸沿いには倒木をはじめ多量の植物遺存体が堆積していた（第49図）。倒木や流木はSR古の方向に沿ったものが多いが、左岸沿いのそれは方向は一定しておらず、中には立木もみられ、木の葉の堆積層もあった。左岸沿いには木が生えており、流れのゆるい場所であったと推定される。流木の内最大の物は、長さ11m、径約1mを測るものがあり（第49図）、樹種鑑定の結果はトチノキ、放射性炭素年代測定では $2765 \pm 25BP$ という値が出ていている（第4章試料番号FGW98）。

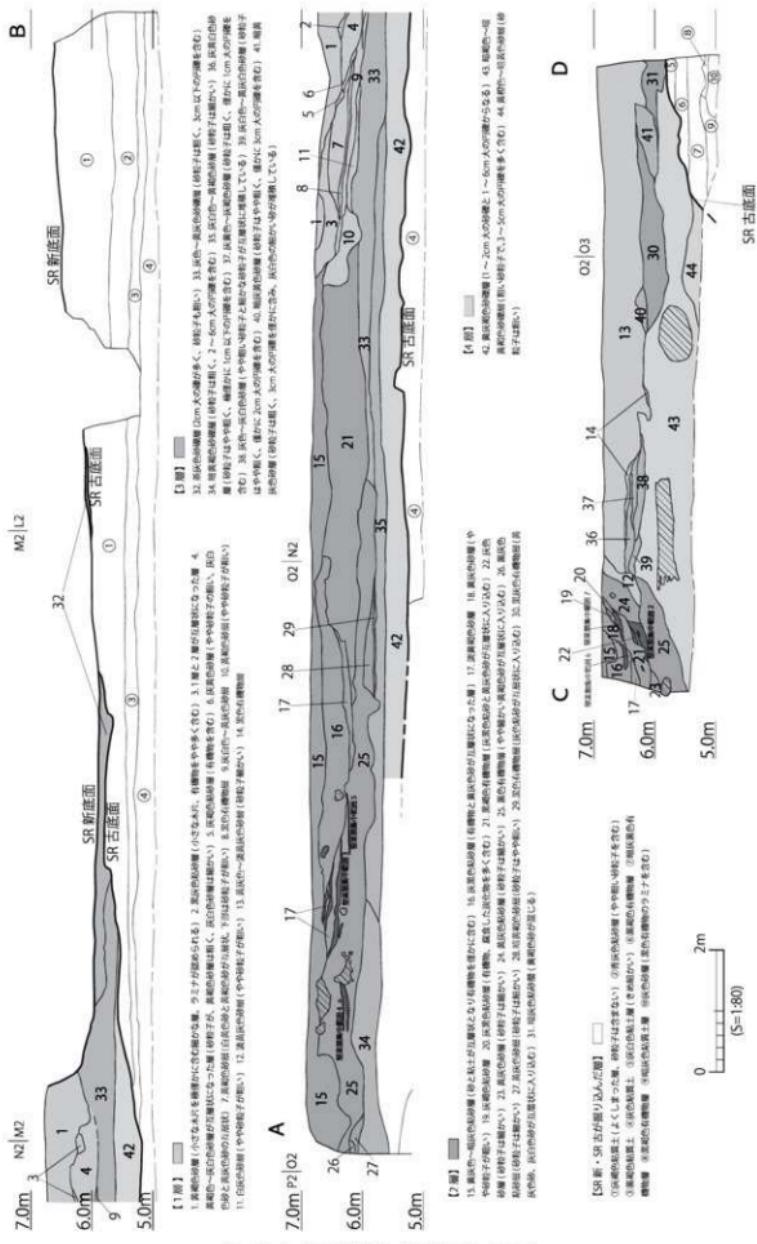
このSR古の川底には杭が打ち込まれている箇所が4ヶ所あった（第49図）。川底で、中央に1ヶ所、左岸沿いに3ヶ所あり、1本単独杭1、96-2（第50図O-O'、P-P'）と2本並列96-6・96-7、96-3・96-5（第50図R-R'、S-S'）のものがある。これらの周辺には50cm大の自然石、石皿（第95図144）など、また磨石が集中して底面から出土している（第50図E-E'）。このうち、第96図2（杭6）周辺からは多くの堅果類が出土した。トチは完形のものが多く、346個体（内外皮付5%）、幼果66個体、イチイガシ355個体で、クルミは人工的に半切したもの26個、完形8個（孔1が1個、孔2が1個）を検出した。その他、センダンやカヤ等が少数あった。川底や斜面に土坑のような遺構はみられないで、杭は網や籠に入れた堅果類を水晒しにするための施設のように考えられるが、付近にトチの木の大木FGW98や、イチイガシの葉の堆積層があることを考慮すると水の作用によって自然に集積した可能性もある。いずれにせよ、SR古の川底に何らかの目的をもって杭が打ち込まれたことは確かであり、川の利用法を考える資料が得られた。流木群の中には第96図4のように元来は弓であったと思われるものや第97図17の枕状の木製品がある。

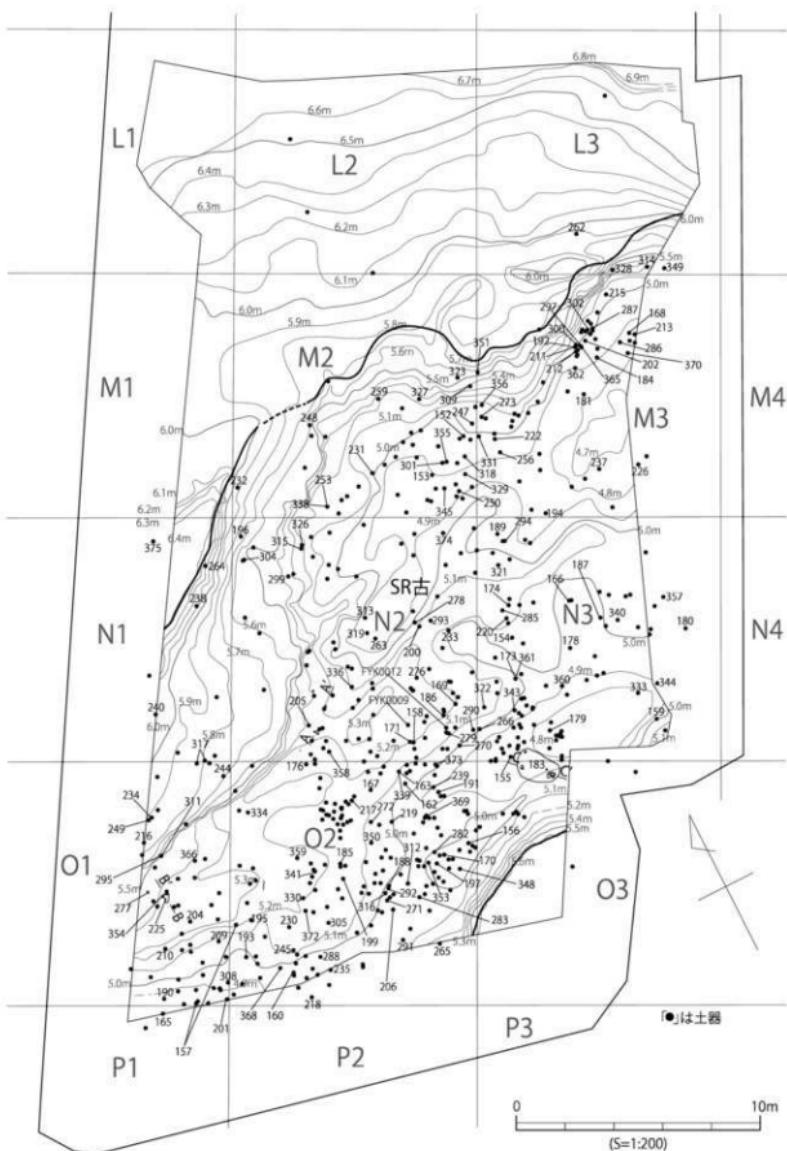
第51～67図はSR古から出土した縄文土器及び土製品である。旧河道全体から出土している。第53図183は斜面の上下から出土したものが接合しており、岸辺から転がり落ちた様相を呈したものである（第47・50図C-C'）。

第51図152～第52図166は縄文後期土器の163は壺形土器であるが、他は深鉢である。いわゆる縁帶文期のものである。152は口縁部を貼付により肥厚させたもので、口縁端部に凹線文、竹

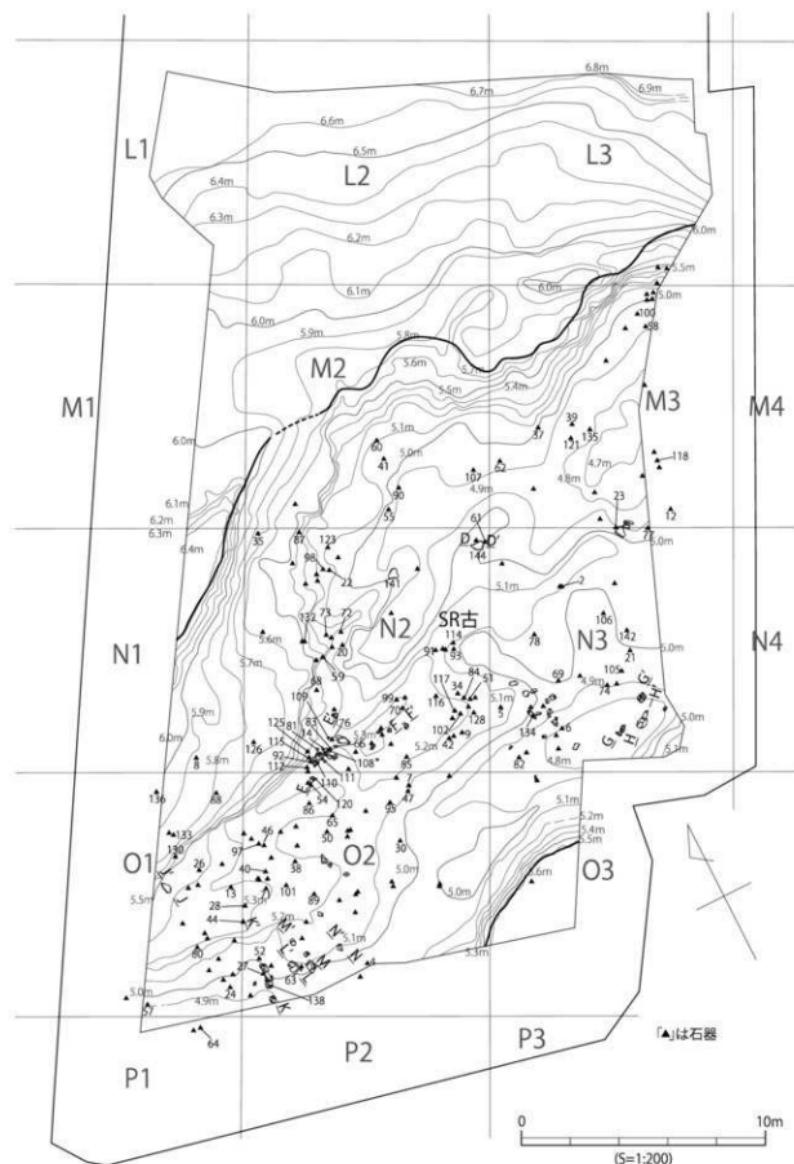


第45図 第6遺構面 全体図 (1:250) 標高 6.9~5.6m

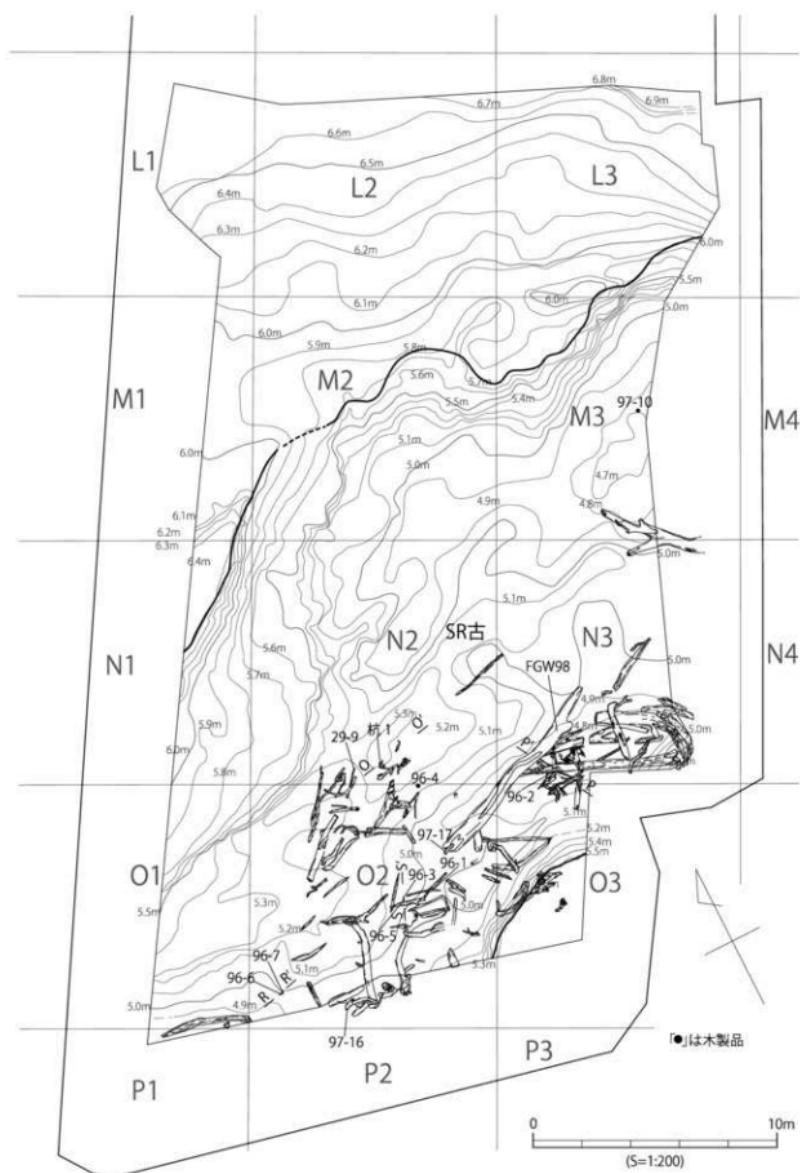




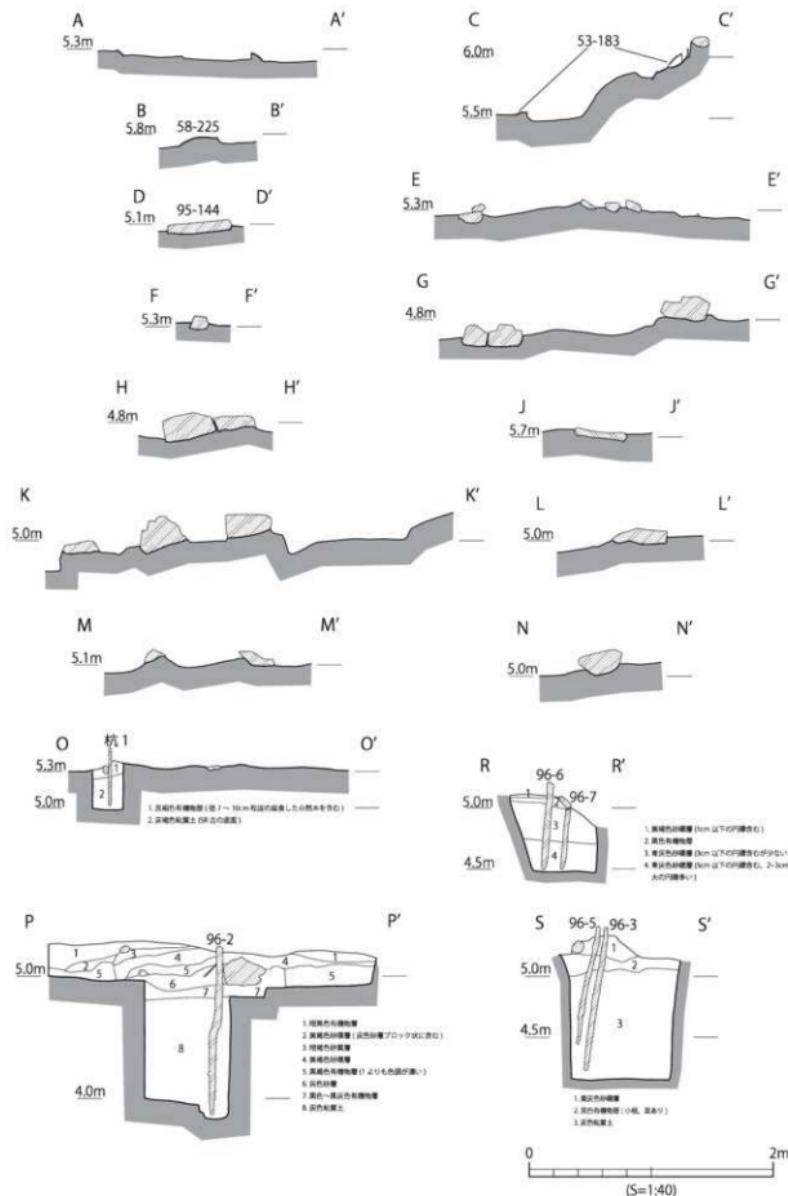
第47図 第6遺構面 SR古及び包含層土器（68-375）及び土製品出土状況図（1:200）  
(遺物の挿図番号は省略)



第48図 第6遺構面 SR古 石器（自然礫）出土状況図（1:200）（遺物の挿図番号は省略）



第49図 第6遺構面 SR古 木製品（自然木）出土状況図（1:200）



第50図 第6遺構面 SR古 遺物出土状況断面図 (1:40)

管文が施文されている。153は口縁部に平べったい突起を作り、縄文RL施文後にヘラ描の同心円文と組合せ平行沈線文が施されている。154は貼付により大突起部と小突起部を付けた口縁部を作り、縄文RL施文後に太くて深い平行凹線文を施す。大突起の中央は平行凹線文を終結させて円形に磨消している。小突起の中央も平行凹線文を終結させて磨消をしているが、外面に厚みをもたせている。155は貼付により口縁部に縁帯部を作り、端部はミガキ、縁帯部に縄文RL施文後太い凹線文を施している。156は小片であるが、下角を沈線で強調させた大きな凹線状文による同心円文が施されその下に角をもつ意匠の文様が観察される。157は湾曲した部位の肩～胴部で、胴部には縄文RLが施されている。158は頸部で、太い沈線による同心円文が施されている。159は外面に約1cm幅の粘土紐を現状で逆L字状に貼付けている。内面には調整痕とともに横位の縄文LRが観察される。160は沈線により縁帯口縁部を作り出し、縄文RLを施している。161は口縁部に粘土を貼付けた後に指ナデ、指押さえにより端部を尖らせている。破片が四角ばかり左右に抉りらしき痕跡が観察されるので、土器片錐として利用されたものかもしれない。162は胴部破片で、縄文施文（と思われるが）後平行凹線文、崩れた流水凹線文が施されている。163は直口壺の口縁部から肩部である。内外面とも突帯が貼付けられ現状で1ヶ所にリボン状突起が外面と上面向きに付けられている。内面の突帯は断面三角形で突起状のものであるが、外面の突帯は細くて小さな刻目を施す文様帶である。口縁端部にも突帯と同じ小さな刻目が施されている。頸屈曲部には削り出し突帯に正面からの刺突文を施した突帶文、肩部には平行沈線文で区画した中に逆ノの字状のヘラ描文、その直下にヘラ描きによる曲線が観察される。また内面には赤色部分が観察されるが、第4章上山論文では不明と判明している。外面胴部の割れ面に接して焼成後の穿孔らしき痕跡も観察される。164・165は九州系の土器である。164は口縁部が小さな波状を呈するもので、口縁部に縄文施文後凹線文を施したもの、165は口縁部に粘土帯を貼付けた後棒状のような工具で連続くの字状文を施している。文様は下側を浅く描いた後、角先端を深く突いて引き上げている。166は胴部で、凹線文による区画の上はキャンバス状に丁寧なナデ調整が行われヘラ描文が施されている。

第52図167は縄文後期～晩期の粗製深鉢である。

第52図168～第61図265は縄文晩期の深鉢である。

168は口縁上部に小さな突起をもつものである。

169～181は粗製深鉢で、169は口縁部が緩やかな波状を呈するものである。169～171のように直立ぎみのプロポーションをもつもの、172～174のように口縁部が外反するもの、175～181のように口縁部が内湾するものがある。175は長方形を呈する破片で左右に抉りが施されており、土器片錐として使用されたものであろう。

182は深鉢と思われる胴部破片であるが、内外面の調整にミガキが行われている。内面にアワ痕が観察された。183は口縁部が外反し、口縁端部に4ヶ所の突起を施した深鉢である。突起は精密には等間隔ではないがおおよそ等間隔を意識して配置され、外面からリボン状に見えるように上から押しつぶしている。

184～188は口縁部に刺突文を施したものである。184・185は口縁内面に刺突文を施したもので、184は直立するが、185はかなり口縁部を外湾させたものである。186・187は口縁外面に刺突文を施したもので、186は先端の丸い工具で、187は半裁竹管状の工具で施文している。188は口縁端部を肥厚させて上から刺突文を施している。

189～217は口縁端部に刻目をもつもので、189～195は内面側及び内面寄りに刻目が施されたもので、196～217は外面及び外面寄りに上から刻目が施されたものである。201は両端に圧力のかかる施文具にて刻目が入れられている。210の刻目は鳥形を呈しているので貝で施文されたものと思われる。199は脛部上半に四角形の刺突文が施されたものである。器形は粗製深鉢と同じく直立ぎみのプロポーションをもつ192・195・196・200・209、外反するもの189～191・193・197～199・201～208・210・217、内湾するもの194・211～216がある。217は口縁部が小さな波状を呈している。210は内外面ともミガキ調整なので、精製深鉢の黒色磨研土器かもしれない。212は外傾接合であるが他の縄文晚期土器と遜色はない。

218～242は口縁端部に刻目をもつ刻目突帯文土器である。口縁端部の刻目は、218・230が内面寄りに、219～224は上からの、225～229・231～242は外面及び外面寄りに上から刻目が施されたものである。219の刻目は曲線を描き、220は口縁端部の刻目が逆L字状、突帯の刻目がS字状を呈しているので、貝で施文したと考えられる。239・242は口縁端部の刻目が外面に施してある上、突帯の刻目と同時に施文しており、2条刻目の意匠を意識していると思われる。突帯の位置は、口端距離10mm前後のものと6mm前後のものに分かれるようだが、それに比例して刻目の幅が狭く小さくなるようではあるが、それほど明確ではない。直立ぎみのプロポーションをもつ219・220・222・232・236・240・241、外反するもの218・221・223～230・233～235・237～239・242、内湾するもの231がある。237は脛部の膨らんだ位置に縦位のヘラ描文が施されている。

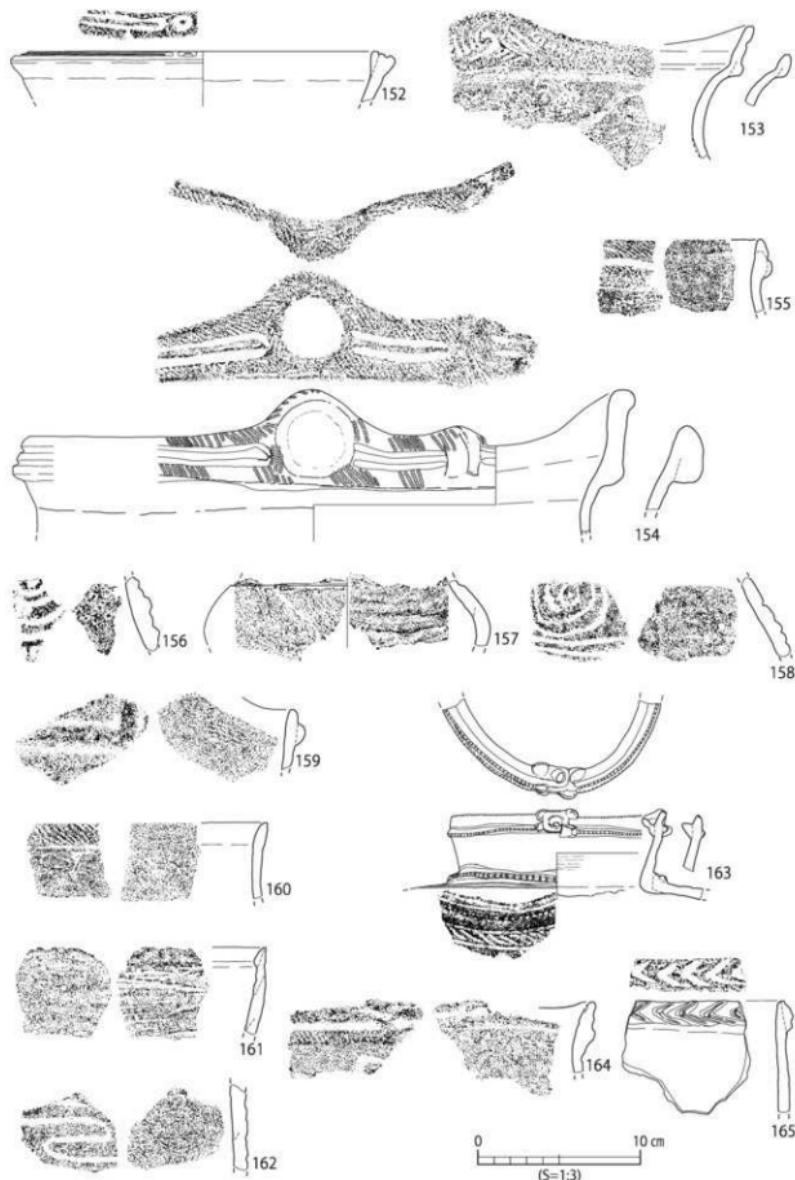
243～256は口縁端部に刻目を入れない刻目突帯文土器で、247・256は小型のものである。口縁端部が平坦なもの244・245と尖りぎみのもの243・246～255がある。256は突帯部が口縁端部に貼付けられたものである。直立ぎみのプロポーションをもつ243・245・250～253・255、外反するもの244・246、内湾するもの247～249・254・256がある。突帯の位置は、刻目の大ささと口端距離に比例しているようには思われず、口端距離が2～3mmしかない243は刻目幅が3～5mmあるD字状であるし、口端距離が7～8mmある254の刻目幅は1.5～3mmのV字状である。ただし、256のように突帯が口縁端部に接するものは刻目幅が0.5～1.5mmのV字状を呈する、刻目が無くなる直前の様相を呈しているようである。244は刻目突帯文土器の下に現状で3ヶ所並んだ穿孔が施されている。

257・258は無刻目突帯文土器で、257は小型のものである。口縁端部に平坦面を有している。259～265は2条刻目突帯文土器で、259・260には口縁端部に上からの刻目が施されたもので、259はやや外反ぎみだが260は直立ぎみのプロポーションを呈している。261・262は口縁端部に刻目の無いもので、261はやや外反ぎみだが262は直立ぎみのプロポーションを呈している。突帯の刻目は、口縁端部に刻目が入らないものの方が幅が狭く退化傾向を示している。263～265は脛部に突帯があるので、2条刻目突帯文土器の下段部分とした。

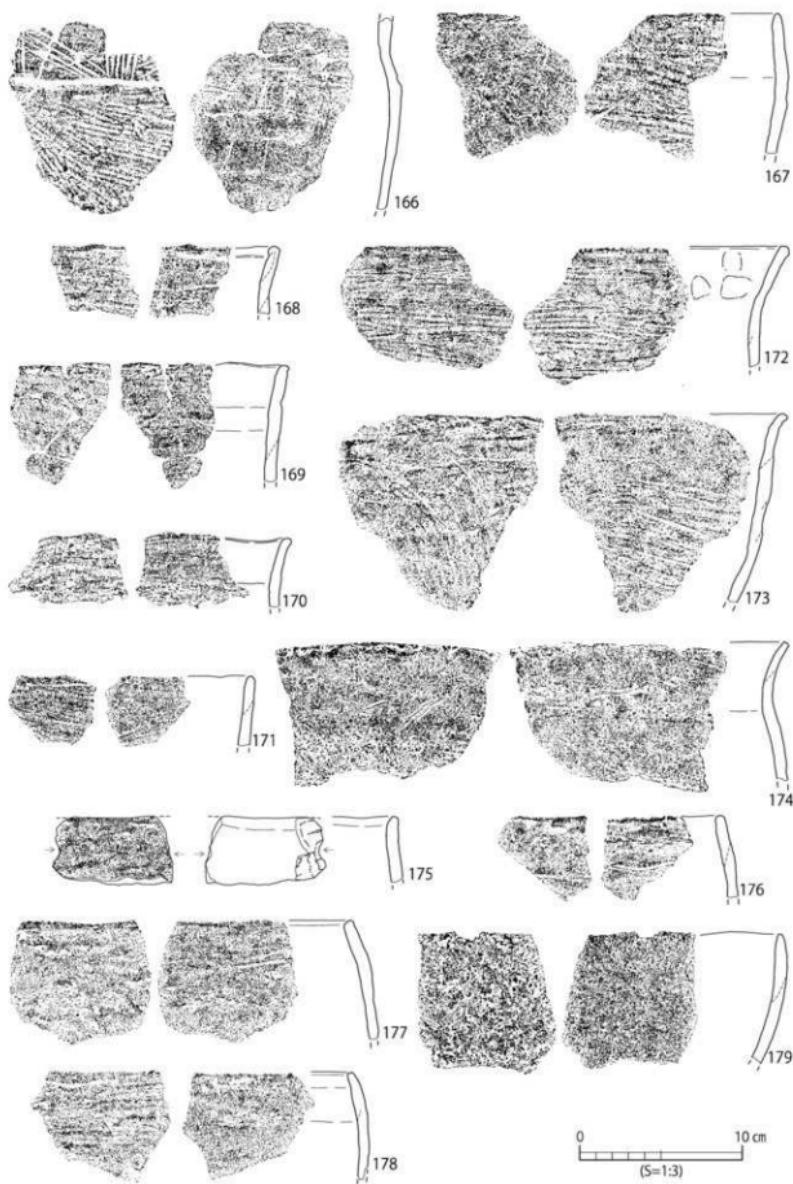
第61図266～277は縄文後期土器の浅鉢である。266～268は口縁部が外反し脛部の張り出るもので、268は現状で1ヶ所穿孔が確認できる。267の口縁部は波状を呈するようである。269・270はボウル形を呈するもので、縄文（269は不明瞭、270はLR）施文後、凹線文で区画し、磨消面と縄文面を作っている。271は脛部破片で、凹線文で曲線を描いている。272は内面の口縁端部をナデにより作り出し、端部はつまむように押し付けて尖らせたものである。いわゆる縄文

期～凹線文期のものである。273は外反する体部の、外面に平行凹線文2段のち逆ノの字状ヘラ描文2段、内面に逆ノの字状ヘラ描文と凹線文を施したものである。274～277はボウル形を呈するもので、274・275は粗製の、277はやや粗製のものである。

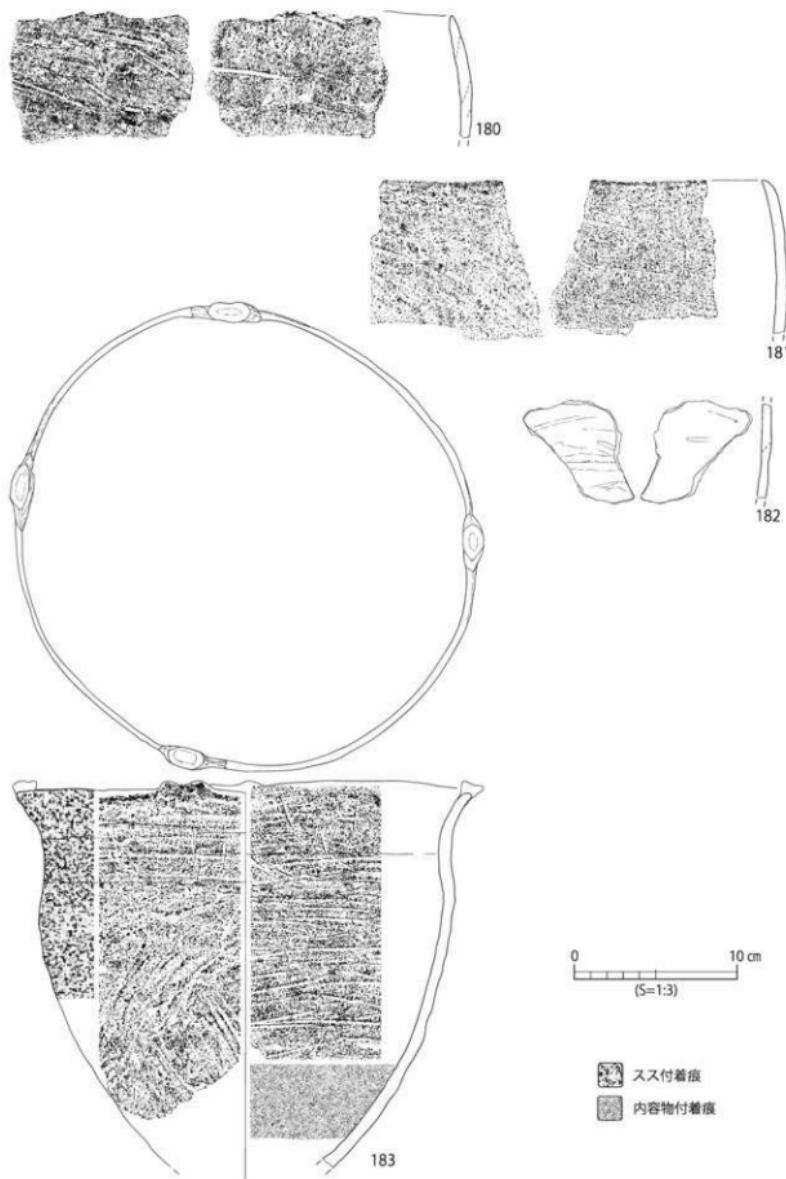
第61図278～第66図339は縄文晚期の浅鉢又は鉢としたものである。278は長い頸部が外反し、口縁部が短く立ち上がるもので、279は丸みをもった体部から頸部を屈曲させ内湾する口縁部は内面に肥厚させている。280は突起部で内面を押しつぶして耳状にしたものである。281は口縁部は屈曲し端部にリボン状突起を有するもので、内面は強いナデにより何箇所か屈曲させている。282は口縁端部にボタン状突起と欠損しているがおそらくリボン状突起がセットで作られたものである。ボタン状突起の下には現状で1ヶ所の穿孔がなされており、内面は凹線文が施された後に穿たれている。283～298は後述するものより口縁部が長く外反するプロポーションのものである。284・289～297は明瞭なものから可能性のものも含めての波状口縁のものである。また290～294は方形を呈するものの可能性もある。283・293にはそれぞれ現状で1ヶ所の283は焼成後穿孔が、293は通常（成形時）の穿孔がされている。284・290～294・296～298には284は外外面に、292は外面に、他は内面に深浅はあるが1条の凹線文、沈線文、又は段が施されている。外面調整には屈曲部を境に、口縁部にミガキなどの精製調整、体部にケズリなどの粗製調整が施されている。299～305は前述したものより口縁部が短いが外反するプロポーションのものである。303は外面口縁部に1条の深い平行沈線文を施している。外面調整で屈曲部を境に精製と粗製に分かれることは、300・302～304で、299は調整不明だが、301・305は全体に精製調整が施されている。306～308は口縁部が内傾するもので、306・307は内面に、308は外面に1条の平行沈線文が施されている。307は波状口縁の可能性がある。309～312は体部から短めの口縁部を截せて外反させ、309・310は内面に、311は外面に1～2条の沈線又は凹線文を施している。312はミガキによる1条の沈線文とその下部に突帯文をミガキ出している。2条突帯の意匠のように感じられる。309は波状口縁である。313は口縁内部が2段に屈曲するいわゆる鍵形口縁のものである。314～321は口縁部が短く、外反するものである。318は波状口縁の可能性あり。316は現状で1ヶ所焼成後穿孔がある。特に315～317・319・321は精製のもので、器壁も薄く仕上げられているので、本来この器形は精製浅鉢の主流かと思われる。322は直立したプロポーションであるが、調整及び文様から浅鉢に近く深鉢ではないので、一応鉢として分類したものである。外面口縁部には貝殻施文による平行凹線文が施されている。323～330はボウル形又は皿形を呈するものである。特に323は黒色磨研土器と思われる。外面口縁部に1条の沈線文を施し、体部に何かを表現した文様をミガキ基本に施し、沈線の幅を広くするため削れて線が粗くなった部分が多い。また文様線の中には赤色塗彩（ベンガラ）されている。328は現状で1ヶ所の穿孔がある。326は内面にアワ痕が観察された。327は精製のもので、底部はやや凸レンズ状の平底である。331・332は直立するプロポーションを呈し無文であるが、調整にミガキが使用されているので、鉢としたものである。333と334は器形は違うが緻密で焼成が同じものである。333は口縁部の若干外反するもので、外面口縁端部の下に沈線を施している。334は頸部が張り、口縁部が内傾して立ち上がるが端部は外反している。335は2条刻目突帯文土器であるが、ミガキ調整が使用され、下段の刻目には巻貝の頂部を回転させてO字状に施文している。336～339は、口縁端部及び刻目突帯を有する粗製の浅鉢及び小型壺（337）である。338の突帯は、口縁部を折り曲げて端部を突帯としている。339



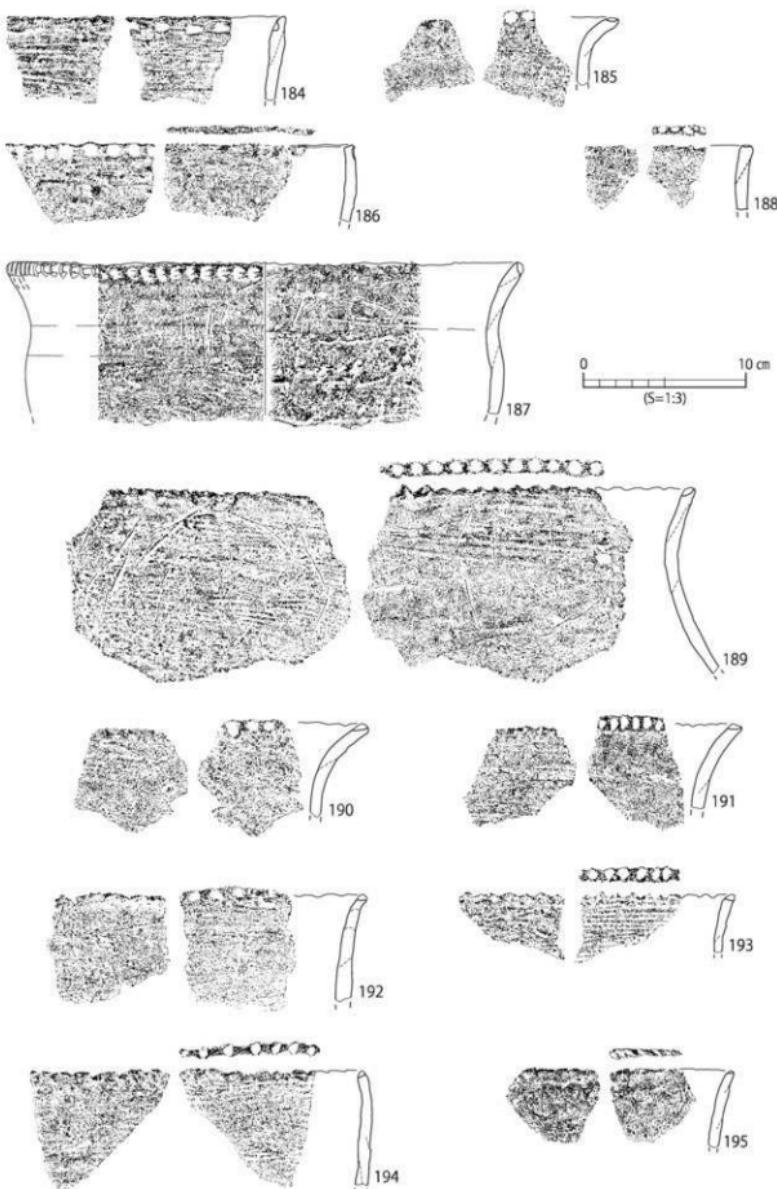
第51図 第6遺構面 SR古出土土器実測図1 (1:3)



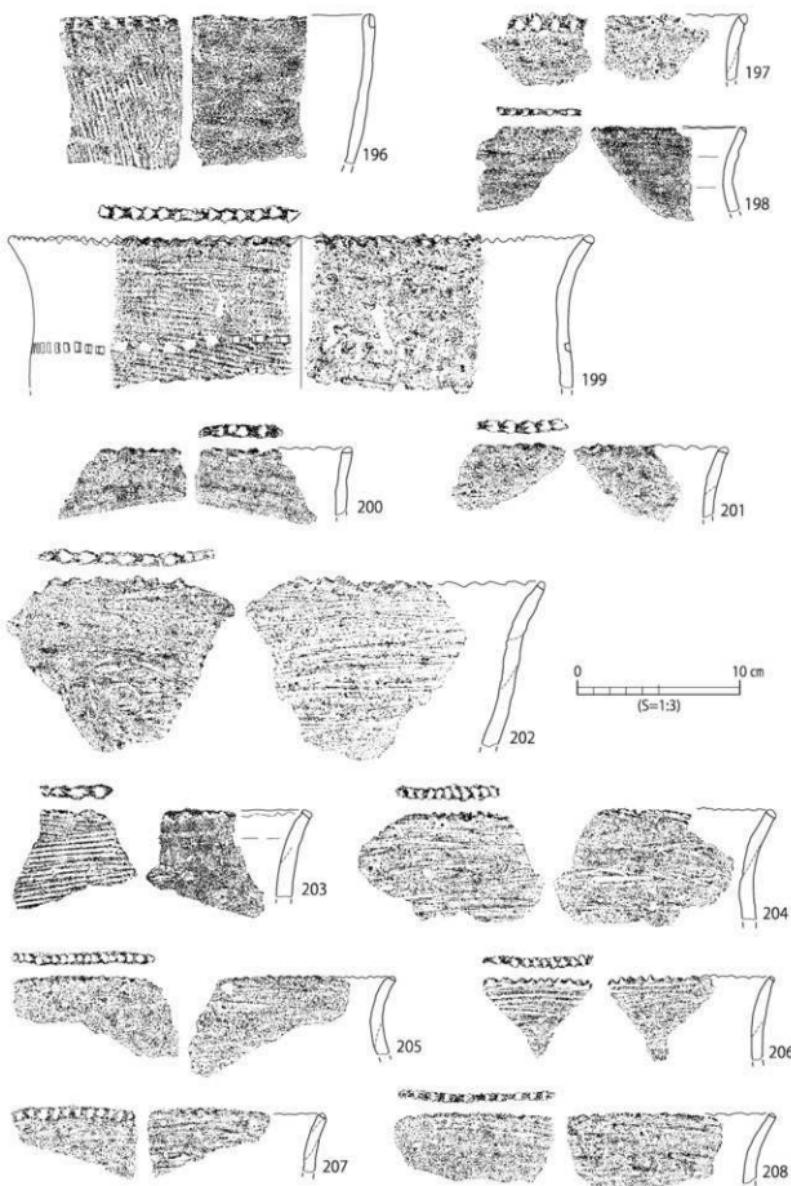
第52図 第6遺構面 SR古出土土器実測図2 (1:3)



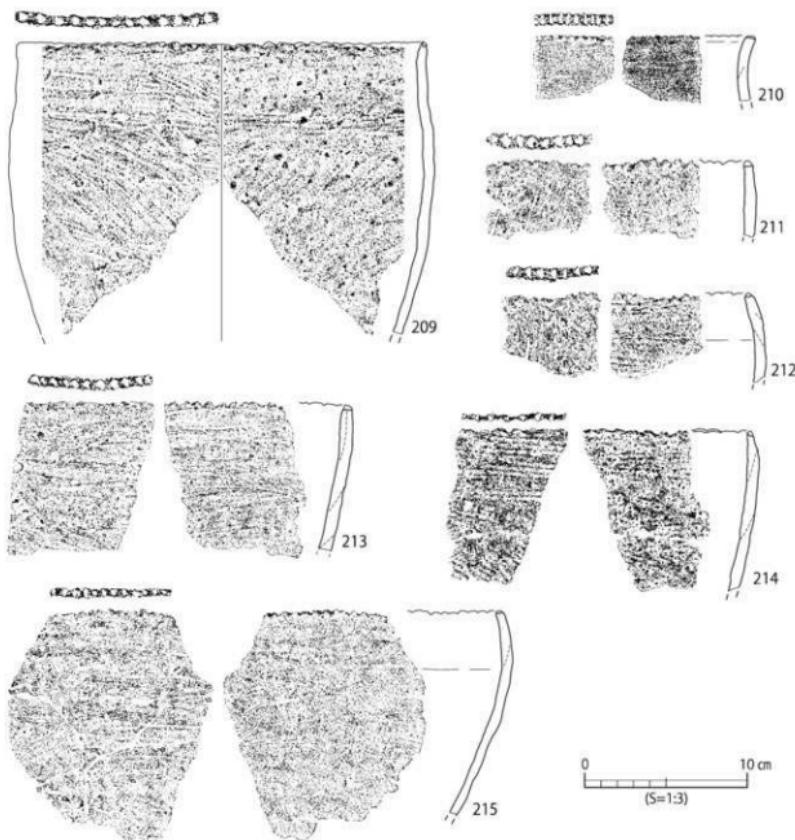
第53図 第6遺構面 SR古出土土器実測図3 (1:3)



第54図 第6遺構面 SR古出土土器実測図4 (1:3)



第55図 第6遺構面 SR古出土土器実測図5 (1:3)

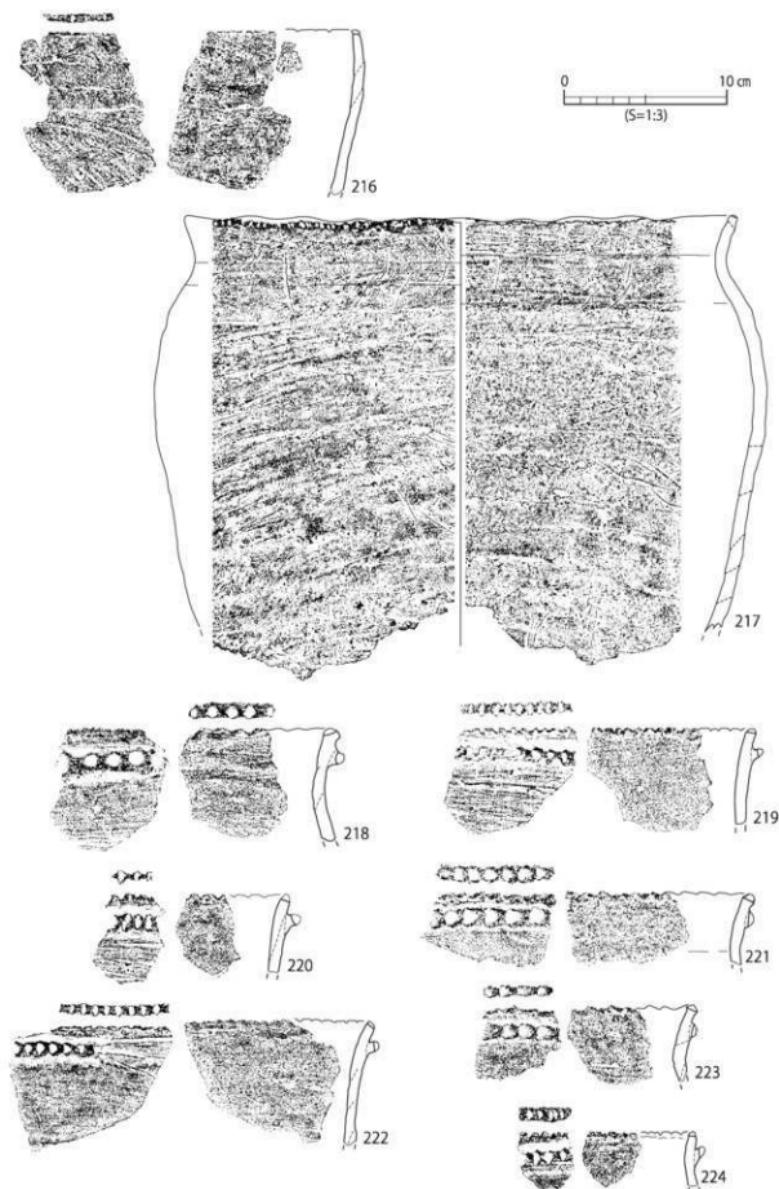


第56図 第6遺構面 SR古出土土器実測図6 (1:3)

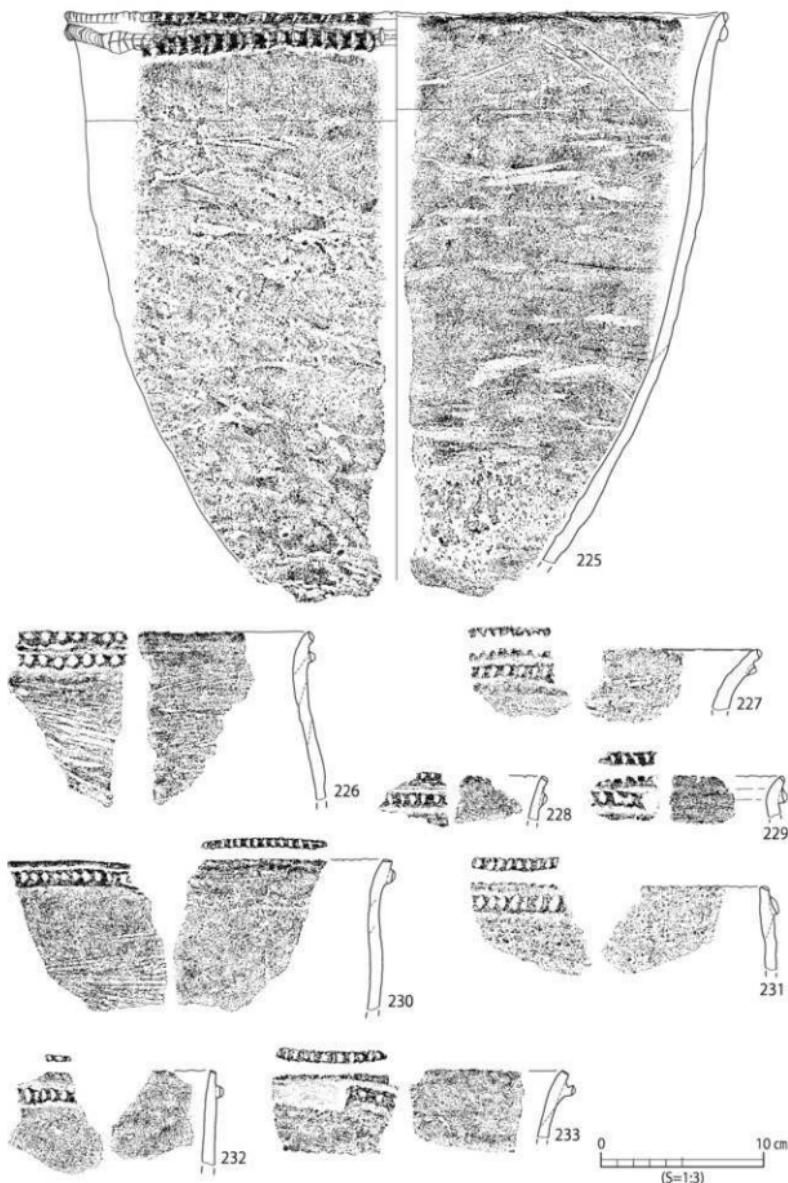
は口縁端部にも刻目を施した刻目突帯文土器である。底部は平底で、体部が約45°で立ち上がり口縁部はやや直立ぎみに内湾して端部は外反するプロポーションを呈する。

第66図340・341は縄文土器と弥生土器の融合した形態と考えられる土器で、340は夜白系の壺ではあるが、縄文系譜の内傾接合が観察されるものである。341は如意形の口縁部を呈している鉢である。

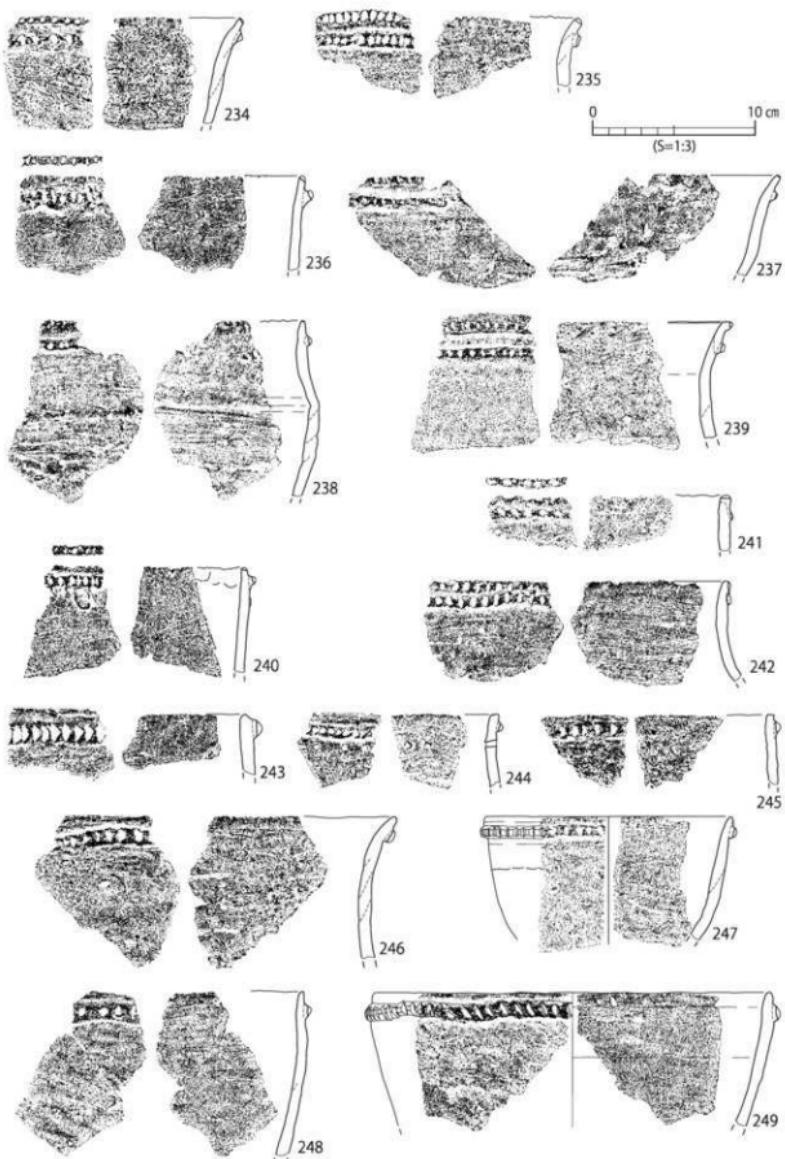
第66図342～第67図370は底部である。342～345は胎土から縄文後期と考えられる深鉢の、343はほぼ平底であるが、他は凹底である。346～350・352～354・356・358～361は胎土からも縄文後期又は晩期のものと区別がつかない深鉢の、346～349・352～354・356・360は凹底、350・359はほぼ平底、361は丸底を呈する。351・355は胎土から縄文晩期深鉢の凹底である。357は縄文晩期から弥生前期にかけての深鉢底部で、凹底である。362～370は浅鉢又は鉢



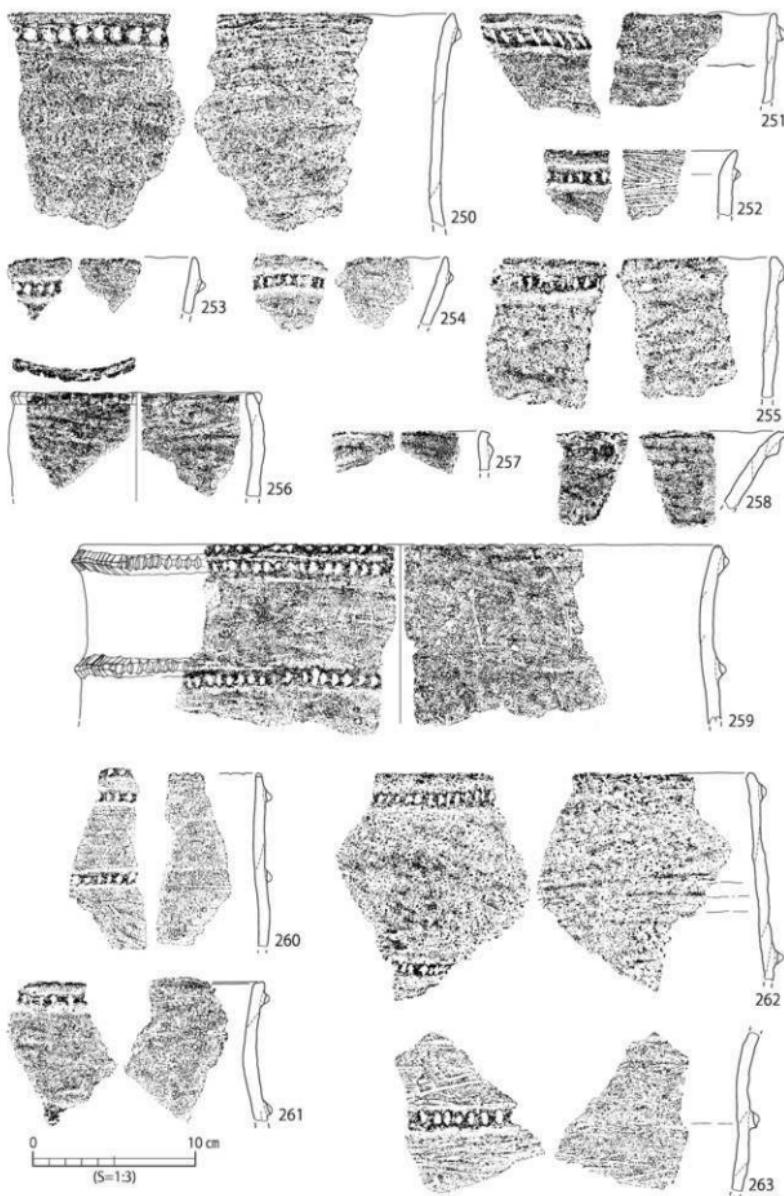
第57図 第6遺構面 SR古出土土器実測図7 (1:3)



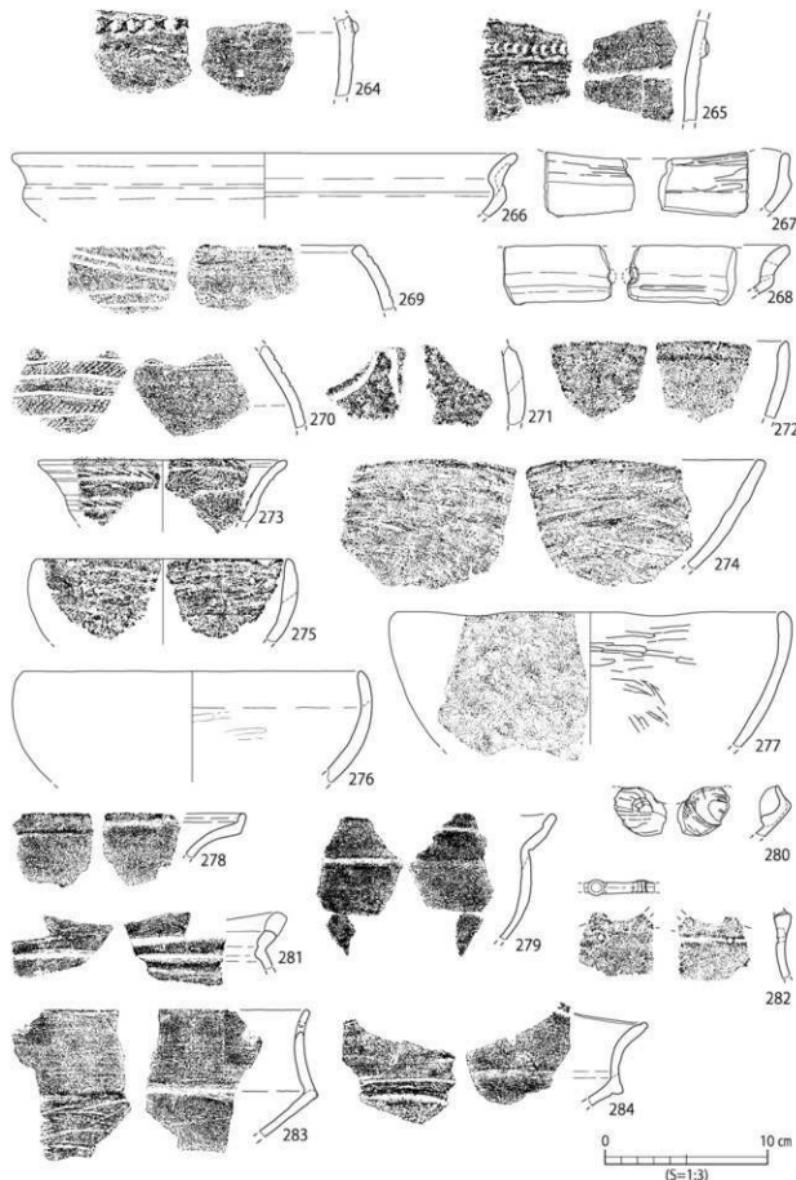
第58図 第6遺構面 SR古出土土器実測図8 (1:3)



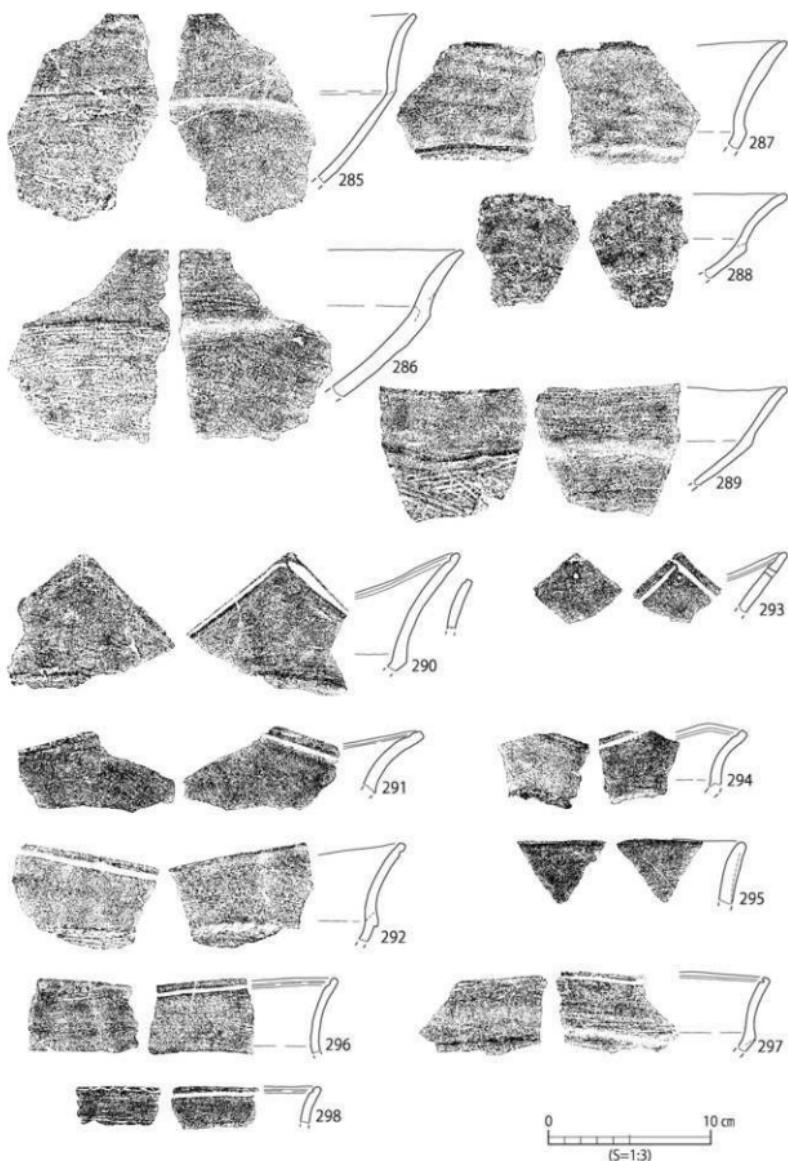
第59図 第6遺構面 SR古出土土器実測図9 (1:3)



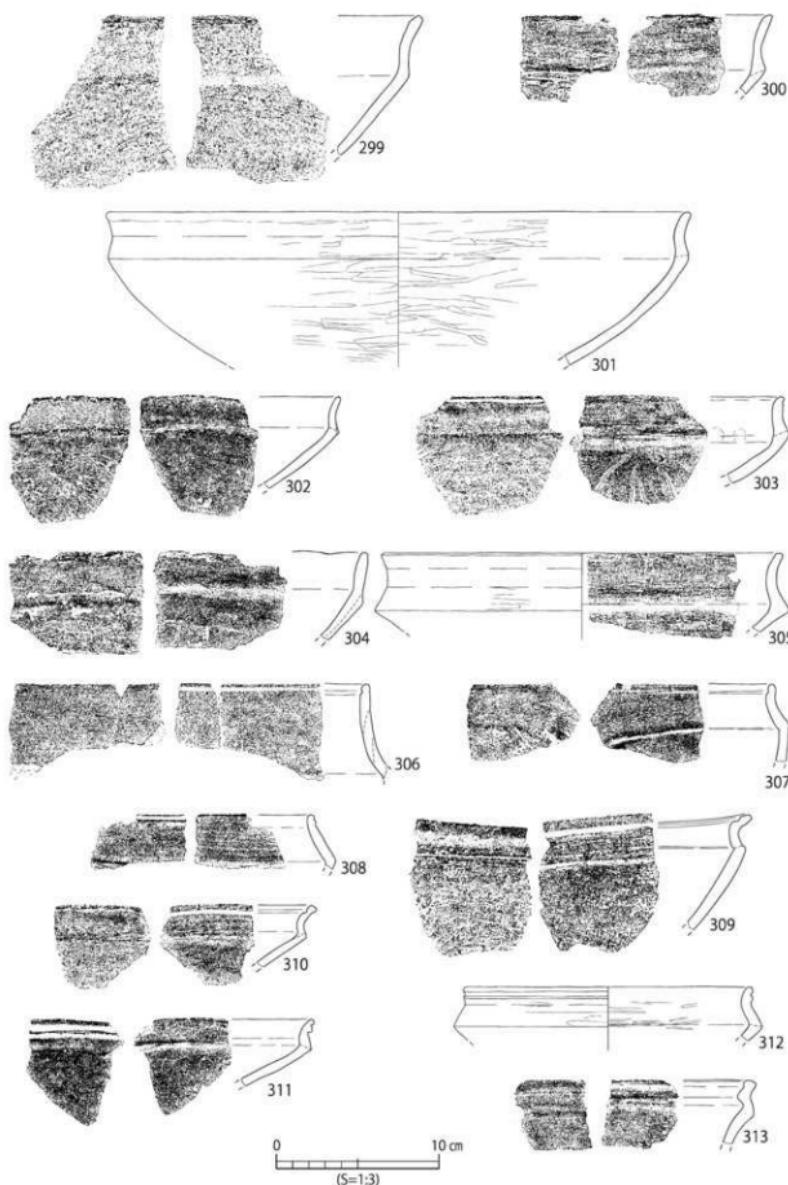
第60図 第6遺構面 SR古出土土器実測図 10 (1:3)



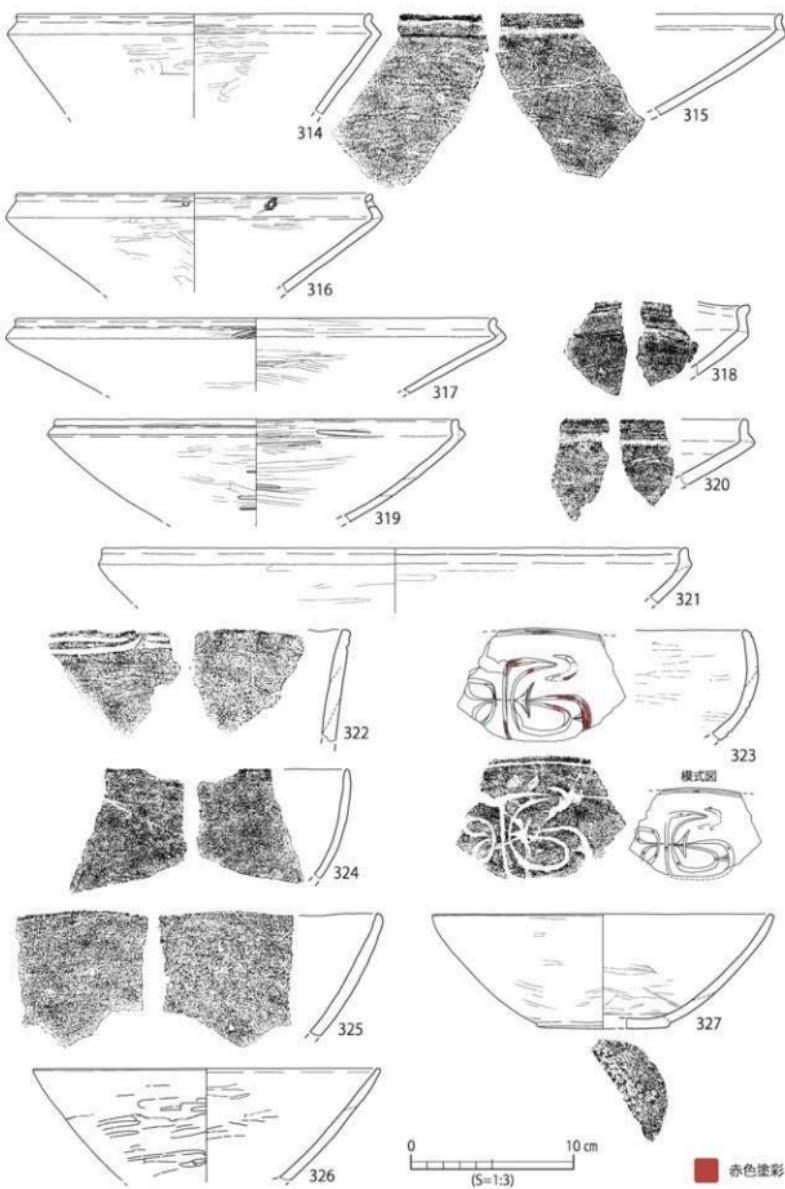
第61図 第6遺構面 SR古出土土器実測図11 (1:3)



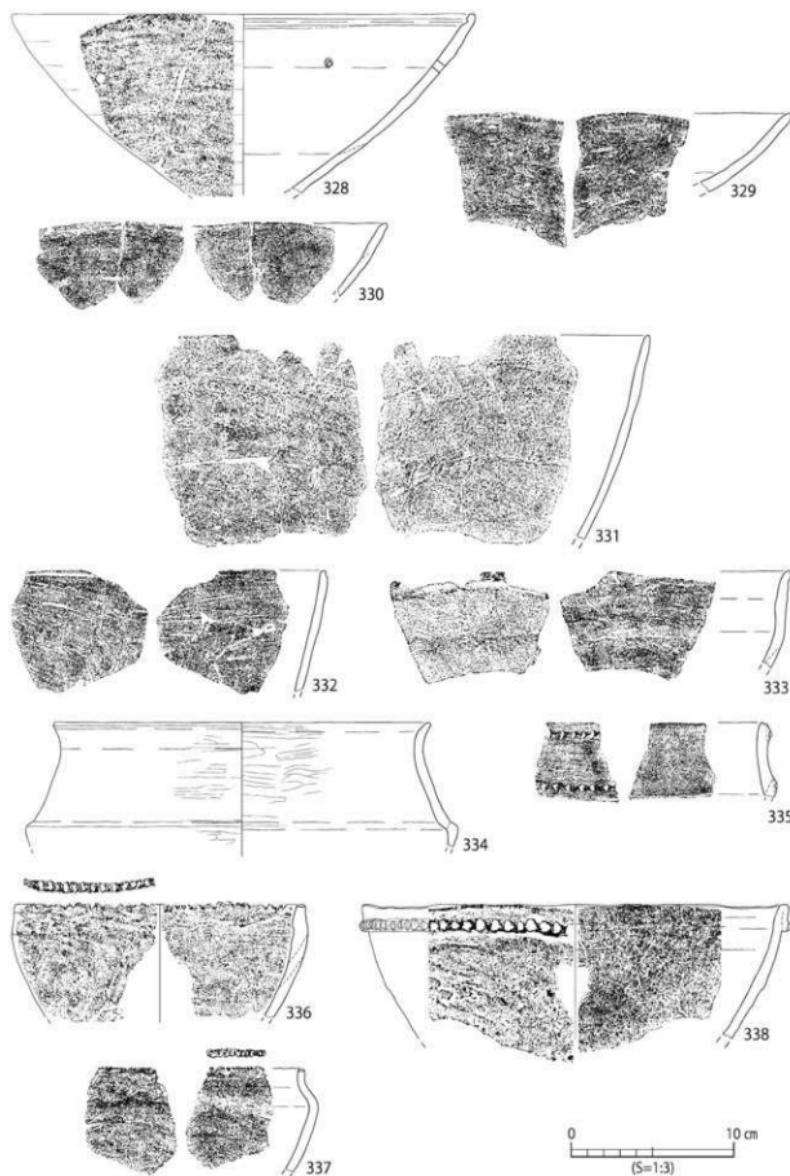
第62図 第6遺構面 SR古出土土器実測図 12 (1:3)



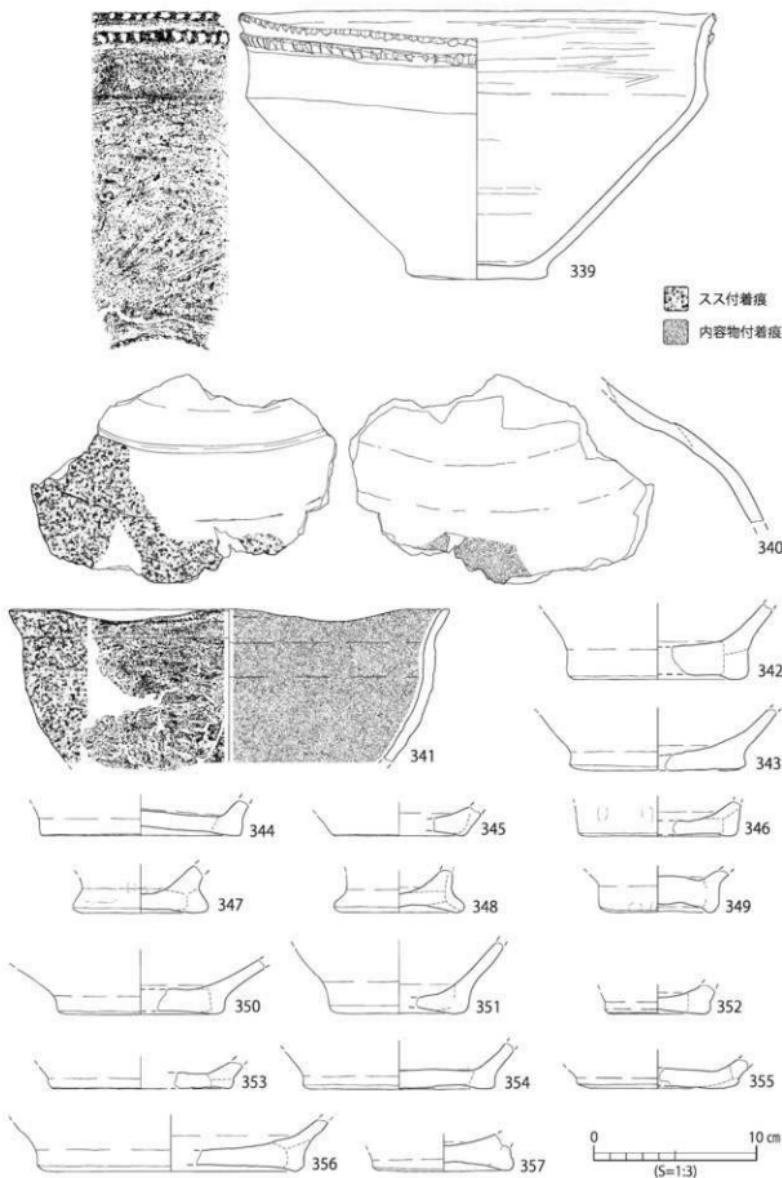
第63図 第6遺構面 SR古出土土器実測図 13 (1:3)



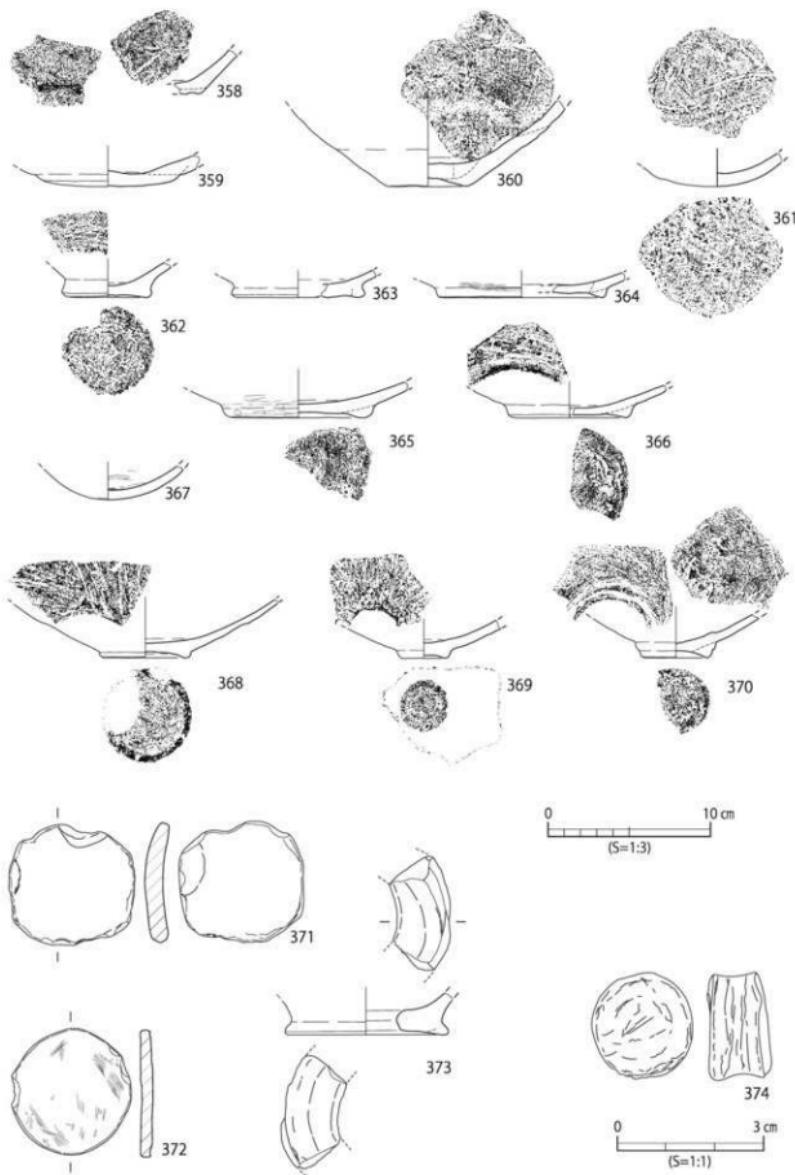
第64図 第6遺構面 SR古出土土器実測図 14 (1:3)



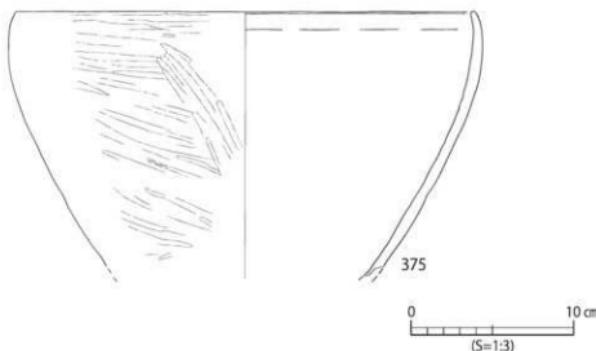
第65図 第6構面 SR古 出出土器実測図 15 (1:3)



第66図 第6遺構面 SR古 出土土器実測図 16 (1:3)



第67図 第6遺構面 SR古出土土器及び土製品実測図 17 (1:3)



第68図 第6遺構面 SR古下の包含層出土土器実測図（1:3）

の底部と考えられるもので、縄文晩期と判断した。363～366は凹底、369・370はボタン状凹底、368は小さな高台状底、362は平底、367は丸底である。369の外底面中央部にH字状のヘラ描き（横1本のちに縦2本）がなされている。

第67図371～374は縄文晩期の土製品としたものである。371・372は土器片錐と考えられ、371は外面の上下と内面の左右に抉りらしき痕跡があり、372は左右に抉りらしき痕跡がある。373は一見土器の底部であるが、成形時から底面の中央に直径約4cmの孔が空けられたもので、器としての機能は考えられず、不明の土製品とした。374は径2.0×2.1cm、厚さ1.2cmの土製耳栓である。装飾は施されず粗製のものである。

#### 包含層出土土器

第68図375は、調査区西側の側溝を掘削している時にSR古が切っている包含層から出土したもので、当該調査区で最も古い層から出土した土器である。縄文晩期のボウル形の精製鉢である。

### 3. 遺物（石器及び木製品）

#### 石器（第69図～第95図）

**石錐** 第69図1～3は扁平な自然礫を利用している。いずれも長軸方向の端部を両面から打ち欠いており、大小2種ある。

**刃器** 第69図4は頁岩、5～8は安山岩製の刃器である。いずれも扁平な石材を用いている。このうち6は小さいが、刃部が外側に湾曲し、長軸方向両端部に抉りがある。指の背中側に着けて使う一種の収穫具であろうか。7は大型の石匙状石器で中央上部に突起があるので、ここに柄をつけた土壼具か収穫具であろう。4・5は刃部が外側にやや湾曲しており、やはり収穫具であろう。4の刃部の一方には摩滅痕がある。8は錐である。

**打製石斧** 第69図9～第70図19は打製石斧である。いずれも扁平な石材を使用して、長軸方向の少し上方に浅い抉りを入れた両刃の刃部を作り出している。刃部には摩滅痕がみられるが、ど

ちらかの面がより摩滅している。粗い作りで、破損品も多い。柄を着けた土壙具の用途が考えられる。

**磨製石斧** 第70図20～第71図31は磨製石斧とした。打製石斧と比較すると石材は厚く、重量も重い。柱状の石材を取ってから剥離と敲打により整形をして磨いている。全体に研磨が行き届かないものも多い。残っている刃部は蛤刃であり、欠損しているものが目立つ。この中で20は扁平で小型である。前者は伐採用、後者は木材の加工用であろう。

**線刻石** 第72図32～34は、人工的な線刻が認められる自然石である。軟質石材である。石皿様(32)、扁平なもの(33)、礫(34)があり、形状は一定しない。線刻も何を表しているのかは不明である。生産用具とは考えられない。

**軟質凹石** 第72図35～第74図49は、灰白色～緑灰色を呈し、軟質石材の凹石である。硬質の凹石と比較して重量の軽い自然石である。板石状、楕円碟など形状にはこだわりはないが、20cm以下の石材が選ばれているようにみえる。凹みも、片面のみに1個のもの(35・36・39～41)、両面に1個ずつのもの(38)、2個以上の複数あるもの(37・42～49)がある。しかし、軟質であるにもかかわらず破損したものが少なく機能を推定しかねる。

**磨石・敲石** 第74図50～第83図112、第84図114～118は磨石・敲石類である。重量のある硬質の自然石を用いており、多くは拳大、もしくはそれ以下のサイズである。片手で握って使用していたことが推定できる。厚みのある楕円形のものが多い。使用痕は「叩き」と「磨る」のどちらかか、両方みられるものも少なくない。また、これらに凹みがあるものもある。敲打痕は周縁部や両面中央部に多く、球状のものは端部にある。破損したものは多くないが、長軸方向の中央部で横方向に割れている。これらの石器のうち、第84図116・117は、柱状切離の玄武岩で、島根半島西部の経島に特徴的にみられる石材である。

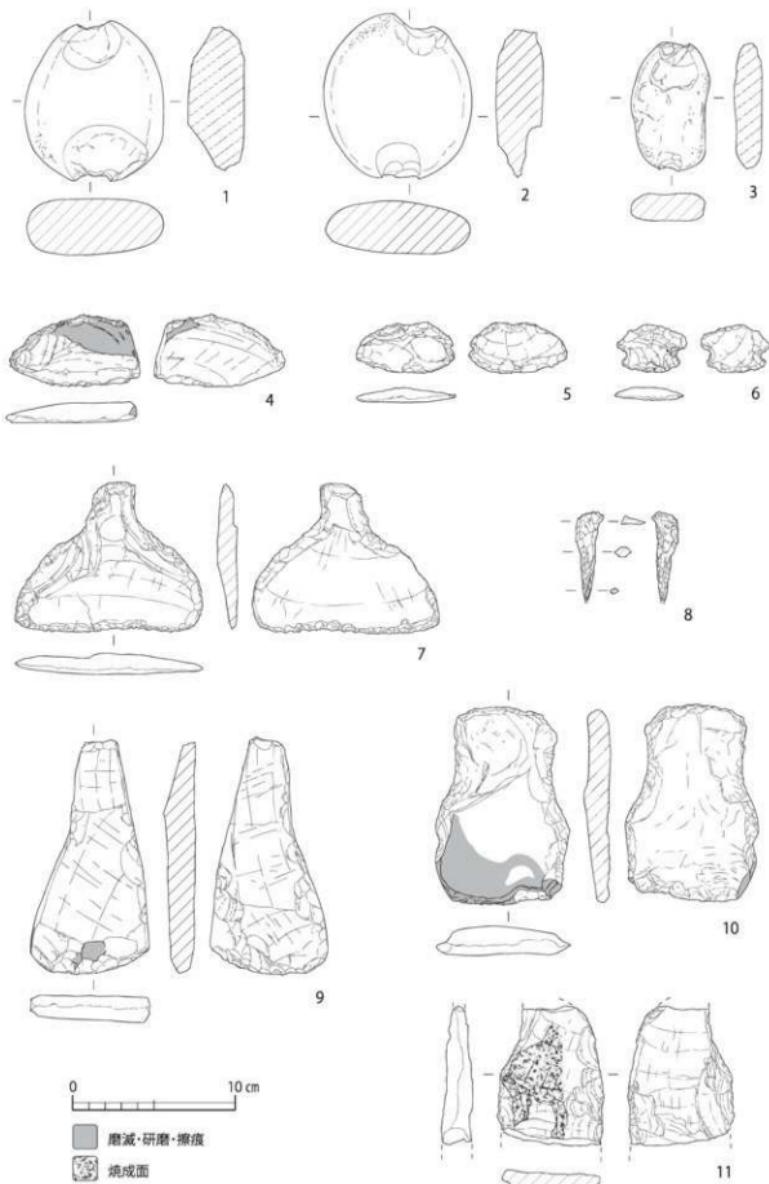
**石皿** 第85図120～第95図144は石皿様石器である。いずれも完形のものではなく、故意に割ったり、破碎されたと考えられる。120は3方がよく擦り減っており、やや軟質の石材である。142は縄文時代に伝統的ないわゆる石皿で、両面が使用されている。これ以外の石皿は2種に大別できる。1つは厚さの厚い一群=Aグループ(123～128)、もう1つは板状の一群=Bグループ(129～141、143・144)である。Aグループは126のように完形のものがあるが小型である。それ以外は破碎されており、元は一抱えするほどのサイズと重量があったと思われる。Bグループは、板状の石材で、片面、または両面に顯著な摩滅痕がみられる。中には凹みが伴うものもある。完形のものはないが復元すれば相当の面積となり、摩滅範囲も広い。2人以上で作業したことが考えられる。

**踏台石** 第41図146は堅果類集中範囲1の傍らにあった自然石で、遺跡周辺の丘陵地の岩盤にみられる。長さ54cm、幅30cm、厚さ25cmで、重量は35.12kgある。堅果類の殻を廃棄するときのステッピングストーンと考えられる。

**その他** 第84図119は磁石の可能性もあるが、研磨面に線刻が施された石器である。

#### 木製品（第96図・第97図）

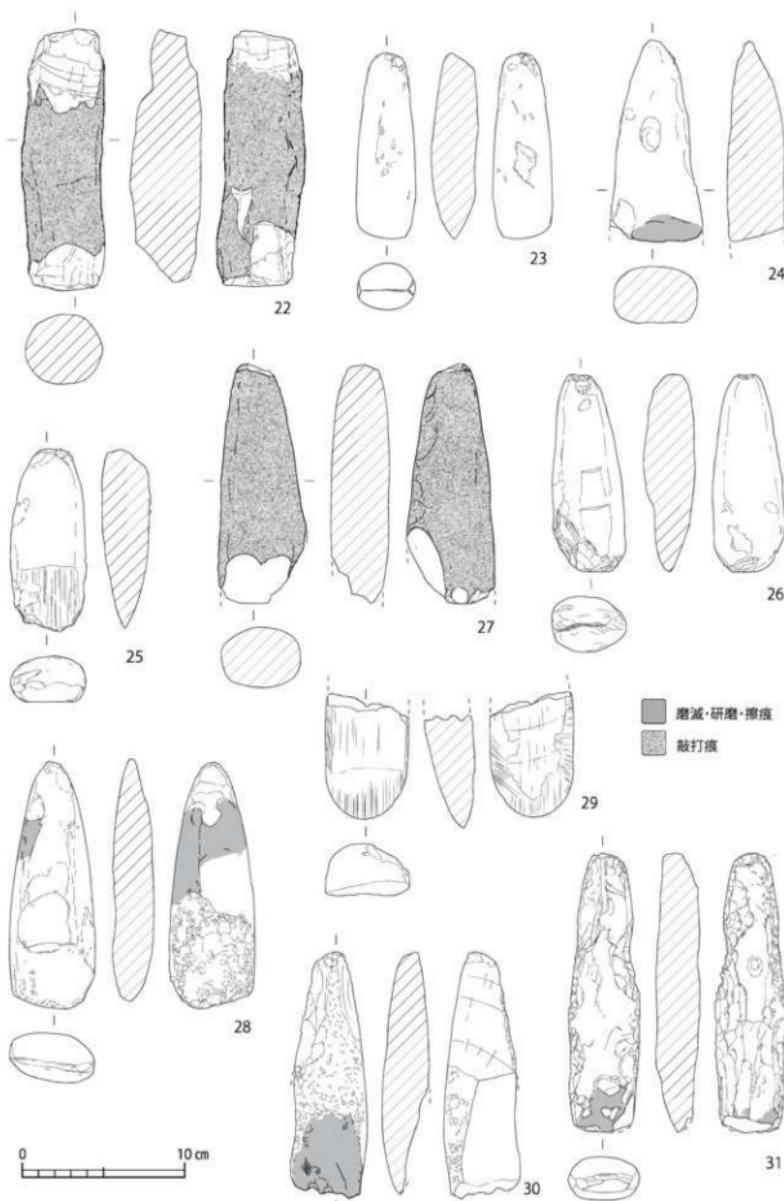
調査区からは多くの流木や倒木が発見された。それらは縄文時代晩期の新旧2つの旧河道に集中していた。第96図1～7は旧河道（SR古）の底に1本又は2本ずつ打ち込まれていた杭と加工痕のある木製品である（第49・50図）。いずれも水に晒されていた部分は失われ、本来の長さ



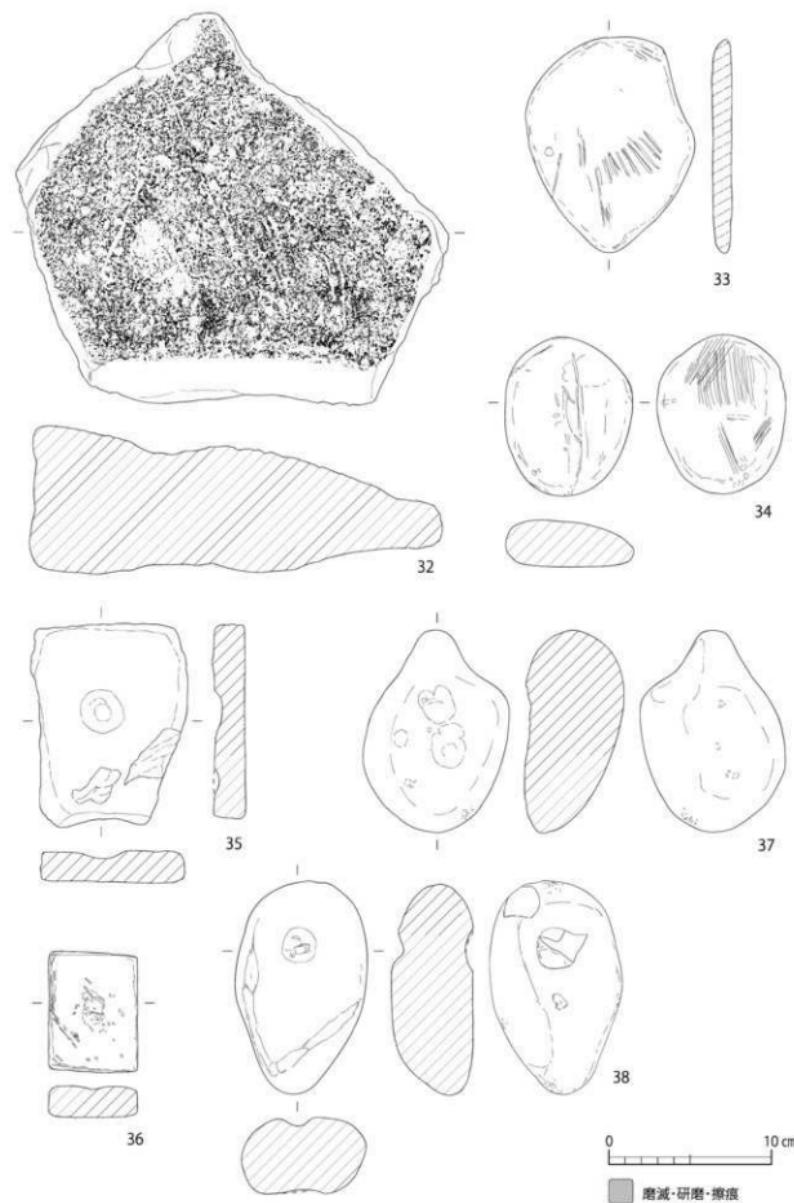
第69図 古屋敷G区 出土石器実測図1 (1:3)



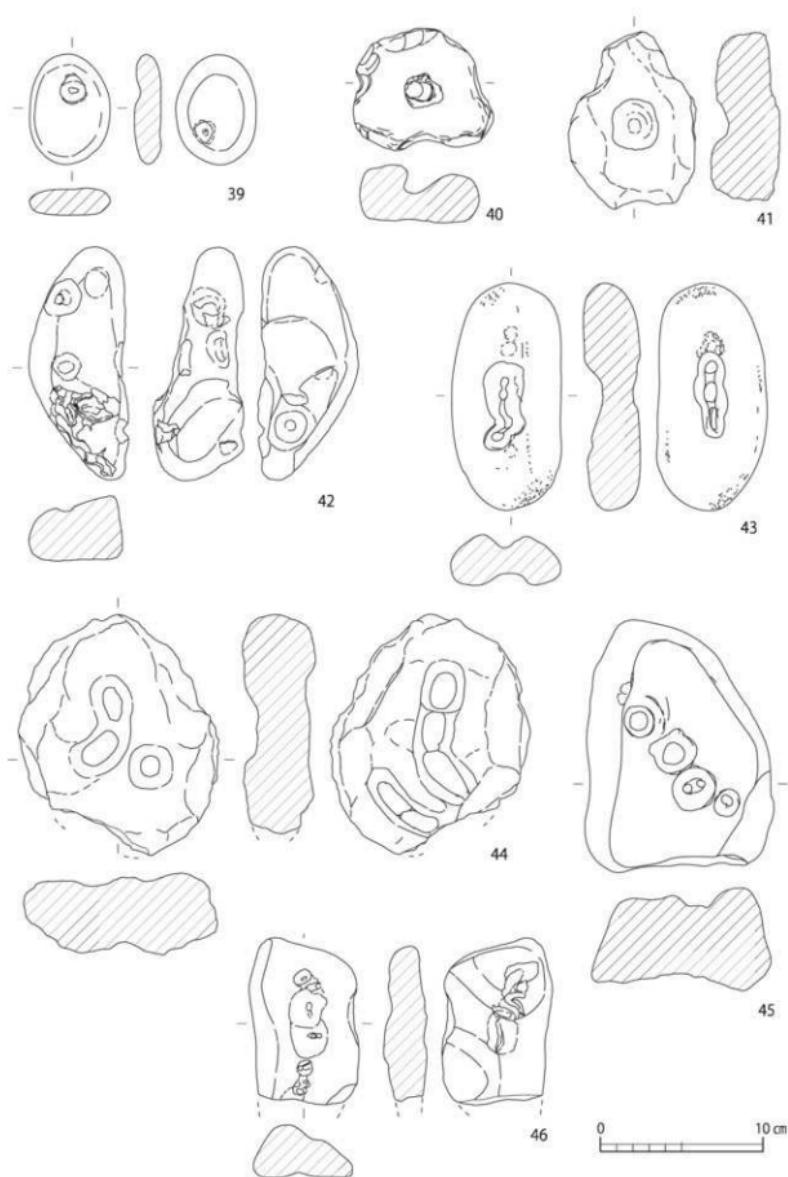
第70図 古屋敷G区 出土石器実測図2 (1:3)



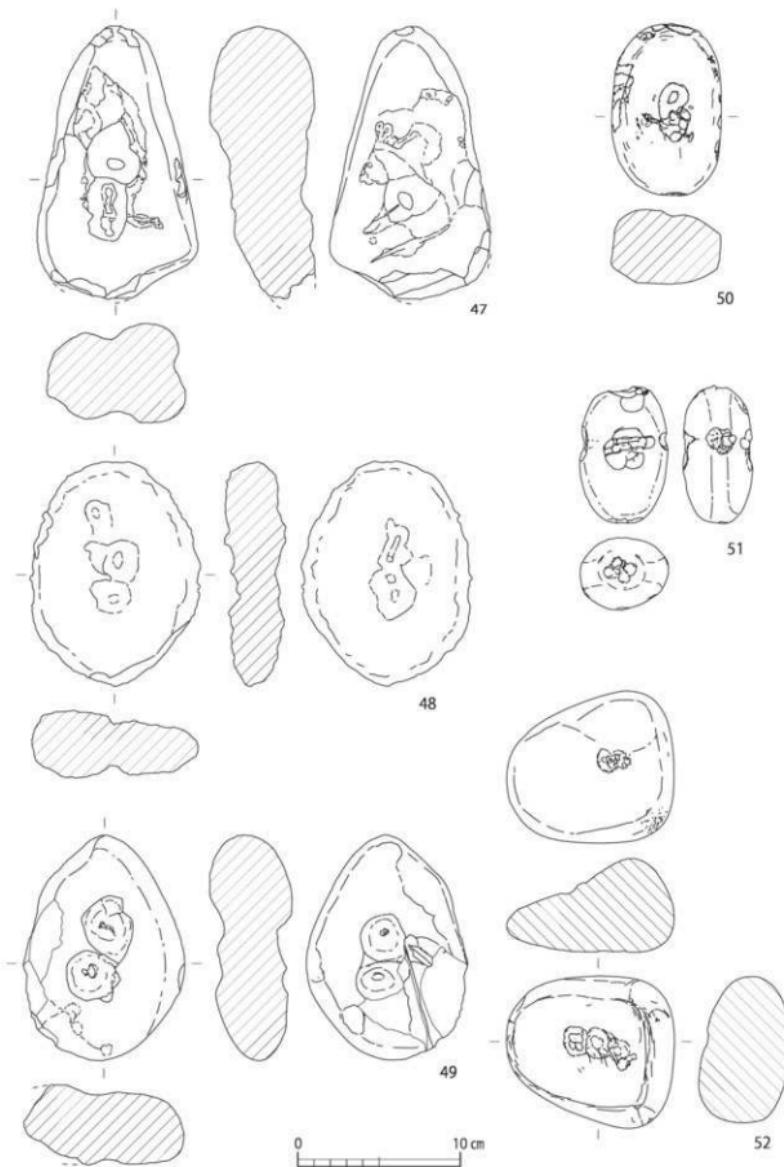
第71図 古屋敷G区 出土石器実測図3 (1:3)



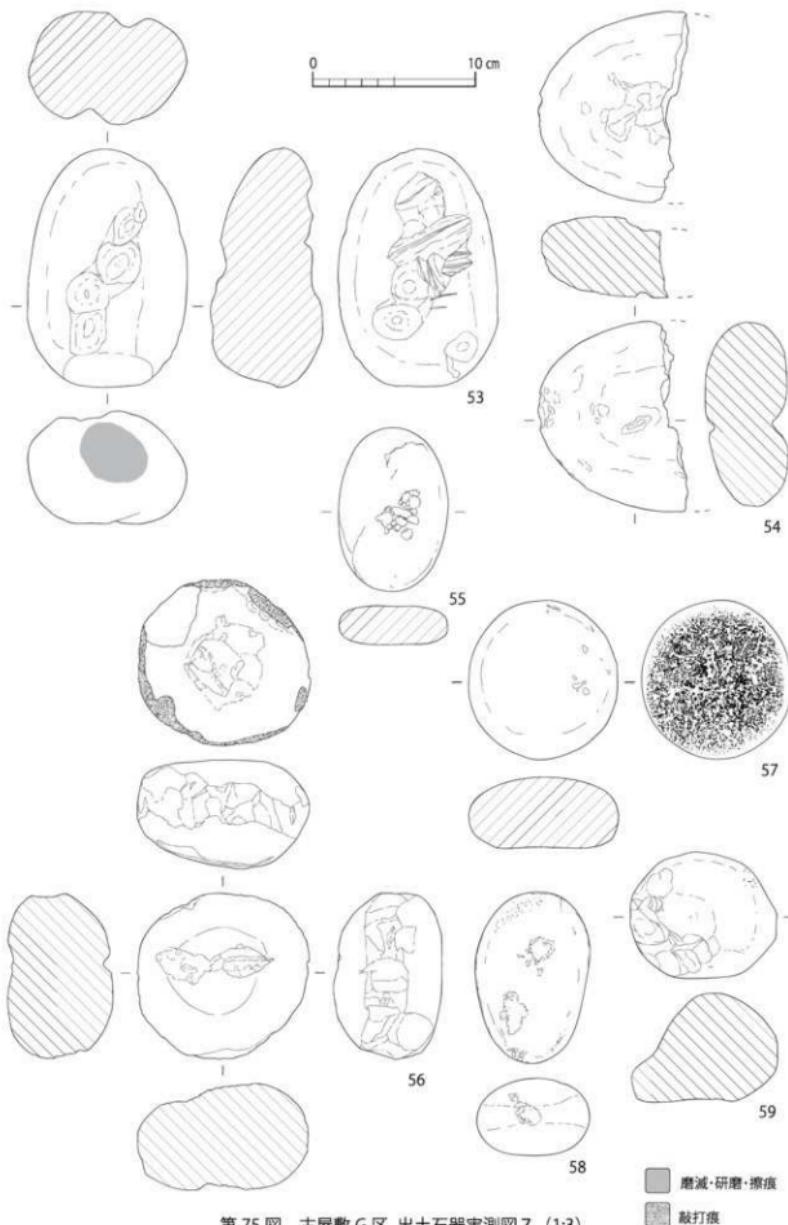
第72図 古屋敷G区 出土石器実測図4 (1:3)



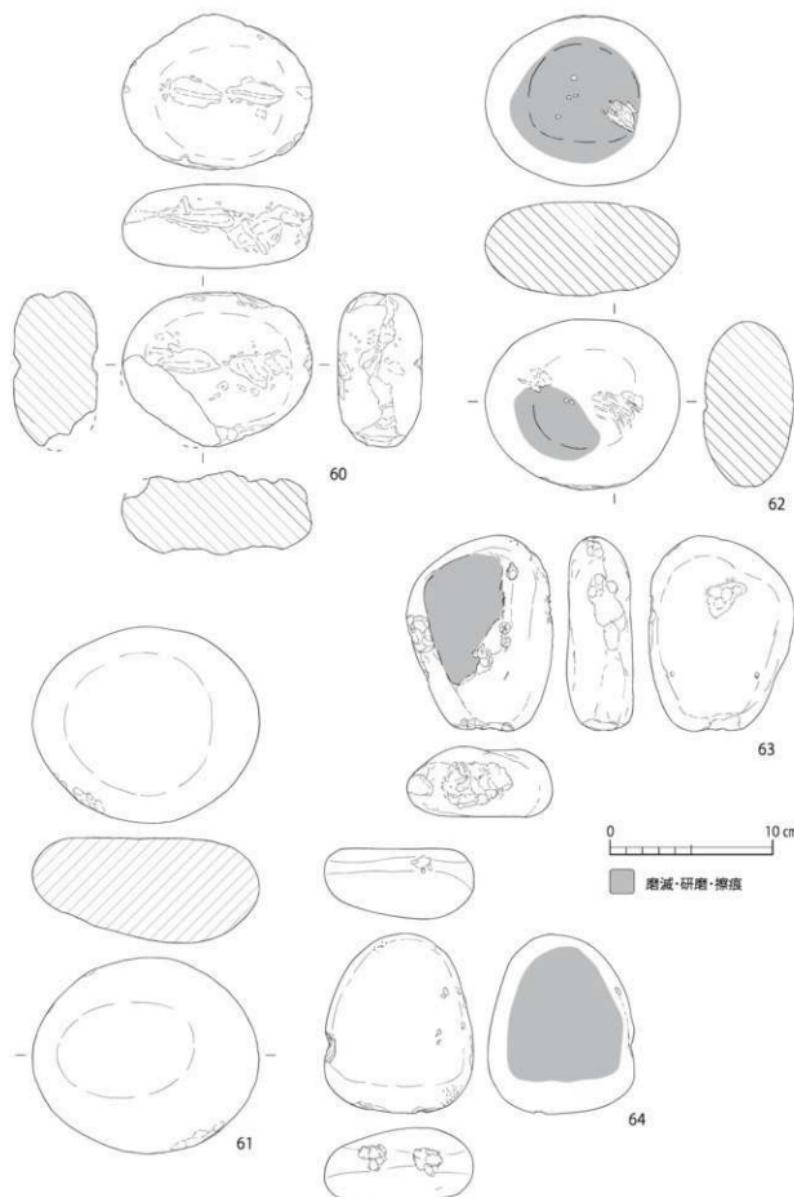
第73図 古屋敷G区 出土石器実測図 (1:3)



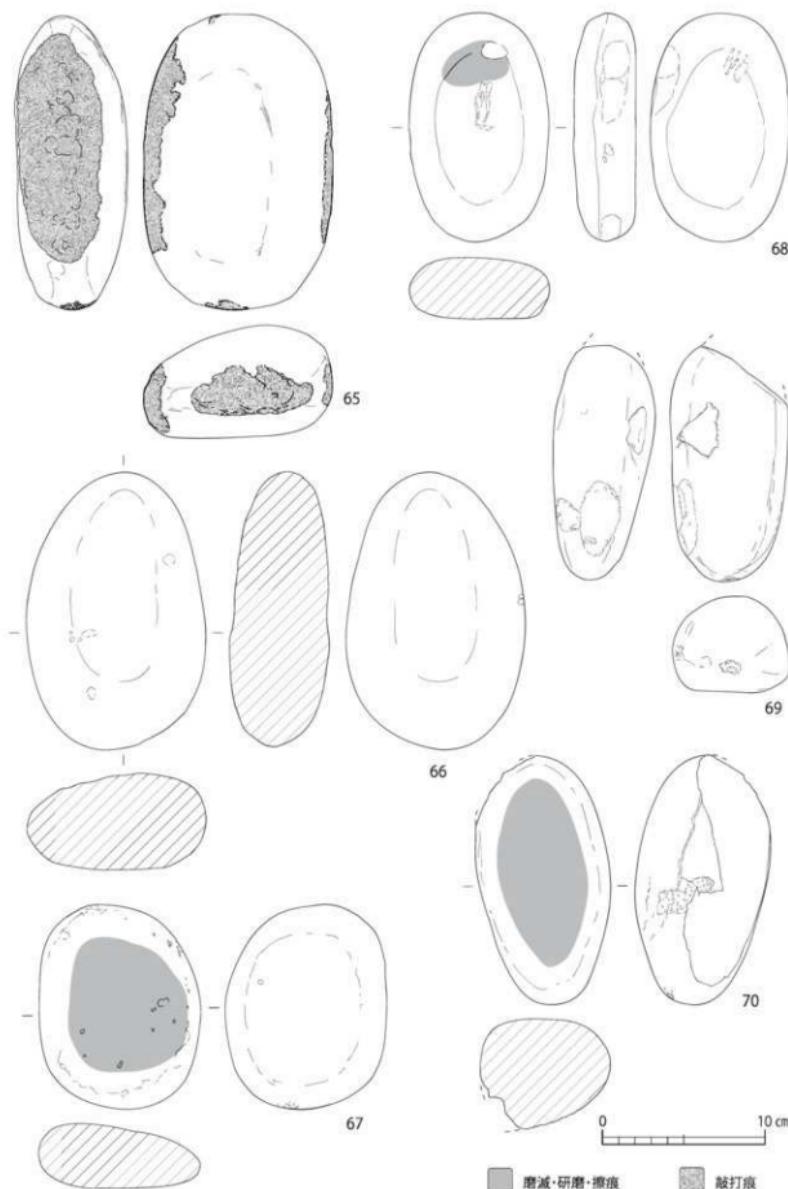
第74図 古屋敷G区 出土石器実測図6 (1:3)



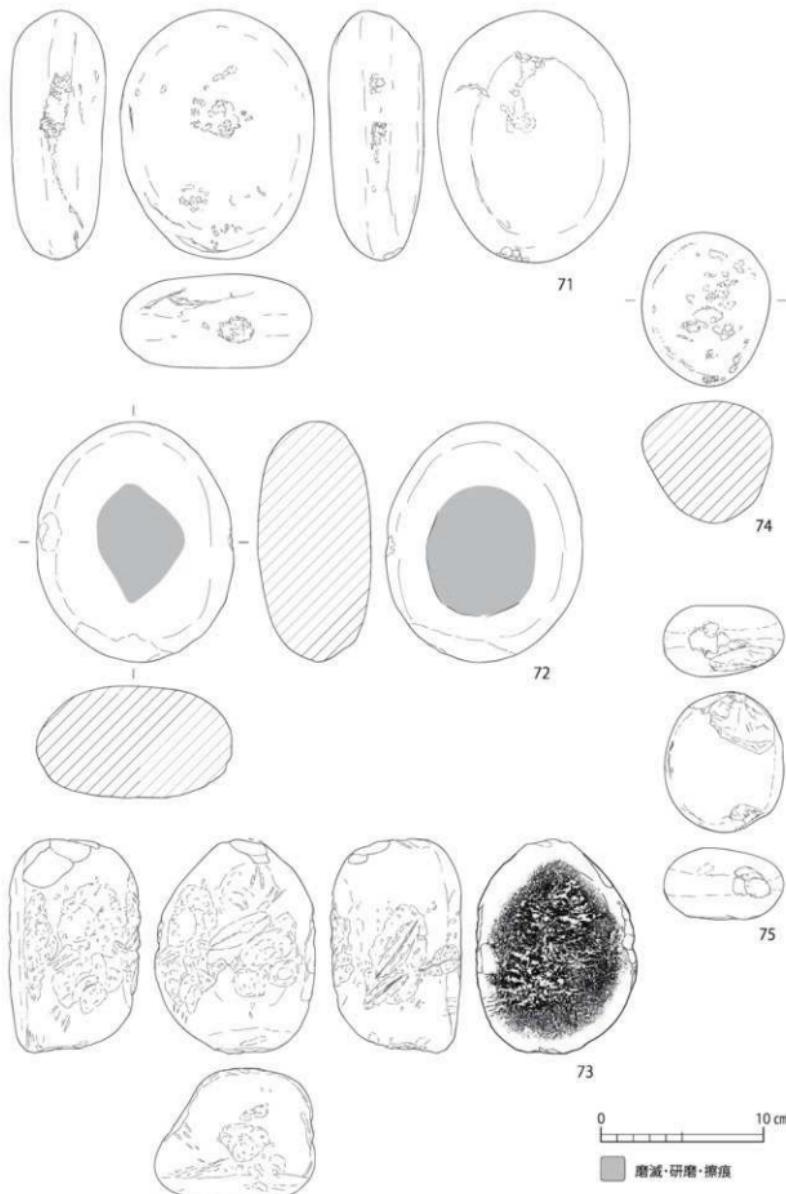
第75図 古屋敷G区出土石器実測図7 (1:3)



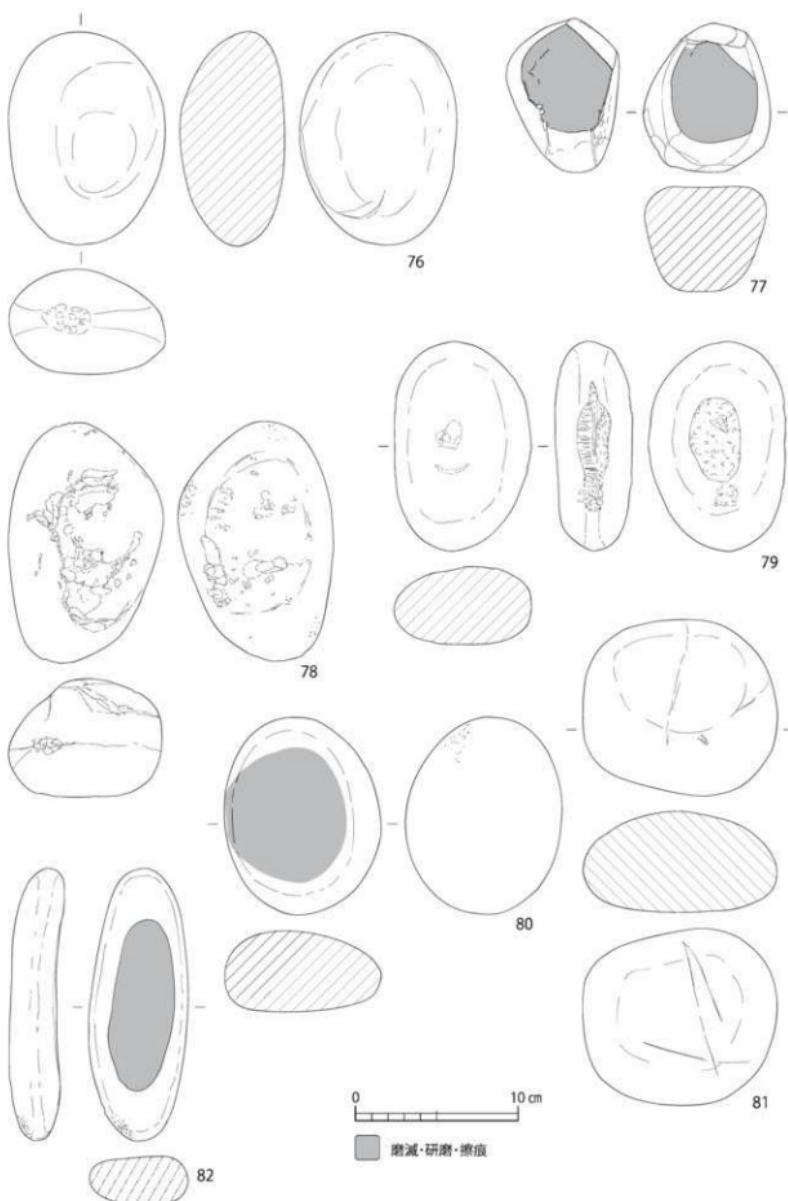
第76図 古屋敷G区 出土石器実測図8 (1:3)



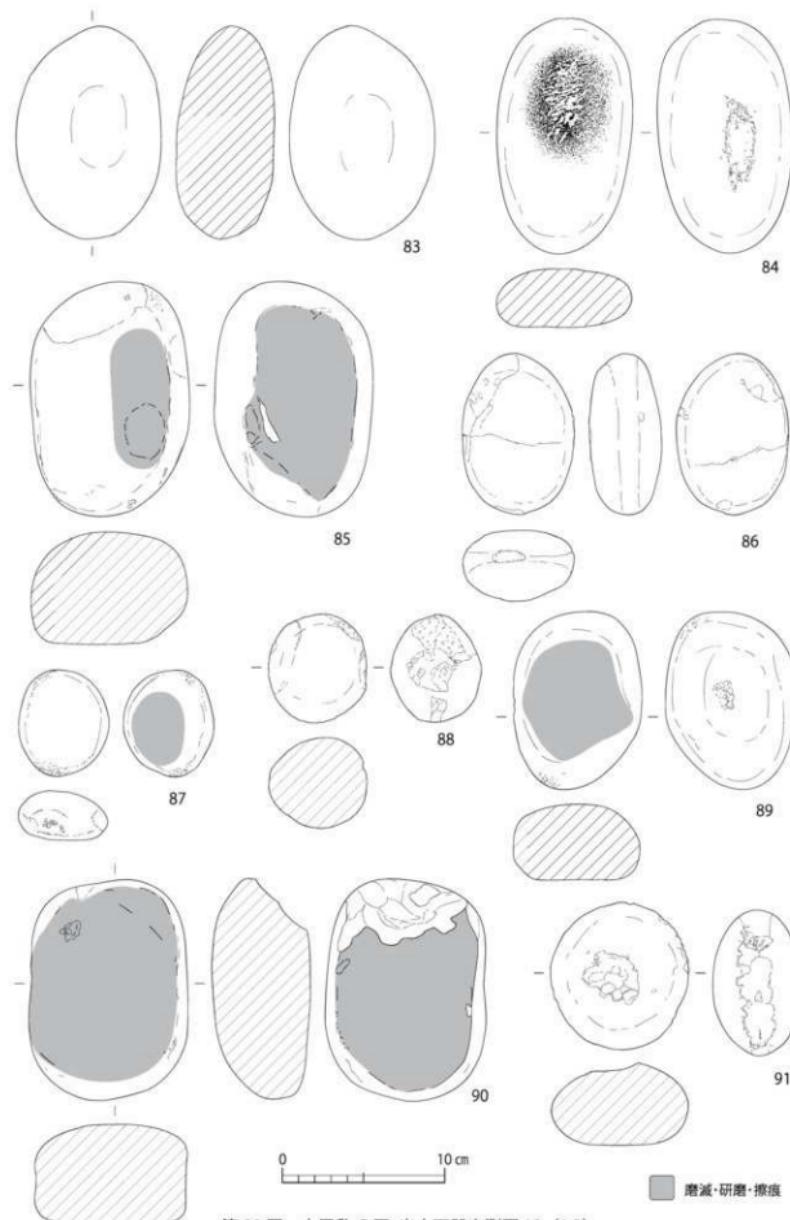
第77図 古屋敷G区出土石器実測図9 (1:3)



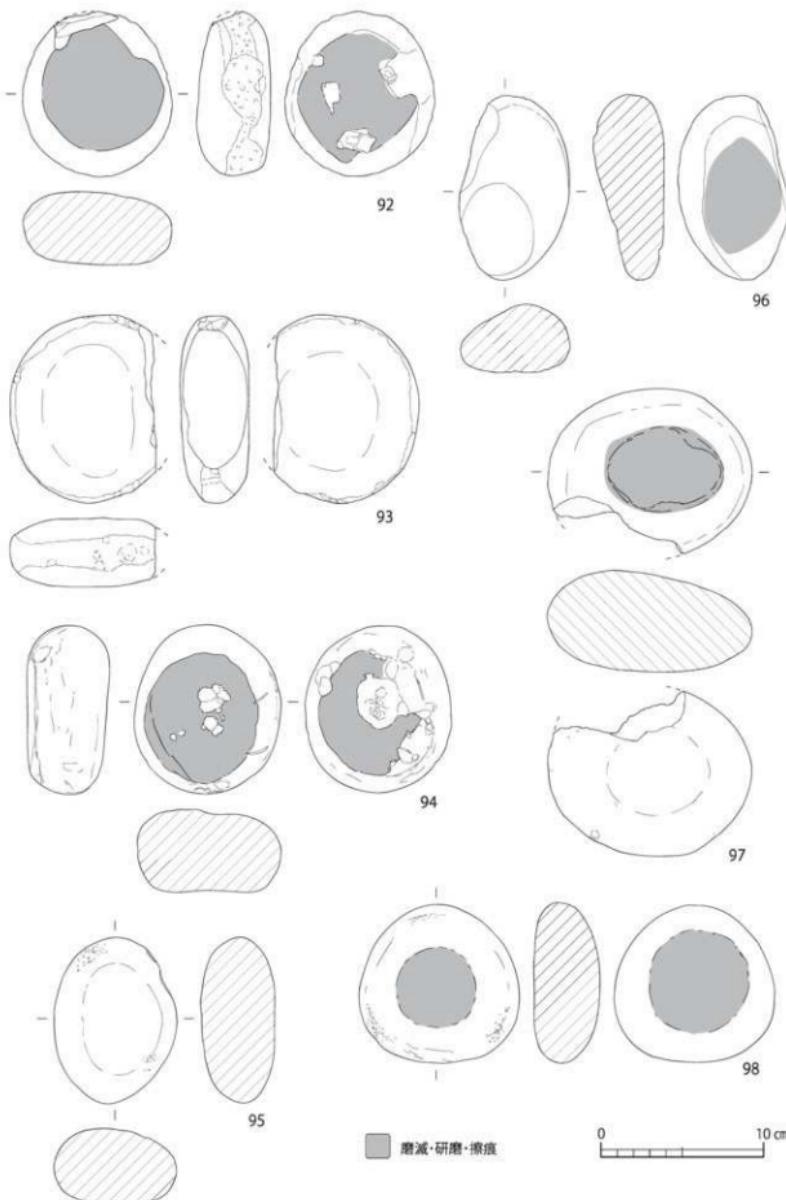
第78図 古屋敷G区 出土石器実測図10 (1:3)



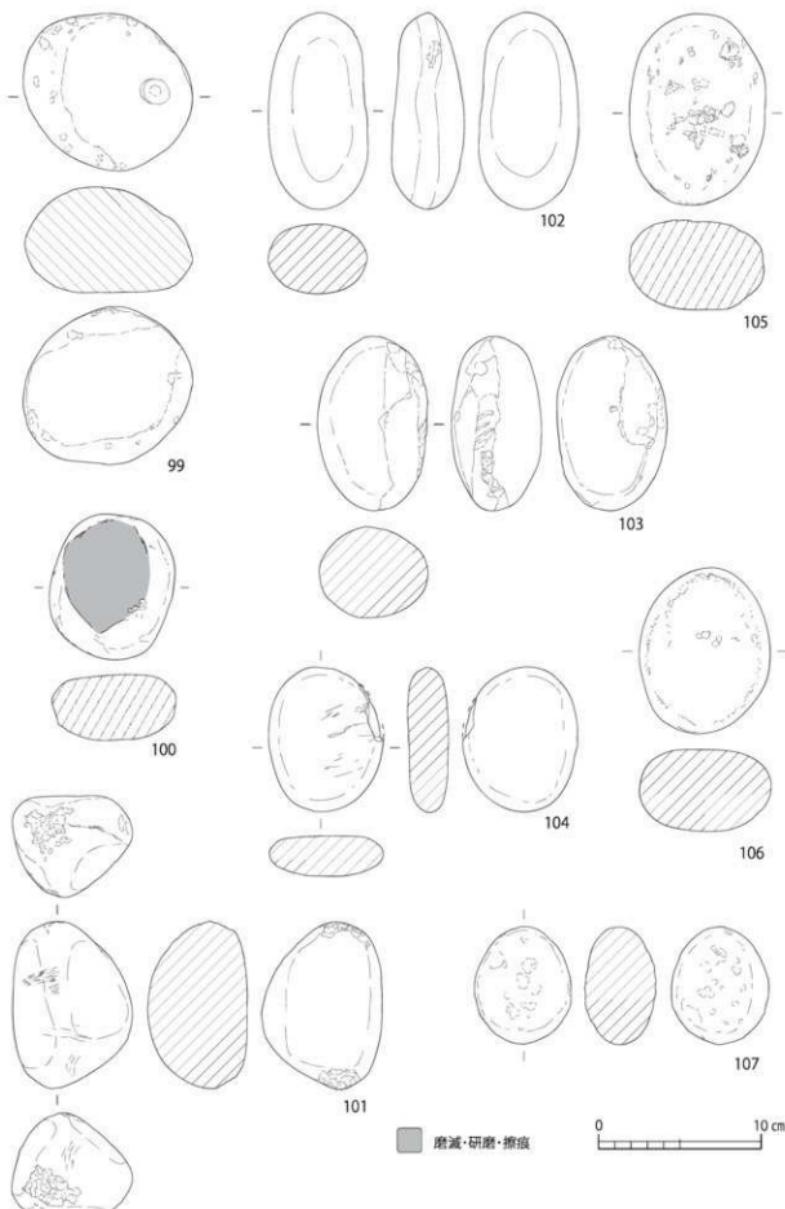
第79図 古屋敷G区出土石器実測図11 (1:3)



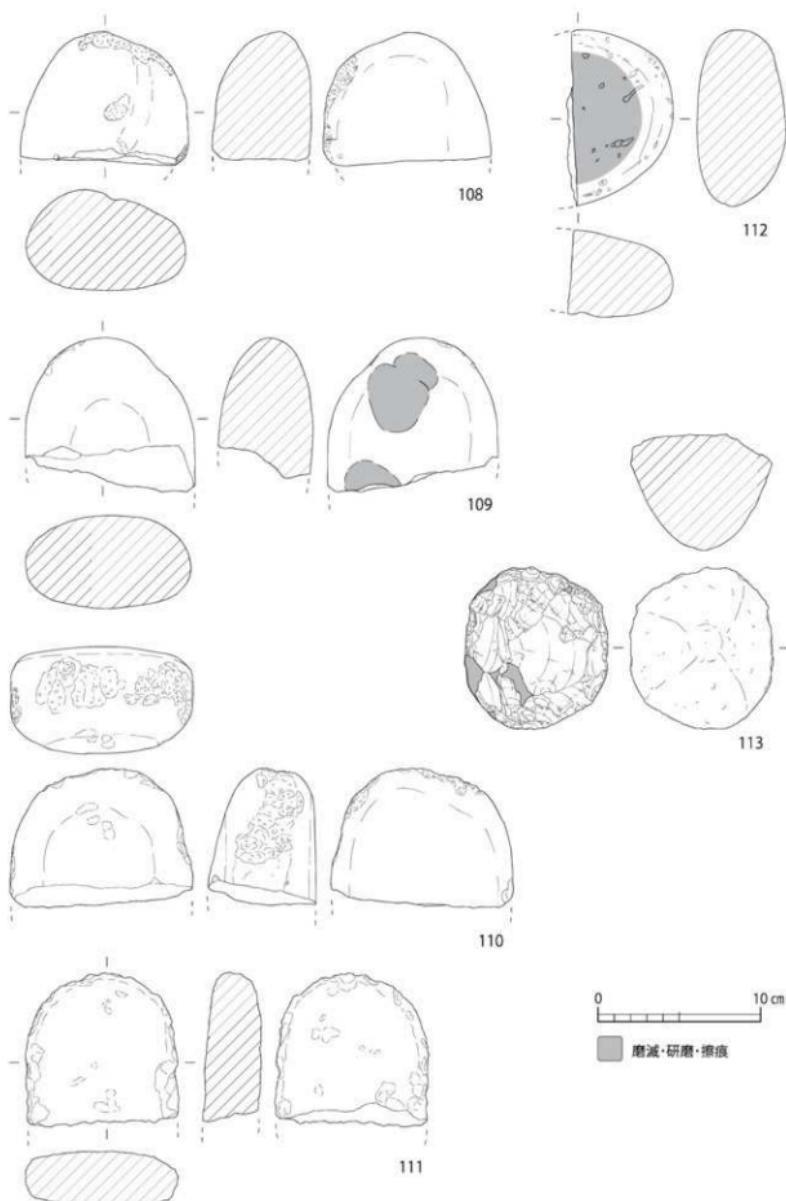
第80図 古屋敷G区 出土石器実測図12 (1:3)



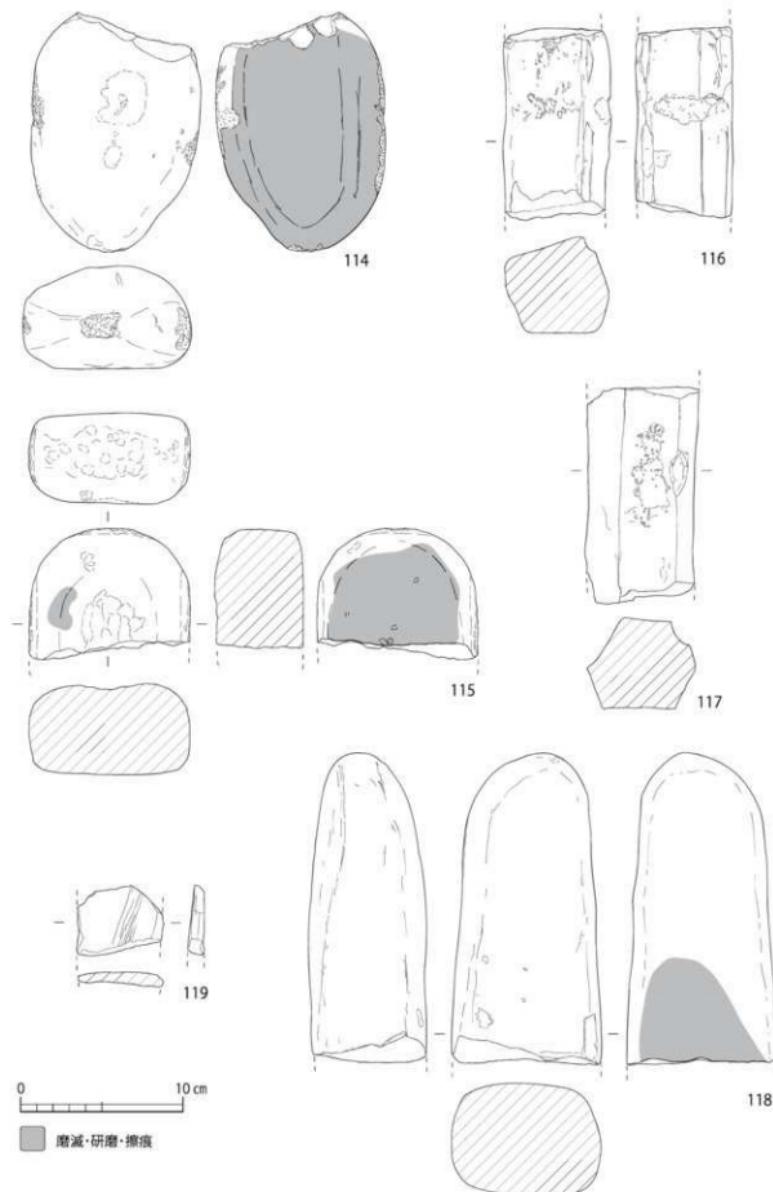
第81図 古屋敷G区出土石器実測図13 (1:3)



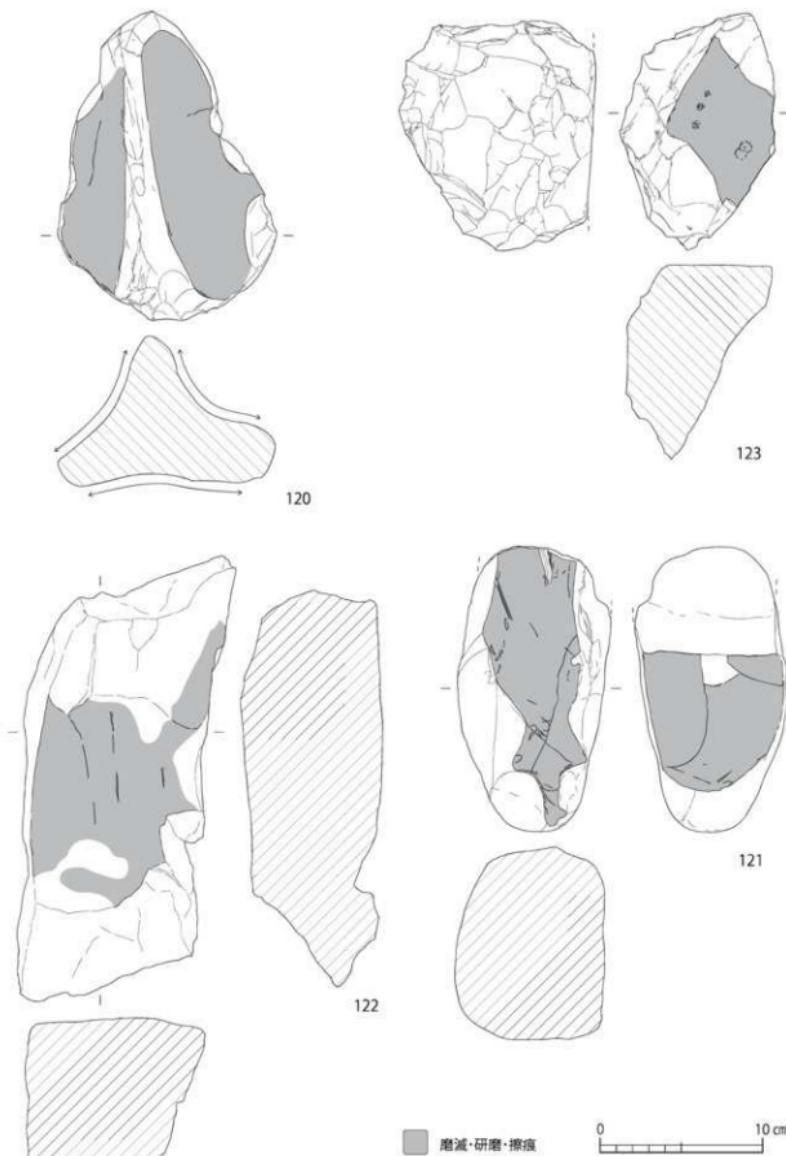
第82図 古屋敷G区 出土石器実測図14(1:3)



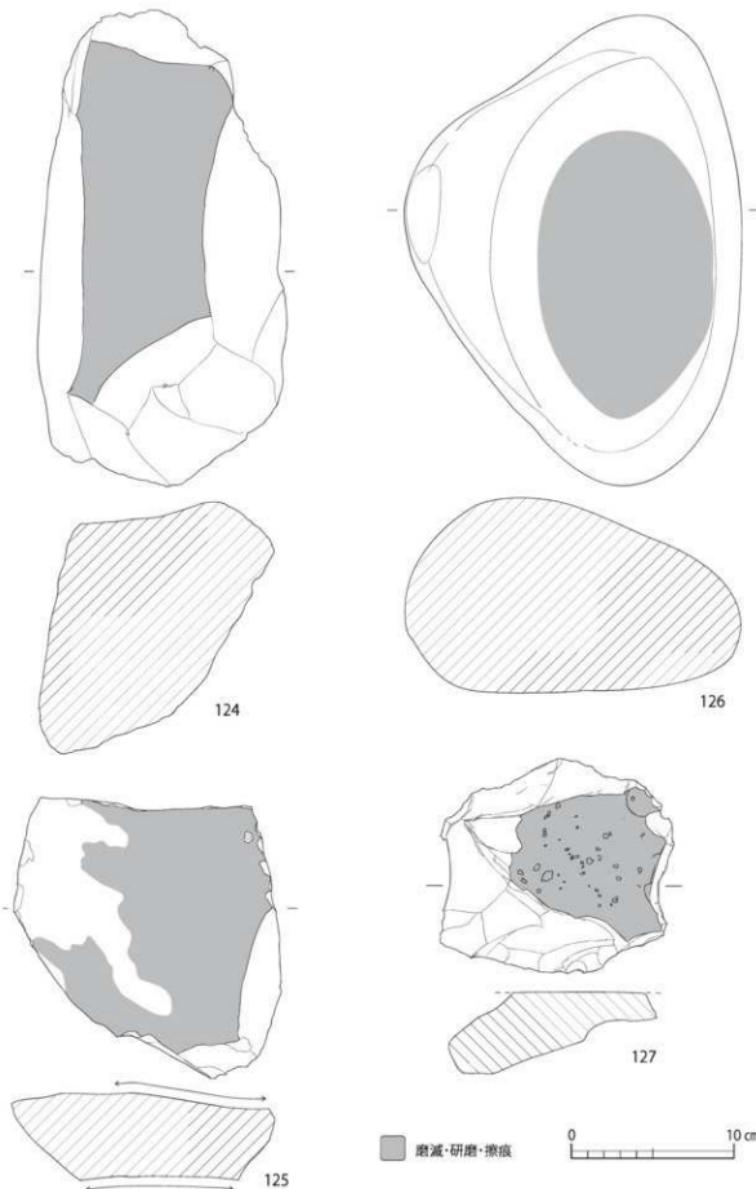
第83図 古屋敷G区出土石器実測図15 (1:3)



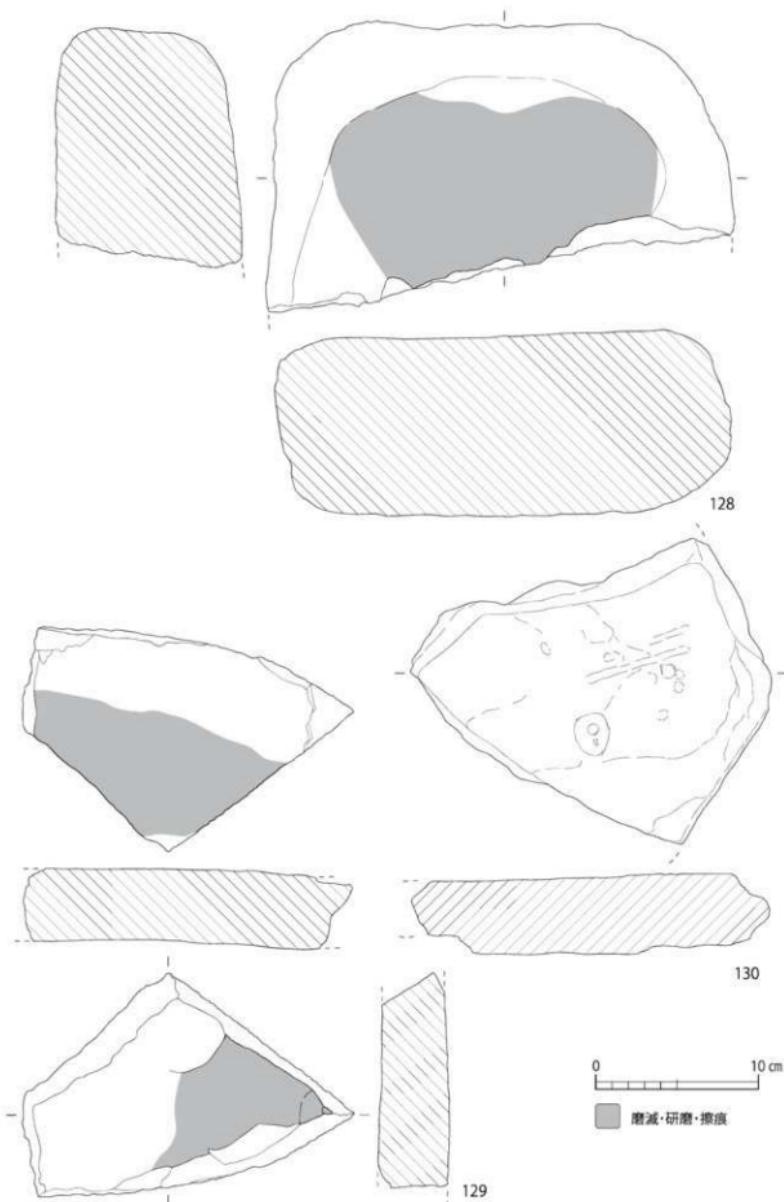
第84図 古屋敷G区 出土石器実測図16(1:3)



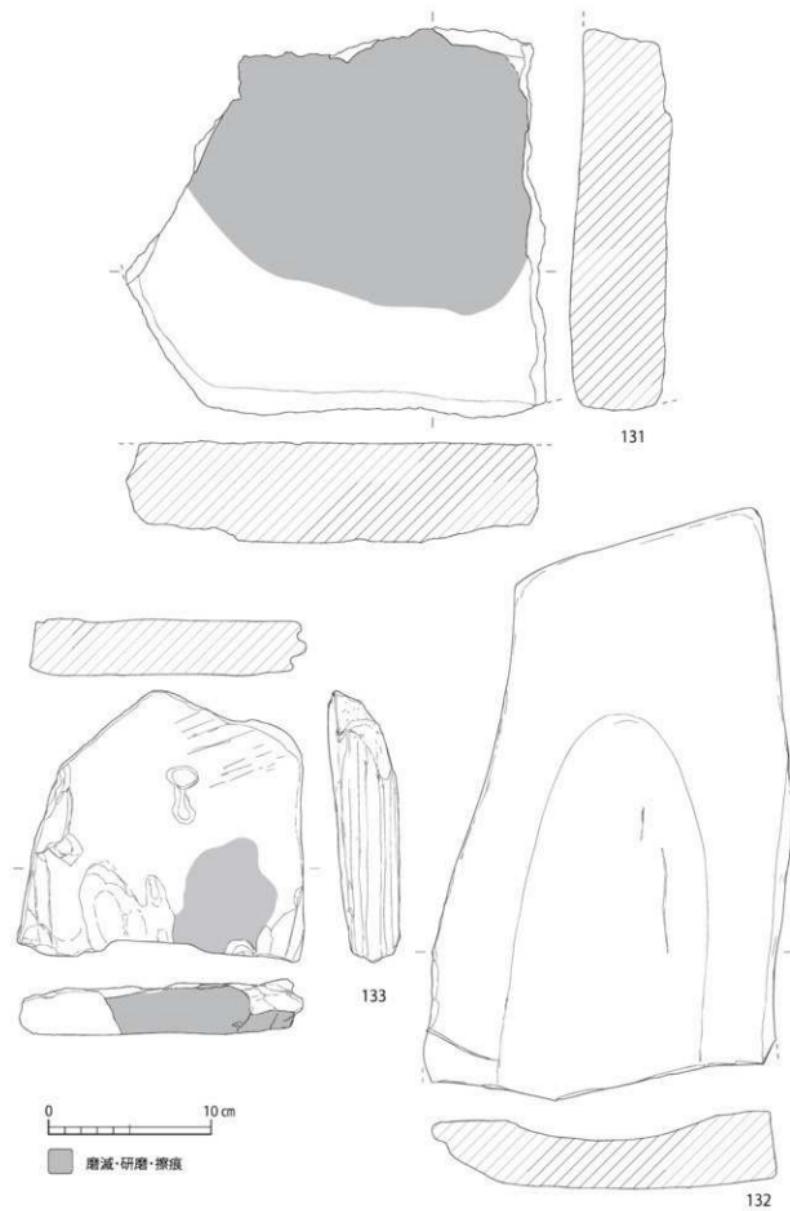
第85図 古屋敷G区出土石器実測図17 (1:3)



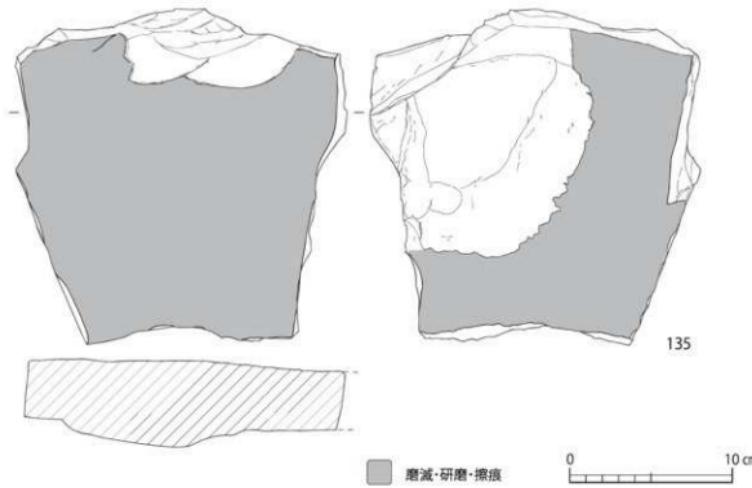
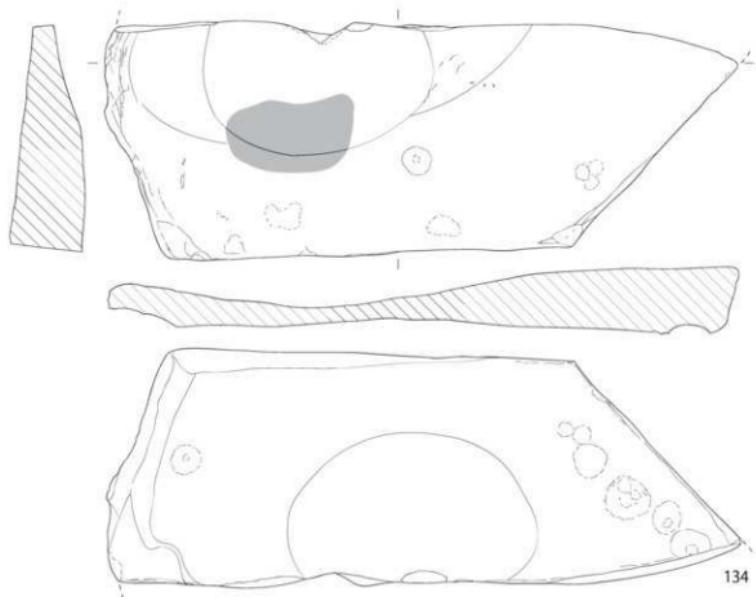
第86図 古屋敷G区 出土石器実測図18 (1:3)



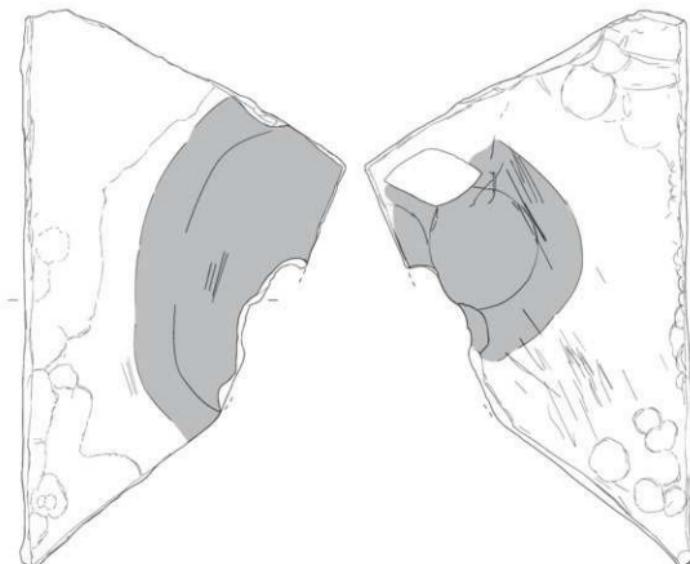
第87図 古屋敷G区 出土石器実測図19 (1:3)



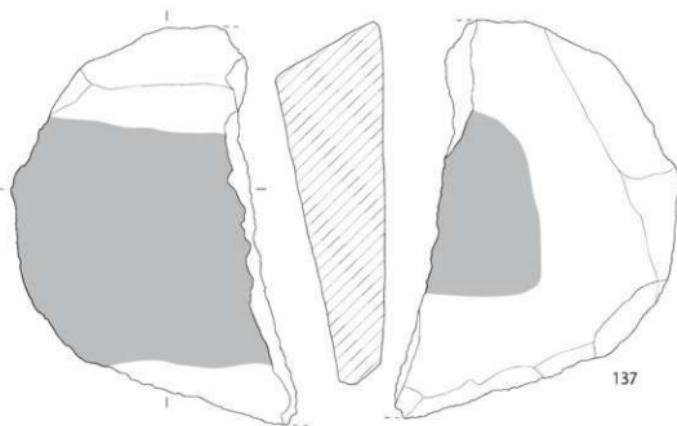
第88図 古屋敷G区 出土石器実測図20(1:3)



第89図 古屋敷G区 出土石器実測図21 (1:3)

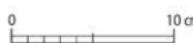


136

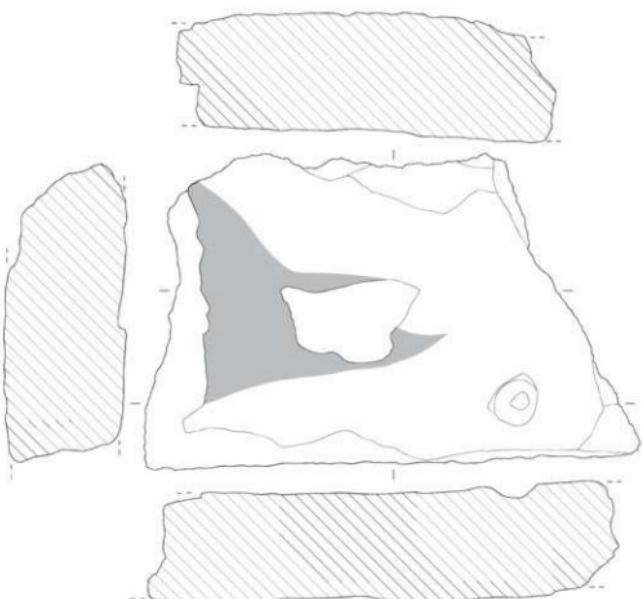


137

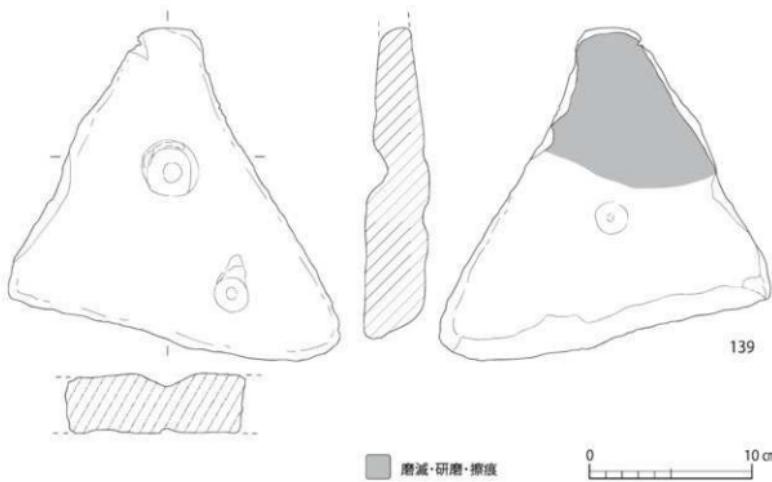
■ 磨滅・研磨・擦痕



第90図 古屋敷G区 出土石器実測図22 (1:3)

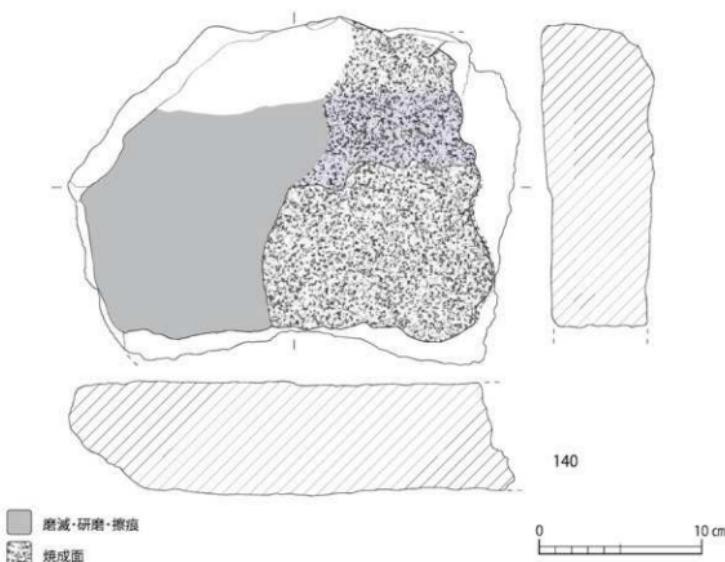


138



139

第91図 古屋敷G区 出土石器実測図23 (1:3)



第92図 古屋敷G区 出土石器実測図24(1:3)

を知ることはできない。4を除いて粗く先端を尖らせ、樹皮のついたまま枝を落としている。このうち6は材質がイヌガヤで縄文時代の実用品の弓に多く用いられているものである。放射性炭素年代測定では、 $3110 \pm 25$ BPのデータがでている（第4章 FGW4）。4については樹皮を取り除き、枝も他の杭と比較すると丁寧に切断されている。端部の加工も弓管状となっている。木製弓と考えられる。表面的な観察ではイヌガヤに見える。

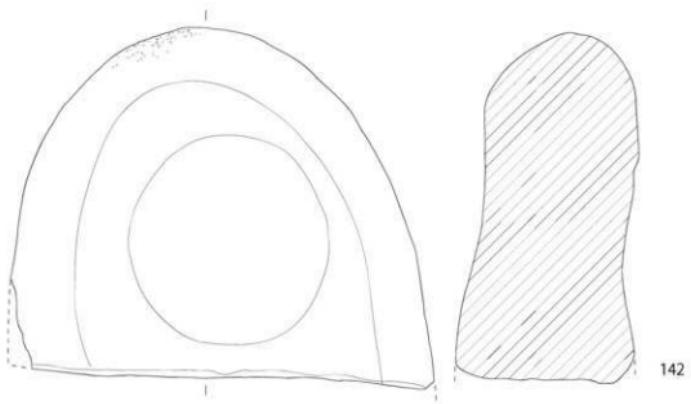
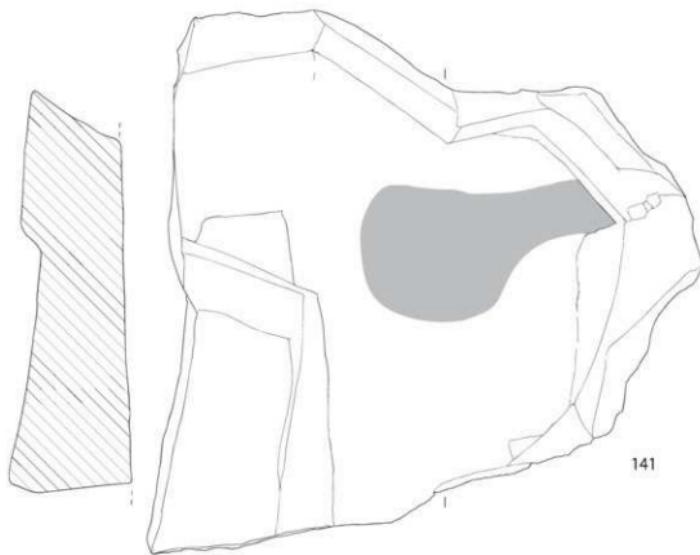
第97図8～15は板状木製品である。幅の狭い細長いもの8～10、何らかの器の一部と思われるもの11～13、幅の広い板状のもの14・15などがある。

第97図16は樹皮に近いほうで木の丸みを残している。一方の端を粗く削り尖らしている。用途は不明。

第97図17は、長さ52.5cm、径 $13.5 \times 13.0$ cmで両端に削痕がある枕状の木製品である。全体に焼け焦げている。2ヶ所が瘤んでおり、枕木のような用途が考えられる。

(注1) 小畠弘己氏の調査による。

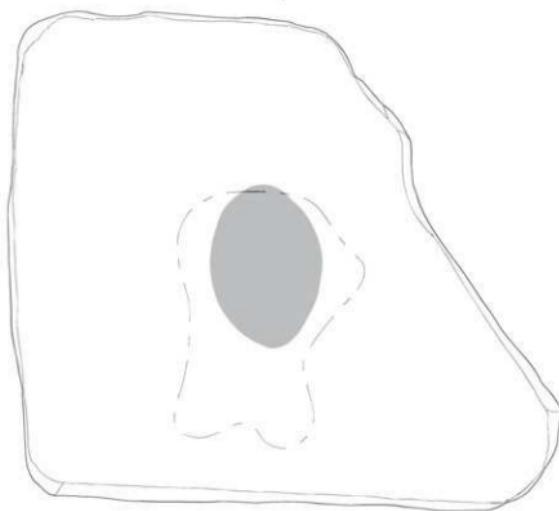
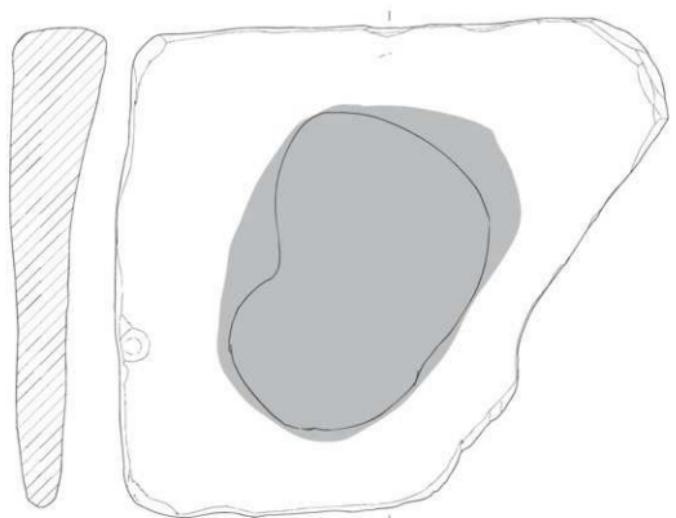
(注2) 堅果類集中範囲1内には、トチ・クルミの他に、焼けたフジツルの実が混在していた。フジツルは現在も遺跡付近に見ることができる。仁摩町在住の古老から昭和30年代までは、秋に拾い冬に実を焼いて食べたという話を伺い、食用としていたことが考えられる。



■ 磨滅・研磨・擦痕

0 20 cm

第93図 古屋敷G区 出土石器実測図 25 (1:4)

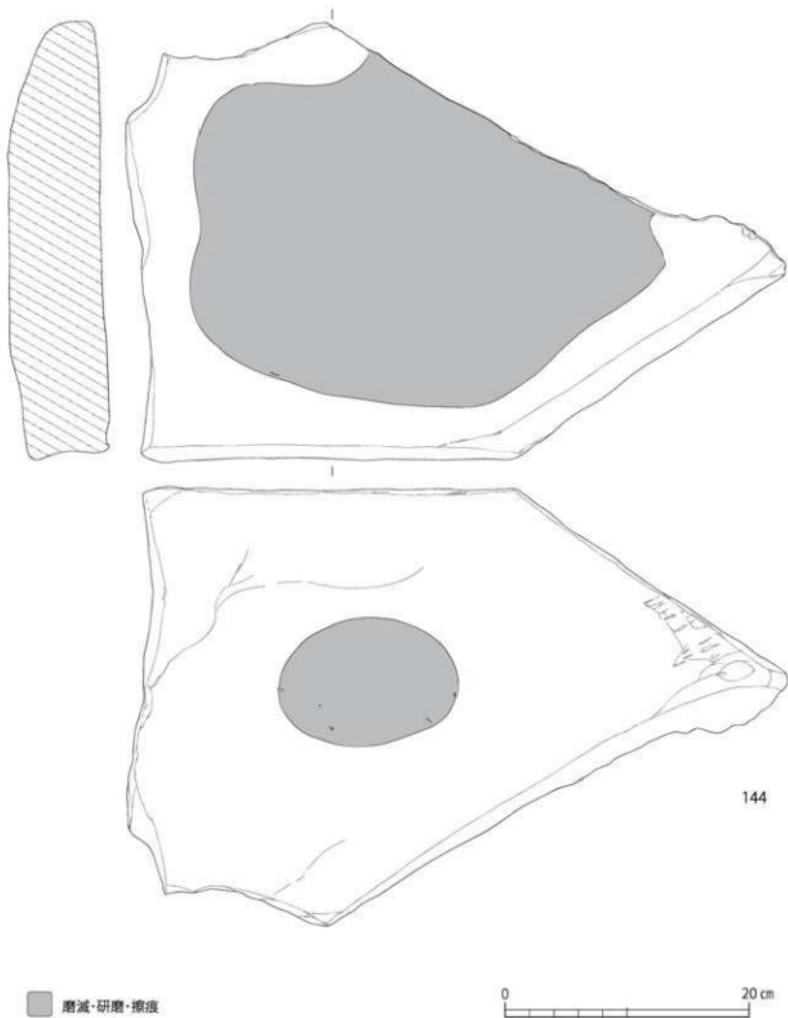


143

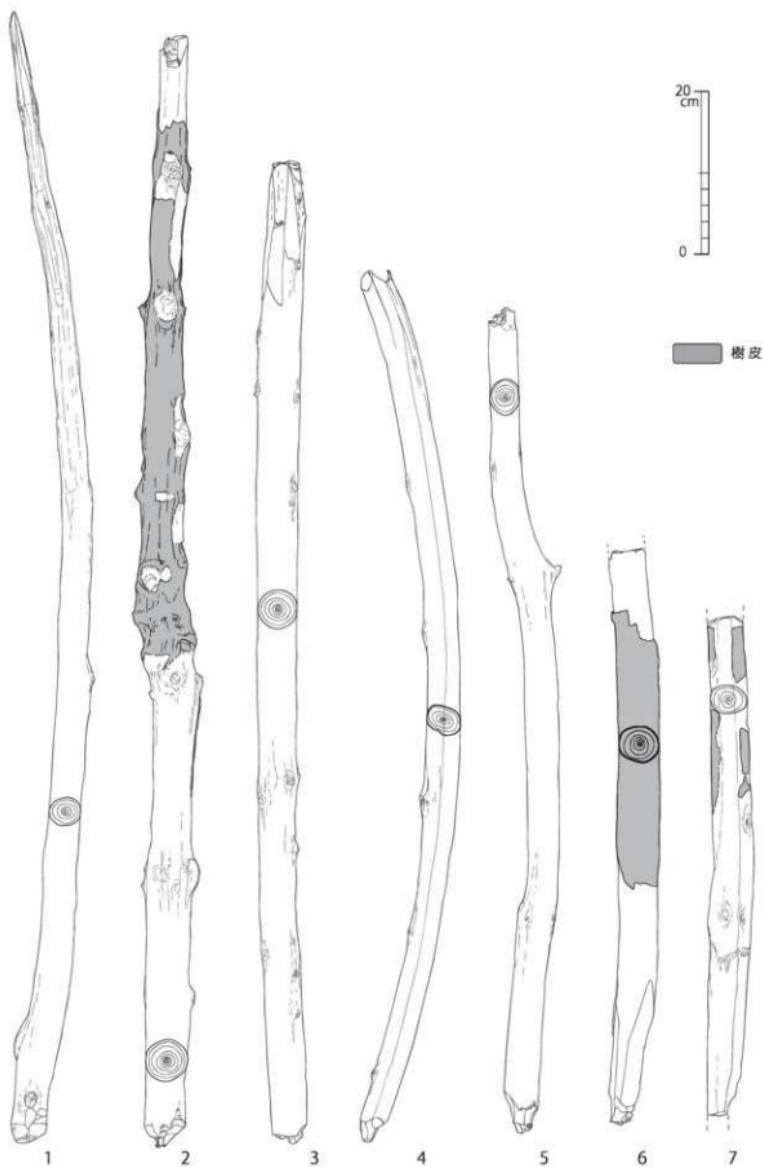
■ 磨滅・研磨・擦痕

0 20 cm

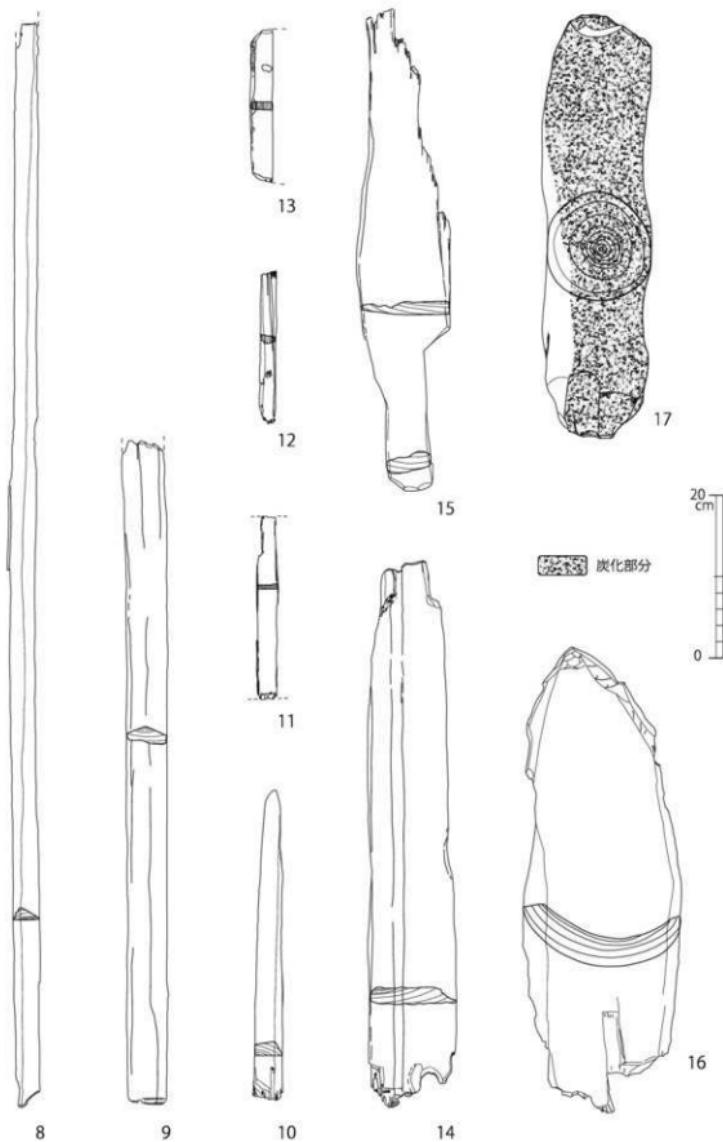
第94図 古屋敷G区 出土石器実測図26（1:4）



第95図 古屋敷G区 出土石器実測図27 (1:4)



第96図 古屋敷G区 出土木器実測図1 (1:6)



第97図 古屋敷G区 出土木器実測図2 (1:6)

## 第4章 自然科学的分析

### 1. 古屋敷遺跡（G区）から出土した赤色顔料付着遺物について

上山 晶子

大田市古屋敷遺跡からは赤色顔料の付着した縄文時代後期から晩期にかけての石器や土器が出土した。古墳時代以前の赤色顔料は、硫化第二水銀（HgS）を主成分とする鉱物の辰砂由来する水銀朱（朱）、酸化第二鉄（ $Fe_2O_3$ ）を多く含むとされるベンガラが知られている（注1）。これらの遺物の性格を知る手がかりとして、蛍光X線分析による元素定性分析を行なった。

#### 1. 分析の方法

分析方法は、蛍光X線分析による元素定性分析である。使用機器は島根県古代文化センター所有、島根県埋蔵文化財調査センター設置の「エスアイアイ・ナノテクノロジー（現：日立ハイテクサイエンス）社製 SEA1200VX 卓上型ケイ光X線分析計（エネルギー分散型）」である。測定条件は、測定時間 200秒（うち測定可能な有効時間は 122～131秒）、試料室雰囲気は大気、測定範囲は直径 8.0mm、管電圧 50kV、管電流 283～1000μA（管電圧による自動設定）、X線管球は Rh（ロジウム）、検出器は Si 半導体検出器（SSD）、一次フィルタとして Pb フィルタを設定し、装置の仕様上、マイラーカバーを使用している。測定は肉眼、あるいは 10～40倍の実体顕微鏡観察にて赤色顔料の付着がみられた箇所のうち赤彩が顕著な部分と、比較対照試料として石器の場合は赤色が確認できない部分（非赤色部分）、土器の場合は胎土部分（土器の破断面）で行なった。このうち、水銀（Hg）と硫黄（S）を高く検出したものを水銀朱、鉄（Fe）を高く検出し、水銀と硫黄を検出しなかったものは、胎土部分のスペクトルピークの比較と顕微鏡観察の結果から、ベンガラ（ここでは酸化鉄を多く含む「広義のベンガラ」（注2））であると判断した。

#### 2. 結果

測定を行なった試料とその結果を表1と蛍光X線分析スペクトルピークに示す。

測定No G3 は Hg と S のスペクトルピーク（以下、ピーク）を示した。この試料では、Fe の高いピークも検出している。胎土部分や赤彩の見られない箇所からも Fe の高いピークが検出されており、胎土に由来、もしくは埋蔵環境下における鉄分の二次的な付着が考えられる。ベンガラも赤色塗彩に使われた可能性があるが、今回の分析結果からは判断できない。したがって、水銀朱による塗彩は確実に行なわれているとみられるものの、ベンガラの使用については不明である。

測定No G1・G2・G4・G5 については、Fe の高いピークを検出した。このうち、測定No G1 は石器（磨敲石）であり、擦痕とみられる箇所に赤色を呈する様子が視認されるものの、実体顕微鏡下での観察においては、赤色粒子をわずかに確認できる程度であった。また、赤色を呈していない箇所の蛍光X線スペクトルピークも Fe の高いピークを示しており、今回の分析結果だけでは、付着している赤色粒子をいわゆる「広義のベンガラ」と判断することは難しい。

測定No G2・G4・G5 は土器である。これらの土器も実体顕微鏡観察を行ない、胎土部分のピークとの比較・検討を行なった結果、G2 は、胎土部分からも Fe の高いピークを検出していること

や顕微鏡観察の結果から赤色顔料による塗彩とは判断しにくく、Feが「広義のベンガラ」に由来しているものとは言い難い。G4・G5は赤彩部分の胎土部分からもFeのピークを検出しているが、顕微鏡観察の結果から、赤彩部分はベンガラが塗布されていると推測される。

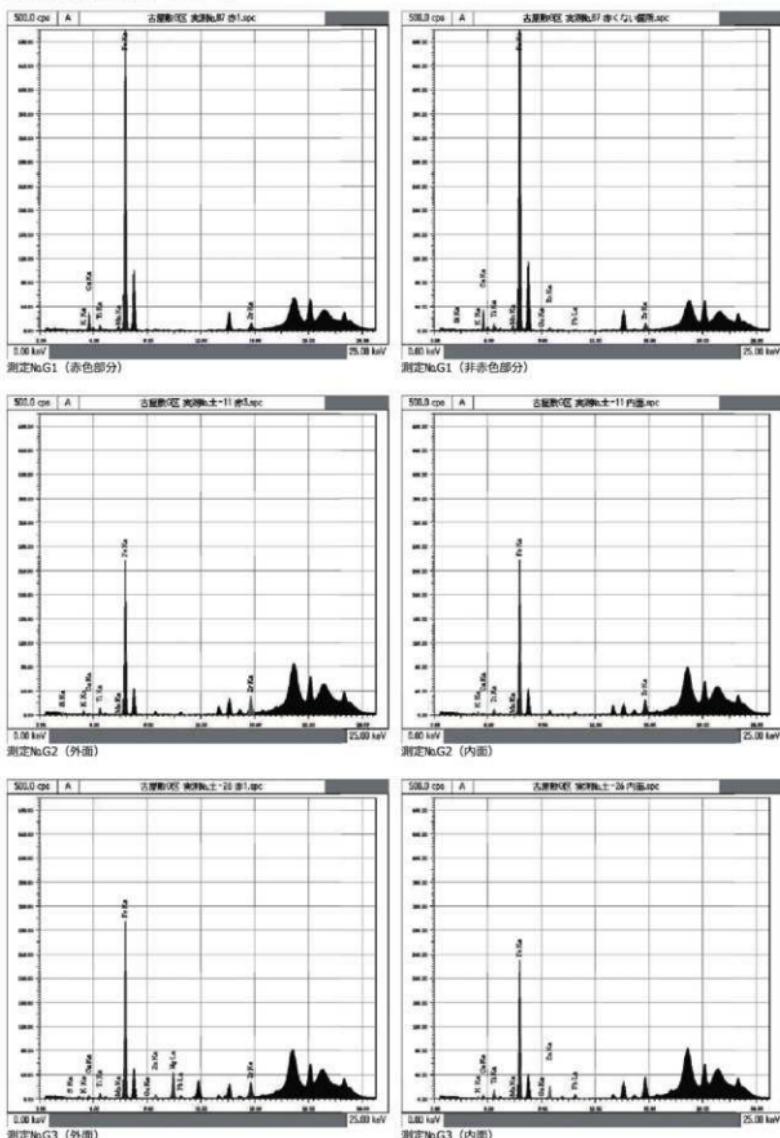
(注1・2) 市毛歎 1998 『新版 朱の考古学』 雄山閣

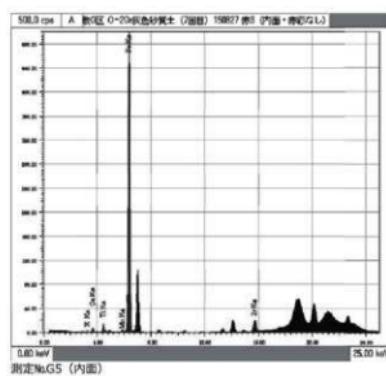
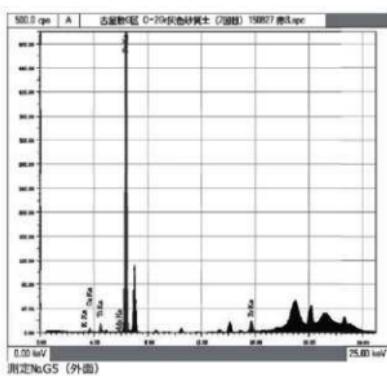
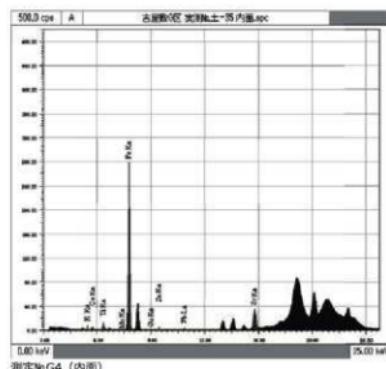
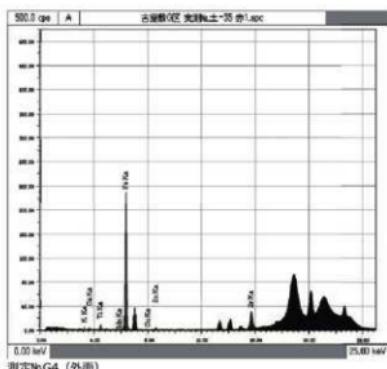
表1 古屋敷遺跡G区 出土赤色顔料付着遺物蛍光X線分析結果

調査区	測定No.	採取No.	種別	器種	測定箇所	検出元素			推測される顔料	備考
						Fe	Hg	S		
G区	G1	80回-87	石器	磨製石	赤色部分	++	-	-	不明	
					非赤色部分	++	-	-	-	
G区	G2	51回-163	縄文土器	壺	外面	++	-	-	不明	赤色を呈す
					内面	++	-	-	不明	赤色を呈す
					破断面	+	-	-	-	
G区	G3	36回-113	縄文土器	浅鉢	外面	++	+	+	水銀朱	
					内面	+	-	-	-	赤彩なし
					破断面	+	-	-	-	
G区	G4	64回-323	縄文土器	浅鉢	外面	++	-	-	ベンガラ	
					内面	+	-	-	-	赤彩なし
					破断面	+	-	-	-	
G区	G5	—	縄文土器	壺部破片	外面	++	+	+	ベンガラ	
					内面	+	-	-	-	赤彩なし
					破断面	+	-	-	-	

検出元素凡例；++…スペクトルピークを高く検出/+…検出/~…検出せず/x…測定せず（赤彩なしあるいは試料形状により測定不可）

## 蛍光X線分析スペクトル





## 2. 古屋敷遺跡出土の種実および土器圧痕調査報告

小畠 弘己

(熊本大学文学部)

### はじめに

島根県埋蔵文化財調査センターより依頼を受け、3回（平成27年10月22・23日、平成28年8月3・4日、平成29年2月13・14日）にわたって、島根県大田市古屋敷遺跡（G区）出土の炭化・未炭化種実および出土土器の圧痕調査を実施した。本文はその報告である。

### I. 炭化・未炭化種実調査

#### 1. 調査対象と方法

今回、種実同定および計数（量）の対象とした試料は、島根県埋蔵文化財調査センターが2015年に発掘調査を実施した際に主に旧河川流路と台地部から出土した堅果類集中部および各層から検出された種実資料である。多量にあるため、第5遺構面堅果類集中範囲を中心に、取り上げ単位ごとに、全体の7割の91ユニットを今回分析した。

試料の状態は、すでに土壤選別とピックアップがなされてタッパー・ウエアやビニール袋に保存されていたものであり、フローテーションによる微細な種実（3mm以下）のものは回収されていない。それらを肉眼および顕微鏡で観察しながら、種類と個数を計数（量）した。種皮などの破片化が激しいものは重量も併せて記録している。

#### 2. 分析結果

141ユニットの試料から23科25属24種の植物種実4,010点および小破片や果皮2499.4gを同定した（表1）。その種類は、木本類としてカヤ、イヌガヤ、オニグルミ、トチノキ、コナラ属（イチガシ・アカガシ亜属）、スダジイ（シイ属）、クスノキ、センダン、エゴノキ、ヤマモモ、サクラ属、ムクノキ、ムクロジ、アカメガシワ、クマノミズキ、ウルシ属、サンショウ属（カラスザンショウ・サンショウウ）、フジ、ヒメコウゾ、草本類としてブドウ属、ヤブカラシ、ヤエムグラ、マルミノヤマゴボウ、オオツヅラフジ、ウリ科、タデ科、キノコ類としてサルノコシカケ科がある。これらは現在の西日本の平野部～低山地に分布する暖温帯構成種である。

種実の産状はそのほとんどが未炭化種実であるが、第5遺構面堅果類集中範囲から出土した種実の中には火を受けたものも含まれていた。火を受けたものは、オニグルミとトチノキ果実およびアズキ種子であった。これらは堅果類集中範囲2で確認した。オニグルミには子葉を取り出すための人為的な破碎痕が観察でき、全体の99.1%にそれが認められた。ただし、堅果類集中範囲間にオニグルミとトチノキの果実の出土傾向および産状に違いが認められた。半裁されたオニグルミは堅果類集中範囲1のみで観察され、堅果類集中範囲2・5はオニグルミの破片を含むのみであった。堅果類集中範囲4ではオニグルミは検出されなかった。堅果類集中範囲1のトチノキ果実は外果皮と種子片がわずかに含まれるだけであった。堅果類集中範囲2・4・5はこれらに加え、小さいものでは5mm未満の幼果を多数含んでおり、外果皮付の果実（朔果）に虫食い痕を持つものもあった。

### II. 土器圧痕調査

#### 1. 調査対象資料と方法

今回調査の対象とした資料は主に2015年の発掘による出土土器である。調査は3回に分けて

表1 古屋敷遺跡出土炭化・未炭化種実とその数(重量)

遺跡名	特徴	カヤ イヌイチヤ ヒノキ モクシ	イヌイチヤ ヒノキ モクシ	トドガサ		アマガシワ ヒメイヌ モクシ	アマガシワ ヒメイヌ モクシ	アマガシワ ヒメイヌ モクシ	アマガシワ ヒメイヌ モクシ	アマガシワ ヒメイヌ モクシ	アマガシワ ヒメイヌ モクシ	
				種子	果皮							
古屋敷遺跡	古文書記述なし					1						
小社		17	29	2	47	4	24	30	2			
第二代遺跡	古文書記述なし	341	29	2	47	4	24	30	2			
小社		240	29	2	47	4	24	58	2			
第三代遺跡	古文書記述なし	1	3	1	3	3	28	1	3			
小社		1	3	1	3	3	28	1	3			
第四代遺跡	古文書記述なし	1	1	1	2	1	28	1	3			
小社		1	1	1	2	1	27	3	3			
第五代遺跡	古文書記述なし	1	6	2	1	27	3	31				
第六代遺跡	古文書記述なし	1	10	3	37	1	36	37				
第七代遺跡	古文書記述なし	2	47	2	14							
小社		3	441	321	16	477	16	481				
第八代遺跡	古文書記述なし	1	57									
第九代遺跡	古文書記述なし	1	18	18	257	10						
第十代遺跡	古文書記述なし	1	1	1	28	3	3	3	3	3	3	3
小社		3	1821	2715	932	776	327	3	4	11	10	11
第十一代遺跡	古文書記述なし	8	22	3	131	28	170	3	80	3	47	4
第十二代遺跡	古文書記述なし	8	24	8	24	8	66	66	255	3	4	2
小社		11	59	3	131	40	484	3	261	3	47	3
第十三代遺跡	古文書記述なし	1	362	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111
小社		1	362	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111
合計		3	4	1	3	1	1	1	1	1	1	1

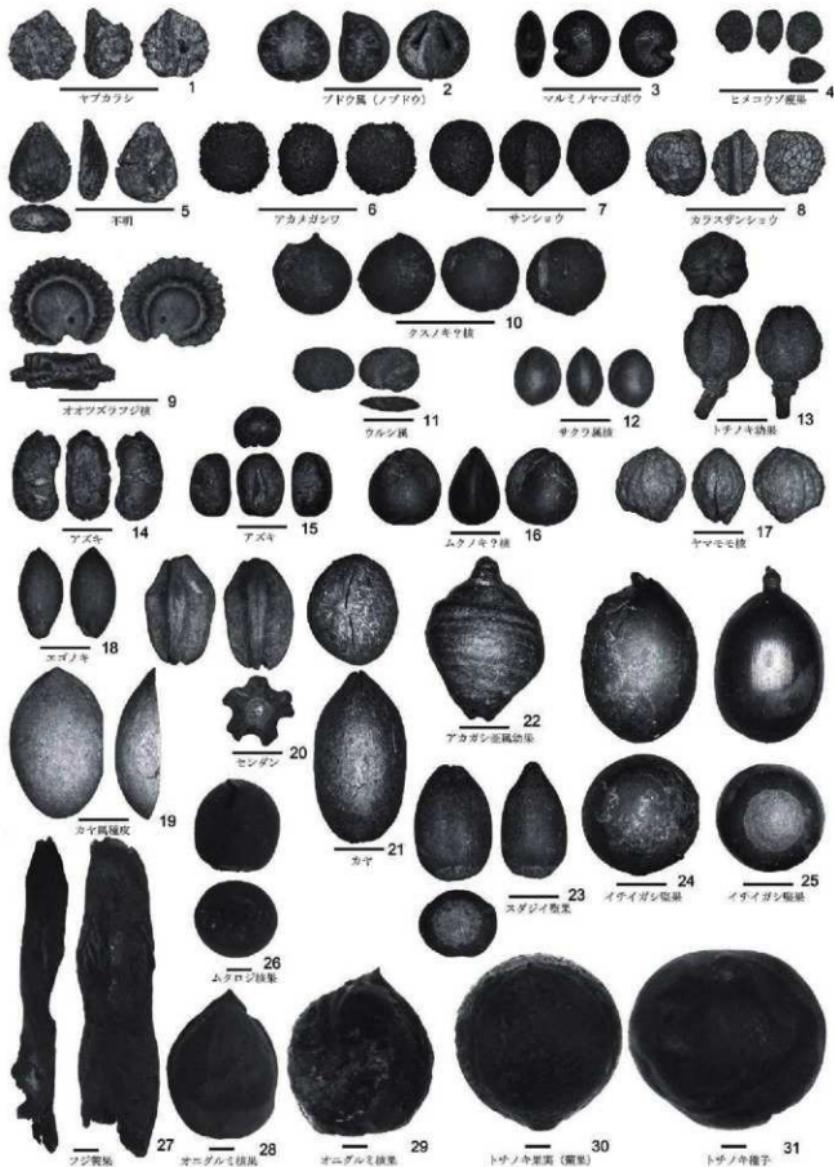


図1 古屋敷遺跡出土炭化・未炭化種実(黒色バー: 5mm スケール)

(1-23,26,27: G区第5遭構面堅果類集中範囲 2, 24,25: G区N3グリッド第6遭構面SR古黒色有機物層、  
28-30: G区02グリッド第6遭構面SR古灰色砂層(有機物を含む))

行っており、2015年10月に発掘調査現場でおよそコンテナ20箱の土器を調査したもの、2016年8月に島根県埋蔵文化財調査センターで実測済の土器374点と未実測の土器520点を調査したもの、2017年2月に佐々木由香氏の指導のもと島根大学学生が調査したコンテナ3箱分の非掲載の土器片から成る。資料は重なる部分があり、調査対象となった土器の正確な破片と重量は不明である。

圧痕調査および調査後の作業手順は、以下のとおりである。なお、この手法は基本的に、印象材以外は、福岡市埋蔵文化財センター方式（比佐・片多2005）と同じものである。

- ① 土器を1点ずつ観察し、植物種実・昆虫・貝などの圧痕の可能性があるものを肉眼と実体顕微鏡で抽出する。
- ② 圧痕部を水で洗浄し、土器全体写真および実体顕微鏡による圧痕部の拡大写真を撮影する。
- ③ 離型剤（バラロイドB-72 5%アセトン溶液）を圧痕部に塗布し、シリコーンゴム：アグサジャパン株式会社製ブルーミックスソフトを圧痕部に充填する。
- ④ やや硬化したシリコーンゴムをマウント（走査型電子顕微鏡用ピンタイプ試料台）に盛り、圧痕部と接合して硬化させる。
- ⑤ 硬化後、レプリカを取り外し、圧痕部の離型剤をアセトンで洗浄する。
- ⑥ 作製したレプリカを走査型電子顕微鏡（日本電子製JCM-5700型）で観察・撮影・同定する。
- ⑦ デジタルマイクロスコープ（KEYENCE VHX-2000）の2点間計測機能を用いて種実の長さ・幅・厚さを計測する。
- ⑧ 潜在圧痕の可能性のある土器についてSOFTEX社製EMT-Jによる軟X線撮影を行い潜在圧痕を検出し、X線CT（委託）により3D像復元を行う。

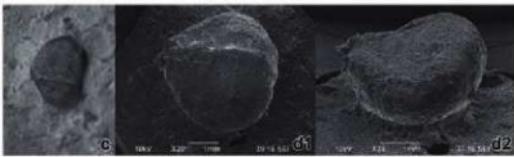
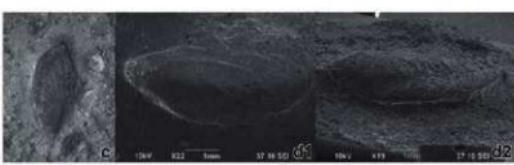
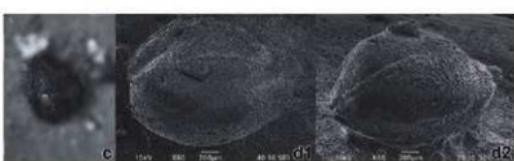
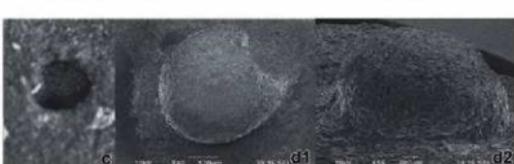
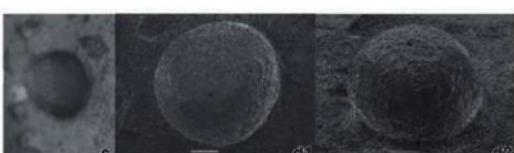
## 2. 調査結果

圧痕調査の結果、1点の縄文時代後期土器から不明種実1点、11点の縄文時代晩期末～弥生時代早期の土器（突帯文土器群）から、ワクド石タイプ圧痕（ダイズのへそ部）1点、シソ属果実1点、イネ果実（穂付）1点とアワ2点、ブドウ属種子1点の圧痕、シイ属種子と思われる炭化物2点、不明炭化物1点、木の芽？1点を検出した（表2）。資料は1が古屋敷遺跡（A区）、3が古屋敷遺跡（I区）、2・4～11が古屋敷遺跡（G区）出土である。

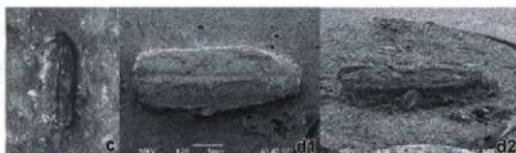
9(FYK 0011)はイネ *Oryza sativa* L. の穂付の穎果である。表面の顆粒状突起があまり明確ではないが、穂が付着した状態である。護穎と副護穎部分も確認できる。4(FYK 0004)と5(FYK 0005)はアワ *Setaria italica* の有穎果である。4は側面方向、5はやや傾いた背面方向の圧痕であり、それぞれ内穎と外穎の接線、内穎中央部の顆粒状突起が認められ、丸みを帯びた形態および内穎先端の瘤みの状態から栽培アワと判断した。2(FYK 0002)はやや卵形で表面に亀甲状の網目模様が観察される。大きさは2mmを超えており、シソ属の中でもエゴマ *Perilla frutescens* の可能性が高い。8(FYK 0010)は長さ4.64mm、幅1.83mmの長楕円形の薄い圧痕であり、周囲の土手状隆線と中央の細い長軸方向の溝の存在から、ダイズ *Glycine max* の臍と判断した。

これ以外に食用の可能性のあるものとして、ブドウ属 *Vitis* sp. 種子(7: FYK 0009)やサンショウウ属 *Zanthoxylum* sp. (カラズサンショウウか?) (11: FYK 0013)などがある。12(FYK 0006)の破片からは表出圧痕として、シイ属 *Castanopsis* sp. 果実と思われる炭化物2点を、そして軟X線による潜在圧痕の調査により、3点の不明種実を検出した。うち1点はX線CTスキャナーによる撮影を行い、3D画像を作成したが、種の同定までには至らなかった。(図4)

1. FYK 0001



8. FYK 0010



9. FYK 0011



10. FYK 0012 (炭化物)



11. FYK 0013 (炭化物)

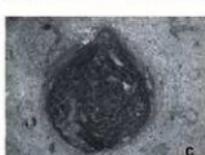


図3 古屋敷遺跡土器圧痕・レプリカ SEM 画像2

表2 古屋敷遺跡出土土器圧痕の種類および属性

図 番 号	登録番号	出土位置	種類	解説	型式/時期	部位	検出面	圧痕の種類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	備 考
1	FYK 0001	古屋敷A1(3.2) 1層 (Phu028 (第6062))	鉢	鉢	圓文地壓痕平 内面	外底	木、竹	スレ	2.37	2.11	1.02±n	
2	FYK 0002	K3グリット第1層地盤 (第6062)	鉢	鉢	青生瓦上部 内面	内面	シブ葉茎突	スレ	2.1	1.99	1.58±n	
3	FYK 0003	K3加熱土 (K03) 青色有光質土 (Phu017)	鉢	鉢	青生瓦上部 内面	内面	小堅縦子	スレ	1.89	1.81	1.37±n	
4	FYK 0004	K3グリット第1層地盤 (第6062)	鉢	深鉢	圓文地壓痕平 内面	内面	アリ葉茎	スレ	1.73	1.32	1.21	
5	FYK 0005	K3グリット第1層地盤 (第6062)	鉢	浅鉢	圓文地壓痕平 内面	内面	アワ葉茎	スレ	1.7	1.32	1.21	
6	FYK 0006	K3グリット第1層地盤 (第6062)	鉢	不規	圓文地壓痕 内面	内面	木の芽?	スレ	6.02	2.89	1.63	
7	FYK 0007	K3グリット第1層地盤 (第6062)	鉢	鉢	圓文地壓痕 内面	内面	ブツワ葉縫子	スレ	3.72	3.79	2.76	
8	FYK 0010	N3灰色有光 (第4段) N3グリット第1層地盤 (第6062)	鉢	鉢	圓文地壓痕 内面	内面	ダメズ (圓)	スレ	6.04	1.83	1.05	
9	FYK 0011	N3グリット (N3) 青生瓦上部	鉢	鉢	圓文地壓痕 内面	内面	イネ (穀)	スレ	7.28	2.97	1.67±n	
10	FYK 0012	N3グリット第6層地盤 (N3古 灰青粘土質土 (Phu019) (第6062))	鉢	鉢	圓文地壓痕 内面	内面	不規 (貝在物)	スレ	3.38	1.66	-	
11	FYK 0013	古屋敷A5(11)	鉢	鉢	圓文地壓痕 内面	内面	サンショウワ葉 (炭化物)	スレ	3.41	3.41	-	カラヌシシヨウ葉 (炭化物)
4	FYK 0006-1	K3グリット第1層地盤 (第6062)	鉢	深鉢 青生瓦上部 I	内面	山縞壓 内面	小型縞子	スレ	4.88	2.54	-	板状剥落・木に付着 する
	FYK 0006-2					山縞壓 内面	縦子?	スレ	2.89	2.07	-	板状剥落のみ
	FYK 0006-3					山縞壓 内面	縦子?	スレ	3.45	1.82	-	板状剥落のみ
	FYK 0006-4					山縞壓 内面	シブ葉茎突 (炭化物)	スレ	6.43	4.51	-	板状剥落のみ
	FYK 0006-5					山縞壓 内面	シブ葉茎突 (炭化物)	スレ	5.43	3.33	-	板状剥落のみ

12. FYK 0006

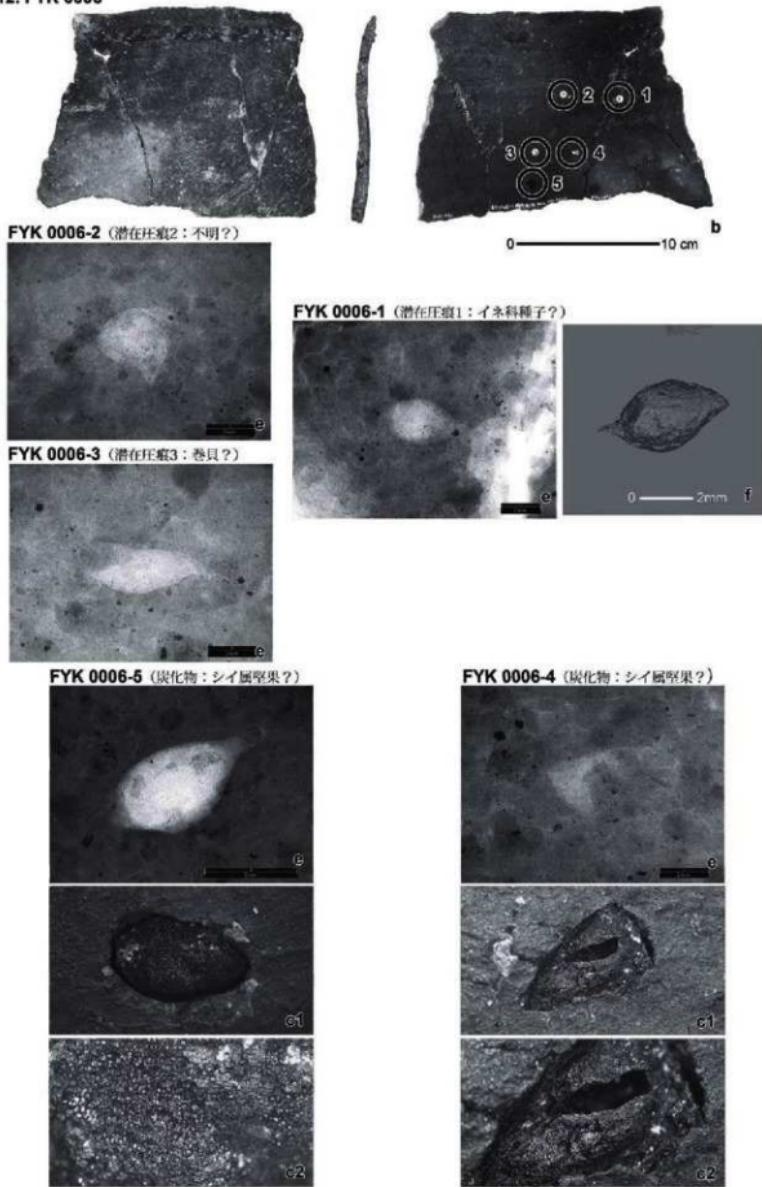


図4 古屋敷遺跡土器圧痕X線画像・X線CT 3D復元画像

### 3. 考 察

イネとアワ資料は縄文時代晚期～弥生時代早期のものであり、本地域における穀物需要および普及期の資料として評価される。山陰地方で最も古いイネは突帯文土器Ⅰ期（濱田 2015）であり、アワ・キビも同Ⅱ期には知られている。今回これらを検出した土器は口縁部などの特徴を持つ部位でなく、胴部の破片ばかりであり、編年の評価を与えていく。しかし、他の出土土器の様相からみて突帯文期のⅢ～Ⅳ期（濱田 2015）に属するものと思われる。

検出したダイズの胴部の長さは栽培種と考えられる九州地方の縄文時代後期後半～晚期のダイズ資料と比較してもほぼ同じ大きさであることから、本例も長さ 15.1～19.2mm の種子に復元できる（小畑ほか 2007）。以上より、年代的な幅はあるが、イネ以外に、アワ、エゴマ、ダイズが栽培されていたことが明らかになった。

### III. まとめ

河川および台地部より得られた種実類は、食用として可能なものは、オニグルミ、トチノキ、イチイガシ（アカガシ亜属）、ムクノキ、サクラ属、ヤマモモ、カヤ、ヒメコウゾ、ブドウ属などの果実、サンショウなどの野生植物があり、これ以外に栽培植物としてアズキが挙げられる。炭化や食痕などの人による利用の痕跡が残されているものは、オニグルミとトチノキ、アズキであった。それ以外は積極的に利用した痕跡は認められなかった。これに対して圧痕として検出された種実には、イネ、アワ、エゴマ、ダイズなどがあった。以上挙げたものは、当時の一般的な栽培植物および野生の食用植物であるが、この両者が低湿地部の土壤と土器という、資料源を異にして検出されたことは、土器圧痕の生成過程や低湿地部から出土する植物相のタフォノミーの違いを明瞭に示したものといえる。これらは補完し合ってこそ当時の食としての植物利用が復元可能となる。

また、イネやアワなどの穀物圧痕資料は、山陰地方でも古い部類に属する資料であり、当該期の土器のさらなる調査に期待を持たせるものである。また、ダイズの胴である、ワクド石タイプ圧痕は九州を除く地域では初めての発見であり、今後、ダイズの食品の加工法の地域性や時代性を考える上で貴重な資料となるであろう。

（注）表1、表2の年代観については、突帯文土器については、濱田 2015 を、破片のため不明なものは濱田 2005 を参考にした。

#### ＜参考文献＞

- 濱田竜彦 2005 「山陰地方における縄文時代晚期土器について—鳥取県、島根県東部を中心に—」『第16回中四国縄文研究会 縄文時代晚期の山陰地方 発表資料集』、15-42 頁、中四国縄文研究会  
 濱田竜彦 2015 「中国地方にみる縄文時代晚期のイネ科栽培植物」『シンポジウム八ヶ岳山麓における縄文時代の終末と生業変化予稿集』、16-20 頁、明治大学日本先史文化研究所  
 小畑弘己・佐々木由香・仙波靖子 2007 「土器圧痕からみた縄文時代後・晚期における九州のダイズ栽培」『植生史研究』15-2、97-113 頁、日本植生史学会

## 3. 古屋敷遺跡G区における放射性炭素年代（AMS測定）

(株) 加速器分析研究所

## 1. 測定対象試料

古屋敷遺跡G区は、島根県大田市仁摩町大国に所在する。測定対象試料は、河道横の立木や河道内の杭等から採取された木片、堅果類集中範囲から採取されたクルミの合計5点である（表1）。なお、木片3点については、同一試料の樹種同定が実施されている（別稿樹種同定報告参照）。

試料の時期は、自然木9、クルミ1、クルミ2が縄文時代晚期、FGW4（杭4（96-6））が縄文時代後期から晚期とされ、FGW98は縄文時代晚期の可能性が指摘されている。

## 2. 測定の意義

自然木の年代、杭やクルミが利用された年代を推定する。

## 3. 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
- (2) 酸 - アルカリ - 酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

## 4. 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

## 5. 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(%)で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) <sup>14</sup>C年代(Libby Age:yrBP)は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。<sup>14</sup>C

年代と誤差は、下1桁を丸めて5年単位で表示した。また、 $^{14}\text{C}$  年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の  $^{14}\text{C}$  濃度の割合である。pMC が小さい ( $^{14}\text{C}$  が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 ( $^{14}\text{C}$  の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$  によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の  $^{14}\text{C}$  濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の  $^{14}\text{C}$  濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に対応する較正曲線上の历年年代範囲であり、1標準偏差 ( $1\sigma = 68.2\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma = 95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が  $^{14}\text{C}$  年代、横軸が历年較正年代を表す。历年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$  補正を行った  $^{14}\text{C}$  年代値で、ここでは分析仕様書に従い下1桁を5年単位で丸めた値を用いた。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、历年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。历年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。历年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

## 6. 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料5点の  $^{14}\text{C}$  年代は、 $3110 \pm 25\text{yrBP}$  (FGW4) から  $2465 \pm 25\text{yrBP}$  (自然木9) の間にある。历年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、古い方から順に FGW4 が縄文時代後期後葉頃、FGW98 が晩期中葉頃、クルミ2が晩期中葉から後葉頃、自然木9、クルミ1が晩期後葉ないし弥生時代前期への移行期頃に相当する。いずれも推定される時期におおむね整合する結果である (藤尾2009、小林2009、小林編2008)。

試料の炭素含有率はすべて 50% を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法 (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-160652	自然木9	G区 立木 (第2遺構面)	木片	AAA	-28.35 ± 0.53	2,465 ± 25	73.58 ± 0.25
IAAA-160653	FGW98	G区 河道内流木 (第6遺構面 SR古)	木片	AAA	-26.84 ± 0.41	2,765 ± 25	70.88 ± 0.23
IAAA-160654	FGW4 (杭4(96-6))	G区 河道内杭 (第6遺構面 SR古)	木片	AAA	-24.90 ± 0.48	3,110 ± 25	67.92 ± 0.22
IAAA-160655	クルミ1	G区 クルミ塚 (第5遺構面 堅果類集中範囲1)	植物片	AAA	-24.61 ± 0.59	2,470 ± 25	73.52 ± 0.24
IAAA-160656	クルミ2	G区 クルミ塚 (第5遺構面 堅果類集中範囲2)	植物片	AAA	-24.38 ± 0.54	2,550 ± 25	72.81 ± 0.24

[#8110-1～5]

表2 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  未補正值、曆年較正用  $^{14}\text{C}$  年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		曆年較正用(yrBP)	1σ 曆年代範囲	2σ 曆年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-160652	2,520 ± 25	73.08 ± 0.23	2,465 ± 25	750calBC - 683calBC (28.7%) 668calBC - 637calBC (12.9%) 622calBC - 616calBC ( 1.9%) 591calBC - 517calBC (24.7%)	764calBC - 477calBC (92.7%) 464calBC - 454calBC ( 1.0%) 445calBC - 431calBC ( 1.7%)
IAAA-160653	2,795 ± 25	70.61 ± 0.22	2,765 ± 25	969calBC - 962calBC ( 4.4%) 933calBC - 892calBC (41.7%) 879calBC - 847calBC (22.1%)	978calBC - 836calBC (95.4%)
IAAA-160654	3,105 ± 25	67.94 ± 0.21	3,110 ± 25	1421calBC - 1385calBC (39.3%) 1340calBC - 1311calBC (28.9%)	1435calBC - 1297calBC (95.4%)
IAAA-160655	2,465 ± 25	73.58 ± 0.23	2,470 ± 25	751calBC - 683calBC (29.0%) 669calBC - 636calBC (13.9%) 626calBC - 614calBC ( 4.1%) 592calBC - 538calBC (21.2%)	767calBC - 482calBC (94.6%) 442calBC - 434calBC ( 0.8%)
IAAA-160656	2,540 ± 25	72.90 ± 0.23	2,550 ± 25	797calBC - 756calBC (60.5%) 679calBC - 671calBC ( 5.1%) 604calBC - 599calBC ( 2.7%)	801calBC - 747calBC (64.4%) 685calBC - 666calBC ( 8.5%) 642calBC - 555calBC (22.5%)

[参考値]

## 文献

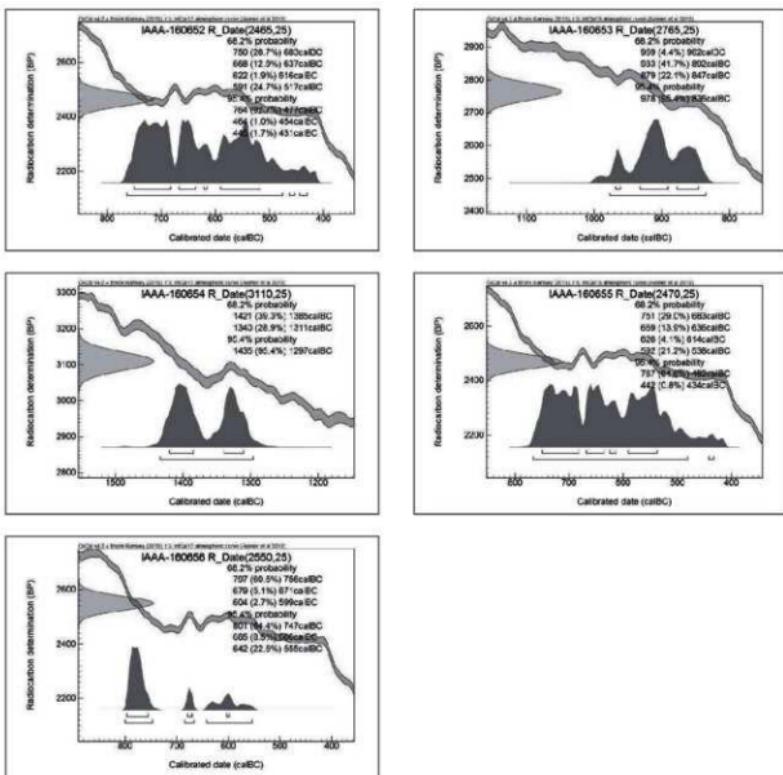
Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51 (1), 337-360

藤尾慎一郎 2009 弥生時代の実年代, 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代, 雄山閣, 9-54

小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散, 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代, 雄山閣, 55-82

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

- Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0–50,000 years cal BP. *Radiocarbon* 55 (4), 1869–1887
- Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data. *Radiocarbon* 19 (3), 355–363



〔図版〕暦年較正年代グラフ（参考）

## 4. 古屋敷遺跡G区出土木材の樹種

(株) 加速器分析研究所

## はじめに

古屋敷遺跡G区から出土した自然木（立木・流木）や杭について、木材利用を確認するための樹種同定を実施したので、その結果について報告する。

## 1. 試料

試料は、G区の立木（自然木9）、河道内の流木（FGW98）、河道内の杭（FGW4）の計3点である。なお、これらの試料については放射性炭素年代測定が実施されている（別稿年代測定報告参照）。

## 2. 分析方法

剃刀を用いて、木片から木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作成する。切片をアルコールシリーズ（エタノール 50%-70%-80%-90%-95%-100%、エタノール・ブタノール 1:1、ブタノール 100%、ブタノール・キシレン 1:1、キシレン）で脱水し、ビオライトで封入してプレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

## 3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。自然木と杭は、針葉樹1分類群（イヌガヤ）と広葉樹2分類群（ヤマグワ・トチノキ）に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・イヌガヤ (*Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K. Koch f.) イヌガヤ科イヌガヤ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。樹脂細胞は早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型で1分野に1-2個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・ヤマグワ (*Morus australis* Poiret) クワ科クワ属

環孔材で、孔圈部は3-5列、孔圈外への移行は緩やかで、晩材部では単独または2-4個が複合して斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列。小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1-15細胞高で層階状に配列する。

表1 G区の樹種同定結果

試料名	採取場所	種類
自然木9	G区 立木	ヤマグワ
FGW98	G区 河道内流木	トチノキ
FGW4 (杭4(96-6))	G区 河道内杭	イヌガヤ

#### 4. 考察

立木はヤマグワに同定され、調査区内の河畔に生育していたことが推定される。また、河道内流木はトチノキであり、周辺にトチノキも生育していた可能性がある。ヤマグワとトチノキは、いずれも河畔に生育する落葉高木であり、ヤマグワは果実が生食可能である。また、トチノキは、あく抜きすることで子葉が食用となる。

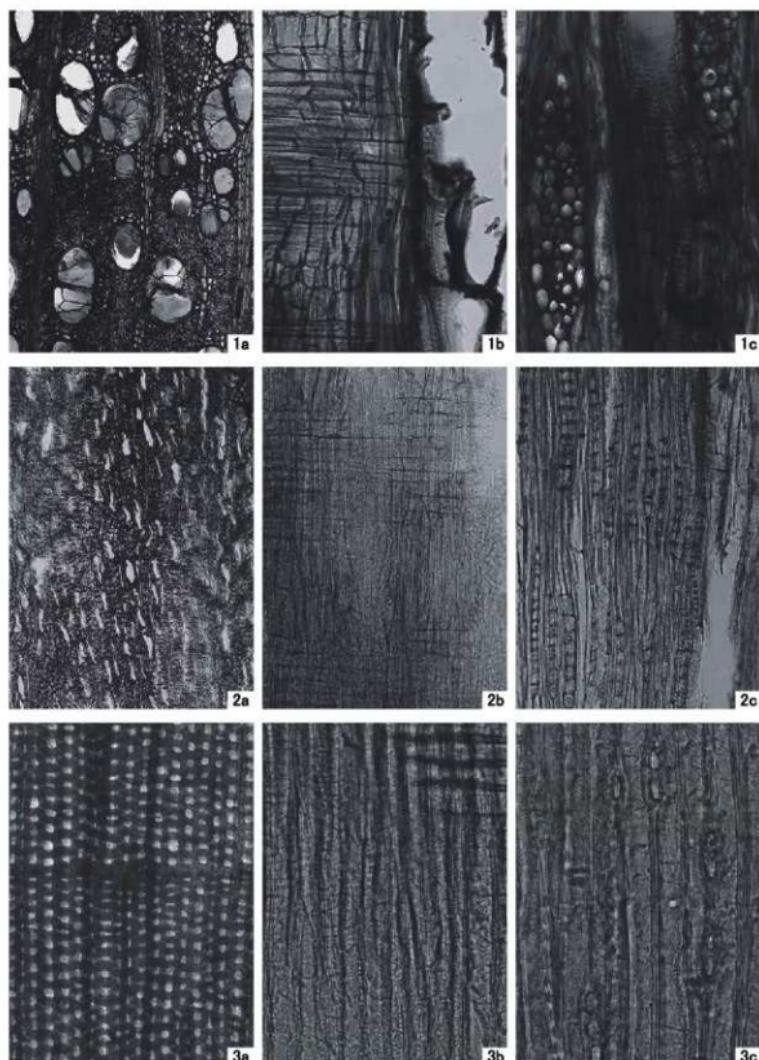
一方、杭に認められたイヌガヤは、河畔に生育する常緑高木～低木であり、木材は重硬・緻密で強度・韌性・耐水性が高い。現在の植生を考慮すれば、遺跡の周囲に生育していたことが推定され、入手が容易であることに加え、強度や耐水性が高い材が杭として利用されたものと考えられる。

#### 文献

- 林昭三,1991,日本産木材顕微鏡写真集,京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載I.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載II.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載III.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載IV.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載V.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p.[Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島地謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩(日本語版監修),海青社,122p.[Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

※) 本分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社の協力を得て行った。

図版1 G区の木材



1.ヤマグワ(自然木9)

2.トチノキ(FGW98)

3.イヌガヤ(FGW4)

a.木口, b:径目, c:板目

— 100 μm:1-2a  
— 100 μm:3a,1-2b,c  
— 100 μm:3b,c

## 第5章 まとめ

古屋敷遺跡は、大田市仁摩町を流れる全長6kmほどの日本海に注ぐ潮川の下流域に出来た沖積平野の最奥部にあって、約9000m<sup>2</sup>である。本報告はこのうちのG区1045m<sup>2</sup>についての発掘調査を実施した成果である。発掘調査の結果、G区は縄文時代晚期の新旧河道路2本と溝状遺構1、弥生時代前期の旧河道路1、地床炉群等を検出した。縄文時代の旧河川の両岸にはトチやヤマグワ、イチイガシ等を含んだ森があり、それを切り払い一定期間定住の場所にしたことが推定される。

上層に検出された弥生時代前期の川は、古屋敷遺跡D区の調査において確認され、ゆるく蛇行しながら西方へ流れ、C区、A区を通り、A区においてU字状に曲がって北流し、G区北東部をかすめてからH区へ入っていくことがわかった。弥生時代における潮川の支流の一つと考えられる。そして、A区・G区では縄文時代晚期の河道と重なっている。

縄文時代の遺構は、新旧の河道路（SR新・SR古）、地床炉、トチ・クルミ塚等を検出した。いずれも縄文晚期の中におさまる時期のもので、星重的に層序が確認できた。恐らく、毎年、あるいは数年毎という比較的短い期間に、河川の氾濫により薄緑色微砂粒土の堆積が繰り返されたと考えられ、縄文時代の遺構・遺物はこの堆積層中に検出された。

N2～3、O2～3グリッドが接するところに集中して検出された地床炉群は、いずれも焼土を含んでおり、中からは縄文土器片、木の枝の炭化物、焼けて白変した動物の骨の碎片などが出土した。それ以外の、例えば石皿・磨石・石斧といった石器は見当たらなかった。この地床炉群は数を変えながらほぼ同じ場所に第4遺構面から第2遺構面へと少なくとも3時期にわたり作られ続けており、第3遺構面には周囲を囲むように細い柱状の遺構が検出されたので、竪穴建物であったかは不明であるが覆屋程度の施設は作られていたものと考えられる。地床炉群の中の魚骨や小動物の骨は、漁網鍾（注1）や丸木弓・石籠との関係から、生業として漁撈や狩猟も行われていたことを示している。

これらの地床炉群に接した北東側には齧歯動物によって孔をあけられたクルミが一定の範囲に散乱しており、貯蔵穴等、何らかの貯蔵施設があった可能性が高い（第2遺構面クルミ集中範囲）。また、地床炉の西側10mあたりは堅果類（トチ・クルミ）の殻の廃棄場が数箇所検出された（第5遺構面堅果類集中範囲1～7）。それは旧河道SR古の左岸斜面に沿っている。地床炉と同じ時期に未だ旧河道SR古が完全には埋まっておらず、湿地、または小規模な三日月湖状になっていたとすれば、地床炉をはさんで、貯蔵施設と廃棄場とが有機的な関連を持った遺構群として捉えることができる。また、旧河道SR古の川底に打ち込まれた杭列の付近にトチやイチイガシが集中して出土し、ドングリ類の水晒の可能性も考えられた。このことは、明確な遺存体は発見されなかつたが、河川には食用となる動植物も生息していたと思われ、それらの捕獲・採集以外にも様々ななかたちでの利用があったことを推測させた。

堅果類の貯蔵施設はD区において小規模なトチの貯蔵穴が検出されている（林2017）以外は明確ではない。島根県内ではトチのみの貯蔵穴は現在のところ、邑南町郷路橋遺跡で縄文時代前期（C14年代測定値BP5140±100年）例が最古で（足立1991）、松江市九日田遺跡SK22の縄文時代後期例（岡崎2000）、出雲市山持遺跡IV区SK24の古墳時代中期例（内田2007）の3例のみで、果実の貯蔵穴はアカガシやイチイガシのいわゆるドングリ類が圧倒的に多く、それらのほとんどは

縄文時代後・晩期のものである。また、今のところクリの貯蔵施設は全時代を通して検出例がない。

当調査区から出土した土器は、定型コンテナ（P-27）に約10箱分である。そこから復元、実測掲載したものは土製品も含めて、375点を数える。ほとんどが縄文時代晩期のものであり、SR古から出土したものが5分の3を占めている。

後期の土器（縁帶文土器）が一定量出土しているが、破片がほとんどで風化も著しいものが多い。調査停止線以下に後期の包含層が確認されているので（第46図）、下層からの混入品と考えられる。

今回の調査で最も古い遺構は、第6遺構面検出の自然河道（SR古）である。晩期中葉（篠原式併行）の口縁部に刺突文を施す第54図184～188、同時期の口縁端部に刻目を施す第54図189～第57図217が上層の遺構に比較すると多く出土しており、この時期から川の堆積が始まるようである。共伴する突帯文土器も第57図218～第59図242、2条刻目突帯文土器の第60図259・260にも口縁端部に刻目が施されている。従来、口縁端部に刻目を施した土器の後発に突帯文土器が出現するとされてきたが、口縁端部のみの刻目は幅広いものから小さなもの（189～217）があり、突帯文土器の口縁端部及び突帯文の刻目も幅広いものから小さなもの（218～242）があり、両者に大きな差異は見られない。刻目の施文具も口縁端部と突帯文はほぼ同じである。一度に施文したと思われるものもある。これより口縁端部の刻目をもつ土器が、突帯文土器の出現に何らかの影響を与えるながら同時併存した可能性が考えられる。

突帯文土器の口縁端部に刻目が施される土器は、第2遺構面～第5遺構面出土の土器でも顕著である。各遺構面出土土器（遺構内・包含層を含む）の口縁端部に刻目が施されるものは、第2遺構面で51%、第3遺構面で69%、第4遺構面で67%、第5遺構面で60%、そして第6遺構面で62%を計り、口縁端部に刻目を施す突帯文土器が主流を占めている。

第1遺構面では、弥生土器（第7図3～5）が無刻目突帯文土器（第7図1）と共に、包含層には弥生系土器（第8図9）と、口端距離が2mm（第8図7）や0mm（第8図8）で刻目も細く退化している突帯文土器と共に出土しており、突帯文土器最終期には前記の土器は見られなくなっている。

また、外面に煤が付着、吸着したもの、内面に内容物が付着したものが一定数見られる。内面に内容物が観察されるものはほぼ外面には煤が付着または吸着している。深鉢は219個体中外面に105個体で48%（うち内面は9%）、小型深鉢は6個体中外面に3個体で50%（うち内面は17%）、鉢は8個体中外面に5個体で63%（うち内面は38%）、浅鉢は91個体中外面に15個体で16%（うち内面は5%）、甕は3個体中外面に2個体で67%（うち内面は0%）、壺は6個体中外面に2個体で33%（うち内面は17%）である。煮炊き用と考えられる深鉢は約半数に煤が付着または吸着しており、鉢としたものの割合も高かった。浅鉢も一部が煮炊きにも使用されたことがわかる。

新旧の河道（SR新・SR古）からは多量の遺物が出土したが、土器以外では、とりわけ、石皿と磨石類が目立った。磨石類は摩滅しているものが多いが、両面や片面が凹んでいたり、周縁部に使用痕があるものがほとんどである。石皿は縄文後期と考えられる1点（第93図142）を除けば板状の石を選んでおり、その多くは故意に半切されて廃棄されたと思われるふしがある。両面に使用痕が認められるものが多く、周縁部に径3～4cm、深さ1cmほどの凹みが数箇所あるものも少なくない。

磨石はデイサイトや流紋岩製の拳大前後の自然石の円礫を用いている。現在の潮川の河口付近に

は、縄文時代～中世にかけての坂灘遺跡が存在するが、その海岸は石見地方に多い砂ではなく円礫で形成されている。古屋敷遺跡に最も近いので、出土した磨石の大半はこの坂灘の海岸から持ち込まれたと考えてよい。また、握るのに程よい大きさで敲石に利用した柱状剝離の石材は（第84図116・117）、遺跡付近には見当たらず、大社町日御崎の経島に特徴的な石である。出土数は2点と少ないが、古屋敷遺跡を残した縄文時代人の活動の範囲を示す資料の一つといえる。

石皿については全て廃棄されており、いずれも完形のものではなく、悉く半切されていたという興味深い出土状態があった。島根県六日市町（現 吉賀町）前立山遺跡は、時期は下るが弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物跡21棟からなる集落遺跡であって、このうちの10棟から自然石を利用した同様な石皿が出土している（勝部他1980）。それらは完形で、とりわけ焼失建物跡のSI18出土の石皿には、被熱した摩研面全体に炭化物が付着していた。この地域は渡辺誠の調査によれば20世紀までトチ餅を作っていた日本列島での南限であり（渡辺1975）、このことを考慮すると石皿がドングリや堅果類の製粉臼として使用されたことが考えられる。いわゆる石臼は三輪茂雄の研究によれば、近世までは使用しなくなると半切して廃棄していたことが指摘されている（三輪1978）。それは石臼に籠った魂を抜くのだという。実際に各地で発掘される石臼は半切されて出土することがほとんどで、それは中世以降の茶臼も例外ではない。まだ資料不足は否めないが、こうした製粉具に対する思想が以外にも基層文化の中に潜んでいたのかもしれない。

一方、こうした硬い石材とは材質の異なる石器群がある。線刻石・軟質四石とした一群である（第72図～第74図）。一見すると磨石や敲石のようであるが、材質は柔らかい凝灰岩を選んでいる。それは例えば第72図や第73図に掲げたように、薄緑色で、凹みや線刻がある。明らかに堅果類を割ったり、製粉したり、また、ハンマーには向きである。凹みは1～3ヶ所、片面のみのもの、両面のものがある。線刻は何を描いたのかは不明である。H区出土資料の中には呪術的な文様を描いたものもある（増田2017）同様な性格の一群であるかもしれない。

利器には石材で大別すると、安山岩、いわゆるサヌカイト製と、流紋岩系のデイサイト製があり、少なくとも黒曜石はG区においては見られなかった。他区においても少量である。1点のみの出土の石鎚は安山岩の小型のものであるが（第25図）、調査の方法（例えば包含層の水洗い等）によつては相当量検出できたのかもしれない。SR古出土の木製弓（第96図4）との関係が注目される。石鎚や収穫具のような刃器は安山岩、伐採や土壙具と考えられている石斧は流紋岩系の石材が選択されているようである。第69図5・6は手で握るよりも指先に装着して使用された可能性が考えられる。土壙具とされるいわゆる打製石斧は扁平に近く、表裏とも下半部に摩滅した部分がみられるが、片面により広い範囲で使用痕がみられる。使用痕の少ない方に柄が装着された結果と考えられる。形態は脛部が少しくびれるが、頭部と刃部の幅が比較的少ないものと、刃部が広く撥型のものがある。後者には縱方向の断面がゆるくカーブをしているものもあり、鍬のように、いわゆる腰柄が装着された可能性があろう。こうした打製石斧群が、真っ直ぐな柄を着けた根茎類を採集する土壙具と、畑作用として腰柄を着けた石鎚とに機能分化する傾向にあったことを指摘できようか。この安山岩系の石材に対し、伐採用の、いわゆる蛤刃磨製石斧は、流紋岩系の石材を用いている。これらは、大きさや重量も、まだ弥生時代のものと比較すると、小さく軽い。弥生時代になって顕著にみられる、このようないわゆる大陸系磨製石器を志向していると思われる磨製石斧が混在していることは注意すべき事象である。但し磨製石包丁はみられない。

木製品は、杭（第96図1～3、5～7）や丸木弓（第96図4）以外は用途が明確ではない。板状（第97図14・15）や細長い板状のもの（第97図8～10）があり、地床炉と関係する建築部材片と考えられる。木製品は遺存する可能性は石器に比較すると低いので概には言えないが、G区内には多量の自然木が埋まっていたのにもかかわらず、調査の範囲内では鍛・鍛類の水田稻作に伴う農工具は検出されなかった。このことは古屋敷遺跡の他の調査区についても同様である。

しかし、古屋敷遺跡（G区）の縄文晩期の土器片のいくつかには栽培植物が含まれていることが判明した。イネ・アワ・アズキ・ダイズなどである（注2）。イネの存在は、例えば佐賀県菜畑遺跡、福岡県板付遺跡、岡山県津島江道遺跡で検出されたような水田跡の可能性を示唆するが、遺構としては検出されず、木製農工具も出土していない。アワ・アズキ・ダイズと打製石斧が対応するのであれば古屋敷遺跡の場合、イネは陸稲として栽培されていた可能性を考える必要もある。民俗例では栽培穀物と堅果類は製粉し、一定の割合で混合して食されることもある（渡辺2007）、相互に深く関連した食料確保戦略が存在していたとみなされる。

以上のように古屋敷遺跡（G区）をみると、弥生時代前期にみられるような、水田跡、木製農工具、大陸系磨製石器などは検出できなかったが、生業としての狩猟・漁撈・採集の他に、畑作も行われ、突堤文土器と弥生系土器の共存が始まり、農耕社会へと胎動しつつあった様子がうかがわれる。

（注1）石錘と土器片錘（第37図127～129、第67図371・372）の可能性があるので、網濾が想定できる。

（注2）小畠弘己報告参照（第4章）。

#### （引用参考文献）

- 足立克己 1991「郷路橋遺跡」中国横断自動車道広島浜田線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ島根県教育委員会
- 伊藤 智 2017「古屋敷遺跡（A・E区）」一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1島根県教育委員会
- 内田律雄 2007「山持遺跡IV区」国道431号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書V島根県教育委員会
- 岡崎雄二郎 2000『九日田遺跡発掘調査報告書』松江市教育委員会
- 勝部 昭也 1980「前立山遺跡」『中国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』島根県教育委員会
- 林 健亮 2017「古屋敷遺跡（D区）」一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2島根県教育委員会
- 増田浩太 2017「古屋敷遺跡（C・F・H・I区）」一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3島根県教育委員会
- 三輪茂雄 1978『臼』ものと人間の文化史 25 法政大学出版会
- 渡辺 誠 1975『縄文時代の植物食』雄山閣
- 渡辺友千代 2007「柄餅などの製造方法」『匹見町誌（遺跡編）』匹見町誌編纂委員会
- 「農耕社会成立期の山陰地方」『第41回山陰考古学研究集会資料』2013

# 遺物観察表

## 共通項

- ・出土標高は、現地調査において測量して取り上げた遺物に記載した。
- ・備考欄には、最初に遺物の残存状況を記載した。

## 土器

- ・縄文時代後期の時期型式は、千葉豊編「西日本の縄文土器 後期」真陽社 2010 を利用。
- ・縄文時代晩期～弥生時代前期の時期型式は、「山陰地方における縄文時代晩期土器について—鳥取県、島根県東部を中心に—」『第 16 回中四国縄文研究会 縄文時代晩期の山陰地方 発表資料集』中四国縄文研究会 2005 を利用。
- ・「文様・調整」は、土器の上位から下位に向けて記載し、部位は省略した。
- ・「色調」は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」を利用した。
- ・備考に記載した刻目突帯文土器の記述は、口縁最頂部と突帯貼付上部（突出部ではない）の距離を「口端距離」とし、突帯貼付面から突出した高さを「突出高」とし、刻目の幅を「刻目幅」として計測値を記し、刻目の形を視覚的に、D 字状、小さな D 字状、O 字状、V 字状、筋状などと分類した。



土器観察表

埠団 番号	因版 番号	実測 取上番号	出土標高	種別	器種	時期 型式	検出遺構面 グリッド	遺構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
7-1	16	±220	-	縄文土器	無目突帯 深鉢	晩期：VI期	第1遺構面 L3	弥生の川跡	砂礫層				(外) 口縁部に玉線状の突帯貼付。 (内) 調整不明	1mm以下の砂粒子(石英 ・ディサイト岩片など)や 多く含む やや不良	(外) 暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 (内) 黒褐色 2.5Y3/2 3mm	5 × 3 cm角破片。外面全体に焼着。 無目突帯・口縁距離 0 mm、突出高 3 mm
7-2	16	±222	-	縄文土器	浅鉢形部	晩期：V期	第1遺構面 L3	弥生の川跡	砂礫層				(外) 調整不明。頭部緩やかに屈曲。 (内) 調整不明。頭部に強い(ナ デ?)調整により縁部を外反させ る	1mm以下の砂粒子(石英 ・ディサイト岩片など)含 む 良好	(外) オリーブ黒色 5Y3/1 (内) 黄灰色 2.5Y4/1	6 × 5 cm角破片
7-3	16	±221	-	弥生土器	有文 変	縄文晚期： VII期/ 弥生前期： 松本1-1	第1遺構面 L2-L3	弥生の川跡	砂礫層	(20.6)			(外) 口縁部は不規則の平坦面をつくり外側に凹面を施す。調整不 明 (内) 調整不明。ハケ目	1mm以下の砂粒子(石英 ・ディサイト岩片など)含 む 良好	(外) 变黄褐色 10YR7/2 (内) 变黄褐色 10YR7/4	口縁部約 1/5 孔、如意形口線。外 面全体に焼けり付き
7-4	16	±217	-	弥生系土器	腹肩部	縄文晚期： VII期/ 弥生前期	第1遺構面 L3	弥生の川跡	砂礫層				(外) 調整不明。突帯貼付 (内) 調整不明	1.5mm以下の砂粒子(石 英・ディサイト岩片など) 含む やや良好	(外) 变黄褐色 10YR7/3 (内) 黑褐色 2.5Y3/1	5.5 × 4 cm角破片
7-5	16	±222	-	弥生土器	蓋底部	縄文晚期： VII期/ 弥生前期	第1遺構面 L3	弥生の川跡	砂礫層		(10.1)		(外) 調整不明 (内) 調整不明	1.5mm以下の砂粒子(石 英・ディサイト岩片など) 及び若干の 3mm 大の砂 粒子含む 良好	(外) 腹部：にぶい 橙色 7.5YR7/4、底 部：青褐色 2.5Y6/1 (内) オリーブ黒色 5Y3/1	体部下位 1/4 孔。やや高台状(粘土 板の周辺に粘土貼付のため)を呈す る凹底
8-6	16	±219	-	弥生土器	刻目突帯 深鉢	晩期： V～VI期	第1遺構面 N3	-	灰色砂 層				(外) 調整不明。口縁部の外側 に割目・突帯貼付のち刻目 (内) 丁寧なナデ	弥生前期土器の胎土に似る。 1 ~ 4mm の砂 粒子(石英・ディサイト 岩片など)含む 良好	(外) にぶい 黄褐色 10YR7/3 (内) にぶい 黄褐色 10YR7/3	5 × 4 cm角破片。口縁部の刻目も 無目突帯も退化したもの。削目突 帶は孔径 9 ~ 11mm、突出高 2.5 ~ 3mm、刻目幅 5 ~ 8 mm、一応 D 字 状
8-7	16	±219	1357 7.38m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：VI期	第1遺構面 M4	-	灰色砂 層				(外) ナデ。突帯貼付のち刻目。 調整不明 (内) ナデ。調整不明	1.5mm以下の砂粒子(石 英・ディサイト岩片など) 含む 良好	(外) 变黄褐色 10YR4/2 (内) にぶい 褐色 SYR6/4 ～にぶい 褐色 10YR5/3	8 × 7 cm角破片。外縁の突堤文下方に 帯状に焼付着。口縁部の一部内 外面にかけて黒帯あり。刻目突帯・ 口縁距離 2 mm、突出高 5 mm、刻目幅 1 mm、小さな V 字状
8-8	16	±296	31 7.382m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：VI期	第1遺構面 M2	-	灰色砂 層	(30.6)			(外) 突帯貼付のち(退化した)刻 目。ナデ。貝殻条痕の粗雑なナ デ (内) やや粗雑なナデ	1.5mm以下の砂粒子(デ ィサイト岩片・石英など) やや多く、又者との混 合含む やや不良	(外) 变黄褐色 10YR6/1 ～にぶい 褐色 7.5YR6/3 (内) 变黄褐色 10YR5/2	胸部約 1/6 孔。外面に突堤より下に 焼付着。刻目突帯 0 mm、 突出高 7 ~ 9 mm、刻目幅 0.5 ~ 3 mm, 筋状 2 ~ 3 mm、D 字状
8-9	16	±44	-	弥生系土器	ボウル形 鉢	縄文晚期： VII期/ 弥生前期	第1遺構面 M3	-	灰色砂 質土				(外) ナデ? (内) ナデ?	1mm以下の砂粒子(石 英・長石など)やや多(含 む 良好	(外) にぶい 褐色 7.5YR7/4 (内) にぶい 黄褐色 10YR4/4	4 × 3.5 cm角破片。口縁部は平暗 面をもつ。外面にエゴマ痕あり (FYK0002 試料)
13-10	16	±254	38 7.5m	縄文土器	2 条 刻目突帯 深鉢底部	晩期：V期	第2遺構面 O2	SX00	灰色砂 質土				(外) ナデ。突帯貼付のち刻目。 やや粗雑なナデ(器面に凹凸がみ られる) (内) ナデ	1mm前後の砂粒子を含む 良好	(外) 变黄褐色 10YR5/2 (内) 变黄褐色 10YR4/2	5 × 4 cm角破片。外面に焼付着。2 条突帯の下段と思われる。刻目突 帶・突出高 5 mm、刻目幅 2 ~ 3 mm, D 字 状
13-11	16	±256	35 7.482m	縄文土器	2 条 刻目突帯 深鉢底部	晩期： V～VI期	第2遺構面 O2	SX00	灰色砂 質土				(外) ナデ。突帯貼付のち刻目。 貝殻条痕のナデ (内) ナデ	1mm前後の砂粒子を多く 含む 良好	(外) 变黄褐色 10YR5/2 (内) 变黄褐色 10YR4/2	8 × 3.5 cm角破片。2 条突帯の下段 か? 刻目突帯・突出高 2 ~ 3 mm, 刻目幅 1.5 ~ 2 mm、小さな D 字 状
13-12	16	±24	116 7.406m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期： V～VI期	第2遺構面 P2	SX01				(外) 口縁部に上からのか割目。ナ デ。突帯貼付のち刻目 (内) ナデ	1mm以下の砂粒子を含む 良好	(外) にぶい 黄褐色 10YR7/2 (内) にぶい 黄褐色 10YR7/2	2.5 × 2 cm角破片。内面中央に異斑 あり。刻目突帯・口端距離 3 mm、突 出高 4 mm、刻目幅 5 mm, D 字状	

土器觀察表

標因 番号	固版 番号	実測 番号	出土番号	出土高さ	種別	器種	時期 型式	接出透構面 グリッド	透構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
13-13	16	±28	-		縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期： V～VI期	第2透構面 N3-O3	SX05					(外) 調整不明。1条の平行沈線。 (内) ナデ	1mm前後の砂粒子を多く含む 良好	(外) 不明 (内) 異常に黄色 2.5Y5/2	3 × 1.5 cm角破片。外面全体に爆破 着。刻目突帯：口端距離 5 mm、突出 高 3 mm、刻目幅欠損のため不明
13-14	16	±28	454 7.29m		縄文土器	刻目突帯 深鉢 口縁部付近	晩期： V～VI期	第2透構面 O3	SX12					(外) ナデ。突帯貼付のち刻目。 貝殻条痕 (内) 丁寧なナデ	微砂粒子を多く含む やや不良	(外) にぶい黄褐色 10YR5/3 (内) 灰黄色 2.5Y6/2	4 × 2.5 cm角破片。外面全体に爆破 着。刻目突帯：突出高 2 ~ 3 mm、刻 目幅 2 ~ 5 mm、V字状
13-15	16	±32	459 7.28m		縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期： V～VI期	第2透構面 N2	SX14					(外) ナデ。突帯貼付のち刻目 (内) ナデ	1mm以下の砂粒子を含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR8/2 (内) にぶい黄色 2.5Y6/3	4 × 2.5 cm角破片。刻目突帯：口端 距離 5 mm、突出高 2 ~ 3 mm、刻目幅 4 ~ 6 mm、O字状
13-16	16	±31	458 7.24m		縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期： V～VI期	第2透構面 N2	SX14					(外) 口縁端部に平坦面つくる。ナ デ。突帯貼付のち刻目 (内) やや粗雑なナデ	微砂粒子を含む 良好	(外) 灰褐色 7.5YR4/2 ~黒色 10YR2/1 (内) 黒色 10YR2/1	4 × 2.5 cm角破片。刻目突帯：口端 距離 3 ~ 4 mm、突出高 2 ~ 3 mm、刻 目幅 1.5 ~ 2.5 mm、V字状 ☆ SX15 土 Sample から出土した土器 と接合
13-17	16	±26	-		縄文土器	刻目突帯 深鉢 口縁部	晩期： V～VI期	第2透構面 N3-O3	SX15					(外) ナデ (内) 調整不明	1mm前後の砂粒子を含む 良好	(外) 灰褐色 10YR5/2 (内) 刻削不明	2.5 × 1.5 cm角破片。刻目突帯：突 出高 2 ~ 3 mm、刻目幅 4 mm、小さな O字状
13-18	16	±24	589 7.29m		縄文土器	浅鉢	晩期	第2透構面 N3	SX18					(外) ミガキ。やや強いミガキにより 口縁部に横線ができる。単位を 消すような丁寧なミガキ。頭部屈曲 する (内) ミガキ。単位を消すような丁 寧なミガキ	1mm以下の砂粒子を含む がほとんど目立たない 良好	(外) 黒色 7.5YR2/1 (内) 黒色 7.5YR2/1	3 × 2 cm角破片。黒色磨研土器
13-19	16	±23	585 7.29m		縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期： V～VI期	第2透構面 N2	SX23					(外) 口縁端部に平坦面をつくり、 のちに上からの刻目を施す。(内) にはその他の押さえが残る)。や や粗雑なナデ。突帯貼付のち刻目 (内) やや粗雑なナデ	1mm前後の砂粒子を多く含む 良好	(外) 黒色 2.5Y2/1 (内) 黒色 2.5Y2/1	3.5 × 3 cm角破片。2ヶ所の刻目は かなり埋没したもの。刻目突帯：口 端距離 7 mm、突出高 3 ~ 5 mm、刻 目幅 1 ~ 2 mm、小さな O字状
19-20	16	±28	-		縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：IV期	第2透構面 M2	-	黄色砂 礫層				(外) 口縁端部に平坦面をつくり、 のちに上からの刻目を施す。 突帯貼付のち刻目。 (内) 貝殻条痕のナデ	1.5 mm以下の砂粒子(石 英、ディサイト岩片など) 含む 良好	(外) 異常に黄色 2.5Y5/2 (内) 異常に黄色 2.5Y5/2	8 × 4.5 cm角破片。刻目突帯：口 端距離 8 mm、突出高 11 mm、刻 目幅 3 ~ 4.5 mm、小さな O字状
19-21	16	±29	352 7.31m		縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：IV期	第2透構面 O2	-	灰色砂 層				(外) 口縁端部に上からの刻目。 貝殻条痕のナデ。突帯貼付のち刻 目。 (内) やや粗雑なナデ	1mm前後の砂粒子を含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR4/2 (内) にぶい黄褐色 10YR6/2	7 × 5.5 cm角破片。外面の所々に爆 破着。刻目突帯：口端距離 5 ~ 7 mm、 突出高 4 ~ 6 mm、刻目幅 4 ~ 5 mm、 O字状
19-22	16	±31	361 7.32m		縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：IV期	第2透構面 O2	-	灰色砂 層				(外) 口縁端部に上からの刻目。 貝殻条痕のナデ。突帯貼付のち刻 目。 (内) やや粗雑なナデ(表面が凸凹 している)	微砂粒子を含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR4/3 (内) 異常に黄色 2.5Y5/2	4 × 3 cm角破片。内面に墨脱あり。 刻目突帯：口端距離 45 ~ 55 mm、突 出高 45 ~ 55 mm、刻目幅 5 ~ 5.5 mm、 O字状
19-23	16	±31	386 7.21m		縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期： IV～V期	第2透構面 P2	-	灰色砂 層				(外) 口縁端部に上からの刻目。ナ デ。突帯貼付のち刻目。貝殻条痕 ナデ	まばらに 1 mm前後の砂粒 子を含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/3 ~ 棕色 SYR6/6 (内) にぶい黄褐色 10YR7/3 ~ 棕色 SYR6/6	5.5 × 4.5 cm角破片。刻目突帯：口 端距離 3 ~ 3.5 mm、突出高 4 ~ 6 mm、 刻目幅 4.5 ~ 7 mm、O字状

## 土器観察表

博団 番号	因版 番号	実測 番号	取上番号 出土標高	種別	器種	時期 型式	検出遺構面 グリッド	遺構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
19-24	16	±371	511 7.204m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：IV期	第2遺構面 O3	-	灰色砂 層				(外)口縁端部に上からの刻目。 やや粗雑なナデ。突帯貼付のち刻目 (内)2枚貝条痕のちナデ	若干の砂粒子含む 良好	(外)灰黄褐色 10YR4/2～黒色 2.5Y2/1 (内)灰黄褐色 10YR4/2	3×2.5cm角破片。刻目突帯：口縁 距離4mm、突出高3～4mm、刻目幅 7～8mm。菱形状。
19-25	16	±301	330 7.346m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期： IV～V期	第2遺構面 N3	-	灰色砂 層				(外)口縁端部は上からの押し付けたような刻目。 やや粗雑なナデ。突帯貼付のち刻目 (内)やや粗雑なナデ	1mm前後の砂粒子を多く 含む 良好	(外)にぶい黄褐色 10YR6/3 (内)灰黄褐色 10YR5/2	3.5×3cm角破片。外面突帯下に焼 付着。刻目突帯：口縁距離6～7mm、 突出高4～5mm、刻目幅5.5mm、D 字状
19-26	16	±301	360 7.272m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期： IV～V期	第2遺構面 O3	-	灰色砂 層				(外)口縁端部に上からの刻目。 粗雑なナデ。突帯貼付のち刻目 (内)ナデ	1mm前後の砂粒子を多く 含む 良好	(外)灰黄褐色 10YR8/2 (内)灰黄褐色 10YR8/2	5×3cm角破片。外面に若干の焼付 着。刻目突帯：口縁距離6.5～7mm、 突出高2～4mm、刻目幅3～5mm、 D字状
19-27	16	±314	345 7.272m 358 7.472m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期： IV～V期	第2遺構面 O2-O3	-	灰色砂 層				(外)口縁端部に上からの刻目。 ナデ。突帯貼付のち刻目。 やや粗雑なナデ	1mm前後の砂粒子をまばらに含む 良好	(外)灰黄褐色 2.5Y4/2 (内)黄褐色 2.5Y5/3	8×7cm角破片。刻目突帯：口縁距 離6～5mm、突出高3～5mm、刻目 幅2～4mm、D字状
19-28	17	±28	350 7.314m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期： IV～V期	第2遺構面 O2	-	灰色砂 層				(外)口縁端部に上からの刻目。 ナデ。突帯貼付のち刻目。貝殻条痕 (内)ナデ	1mm前後の砂粒子を含む 良好	(外)にぶい黄褐色 10YR7/2 (内)灰黄褐色 10YR8/2	7×6.5cm角破片。外面突帯から下 に焼付着。内面に黒斑あり。刻目突 帯：口縁距離7～9mm、突出高4 ～5mm、刻目幅3～4mm、D字状
19-29	17	±276	329 7.239m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期： V期	第2遺構面 N3	-	灰色砂 層				(外)口縁端部に上からの刻目。 やや粗雑なナデ。突帯貼付のち刻目 (内)やや粗雑なナデ	1mm前後の砂粒子を多く 含む 良好	(外)にぶい黄褐色 10YR5/3 (内)黒色 2.5Y2/1	3.5×3cm角破片。外側の所々に焼 付着。刻目突帯：口縁距離6～7mm、 突出高4～5mm、刻目幅2～2.5mm、 小さなD字状
19-30	17	±25	512 7.318m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期： V期	第2遺構面 O3	-	灰色砂 層				(外)口縁端部にこれら以外小さ な刻目。ナデ。突帯貼付のち刻目。 貝殻条痕のちナデ	1mm前後の砂粒子を多く 含む 良好	(外)灰黄褐色 10YR8/2～黒色 2.5Y2/1 (内)黒色 2.5Y2/1	3×2cm角破片。刻目突帯：口縁距 離6mm、突出高4～6mm、刻目幅2 ～5mm、O字状(工具を突いてる)
19-31	17	±311	344 7.258m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期： V期	第2遺構面 O2	-	灰色砂 層				(外)口縁端部に上からの小さな刻 目。ナデ。突帯貼付のち刻目。卷 貝条痕	1mm前後の砂粒子をまばらに含む 良好	(外)黒褐色 10YR3/1 3/2 (内)にぶい黄褐色 10YR8/3	6×4cm角破片。外側に焼付着。刻 目突帯：口縁距離8～7mm、突出 高3～4mm、刻目幅2.5～3mm、小 さなD字状
19-32	17	±304	332 7.268m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期： V期	第2遺構面 N3	-	灰色砂 層				(外)口縁端部に上からの刻目。 ナデ。突帯貼付のち刻目 (内)ナデ	1mm前後の砂粒子を少量 含む 良好	(外)黒褐色 10YR3/1 (内)黒褐色 10YR3/1	3×1.5cm角破片。刻目突帯：口縁 距離4mm、突出高4～5mm、刻目幅 3～4mm、D字状
19-33	17	±38	371 7.422m 364 7.372m	縄文土器	有文 刻目突帯 深鉢	晩期： V期	第2遺構面 O3	-	灰色砂 層				(外)口縁端部に開隙を空けて丸 状のものを浅く押しつける。突帯貼 付のち刻目(開隙を空けて)。丁寧 なナデのへら描きによる施文(浅 い)。ケズリ?(砂移動右→左) (内)ナデ	1mm以下の砂粒子(石英 長石など)含む 良好	(外)黒色 10YR2/1 ～灰黃褐色 10YR4/2 (内)黒色 10YR2/1 ～灰黃褐色 10YR4/2	10×5.5cm角破片。刻目突帯：口縁 距離0mm、突出高3～5mm、刻目 幅5～6mm、開隙の空いたO字状(浅 い)
19-34	17	±321	515 7.209m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期： V～VI期	第2遺構面 O3	-	灰色砂 層				(外)口縁端部に極小の刻目。ナデ。 突帯貼付のち刻目 (内)ナデ	微砂粒子を含む 良好	(外)灰黄褐色 10YR8/2 (内)灰黄褐色 10YR8/2～黒色 2.5Y2/1	5×2.5cm角破片。外側所々に焼付 着。刻目突帯：口縁距離5～7mm、 突出高3mm、刻目幅0.5mm以下、筋 状

土器觀察表

標因 番号	固版 番号	実測 番号	出土番号 出土標高	種別	器種	時期 型式	接出透構面 グリッド	透構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
19-35	17	±238	527 7,364m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：VI期	第2透構面 N3	—	灰色砂 層				(外) 口縁端部を斜めから押さえ直して口縁部を短く(さす)開隙を空けて(割目風に)。ナデ。突蒂貼付のち刻目。ケズリ(右→左)。(内) やや粗雑なナデ	微砂粒子を含む 良好	(外) 灰黄褐色 10YR5/2 (内) にぶい黄褐色 10YR7/3	4 × 2.5 cm角破片。刻目突蒂：口端距離 8 mm、突出高 4 ~ 4.5 mm、刻目幅 0.5 ~ 1 mm、筋状
19-36	17	±238	—	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：IV期	第2透構面 M2	—	黄色砂 礫層				(外) やや粗雑なナデ。口縁端部に小さな平坦面あり。突蒂貼付のち刻目。(内) やや粗雑なナデ	1.5 mm以下の砂粒子(石) 10YR3/1 + にぶい黄褐色 10YR7/2 (内) オリーブ黒色 5Y3/1	(外) オリーブ黒色 5Y3/1 + にぶい黄褐色 10YR7/2 (内) オリーブ黒色 5Y3/1	4.5 × 4 cm角破片。外面突蒂下の一部に爆破着。刻目突蒂：口端距離 6 ~ 7 mm、突出高 6 ~ 7 mm、刻目幅 6 ~ 8 mm、D字状
19-37	17	±273	366 7,323m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：IV期	第2透構面 O2	—	灰色砂 層				(外) 貨販条痕のちナデ。突蒂貼付のち刻目。2枚貝条痕(内) ナデ	1 mm前後の砂粒子を含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR8/3 (内) にぶい黄褐色 10YR8/3	8 × 6 cm角破片。外面全体に爆破着。刻目突蒂：口端距離 6 ~ 9 mm、突出高 4.5 ~ 6 mm、刻目幅 4 ~ 6 mm、D字状
19-38	17	±305	372 7,404m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第2透構面 O3	—	灰色砂 層				(外) 口縁端部に平坦面あり。ナデ。突蒂貼付のち刻目。貨販条痕のちナデ(内) やや粗雑なナデ	1 mm前後の砂粒子を含む 良好	(外) オリーブ黒色 5Y3/1 (内) 黒色 5Y2/1	3.5 × 3 cm角破片。外面突蒂下に爆破着。刻目突蒂：口端距離 6 mm、突出高 4 ~ 5 mm、刻目幅 4 mm、D字状
19-39	17	±218	33 7,482m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第2透構面 O2	—	灰色砂 質土				(外) 口縁端部に極小の平坦面あり。ナデ。突蒂貼付のち刻目。(内) ナデ	微砂粒子を含む 良好	(外) 灰白色 2.5YB1/1 (内) 黑褐色 2.5Y3/1 (内) 黄灰色 2.5Y4/1	4.5 × 2.5 cm角破片。外面口縁部に爆破吸着。刻目突蒂：口端距離 8 ~ 10 mm、突出高 4 ~ 6 mm、刻目幅 3.5 ~ 4.5 mm、D字状
19-40	17	±299	3 7,372m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第2透構面 O3	—	灰色砂 層				(外) 口縁端部に平坦面あり。ナデ。突蒂貼付のち刻目。貨販条痕のちナデ(内) ナデ	1 mm前後の砂粒子を含む 良好	(外) にぶい黄色 2.5Y6/3 (内) 黄灰色 2.5Y4/1	10 × 8 cm角破片。外面全体に爆破吸着。刻目突蒂：口端距離 5 mm、突出高 3 ~ 4 mm、刻目幅 4 ~ 7 mm、D字状
19-41	17	±357	389 7,324m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第2透構面 O2	—	灰色砂 層				(外) 口縁端部に平坦面あり。ナデ。突蒂貼付のち刻目。(内) ミガタウ(光沢がみられる)	微砂粒子を含む 良好	(外) 灰黄褐色 10YR4/2 (内) 黑色 2.5Y2/1	3 × 2 cm角破片。内面黒墨？ 刻目突蒂：口端距離 3.5 ~ 4 mm、突出高 2.5 ~ 3 mm、刻目幅 3.5 ~ 4 mm、D字状
19-42	17	±272	349 7,362m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期： V~VI期	第2透構面 O3	—	灰色砂 層				(外) 口縁端部に平坦面あり。ナデ。突蒂貼付のち刻目。(内) ナデ	1 mm前後の砂粒子をばばり(外) にぶい黄褐色 10YR5/3 (内) にぶい黄褐色 10YR5/3 ~ 黑褐色 10YR5/1	4 × 3 cm角破片、外側の所々に爆破着。刻目突蒂：口端距離 4 ~ 5 mm、突出高 3 ~ 4 mm、刻目幅 3 ~ 4 mm、細長いD字状	
20-43	17	±354	381 7,386m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期： V~VI期	第2透構面 O2	—	灰色砂 層				(外) 調整不明。突蒂貼付のち刻目。(内) ナデ	1 mm以下の砂粒子を少量(外) 暗灰黄色 2.5Y4/2 (内) 灰黄色 2.5Y7/2 +オリーブ黒色 5Y3/1	3.5 × 2.5 cm角破片。外面爆付着。刻目突蒂：口端距離 3 mm、突出高 3 ~ 4 mm、刻目幅 2 ~ 3.5 mm、細いD字状	
20-44	17	±288	326 7,358m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：VI期	第2透構面 N3	—	灰色砂 層				(外) ナデ。突蒂貼付のち刻目(刻目は粘土を押し付けて幅広く上下に盛り上がっている)(内) 丁寧なナデ	微砂粒子を含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR8/3 ~ 黑褐色 10YR8/3 (内) にぶい黄褐色 10YR8/3 ~ 黑褐色 10YR8/1	3 × 2 cm角破片。刻目突蒂：口端距離 4 ~ 6 mm、突出高 2 ~ 4 mm、刻目幅 8 mm、幅広のD字状
20-45	17	±361	347 7,344m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：VI期	第2透構面 O3	—	灰色砂 層				(外) 口縁端部はややみのある平坦面をつくる。ナデ。突蒂貼付のち刻目。(内) 貨販条痕	1 mm前後の砂粒子を含む 良好	(外) 灰黄褐色 10YR8/2 (内) 反灰黃褐色 10YR8/2	2.5 × 2.5 cm角破片。外面の一端に爆付着。刻目突蒂：口端距離 5 mm、突出高 5 ~ 6 mm、刻目幅 3.5 ~ 4 mm、V字状(刻むというより突いている)

## 土器観察表

博団 番号	因版 番号	実測 番号	取上番号 出土標高	種別	器種	時期 型式	検出遺構面 グリッド	遺構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
20-46	17	±302	77 7.204m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：VI期	第2遺構面 M2	-	黃褐色 砂層	(24.0)			(外) 口縁端部を外反させる。やや粗雑なナデ。突帯貼付のち刻目(内)ナデ	1mm以下の砂粒子(石英・デイサイト岩片など)含む 良好	(外) 灰黄褐色 10YR6/2～灰褐色 SYR6/2 (内) 灰黄褐色 10YR4/2	口縁部約1/6存。外面に煤付着。 刻目突帯：口縁距離3～8mm、突出高3～6mm。刻目幅1～1.5mm、V字状
20-47	17	±300	64 7.364m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：VI期	第2遺構面 N2	-	灰色砂 質土				(外) 口縁端部は尖り部分と平坦面部分あり。ナデ。突帯貼付のち刻目。貝殻系のち粗雑なナデ(内)やや粗雑なナデ(やや大きめの指揮さえ痕残る)	2mm以下の砂粒子(デイサイト岩片・石英など) (内)にぶい灰褐色 10YR7/2 (内)にぶい灰褐色 10YR7/2～黒色 2SY2/1	17×16cm角破片。外側の口縁部及び胴部上半の一部に煤付着。刻目突帯：口縁距離5～8mm、突出高2～5mm、刻目幅1.5～3mm、V～小さな字状	
20-48	37	±297	389 7.324m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：IV期	第2遺構面 O2	-	灰色砂 層	(28.6)			(外) 口縁端部に上から外面に刻目(途中で小さな横円孔)の工具を押し付けただけの部分があり。ナデ。突帯貼付のち刻目。貝殻系のちや粗雑なナデ。下段突帯貼付のち刻目。貝殻系多量のち粗雑なナデ(内)やや粗雑なナデ、胴部中央(下段突帯附近)で屈曲させる	2mm以下の砂粒子(デイサイト岩片・石英・長石など)及び若干の4mm大の砂粒子含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/2～にぶい褐色 7.5YR7/4 (内) 灰褐色 10YR5/1～黒色 10YR2/1	口縁部約1/5存。外側に煤付着。 刻目突帯：口縁距離4～7mm；上段：突出高4～7mm、刻目幅4～8mm、D字状；下段：突出高5～6mm、刻目幅6～7mm、D字状
20-49	17	±317	168 7.344m	縄文土器	2条 刻目突帯 深鉢	晩期：V期	第2遺構面 N2	-	灰色砂 層				(外) 口縁端部に小さな凹面があり。ナデ。上段突帯貼付のち刻目。下段突帯貼付のち刻目(内)ナデ	微砂粒子、雲母を含む 良好	(外) 黑褐色 2SY3/2 (内) 黑褐色 2SY3/1～黒色 2SY2/1	7×7cm角破片。外側全体に煤こびり付。刻目突帯：口縁距離3～5mm；上段：突出高2～3.5mm、刻目幅4.5～7mm、逆D～O字状；下段：突出高3～4mm、刻目幅5～8mm、逆D～O字状
20-50	17	±318	374 7.352m	縄文土器	波状口縁 浅鉢	晩期	第2遺構面 O2	-	灰色砂 層				(外) 口縁端部をミガキによる平坦面をもつ。ナデ。額部はナデにより段をつくる。ケズリ(右～左)。(内)ミガキ。口縁部に東の平行沈線文。額部は強いミガキによる段をつくる	1mm以下の砂粒子(石英など)及び若干の2mm大の砂粒子を含む 良好	(外) 黑褐色 10YR3/2 (内) 黑褐色 2SY2/1	9×8.5cm角破片。外面に煤付着
20-51	37	±319	120 7.464m	縄文土器	把手付 鉢	晩期後半	第2遺構面 O3	-	灰色砂 層	(13.0)			(外) 口縁部と額部に突帯(無刻目2条突帯を意識してと思われる)。現状で2つ所残存する把手は突帯から剥離させている。やや粗雑なミガキ(内)ナデ	2mm以下の砂粒子(石英・デイサイト岩片など)含む 良好	(外) 灰黄褐色 10YR5/2～黒褐色 10YR3/2 (内) 灰褐色 2.5Y5/2	体部約1/2存。把手は復元すれば4ヶ所と思われる。外面下位突帯から下に煤、内面下位突帯部位から下に一部内容物付着。無刻目突帯：口縁距離0mm、上下突出高2～3mm
20-52	17	±323	2 7.24m 4 7.229m 304 7.254m 505 7.25m	縄文土器	底部	晩期	第2遺構面 O3	-	灰色砂 層		16.4		(外) ナデ。ケズリ。丁寧なナデ(内)ナデ	1mm以下の砂粒子(石英・デイサイト岩片など)含む 良好	(外) 黑褐色 2.5Y3/2～黒色 2SY2/1 (内) 黑褐色 2.5Y3/2～3/1	底部約3/4存。底凹
20-53	17	±323	-	弥生土器	壺胴部	縄文晚期： VII期/ 弥生前期	第2遺構面 M2	-	黄色砂 硬層				(外) 強いミガキによる界線。ミガキのちやう描き沈線文(内)整理不良	1mm以下の砂粒子(石英・長石など)含む 良好	(外) 淡黄色 2.5Y7/3 (内) にぶい黄褐色 10YR7/3	5×2.5cm角破片。外面下部に煤付着
20-54	18	±246	584 7.212m	縄文土器	精製 浅鉢	晩期	第3遺構面 O2	SX25				(外) 丁寧なミガキ。1条の平行沈線文。額部は強く屈曲する(内)丁寧なミガキ	微砂粒子を多く含む 不良	(外) 灰黄褐色 2.5Y6/2 (内) 灰褐色 2.5Y6/2	4×2cm角破片	

土器観察表

標団 番号	固版 番号	実測 番号	出土番号	出土標高	種類	器種	時期 型式	接出造横面 グリッド	造構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
26-55	18	土28	532	7.142m	縄文土器	有文 深鉢 口縁部	晩期：Ⅲ期	第3造横面 N2	—	灰色砂 層				(外) 調整不明。上へのリボン状突起。外へのリボン状突起？ (内) 調整不明	砂粒子（石英など）少 量含む 良好	(外) 噴灰黄色 2.5Y4/2～黒褐色 2.5Y3/1 (内) 噴灰黄色 2.5Y4/2～黒褐色 2.5Y3/1	5 × 3 cm角破片
26-56	18	±25	—	—	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第3造横面 M3	—	黃褐色 砂礫層				(外) 粗雑なナデ (内) 口縁端部に上からの刻目。ナ デ	1.5 mm以下の砂粒子（石 英・ディサイト岩片など） 含む やや不良	(外) 黒褐色 2.5Y3/1 (内) 反灰褐色 10YR4/2	5.5 × 3.5 cm角破片
26-57	18	±28	1361	6.864m	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第3造横面 N3	—	灰色砂 礫層				(外) 口縫端部に前からの刻目。小 さなD字状。調整不明 (内) 調整不明	2.5 mm以下の砂粒子（石英 ・ディサイト岩片・角閃 石など）やや多く含む 良好	(外) 灰黄色 2.5Y7/2 +黒褐色 2.5Y3/1 (内) 黄灰色 2.5Y4/1	6 × 3 cm角破片
26-58	18	±27	—	—	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第3造横面 M1	—	黃褐色 砂礫層	(26.8)			(外) 口縫端部に丸みをもつた平坦 面をつくり上から刻目を施す。ナ デ。粗雑なナデ（器面が凸凹している） (内) ナデ	2.5 mm以下の砂粒子（ディ サイト岩片・石英など） やや多く含む 良好	(外) 反灰褐色 10YR5/2 (内) 黄褐色 10YR4/2	頭部約1/9存。外面口縫部に黒斑？
26-59	18	±26	—	—	縄文土器	粗製 深鉢	晩期	第3造横面 M1	—	黃褐色 砂礫層				(外) やや粗雑なナデ（器面に凹 がみられる） (内) ナデ？	1 mm以下の砂粒子（石英 ・長石など）やや少含 む 良好	(外) 反灰褐色 5Y4/2 (内) にぶい黄色 2.5Y6/3	4.5 × 4 cm角破片
26-60	18	±29	517	7.19m	縄文土器	刻目突堤 深鉢	晩期： IV～V期	第3造横面 O3	—	灰色砂 層				(外) 口縫端部上からの刻目。貝 殻条痕のナデ。突堤付のち刻 目。貝殻条痕 (内) 卷貝条痕+ナデ	1 mm以下の砂粒子（ディ サイト岩片・石英など） 及び若干の2 mm以上の砂 粒子を含む 良好	(外) 反灰褐色 10YR4/2 (内) 黑褐色 10YR2/2	13 × 7 cm角破片。外面煤付着。刻 目突堤・口端距離5～7mm、突出高2.5 ～4 mm、刻目幅2～6 mm、D字状
26-61	37	±30	18	7.144m	縄文土器	刻目突堤 深鉢	晩期：V期	第3造横面 O3	—	灰色粘 砂層	(34.4)			(外) 口縫端部に上から外側寄りの 刻目。ナデ。突堤付のち刻目。 卷貝条痕。卷貝条痕の粗雑なナ デ (内) 卷貝条痕+ナデ	1.5 mm以下の砂粒子（ディ サイト岩片・石英など） やや多く含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/3～灰褐色 10YR5/2 (内) 反灰褐色 2.5Y6/2 +黒褐色 2.5Y3/1	体部上半約1/1存。外面中位に煤 吸着、内面下位に内容物付着。刻 目突堤・口端距離8～9 mm、突出高3 ～4 mm、刻目幅1～3.5 mm、V字状
27-62	18	土28	13	7.182m	縄文土器	刻目突堤 深鉢	晩期： IV～V期	第3造横面 O3	—	灰色砂 層				(外) 口縫端部上からの刻目。ナ デ。突堤付のち刻目。卷貝条痕。卷 貝条痕+カズリ（右下～左上） (内) 貝殻条痕+ナデ	1.5 mm以下の砂粒子（石 英・長石・ディサイト岩 片・橙色粒子など）含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/3～にぶい棕 褐色 SYR7/4 (内) 反灰褐色 7.5YR4/2 +黒褐色 10YR3/1	12.5 × 12 cm角破片。外面所々に煤 付着。刻目突堤・口端距離9～11 mm、 突出高3～5 mm、刻目幅0.5～1.5 mm, 筋状～V字状
27-63	18	±37	24	7.226m	縄文土器	刻目突堤 深鉢	晩期： IV～V期	第3造横面 O3	—	灰色砂 層				(外) 口縫端部に上からの刻目。ナ デ。突堤付のち少下に工具が当たった痕跡あり。 やや粗 雑なナデ（器面が凸凹している） (内) やや粗雑なナデ（器面が凸 凹している）	1 mm前後の砂粒子を多く 含む 良好	(外) 反灰褐色 10YR6/2 (内) 黑褐色 2.5Y3/1	3 × 3 cm角破片。外側煤付着。刻目 突堤・口端距離8 mm、突出高3.5～ 4 mm、刻目幅2～2.5 mm、V字状
27-64	18	±37	473	7.205m	縄文土器	刻目突堤 深鉢	晩期：V期	第3造横面 O3	—	灰色砂 質土				(外) 口縫端部に下からの刻目。ナ デ。突堤付のち刻目（少し下に 工具が当たった痕跡あり）。ナ デ。粗 雑なナデ（器面が凸凹している） (内) やや粗雑なナデ（器面が凸 凹している）	1 mm以下の砂粒子（ディ サイト岩片・石英など） 含む 良好	(外) 反灰褐色 10YR4/2 (内) にぶい黄褐色 10YR5/3	6.5 × 4.5 cm角破片。刻目突堤・口 端距離7～8 mm、突出高3～4 mm, 刻目幅1～2.5 mm、V～小さなD字 状
27-65	18	±32	491	7.128m	縄文土器	刻目突堤 深鉢	晩期：V期	第3造横面 O2	—	灰色砂 層				(外) 口縫端部に外側へ刻目。ナ デ。突堤付のち刻目。雲母あり (内) ナデ	1 mm以下の砂粒子をまば らに含む、雲母あり 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/2 (内) にぶい黄褐色 10YR7/2	6.5 × 3.5 cm角破片。外面煤付着。 刻目突堤・口端距離9～12 mm、突 出高3 mm、刻目幅6～9 mm、D～ O字状（工具を押し付けた感じ）

## 土器観察表

博団 番号	因版 番号	実測 取上番号	出土標高	種別	器種	時期 型式	検出遺構面 グリッド	遺構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
27-66	18	±324	-	縦文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：V期	第3遺構面 O2	-	灰色砂 質土				(外) 口縁端部外側に長めの刻目。調整不明。突帯貼付のち刻目。貝殻条痕のちナデ。(内)ナデ	1mm前後の砂粒子をまばらに含む 良好	(外) 灰黄褐色 10YR4/2 (内) 暗褐色 2.5Y5/2	5 × 3.5 cm角破片。現状で1ヶ所の焼成後穿孔あり。刻目突帯：口端距離6～8 mm、突出高3 mm、刻目幅5 mm、逆D字状
27-67	18	±259	-	縦文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：V期	第3遺構面 M1	-	黄色砂 質土				(外) 口縁端部に上から向外方に浅い刻目。ナデ。突帯貼付のち刻目。(内)ナデ	1.5 mm以下の砂粒子(石英・長石など)多く含む 良好	(外) オリーブ黒色 5Y3/1 (内) オリーブ黒色 5Y3/1	4 × 2.5 cm角破片。2ヶ所の刻目はかなり退化したもの。刻目突帯：口端距離2～3 mm、突出高1.5～2 m、刻目幅3～4 mm、D字状(工具を押しつけた感じ)
27-68	18	±304	514 7.266m	縦文土器	波状口縁 刻目突帯 深鉢	晩期：V期	第3遺構面 O3	-	灰色砂 層				(外) 口縁端部にやや粗雑な平坦面をつくる。ナデ。突帯貼付のち刻目(上部に刻目のキズ痕あり)。ヘラ描施文？(内)ナデ	微砂粒子を含む 良好	(外) 灰黄褐色 10YR6/2 (内) 黒褐色 10YR3/1	4.5 × 3 cm角破片。外面保付層。内面被熱したの黒色化。波状口縁に平行した刻目突帯：口端距離4～6 mm、突出高3～3.5 mm、刻目幅2.5～3.5 mm、V字状
27-69	18	±335	484 7.214m	縦文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：V期	第3遺構面 O2	-	灰色砂 層				(外) 貝殻条痕のちナデ。突帯貼付のち刻目。(貝殻条痕)(内)ナデ	微砂粒子を含む 良好	(外) 灰黄褐色 10YR6/2 (内) 不明	3 × 3 cm角破片。外面全体に焼付層、内面全体に黒色化した内容物付着。刻目突帯：口端距離3.5～4.5 mm、突出高3～4 mm、刻目幅1 mm、一応D字状
27-70	18	±320	519 7.206m	縦文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：V期	第3遺構面 O2	-	灰色砂 層				(外) 口縁端部は較く尖る。ナデ。突帯貼付のち刻目。(内)ナデ	1mm以下の砂粒子(ディサイト岩片・石英など)多く含む 良好	(外) 黒色 2.5Y2/1 ~灰青色 2.5Y6/2 (内) 黑色 2.5Y2/1	6.5 × 6 cm角破片。刻目突帯：口端距離10～11 mm、突出高2.5～4 mm、刻目幅6 mm、一花D字状
27-71	19	±330	508 7.236m	縦文土器	刻目突帯 深鉢	晩期： V～VI期	第3遺構面 O2	-	灰色砂 層				(外) 口縁端部は外へ丸めておさまる。突帯貼付のち刻目。貝殻条痕のちナデ。(内)貝殻条痕のちナデ	2 mm以下の砂粒子(石英・ディサイト岩片など)や多く含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/3 (内) 黑褐色 2.5Y3/1	18 × 12 cm角破片。外面口縁～底部に保付層、内面口縁～底部に黒色化した内容物付着。刻目突帯：口端距離5～6 mm、突出高4～5 mm、刻目幅2～3 mm、小さなD字状
27-72	19	±340	-	縦文土器	無刻目突帯 深鉢	晩期： VI期	第3遺構面 M3	-	黃褐色 砂質層				(外) ナデ。突帯貼付。粗雑なナデ。(内)ナデ。やや粗雑なナデ(貝殻使用か)	2 mm以下の砂粒子(ディサイト岩片など)含む 良好	(外) 灰黃褐色 10YR5/2～にぶい橙色 2.5Y6/2 (内) にぶい黄褐色 10YR7/3	体部上半部1/6存。外面突帯文字下に保付層。無刻目突帯：口端距離0～3 mm、突出高6～7 mm
27-73	18	±338	516 7.184m	縦文土器	2条 刻目突帯 深鉢底部	晩期： IV～V期	第3遺構面 O2	-	灰色砂 質土				(外) ナデ。突帯貼付のち刻目。ケズリ？(右→左)(内)貝殻条痕のちナデ	1mm前後の砂粒子を含む 良好	(外) 不明 (内) 黑褐色 2.5Y3/1	6 × 4.5 cm角破片。外面全体に保付層に付着。刻目突帯：下段：突出高6～7 mm、刻目幅6～7 mm、横長のD字状
27-74	18	±348	-	縦文土器	2条 刻目突帯 深鉢	晩期：V期	第3遺構面 M2	-	黃褐色 砂質層	(24.9)			(外) 口縁端部に上の押し付けたような刻目。粗雑なナデ。2条の突帯貼付のち刻目。(内)貝殻条痕のちナデ	1.5 mm以下の砂粒子(ディサイト岩片・石英など)含む 良好	(外) 黄褐色 2.5Y5/1 (内) 不明	口縁部約1/9存。外面の一部に保付層、刻目突帯：口端距離2.5～5 mm；上段：突出高2.5～3 mm、刻目幅3.5～5 mm、D字状、下段：突出高2～4 mm、刻目幅4～6 mm、D字状
28-75	19	±181	-	縦文土器	有文 深鉢	後期後半	第3遺構面 M1	-	黃褐色 砂質層				(外) 調整不明。現状で最右に1点の刻文。1条の平行次第文+刺突文、連続刺突文(内)調整不明	2 mm以下の砂粒子(石英・長石など)やや多く含む 良好	(外) 黄褐色 2.5Y4/1 (内) 黄褐色 2.5Y4/1	4.5 × 2 cm角破片
28-76	19	±39	-	縦文土器	ボウル形 深鉢	後期？	第3遺構面 M2	-	黃褐色 砂層				(外) ナデ(表面が凸凹してやや厚手なため粗雑な感じを受ける)(内)ミガキ	1.5 mm以下の砂粒子(石英・ディサイト岩片・角閃石など)含む 良好	(外) 黒色 2.5Y2/1 ~黄褐色 2.5Y4/1 (内) オリーブ黒色 5Y3/1	7.5 × 7.5 cm角破片。内面に縦位の使用時の擦痕が観察される

土器観察表

標団 番号	図版 番号	実測 番号	出土番号 出土標高	種別	器種	時期 型式	接出造構面 グリッド	造構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
28-77	20	±308	476 7.278m	縄文土器	ボウル形 浅鉢	晩期	第3造構面 O3	—	灰色砂 質土	(21.2)	(9.8)	6.9	(外)ミガキ? ナデ (内)丁寧なナデ	微砂粒子(石英・角閃 石・ディサイト岩片など) やや多く含む 良好	(外)にぶい黄橙色 10YR8/3 (内)にぶい黄橙色 10YR8/3～暗灰黃 色 2.5Y4/2	底部ほぼ完削。やや凸凹みの平底。 外側一部に黒色付着物あり(煤とは 違い、漆のような気がするが?)
28-78	20	±309	532 7.142m	縄文土器	ボウル形 精製 浅鉢	晩期	第3造構面 N2	—	灰色砂 層	(24.3)	(13.2)		(外)ミガキ。底部調整不明 (内)ミガキ	1mm以下の砂粒子(ディ サイト岩片・石英など) 含む 良好	(外)褐灰色 10YR4/1 ～黒色 2.5Y2/1 (内)黄灰色 2.5Y4/1	体部約1/4存。黒色磨研土器? 現 状で1ヶの焼成後穿孔(内～外)あり。 底部周辺にドーナツ状の粘土剣がれ 痕があるため底面か?
28-79	19	±309	1379 6.866m	弥生土器	甕	縄文晚期： V1期／ 弥生前南： 松本1-1	第3造構面 M3	—	黄褐色 砂礫層	(36.0)			(外)如意形口縁。底部に段り。 タケハケ目(單位細かい)のちナデ タケハケ目(單位細かい)。斜めタ ハケ目(單位太い)。ヨコハケ目 (單位太い)。ヨコハケ目(單 位細かい)。 (内)ハケ目のちナデ。ヨコハケ目 (頭部やや下まで単位細く、それ 以下は単位太い)	1.5 mm以下の砂粒子(石 英・長石など) 含む 良好	(外)浅黃色 10YR8/3～にぶい黃 色 10YR8/3 (内)にぶい黃橙色 10YR7/2	体部上半部1/8存。外側に煤付着(特 に段周辺にこびり付き調整が観察で き)
28-80	19	±354	16 7.086m 17 7.216m	弥生系土器	底部	縄文晚期： V1期／ 弥生前南	第3造構面 O3	—	灰色砂 層		(6.2)		(外)縱方向のナデ。底面はナデ (内)ナデ	1 mm大の砂粒子(石英・ 長石・ディサイト岩片など) やや多く、又若干の 3 mmの大砂粒子を含む 良好	(外)にぶい黃橙色 10YR7/2～黃灰色 2.5Y6/1 (内)暗灰黃色 2.5Y5/2	底部約1/3存。上げ底
31-81	20	±347	706 6.964m	縄文土器	刻目突唇 深鉢	晩期：IV期	第4造構面 N2	SX32					(外)調整不明。突唇貼付のち刻 目 (内)口縁端部は上からのかく目。 貝殻集落のナデ	1 mm以下の砂粒子を含む 良好	(外)不規 (内)灰黃褐色 10YR5/2	3 × 2 cm角破片。外側全体に保護着。 刻目突唇：口端距離8～9 mm、突 出高4.5～5 mm、刻目幅3～4 mm、 深いV字状
31-82	20	±352	702 6.944m	縄文土器	刻目突唇 深鉢	晩期： IV～V期	第4造構面 N2	SX32					(外)口縁端部は上からの刻目。 調整不明。突唇貼付のち刻目 (内)粗雑なナデ	1 mm前後の砂粒子を含む 良好	(外)黒褐色 10YR2/2 (内)暗灰黃色 2.5Y5/2	2.5 × 1.5 cm角破片。外側全体に保 護着。刻目突唇：口端距離7 mm、突出高3～5 mm、刻目幅5 mm、 D字状
31-83	20	±382	704 6.908m 705 6.908m	縄文土器	刻目突唇 深鉢	晩期：V期	第4造構面 N2	SX32			(28.0)		(外)口縁端部は上からの刻目。ナ デ。突唇貼付のち刻目 (内)ナデ	1 mm前後の砂粒子をまばらに含む 良好	(外)黒褐色 2.5Y3/2 (内)暗灰黃色 2.5Y4/2	口縫部約1/9存。現状で1ヶ所の燒 成後穿孔あり(内外両面から穿孔)。 外側口縫部に煤付着。内面口縫 部に黒鉛あり。刻目突唇：口端距離 3～5 mm、突出高3～4 mm、刻目幅 1.5～4 mm、D字状
34-84	20	±32	—	縄文土器	粗製 深鉢	後期中葉 (縄文中期) 沖文	第4造構面 M2	SR新	灰色砂 礫層				(外)調整不明 (内)口縁端部はつまむように押し つけ、そのため尖る。強いナデに より口縫部を区別する。ナデ	1 mm以下の砂粒子(石英・ 長石など) 含む 良好	(外)灰黃褐色 10YR5/2 (内)にぶい黃橙色 10YR8/3	9 × 8 cm角破片。貼付による口縫部
34-85	20	±32	—	縄文土器	有文 深鉢頭部	後期中葉 (縄文中期) 沖文～櫻現 山?	第4造構面 M1	SR新	灰色砂 礫層～ 灰色粘 質土				(外)崩潰し。太い凹線文。縄文 帯 RL。崩潰し (内)丁寧なナデ	1.5 mm以下の砂粒子(石 英・長石など) 含む 良好	(外)浅黃色 2.5Y7/3 (内)灰白色 2.5Y7/1	5.5 × 4.5 cm角破片
34-86	20	±32	—	縄文土器	波状口縫 粗製 深鉢	後期	第4造構面 N2	SR新	黄褐色 砂礫層				(外)粗雑なナデ?(凹凸著しい) (内)口縫部に浅い凹線文? ナデ もやや不良	2 mm以下の砂粒子(石 英・長石など) やや多く含む やや不良	(外)褐褐色 7.5YR4/1 ～暗褐色 7.5YR4/2 (内)灰黃褐色 10YR8/2	10 × 9 cm角破片

## 土器観察表

博団 番号	因版 番号	実測 数上番号	出土標高	種別	器種	時期 型式	検出遺構面 グリッド	遺構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
34-87	20	±0	-	縄文土器	粗削 深鉢	後期	第4遺構面 M3	SR新	灰色砂 礫層				(外) 調整不明 (内) 調整不明	1mm以下の砂粒子(石英 ・長石・デイサイト岩片 など)多く含む 良好	(外) 黄灰色 2.5Y4/1 (内) 噴灰黄色 2.5YS/2	8.5 × 3.5 cm角破片。口縁端部に平 坦面あり。外面は粘土貼付痕が明瞭 にみえる
34-88	20	±24	-	縄文土器	口端削目 深鉢	晩期・三期	第4遺構面 M3	SR新	灰色砂 礫層				(外) 口縁端部に上からの大好きな刻 目・貝殻条痕+ナデ (内) ナデ。ケズリ(右→左)	2mm以下の砂粒子(石英 など)含む 良好	(外) 黄灰褐色 10YR8/2 (内) にしい黄褐色 10YR7/2	5 × 3.5 cm角破片
34-89	20	±22	-	縄文土器	口端削目 深鉢	晩期・三期	第4遺構面 M1	SR新	灰色砂 礫+灰 色粘質 土層				(外) 貝殻条痕のちナデ (内) 口縁端部上からの刻目。ナ デ	1.5mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英など) 多く含む 良好	(外) 黄灰色 2.5Y4/1 ~黒褐色 2.5Y3/1 (内) 黑褐色 2.5Y3/1	7 × 5 cm角破片
34-90	20	±26	-	縄文土器	口端削目 深鉢	晩期・三期	第4遺構面 M2	SR新	灰色砂 礫層				(外) 口縁端部に上からの刻目。 貝殻条痕のち粗雑なナデ (内) 貝殻条痕のちナデ	2mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英など) 及び若干の3mm大的の砂 粒子含む 良好	(外) 白灰色 10YR8/2 ~にしい褐色 5YR7/3 (内) 白灰色 10YR8/2 ~にしい褐色 5YR7/3	口縁部約 1/10 存
34-91	20	±23	-	縄文土器	口端削目 深鉢	晩期・三期	第4遺構面 M3	SR新	灰色砂 礫層				(外) 口縁端部に上からの小さな刻 目。貝殻条痕のちナデ (内) ナデ	1.5mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英など) 及び若干の2~3mm大的 の砂粒子含む 良好	(外) 浅黄色 2.5Y7/3 (内) 浅黄色 2.5Y7/3	7.5 × 6 cm角破片。外面に黒斑あり
34-92	21	±36	600 ±200m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期・IV期	第4遺構面 M3	SR新	灰褐色 砂礫層				(外) 口縁端部大きな刻目(外か ら)。突帯貼付のち刻目。粗雑な ナデ (内) ナデ	1.5mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英など) 含む 良好	(外) 黑色 2.5Y2/1 ~浅黄色 2.5Y7/3 (内) 黑色 2.5Y2/1	8 × 6.5 cm角破片。現状で2ヶの穿 孔(外から内へ)あり。刻目突帯: 口縫距離 11mm、突出高 8mm、刻目 幅 6~8mm、D字状
34-93	21	±34	-	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期・IV期	第4遺構面 M1	SR新	砂礫層				(外) 口縁端部に上から外面に刻 目・ナデ。突帯貼付のち刻目。 (内) やや粗雑なナデ	1.5mm以下の砂粒子(石 英など)にしい黄褐色 含む 良好	(外) 黑色 2.5Y2/1 ~にしい褐色 5YR7/2 (内) 灰褐色 10YR6/1 ~黒褐色 10YR3/1	3 × 2.5 cm角破片。刻目突帯: 口縫距離 10~11mm、突出高 5~7mm、 刻目幅 6mm、D字状
34-94	21	±39	688 ±300m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期・IV期	第4遺構面 M3	SR新	灰色砂 礫層				(外) 口縁端部に外側へ刻目。ナデ。 突帯貼付のち刻目。貝殻条痕+ナ デ (内) ナデ(指頭痕られる)。巻 貝痕痕	2mm以下の砂粒子(石英 など)含む 良好	(外) 反灰褐色 10YR9/2 (内) 反灰褐色 2.5Y6/2 ~黒褐色 2.5Y3/1	11.5 × 10 cm角破片。外面所々に煤 付着。刻目突帯: 口縫距離 7~8mm, 幅 8~10mm、突出高 5mm、刻目幅 4~9mm、大きなD字状。内面に巻 貝・シゲル種子が混入(FYK0006 試 料)
34-95	21	±34	1451 ±53m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期・IV期	第4遺構面 N3	SR新	暗灰色 粘土層	(36.8)			(外) 口縁端部に外側へ刻目(外寄 りに〇字状の工具を押しつける)。 突帯貼付のち刻目(施文具が半截 竹簡状で右→左へ引っ掛け上げる ように)。粗雑なナデ (内) 貝殻条痕のちナデ。ナデ	2mm以下の砂粒子(石英 など)含む 良好	(外) 噴灰褐色 10YR4/1 ~黒褐色 10YR3/1 (内) 黑色 10YR2/1	体部上半約 1/8 存。外面の大部分 に煤びり付。刻目突帯: 口縫距 離 8~10mm、突出高 5mm、刻目幅 4~9mm、大きなD字状。内面に巻 貝・シゲル種子が混入(FYK0006 試 料)
35-96	21	±27	-	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期・ IV~V期	第4遺構面 M3	SR新	灰褐色 砂礫層				(外) 口縁端部に刻目(外に向くよ うに)。ナデ。突帯貼付のち刻目 (内) ナデ	1mm以下の砂粒子(石英 など)含む 良好	(外) 灰黃褐色 10YR8/2 (内) 灰黃褐色 10YR8/2 ~ 4/2	5.5 × 2 cm角破片。外面に若干の 煤付着。刻目突帯: 口縫距離 7~8mm, 突出高 5~6mm、刻目幅 1.5~2 mm, 小さなD字状
35-97	21	±38	-	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期・V期	第4遺構面 M1	SR新	青褐色 砂礫層				(外) 口縁端部外面に刻目。口縫 端と突帯文の間に沈線。突帯貼付 のち刻目。貝殻条痕のちナデ (内) ナデ	2mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英など) 含む 良好	(外) 灰色 5Y5/1 (内) 噴灰褐色 10YR5/2	7 × 4 cm角破片。刻目突帯: 口縫距 離 8~9mm、突出高 3~4.5mm、刻 目幅 3~3.5mm、D字状

土器觀察表

拂因 番号	因版 番号	実測 番号	出土番号	器種	時期 型式	接出透構面 グリッド	透構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
35-98	21	±27	-	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第4透構面 M3	SR新	灰色砂 礫層			(外) 口縁部外側に刻目(工具を 強く押付けたもの)。貝殻条痕 のナデ。突蒂貼付のち刻目 (内) やや粗雑なナデ	2 mm以下の砂粒子(石英 デイサイト岩片など)含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR8/3 (内) 黒褐色 2.5Y2/1	5 × 4 cm角破片。外面煤付着。刻 目突蒂: 口端距離 7 ~ 9 mm、突出高 3 ~ 4 mm、刻目幅 5 mm、D字状
35-99	21	±27	1378	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第4透構面 M3	SR新	黃褐色 砂礫層			(外) 口縁部外側に刻目を施す。 粗雑なナデ。突蒂貼付のち刻目 (内) ナデ	1 mm以下の砂粒子(ディ サイト岩片・石英など) 含む 良好	(外) 黒褐色 2.5Y2/1 (内) 黑褐色 2.5Y3/1	5 × 4 cm角破片。上下の刻目は退化 した感じを受け。突蒂は口縫部か らなり下。刻目突蒂: 口端距離 21 mm、突出高 5 mm、刻目幅 5 ~ 7 mm, D字状(間隔空き)
35-100	21	±27	-	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第4透構面 M1	SR新	灰色砂 礫層			(外) ナデ。口縁部外側からの 刻目(D字状の工具で突いていたい), 突蒂貼付のち刻目 (内) やや丁寧なナデ	2 mm以下の砂粒子(ディ サイト岩片・石英など) 含む 良好	(外) 黃褐色 2.5Y5/1 ~ 4/1 (内) 黄褐色 2.5Y5/1 ~ 4/1	5 × 3.5 cm角破片。刻目突蒂: 口端 距離 4 ~ 5 mm、突出高 3 ~ 4 mm, 刻目幅 2.5 ~ 3 mm、D字状
35-101	21	±27	-	縄文土器	刻目突蒂 小型深鉢	晩期：V期	第4透構面 M2	SR新	黃褐色 砂礫層			(外) 口縁部小さな刻目(上から), 突蒂貼付のち刻目。 (内) 貝殻条痕のナデ(口縫部付 近に指揮書きによる凹みあり)	1 mm大の砂粒子(ディサ イト岩片など)含む 良好	1 mm大の砂粒子(ディサ イト岩片・石英など) 含む 良好	口縫部約 1.8 厘米。刻目の大きさの割 に幅広い突蒂: 口端距離 1 ~ 2 mm, 突出高 3 ~ 5 mm、刻目幅 1.5 ~ 3 mm, V字状。
35-102	21	±27	-	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期： IV ~ V期	第4透構面 N3	SR新	黃褐色 砂礫層			(外) ナデ。突蒂貼付のち刻目。 貝殻条痕のナデ (内) 貝殻条痕のナデ	1.5 mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英など) 含む 良好	(外) 黄褐色 2.5Y5/1 (内) オリオーブ黒色 5Y3/1	4.5 × 3.5 cm角破片。刻目突蒂: 突 出高 6 ~ 7 mm、刻目幅 2.5 ~ 3.5 mm, V字状
35-103	21	±28	-	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第4透構面 M3	SR新	灰色砂 礫層			(外) ナデ。突蒂貼付のち刻目。 粗雑なナデ (内) ナデ	1 mm以下の砂粒子(石英 デイサイト岩片など)含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/3 (内) にぶい黄褐色 10YR7/3	4.5 × 4 cm角破片。刻目突蒂: 口端 距離 3 mm、突出高 6 ~ 8 mm、刻目 幅 3 ~ 5 mm、D字状
35-104	37	±3	601 622m 605 6224m 604 623m 606 612m	縄文土器	花押形 刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第4透構面 M3	SR新	灰色砂 礫層 (32.2 ~ 34.4)	36.0	6.0	(外) 突蒂貼付ナデ付のち刻目施 文。粗雑なナデ(砂移動下へ上、 右→左が觀察される) (内) ナデ	2 mm以下の砂粒子(石英 長石など)含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/2 ~ 黒灰色 10YR8/1 (内) にぶい黄褐色 10YR7/3 ~ 黑褐色 5Y5/1	崩上半部約 1/6 欠損、底部完形(自 立しない平底ぎの丸底)。口縫部 は形成時に逆位で作られ重みで外側 に折れ曲がつて裏面を有り、外側 は脇支文方式から脇部下まで縫付 着。内面: 脇部中央 1/4 周に内部物 付着、脇部下位全周に内部物及びお こげ着、一本のくずれあり。内面 に粘土棒痕観察される。刻目突蒂: 口端距離 5 ~ 6 mm、突出高 3 ~ 5 mm, 刻目幅 5 ~ 8 mm、D字状
35-105	21	±28	-	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第4透構面 M1	SR新	灰色砂 礫層			(外) ナデ。突蒂貼付のち刻目 (内) ナデ	微砂粒子(ディサイト岩 片・石英など)及び若干 の 1.5 mm 大の砂粒子含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/3 (内) にぶい黄褐色 10YR7/3	7.5 × 3 cm角破片。外面に煤付着。 刻目突蒂: 口端距離 4.5 ~ 6 mm、突 出高 3.5 ~ 5 mm、刻目幅 4 ~ 4.5 mm, D字状
35-106	21	±27	-	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：VI期	第4透構面 M3	SR新	砂礫層			(外) ナデ。突蒂貼付のち刻目 (内) やや粗雑なナデ (内) ナデ	1.5 mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英など) 含む 良好	(外) 黄褐色 10YR8/2 (内) 黄褐色 10YR8/2	4 × 3.5 cm角破片。外面突蒂文下に 煤付着。刻目突蒂: 口端距離 0 mm、 突出高 6 ~ 8 mm、刻目幅 1.5 ~ 2 mm, V字状
35-107	21	±28	-	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：VI期	第4透構面 M3	SR新	灰色砂 礫層			(外) ナデ。突蒂貼付のち刻目 (内) やや粗雑なナデ(単位の凸 がみられる)	1 mm以下の砂粒子(石英 デイサイト岩片など)や や少量含む 良好	(外) 黑褐色 10YR3/2 (内) 黑褐色 2.5Y3/1	4.5 × 4 cm角破片。刻目突蒂: 口端 距離 6 ~ 8 mm、突出高 3 ~ 5 mm, 刻目幅 1.5 ~ 3 mm、細い D 字状

## 土器観察表

埠団 番号	因版 番号	実測 取上番号	出土標高	器種	時期 型式	後出造横面 グリッド	造構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調査	胎土・焼成	色調	備考
35-108	21	±27	-	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：VI期	第4造横面 M1	SR新	黄褐色 砂礫層			(外)突蒂貼付のち刻目。ナデ？ (内)ナデ	1.5 mm以下の砂粒子(石英・デイサイト岩片など) 含む 良好	(外)灰黃褐色 10YR5/2 (内)暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	5.5 × 4 cm角破片。刻目突蒂：口端距離 0 mm、突出高 3.5 ~ 5 mm、刻目幅 4 ~ 5 mm。逆D字状
36-109	21	±24	1391 6.27m	縄文土器	無刻目突蒂 深鉢	晩期：VI期	第4造横面 M3	SR新	黄褐色 砂礫層			(外)やや粗雑なナデ。突蒂貼付 (内)ナデ	1.5 mm以下の砂粒子(石英・デイサイト岩片・結晶片岩片など)含む やや良好	(外)に似る黄褐色 10YR7/3 (内)黒褐色 10YR3/1	9.5 × 6.5 cm角破片。外腹突蒂下に煤付着。無刻目突蒂：口端距離 8 mm、突出高 5 mm
36-110	21	±26	-	縄文土器	無刻目突蒂 深鉢	晩期：VI期	第4造横面 N2	SR新	黄褐色 砂礫層			(外)調整不明。突蒂貼付 (内)ナデ	2 mm以下の砂粒子(デイサイト岩片・石英など) やや多く含む 良好	(外)灰白色 10YR7/1 (内)灰白色 10YR7/1 ~灰黃褐色 10YR4/2	6 × 5 cm角破片。刻目突蒂：口端距離 6 mm、突出高 6 ~ 7 mm
36-111	21	±22	-	縄文土器	有文 浅鉢	後期前葉 (島式)	第4造横面 M3	SR新	黄褐色 砂礫層			(外)現状で3条の回線文。その間は磨消し縄文と思われる(縄文が観察される面があるため)。縄文RL？ (内)ナデ	1 mm以下の砂粒子(石英・長石など)が多く、また若干の2 mm以上の砂粒子を含む 良好	(外)灰褐色 10YR4/1 (内)に似る黄褐色 10YR6/3	7 × 3 cm角破片。口縁部は内渦し縫部は厚くをもつ。
36-112	21	±20	-	縄文土器	波状口縁 浅鉢	晩期： IV～V期	第4造横面 M2	SR新	黄色砂 礫層	(25.7)		(外)ミガキ？ 總部は強いミガキによる屈曲。ケズリ(右→左) (内)ミガキ？ 總部強いミガキによる屈曲	1 mm以下の砂粒子(石英など) やや多く含む 良好	(外)に似る黄褐色 10YR7/2 (内)黒褐色 10YR3/1 ~灰黃褐色 10YR8/2	頭部約 1/7 存
36-113	21	±28	-	縄文土器	浅鉢	晩期前半	第4造横面 M1	SR新	灰色砂 礫層			(外)ミガキ。頭部に強いミガキ。頭部最も大径部頂上に回綱状のミガキ。 ナデ (内)ミガキ	1 mm以下の砂粒子(石英・長石など)含む 良好	(外)黒色 2.5Y2/1 (内)黒色 2.5Y2/1 ~灰黃褐色 2.5Y5/1	6 × 5 cm角破片。外正面頭部に赤色塗彩(水銀朱)が少し残存。頭部上半が内渦し、口縁部が短く「C」の字形に屈曲するタイプ(測定 NoG3)
36-114	21	±26	-	縄文土器	浅鉢	晩期：IV期	第4造横面 M2	SR新	灰色砂 礫層			(外)調整不明。頭部屈曲、口縁部外反。ケズリ(右→左) (内)ミガキ？	1 mm以下の砂粒子(デイサイト岩片・石英など) 良好	(外)灰白色 2.5Y8/1 ~灰黃褐色 2.5Y5/1 (内)灰白色 2.5Y8/2	5.5 × 5 cm角破片。外面口縁部に若干の煤付着。内面の一部に内容物付着
36-115	21	±28	-	縄文土器	浅鉢	晩期：V期	第4造横面 M3	SR新	砂礫層			(外)口縁端部は丸め込む。丁寧なミガキ(単位を消している)。頭部は屈曲せず (内)ミガキ。口縁部に幾条の平行沈線文	1 mm以下の砂粒子(石英など)及 び若干の2 mm以上の砂粒 含む 良好	(外)灰黃褐色 10YR5/2 ~ 暗灰色 10YR5/1 (内)灰黃褐色 10YR5/2 ~ 暗灰色 10YR5/1	6 × 3.5 cm角破片
36-116	22	±27	-	縄文土器	精製 浅鉢	晩期：V期	第4造横面 M2	SR新	砂礫層			(外)口縁端部は平坦面。ミガキ。丁寧なミガキ(単位を消すとしている)。頭部の接合面 (内)ミガキ。口縁部に強いミガキによる凹凸あり	微細粒子(石英など)及 び若干の2 mm以上の砂粒 含む 良好	(外)オーブル黒色 5Y3/1 (内)オーブル黒色 5Y3/1	7 × 2 cm角破片。黒色磨研土器
36-117	22	±28	1363 6.82m	縄文土器	精製 浅鉢	晩期：V期	第4造横面 N3	SR新	黄褐色 砂礫層			(外)口縁端部は平坦面。ミガキ。丁寧なミガキ(単位を消すとしている)。頭部の接合面 (内)ミガキ。口縁部に強いミガキによる凹凸あり	1 mm以下の砂粒子(石英など)含む 良好	(外)オーブル黒色 5Y3/1 (接合面：灰色 5Y5/1) (内)オーブル黒色 5Y3/1	7 × 4 cm角破片 ☆ 36-118 と同一個体の可能性あり
36-118	22	±20	1380 6.75m	縄文土器	精製 浅鉢	晩期：V期	第4造横面 N3	SR新	黄褐色 砂礫層			(外)ミガキ。頭部としての屈曲部 あり (内)頭部屈曲部の接合面あり。ミガキ	1 mm以下の砂粒子(石英など)含む 良好	(外)灰黃褐色 2.5Y4/1 (内)黒褐色 2.5Y3/1	7 × 5.5 cm角破片 ☆ 36-117 と同一個体の可能性あり

土器観察表

標団 番号	団版 番号	実測 番号	出土番号	出土標高	種別	器種	時期	接出透構面 グリッド	透構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
36-119	22	±228	1387 6.576m	縄文土器	浅鉢	晩期	第4透構面 M3	SR新	黄褐色 砂礫層					(外) 口縁部は平面をつくり、下方に沈孔を入れて玉縁状とする。 ミガキ。頭部屈曲す。 (内) やや粗雑なナデ	1mm以下の砂粒子(石英・ ・ダイサイト岩片など)及 び若干の3mmの大砂粒 含む 良好	(外) 暗灰黄色 2.5Y5/2 (内) 黒褐色 2.5Y3/1	8×6cm角破片。外面屈曲部～上約 1.5cm幅帯状に黒斑状
36-120	22	±277	—	縄文土器	粗製 浅鉢	晩期	第4透構面 N3	SR新	黄褐色 砂礫層					(外) ナデ。ケズリのちナデ。ケズ リ(右→左) (内) やや粗雑なナデ	1.5mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英など) 含む 良好	(外) 黄灰色 2.5Y6/1 ~5/1 (内) 黄灰色 2.5Y6/1 ~5/1	7×5cm角破片
36-121	22	±285	802 6.15m	縄文土器	ボウル形 浅鉢	晩期	第4透構面 M3	SR新	灰色砂 層					(外) やや粗雑なナデ (内) ミガキ	微砂粒子(石英・ディサ イト岩片など)少量含む やや不良	(外) 福灰色 10YR4/1 (内) 福灰色 10YR4/1	5.5×4.5cm角破片。全体に被熱を 受けてる
36-122	22	±286	—	縄文土器	ボウル形 浅鉢	晩期	第4透構面 M1	SR新	灰色砂 層～灰 色粘質 土層	(15.2)				(外) やや粗雑なナデ(指揮さえ痕 あり) (内) 丁寧なナデ(口縁部に頭部痕 あり)	微砂粒子(ディサイテ 岩片・石英など)含む 良好	(外) 黄灰色 2.5Y4/1 (内) 黑褐色 2.5Y3/1	口縁部約1/8存。外面に黒斑あり
36-123	37	±250	584 6.4m 595 6.43m	弥生系土器	壺	縄文晩期： VII期／ 夜臼式	第4透構面 M3	SR新	黄褐色 砂礫層	頭部 径 (25.0)	最大 径 (32.4)			(外) 丁寧なミガキ。頭部と頭部の 境に強いミガキによる段。ミガキ。 やや粗雑なミガキ(表面に凹凸が みられる) (内) 使用時または使用後(発寒後)の 被熱等によるぼろぼろ剥落	1.5mm以下の砂粒子(石 英・長石など)含む 良好	(外) にぶい橙色 5YR6/4 ~ 7.5YR7/3 +灰褐色 2.5Y5/2 (内) 淡黄色 2.5Y7/3 一部焼成時に被熱 のためか灰青褐色 10YR5/2	頭部頂部披段部約1/6存。外面に現 幅8cm帯状の黒光りする付着物あ り
37-124	22	±271	—	縄文土器	深鉢底部	後期～晩期	第4透構面 M2	SR新	黄褐色 砂礫層		(9.0)			(外) 調整不明 (内) ナデ	2mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英など) やや多く含む やや不良	(外) 黄灰色 2.5Y5/1 +黒褐色 2.5Y3/1 (内) 反黄褐色 10YR5/2	底部約1/5存。凹底
37-125	22	±274	—	縄文土器	深鉢底部	後期～晩期	第4透構面 M1	SR新	黄褐色 砂礫層		(8.1)			(外) 調整不明 (内) 調整不明	2mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英など) 含む やや不良	(外) 明赤褐色 5YR5/6 ~ 黑褐色 10YR5/1 (内) 黒色 2.5Y2/1	底部約1/5存。凹底
37-126	22	±289	593 6.404m	縄文土器	底部	晩期	第4透構面 M2	SR新	黄褐色 砂礫層		8.0 ~ 8.3			(外) 貝殻条痕のちミガキ。底部と 頭部の境に蛤壳粘貼付(高台状と する)。やや丁寧なナデ(器蓋がけ り) (内) ナデ	微砂粒子(ディサイテ 岩片・石英など)及び若干 の1.5mmの大砂粒子含 む 良好	(外) 黄灰色 2.5Y6/2 (内) 黄灰色 2.5Y4/1 10YR5/3	底部完形。凸底部(紐状土貼 付けのうち底部を指揮されることによ り、底部が凸状となる)。外面の一部 に被熱痕あり
37-127	22	±231	—	土製品	土器片鱗?	縄文晩期	第4透構面 M3	SR新	灰色砂 礫層	径 7.3 × 7.2	厚さ 0.75	重量 47.48g		(外) ナデ (内) 調整不明	1mm以下の砂粒子を多く 含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/3 (内) 淡黃褐色 10YR5/3	一部欠損。深鉢片を土器片鱗に加工 か？右側に抉り底？全体に磨滅
37-128	22	±218	—	土製品	土器片鱗?	縄文晩期	第4透構面 M3	SR新	灰色砂 礫層	径 5.8 × 5.6	厚さ 0.9	重量 36.25g		(外) ナデ (内) 貝殻条痕	1mm以下の砂粒子を多く 含む 良好	(外) にぶい橙色 5YR7/4 (内) 反黄褐色 2.5Y5/1 10YR5/3	完形。深鉢片を利用した土器片鱗 か？左右に抉り底？
37-129	22	±231	—	土製品	土器片鱗?	縄文晩期	第4透構面 N3	SR新	黄褐色 砂礫層	径 5.3 × 4.8	厚さ 0.6	重量 18.03g		(外) 調整不明 (内) 調整不明	1mm以下の砂粒子を多く 含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/4 (内) 暗灰黄色 2.5Y4/2	完形。深鉢片を利用した土器片鱗 か？上下に抉り底？

## 土器観察表

埠団 番号	因版 番号	実測 倅上番号	出土標高	種別	器種	時期 型式	検出遺構面 グリッド	遺構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調査	胎土・焼成	色調	備考	
38-130	23	±312	641 6,322m 642 6,3m 643 6,354m 644 6,366m 645 6,372m 646 6,392m 647 6,352m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：IV期	第4遺構面 O2	—	灰色砂 層	(31.7)				(外) 貝殻条痕のちナデ。突蒂付のち刻目。貝殻条痕(内) 口縁部に下から斜めに安く連續刻突文(外面は小さな瘤状となる)。貝殻条痕のちナデ。貝殻条痕のちナデ。	1mm以下の砂粒子(石英・ダイサイト岩片など)やや多く、又若干の1.5mm以上の砂粒子を含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/3 ~ オリーブ 黒色 7.5Y3/1 (内) 黒褐色 10YR3/1	部体上半約1/4存。外面全体に煤付着、特に底下半部はこびり付き。刻目突蒂：口端距離8~9mm、突出高4~6mm、刻目幅1.5~6mm、D字状
38-131	22	±311	622 7,092m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：IV期	第4遺構面 N3	—	黃褐色 砂質土					(外) 口縁端部に不揃いの刻目。ナデ。突蒂付のち刻目。貝殻条痕のちナデ (内) 貝殻条痕のちナデ。貝殻条痕のちナデ。	1mm以下の砂粒子(石英・ダイサイト岩片など)含む 良好	(外) 灰黄色 2.5Y6/2 2.5Y6/3 ~ 黑褐色 2.5Y3/2	9 × 8cm角破片。外端口縁部に黒斑あり。刻目突蒂：口端距離8~75mm、突出高4~7mm、刻目幅5~6.5mm、一応D字状
38-132	22	±310	666 6,854m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期： IV ~ V期	第4遺構面 N2	—	灰色砂 層					(外) 口縁端部に上から外側寄りの小さな不規則な刻目。やや粗雑なナデ。突蒂付のち刻目(内) ナデ	1mm前後の砂粒子をまばらに含む 良好	(外) 浅黄色 2.5Y7/3 2.5Y6/3 ~ 黑褐色 2.5Y3/2	4 × 3cm角破片。刻目突蒂：口端距離3~5mm、突出高4~5mm、刻目幅3~4mm、D字状
38-133	22	±310	676 6,834m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期： IV ~ V期	第4遺構面 N2	—	灰色砂 層					(外) 口縁端部に上から外側寄りの小さな刻目。ナデ。突蒂付のち刻目。粗雑なナデ (内) 貝殻条痕のちナデ	砂粒子、1mm前後の砂粒子をまばらに含む 良好	(外) 反灰褐色 10YR8/2 ~ 黑褐色 10YR3/1 (内) 黑褐色 10YR3/1	4.5 × 2cm角破片。刻目突蒂：口端距離11~12mm、突出高3~4mm、刻目幅3~4mm、D字状
38-134	22	±311	668 6,886m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期： IV ~ V期	第4遺構面 N2	—	灰色砂 層					(外) 口縁端部に上から外側寄りに小さな刻目。ナデ。突蒂付のち刻目(内) やや粗雑なナデ	1mm前後の砂粒子を含む 良好	(外) にぶい褐色 7.5YR6/3 (内) 黑褐色 2.5Y2/1	3 × 3cm角破片。外端口縁部(突蒂より上)に煤付着。刻目突蒂：口端距離8.5~10mm、突出高3mm、刻目幅1.5~4mm、V ~ D字状
38-135	22	±345	675 6,812m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期： IV ~ V期	第4遺構面 N2	—	灰色砂 層					(外) 口縁端部に上から外側寄りの刻目。ナデ。突蒂付のち刻目。貝殻条痕のち粗雑なナデ (内) 貝殻条痕のちナデ	1mm前後の砂粒子をまばらに含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/4 (内) にぶい黄褐色 10YR7/3	6 × 5.5cm角破片。刻目突蒂：口端距離8~9mm、突出高4~5mm、刻目幅2.5~4mm、V ~ D字状
38-136	22	±310	27 7.16m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第4遺構面 O3	—	灰色砂 層					(外) 口縁端部に上から外側寄りの刻目。やや粗雑なナデ。突蒂付のち刻目(内) 貝殻条痕ナデ	1mm前後の砂粒子をまばらに含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/3 (内) にぶい黄褐色 10YR7/3 ~ 黄褐色 2.5Y5/1	4.5 × 4cm角破片。外端所々に煤付着。刻目突蒂：口端距離8~9mm、突出高4mm、刻目幅1.5~2mm、V字状
38-137	22	±344	657 6.8m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第4遺構面 N2	—	灰色砂 層					(外) 口縁端部に突て部分や平坦面をもつ部分あり。貝殻条痕のちナデ。突蒂付のち刻目(内) ナデ	砂粒子を含む 良好	(外) 反白色 10YR7/1 ~ 黑褐色 10YR3/1 (内) 黑色 2.5Y2/1	3.5 × 2.5cm角破片。外端所々に煤付着。内面の黒色化は墨斑と思われる。刻目突蒂：口端距離4mm、突出高3~5mm、刻目幅4.5~5mm、V字状
38-138	22	±315	674 7,004m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期： IV ~ V期	第4遺構面 N2	—	灰色砂 層	(27.5)				(外) 口縁端部は尖て部分や平坦面をもつ部分あり。貝殻条痕のちナデ。突蒂付のち刻目(内) やや粗雑なナデ。貝殻条痕のちナデ	1mm大の砂粒子(石英など)含む 良好	(外) 浅黄色 2.5Y7/3 ~ 黑褐色 2.5Y3/2 (内) 浅黄色 2.5Y7/3 ~ 墓灰黄色 2.5Y5/2	口縁部約1/8存。口縁部の内外面に斑斑あり。刻目突蒂：口端距離4~8mm、突出高3~6mm、刻目幅4.5~5mm、逆D字状(卷貝突蒂も) ☆ 38-139と同一個体の可能性大

土器観察表

標団 番号	団版 番号	実測 番号	出土番号 出土標高	種別	器種	時期 型式	接出造構面 グリッド	造構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
38-139	22	±32	674 7.00m 678 6.84m	縄文土器	刻目突堤 深鉢	晩期： V～V期	第4造構面 N2	—	灰色砂 層				(外) 口縁端部にやや狭い平坦面あり。貝殻条痕のナデ。突堤貼付のち割目 (内) 貝殻条痕のナデ。貝殻条 痕ナデ	1mm以下の砂粒子(石英 デイサイト岩片など)含む 良好	(外) 淡黄色 2.5Y7/3 (内) にぶい黄色 2.5Y6/3～黒褐色 2.5Y3/1	10 × 6 cm角破片。刻目突堤：口縫 距離 4～6 mm、突出高 2～5 mm、刻 目幅 4～7 mm、深 C～D字状(卷 貝で突いたもの) ☆ 38-138 と同一個体の可能性大
38-140	22	±32	—	縄文土器	刻目突堤 深鉢	晩期： V～VI期	第4造構面 M2	—	黃灰色 砂層				(外) やや粗雑なナデ。突堤貼付 のち割目 (内) ナデ	1mm前後の白色粒子を含む 良好	(外) 淡灰黄色 2.5Y4/2～黒褐色 2.5Y3/1 (内) オリーブ黒色 5Y3/1	4 × 3 cm角破片。外面に煤付着。 刻目突堤：口縫距離 3 mm、突出高 4 mm、刻目幅 3～4.5 mm、D字状
38-141	22	±31	615 7.25m	縄文土器	刻目突堤 深鉢	晩期： V～VI期	第4造構面 N3	—	黃褐色 砂質土				(外) 口縁端部に平坦面くる。ナ デ。突堤貼付のち割目 (内) 丁寧なナデ	微砂粒子を多く含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/2～黒褐色 10YR3/2 (内) 黒褐色 10YR2/2	2.5 × 2 cm角破片。刻目突堤：口縫 距離 3 mm、突出高 2 mm、刻目幅 2 ～3 mm、小さなD字状
43-142	22	±32	742 6.374m	縄文土器	浅鉢	晩期	第5造構面 O2	堅果殻集中 範囲1					(外) ミガキ。強いミガキによる段 調整不明 (内) やや粗雑なミガキ	1mm以下の砂粒子(ディ サイト岩片など)をまばらに含む 良好	(外) 黄褐色 2.5Y4/1 (内) 黄褐色 2.5Y4/1	5.5 × 3.5 cm角破片
43-143	23	±30	794 6.368m 797 6.439m	縄文土器	刻目突堤 小型深鉢	晩期： IV～V期	第5造構面 O2	堅果殻集中 範囲2	(19.7)				(外) 口縁端部に上からの小さな割 目。突堤貼付のち割目。調整不明 (内) ナデ	1mm前後の砂粒子を多く含む 良好	(外) 不明 (内) 不明	体部上半約4寸。外面全体に煤 こびり付き、内面全体に内部付着。 刻目突堤：口縫距離 2.5～4 mm、突 出高 3～5 mm、刻目幅 2.5～4 mm、 D字状
43-144	22	±32	—	縄文土器	浅鉢 口縫部	晩期	第5造構面 O2	堅果殻集中 範囲3					(外) ナデ (内) ミガキ	ほとんど砂粒子はみられ ない 良好	(外) 黄褐色 2.5Y4/1 (内) 黑褐色 2.5Y3/1	3 × 2.5 cm角破片
43-145	23	±31	1022 6.23m	縄文土器	刻目突堤 鉢	晩期：V期	第5造構面 O2	堅果殻集中 範囲7					(外) 粗雑なナデ。突堤貼付のち割 目。調整不明 (内) 粗雑なナデ	1mm前後の砂粒子をまばらに含む 良好	(外) 淡褐色 10YR4/1 (内) 不明	7.5 × 6.5 cm角破片。外面のほぼ全 体に煤こびり付き、内面の一帯に墨 色化した内容物付着。刻目突堤：口 縫距離 4～7 mm、突出高 3～7 mm、 刻目幅 2～5 mm、V～D字状
44-146	23	±32	—	縄文土器	有文 深鉢鉢頭部	後期 (縄文文期)	第5造構面 O1	—	砂糖層				(外) 調整不明。1条の浅い凹線文。 調整は不規則だが、縄文らしき痕 跡が見えるよう。 (内) 貝殻条痕のナ デ	微砂粒子(石英・ディサ イト岩片・長石など)を多く、また若干の 3mm大の砂粒子を含む 良好	(外) 黄褐色 2.5Y7/1 (内) 黄褐色 2.5Y6/2	5 × 5 cm角破片
44-147	23	±32	—	縄文土器	粗製 深鉢	後期	第5造構面 N1	—	黃褐色 砂層				(外) 調整不明 (内) 調整不明。口縫部に沈線あり	1mm以下の砂粒子(石英 長石・ディサイト岩片など)を多く、また若干の 3mm大の砂粒子を含む やや不良	(外) 淡褐色 10YR5/1 (内) 黄褐色 2.5Y6/2 10YR5/2	6 × 5 cm角破片
44-148	23	±31	596 6.486m	縄文土器	刻目突堤 深鉢	晩期：IV期	第5造構面 N3	—	灰色粘 砂層				(外) 口縁端部に上から外向きに割 目。やや粗雑なナデ。突堤貼付の ち割目 (内) やや粗雑なナデ	微砂粒子(石英・ディサ イト岩片・長石など)及 び若干の2～3mm大の 砂粒子を含む 良好	(外) 淡褐色 10YR7/3～褐灰色 10YR6/1 (内) にぶい黄褐色 10YR6/3	7 × 4.5 cm角破片。刻目突堤：口縫 距離 10～12 mm、突出高 3 mm、刻 目幅 4～4.5 mm、D字状
44-149	23	±34	—	縄文土器	刻目突堤 深鉢	晩期： IV～V期	第5造構面 N2	—	黃褐色 砂層				(外) 口縁端部に上から精円形 工具を押し付けた割目。ナデ。突 堤貼付のち割目。ケズリ？(右一 左一) (内) 横位の調整。斜綫位の調整	微砂粒子(石英・ディサ イト岩片・石英など) やや少量含む 良好	(外) 不明 (内) 不明	6.5 × 5 cm角破片。外面全体に煤吸 着、内面全体に被熱による墨色化。 使用時の被熱が強く焼瓦状に硬化し ている。刻目突堤：口縫距離 6～7.5 mm、突出高 3～5.5 mm、刻目幅 3～ 4.5 mm、—字状

## 土器観察表

埠番 番号	因版 番号	実測 番号	取上番号 出土標高	種別	器種	時期 型式	焼出透構面 グリッド	透構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
44-150	23	±35	-	縄文土器	刻目突帯 深鉢	後期：VI期	第5透構面 N3	-	灰色砂 綿層				(外)ナデ。突帯貼付のち刻目。 ケズリ(右一左) (内)貝殻条痕のちナデ	1mm前後の砂粒子を多く含む 良好	(外)にぶい黄橙色 10YR7/3 (内)にぶい黄橙色 10YR7/2～にぶい橙 5YR8/4	7.5×4cm角破片。刻目突帯：口端 距離 6mm、突出高 3～4mm、刻目幅 1.5～2.5mm。浅くて小さなD字状
44-151	23	±30	-	縄文土器	浅鉢底部	後期	第5透構面 N1	-	黃褐色 砂層		(7.0)		(外)ミガキ(底面との境に指頭痕 みられる) (内)掌なみガキ(单孔がみえない い)、底面はミガキ?(光沢がみられない)	1mm以下の砂粒子(ディ サイト岩片・石英など) やや少量含む	(外)淺黃褐色 10YR8/1～褐灰色 10YR8/1 (内)灰色 SY5/1～ 淡黃色 2.5Y8/3	底部約1/3存。底凹みの平底。 内面に若干の煤付着
51-152	23	±17	1034 5.34m	縄文土器	有文 深鉢	後期前葉 (縄帶文期) 布勢	第6透構面 M2	SR古	黃灰色 砂層 [4層]	(21.2)			(外)口縁端部に凹線文+竹管状 文。調整不明 (内)ナデ?	1mm大の砂粒子(ディサ イト岩片・石英・長石など) やや多く含む 良好	(外)灰黃褐色 10YR8/2～黑色 2.5Y4/1 (内)灰黃褐色 10YR4/2	口縫部約1/9存。口縫部は貼付によ り肥厚する
51-153	23	±13	766 5.92m	縄文土器	有文 深鉢	後期前葉 (縄帶文期) 布勢末～ 崎ヶ鼻1	第6透構面 M2	SR古	黃灰色 砂層 [3層]				(外)口縁部に平べったい突起あり。 縄文 RL のち口縁部へ張接(同心 円文+組合せ平行沈線文)による 文様変化。ナデ	2.5mm以下の砂粒子(テ イサイト岩片・石英・長石など) 含む 良好	(外)にぶい黄褐色 10YR5/3 (内)にぶい黄褐色 10YR8/3	12×6cm角破片
51-154	23	±12	943 5.21m	縄文土器	有文 深鉢	後期前葉 (縄帶文期) 崎ヶ鼻1(津 雲Aに近い)	第6透構面 N3	SR古	灰色砂 綿層 [4層]	(38.5)			(外)口縁部に縄文 RL を施し、太く て深い平行凹線文を施す。その平 行凹線文の側と大突起の中央円形 部は磨消。小突起部は表面にも 出っ張る。顎部はナデ (内)口縫端部にはわずかに外面 から連続した縄文が施される。そ れ以下はナデ。顎部は板状工具に よるナデ?	4mm以下の砂粒子(石英 ・長石など)やや多く含む 良好	(外)灰黃褐色 10YR8/2～にぶい黄 10YR8/4 (内)黒褐色 10YR3/1	口縫部約1/6存。貼付により口縫部 を作る
51-155	24	±10	1430 5.08m	縄文土器	有文 深鉢	後期前葉 (縄帶文期) 崎ヶ鼻1	第6透構面 N3	SR古	黑色有 機物層 [2層深]				(外)口縫端部ミガキ。縫帶部縄文 RL のち太い凹線文。丁寧なナデ (内)ナデ。口縫部に強いナデによ る凹み感あり	2mm以下の砂粒子(ディ サイト岩片・石英など) 含む 良好	(外)にぶい褐色 7.5YR5/3 (内)暗灰褐色 2.5Y4/2～黒褐色 2.5Y3/1	4.5×4cm角破片。貼付により口縫 部に縫帶部つくる
51-156	24	±22	1219 5.88m	縄文土器	有文 深鉢頸部	後期前葉 (縄帶文期) 崎ヶ鼻1	第6透構面 O2	SR古	灰色砂 綿層 [3層]				(外)大きな凹線状文(両端は沈線 により強調させる)による同心円文。 大きな凹線文による角をもつ匯匝 文。(内)調整不明	3mm以下の砂粒子(石英 ・長石など)多く含む 良好	(外)オリーブ黒色 SY3/1 (内)オリーブ黒色 SY3/1	4.5×2.5cm角破片
51-157	24	±24	1290 5.68m	縄文土器	有文 深鉢頸部	後期前葉 (縄帶文期) 崎ヶ鼻1～2	第6透構面 O1-O2	SR古	灰色砂 綿層 [4層] 黑色有 機物層 [2層深]				(外)ナデ。縄文 RL (内)ナデ	2mm以下の砂粒子(石英 ・ディサイト岩片など)や や多く含む 良好	(外)にぶい黄褐色 10YR7/2～褐灰色 10YR8/1 (内)褐灰色 10YR5/1 ～黒褐色 2.5Y3/1	肩部約1/4存
51-158	24	±27	815 5.48m	縄文土器	有文 深鉢頸部	後期前葉 (縄帶文期) 崎ヶ鼻1～2	第6透構面 N2	SR古	灰色砂 綿層 [3層]				(外)太い沈線による同心円文。 調整不明 (内)調整不明	1.5mm以下の砂粒子(石 英・長石など)やや多く 含む 良好	(外)にぶい褐色 7.5YR5/4～にぶい 黄褐色 10YR5/3 (内)黄褐色 2.5Y5/3	6×5cm角破片。縫帶土器の頸部

土器観察表

拂因 番号	圓版 番号	実測 番号	出土番号	種別	器種	時期 型式	接出透構面 グリッド	透構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
51-159	24	±11	1409 6.42m	縄文土器	有文 深鉢	後期前葉 (縄帯文期) 崎ヶ鼻1～2	第6透構面 N3	SR古	黄灰色 砂礫層 [3層]				(外) 黏土貼付文。調整不明 (内) ナデのら模様の筋状痕(縄文 LR)	1mm以下の砂粒子(石英 ・長石・ダイサイト岩片 など)多く、また若干の 角閃石を含む 良好	(外) 黄褐色 2.5Y4/1 (内) ぶい黄色 2.5Y6/3	8 × 3.5 cm角破片
51-160	24	±11	1181 5.144m	縄文土器	有文 深鉢	後期中葉 (縄帯文期) 崎ヶ鼻2～ 沖文	第6透構面 O2	SR古	黑色有 機物層 [2層深]				(外) 沈線により縁部を作り出した ち縄文 RL。ナデ (内) ナデ	1mm以下の砂粒子(石英 ・長石など)含む 良好	(外) 黑褐色 10YR3/1 (内) 黑褐色 10YR3/1	4.5 × 4 cm角破片。口縁部はやや外 反するが体部は直立きみ
51-161	24	±12	-	縄文土器	粗製 深鉢	後期中葉 (縄帯文期) 崎ヶ鼻2～ 沖文	第6透構面 O2	SR古	灰褐色 砂礫層 [3層]				(外) 指ナデ・指揮さえ。ナデ (内) 指ナデ・指揮さえ。ナデ(工 具痕が残る)	1.5mm以下の砂粒子(石 英・イサイテ岩片・石英など) 多く含む 良好	(外) 黄褐色 10YR5/2 (内) 黄褐色 10YR5/2～灰色 5Y4/1	5.5 × 5 cm角破片。口縁部は粘土を 貼付けたあとに指ナデ・指揮さえによ り縁部を尖らし、内面口縁部は指 押さえたため凹部は白っぽく凸部は 黒斑状に構成。土器片縁として2次 使用か?
51-162	24	±11	798 6.092m	縄文土器	有文 深鉢底部	後期中葉 (縄帯文期) 沖文～椎硯山	第6透構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 縄文施文(と思われる)のち 平行凹縄文+崩れた流水凹縄文 (左～右) (内) ナデ	3.5mm以下の砂粒子(石 英・ダイサイト岩片など) 含む 良好	(外) 黑褐色 2.5Y3/1 (内) 黑褐色 10YR3/2	5.5 × 5 cm角破片
51-163	38	±11	816 5.329m	縄文土器	有文 壺	後期中葉 (縄帯文期) 椎硯山古 (元住吉山 1)	第6透構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [3層] (13.0)			(外) 丁寧なナデ? 口縁部縦小 刻印。横小字状跡目突高+リボ ン状突起。削り出上突起+正面か らの削り文。平行凹縄文+逆V字 状跡へづ描き? (内) 口縁部に筋溝+三角形深溝 貼付+リボン状突起。突起より上の 調整不明。突起より下ロ線部は ミガニ。頬部以下は丁寧なナデ?	微砂粒子(石英・長石 など)多く含む 良好	(外) 黄褐色 10YR6/2～黄灰色 2.5Y4/1 (内) 紅褐色 5YR3/2～ぶい黃 橙色 10YR6/3	口縁部約1/3存。突起は現状で1ヶ 所のみ残存。突起は正面と上面にリ ボン状を呈するように配置され中央を 凹す。外腹部に焼成後の穿孔らし い痕跡あり。内面に赤茶部分あり(測 定 NoG2)	
51-164	24	±10	-	縄文土器	有文 深鉢	後期前葉 (縄帯文期) 小池上層 (崎ヶ鼻1～ 2併行)	第6透構面 N3	SR古	黄灰色 砂礫層 [3層]			(外) 縄文施文のち凹縄文。調整 不明 (内) ナデ	1mm以下の砂粒子(石 英・長石など)含む やや不良	(外) ぶい黃褐色 10YR6/3 (内) 黑褐色 2.5Y3/1	7 × 4 cm角破片。口縁部は小さな波 状を呈する? 九州系	
51-165	24	±14	965 5.222m	縄文土器	有文 深鉢	後期中葉 (縄帯文期) 北久根山 (沖文～椎 硯山併行)	第6透構面 P1	SR古	灰色砂 礫層 [4層]			(外) 黏貼付のち棒状工具による連 続く字状文。ナデ (内) ナデ	2.5mm以下の砂粒子(石 英・イサイテ岩片・石英など) 多く含む 良好	(外) 灰色 7.5Y5/1 (内) 黄褐色 2.5Y8/2	7 × 6.5 cm角破片。外面口縁部の く字状文は、浅く下側を描いたあと深 く角先端を突いて引き上げるように描 いている。九州系	
52-166	24	±10	1368 5.192m	縄文土器	有文 深鉢	後期?	第6透構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]			(外) 丁寧なナデのちへら施文。 区画用凹縄文。貝殻条痕 (内) 貝殻条痕のナデ。ナデ	1mm大の砂粒子(イサイ テ岩片・石英など)含 む 良好	(外) ぶい黃褐色 10YR6/3 (内) 紅褐色 10YR4/1 ～灰褐色 10YR4/2	12 × 9 cm角破片	
52-167	24	±14	1285 5.196m	縄文土器	粗製 深鉢	後期～晩期	第6透構面 O2	SR古	暗褐色 有機物 層 [2層深]			(外) 断難なナデ (内) 單位が明瞭なナデ	1.5mm以下の砂粒子(石 英など)含む 良好	(外) 黑褐色 10YR3/2 (内) ぶい黃褐色 10YR5/3	8 × 7 cm角破片。外面焼付着	
52-168	24	±15	1499 4.836m	縄文土器	口端突起 深鉢	晩期：Ⅱ期	第6透構面 M3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]			(外) 口縁部は内側に丸め込み 丸くおさめる。口縁上部に小さな突 起。ナデ。貝殻条痕のち粗難なナ デ (内) 口縫下は強ナデで浅い凹 縫状を呈する。貝殻条痕のちやや粗 難なナデ	1mm以下の砂粒子(石 英など)及び若干の2mm大 の砂粒子含む 良好	(外) ぶい黃褐色 10YR6/3 (内) 紅褐色 10YR4/1	4 × 4 cm角破片。外面全体に焼付着	

## 土器観察表

埠団 番号	因版 番号	実測 取上番号	出土標高	種別	器種	時期 型式	検出横面 グリッド	遺構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
52-169	24	±12	948 5.24m	縄文土器	粗製 深鉢	晩期	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]				(外)口縁端部は先細りさせて外へ倒す。貝殻条痕のち粗雑なナデ(内)貝殻条痕のナデ	2mm以下の砂粒子(石英など)含む 良好	(外)灰黄褐色 10YR5/2 (内)暗灰黄色 2.5Y5/2	7×5.5cm角破片。口縁部は緩やかな波状?を呈する。外面全体に煤付着
52-170	24	±10	1210 5.39m	縄文土器	粗製 深鉢	晩期 (胎土より)	第6遺構面 O2	SR古	暗灰色 砂礫層 [3層]				(外)口縁端部ナデ。ケズリ(右→左) (内)ナデ。ケズリ(右→左)	1.5mm以下の砂粒子(石英など)やや多く含む 良好	(外)灰黄褐色 2.5Y6/2 (内)暗灰黄色 2.5Y5/2	6×4cm角破片。粗製のため口縁部が平たない
52-171	24	±12	939 5.26m	縄文土器	粗製 深鉢	晩期	第6遺構面 N2	SR古	黒褐色 有機物 層 [2層深]				(外)口縁端部は丸くおさめるところとナデ押さえで若干の平坦面を作るところあり。貝殻条痕のナデ(内)貝殻条痕ナデ	1mm以下の砂粒子(石英・長石など)含む 良好	(外)灰黄褐色 10YR5/2 (内)灰黄褐色 10YR4/2	4.5×4cm角破片。外面に一部煤、内面に一部内容物付着
52-172	24	±30	-	縄文土器	粗製 深鉢	晩期	第6遺構面 N1	SR古	砂礫層 [4層]				(外)口縁端部は必ず平坦面をつくる(その際に外側に粘土が溜まる)。貝殻条痕ナデ(内)貝殻条痕の所々指揮され。貝殻条痕+粗雑なナデ	1mm以下の砂粒子(ディサイト岩片・石英など)含む 良好	(外)灰黄褐色 2.5Y6/1 (内)灰黄褐色 2.5Y5/1	9×7.5cm角破片
52-173	24	±12	1131 5.13m	縄文土器	粗製 深鉢	晩期	第6遺構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]				(外)口縁端部は丸く仕上げる、内側から外側に突出して丸め込むようにして形成される。粗雑なナデ(粘土堆積物明瞭)(内)ナデ。貝殻条痕のち粗雑なナデ	2mm以下の砂粒子(ディサイト岩片・石英など)多く含む 良好	(外)にぶい黄褐色 10YR7/3～黒褐色 10YR3/1 (内)にぶい黄褐色 10YR7/2～黒褐色 10YR3/1	12×11cm角破片。外面の所々に煤付着。 ☆ 67-361と同一個体の可能性あり
52-174	24	±12	946 5.16m	縄文土器	粗製 深鉢	晩期	6遺構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]				(外)口縁端部は内側から外側に粘土を出すようにして平坦面を作らる。ナデ。貝殻条痕ナデ(内)貝殻条痕のナデ	1.5mm以下の砂粒子(石英・ディサイト岩片など)含む 良好	(外)灰黄褐色 10YR4/2 (内)灰黄褐色 10YR5/2	12×8cm角破片。外面全体に煤付着
52-175	24	±30	-	縄文土器	粗製 深鉢	晩期	第6遺構面 O1	SR古	灰色砂 礫層 [3層]	7.4 4.2	厚さ 重さ	0.7 29.6g	(外)やや粗雑なナデ(指捺痕強まる)(内)ナデ	微砂粒子及びそれに伴う1mm前後の砂粒子含む 良好	(外)にぶい黄褐色 10YR7/2 (内)灰黄褐色 10YR5/2	2次使用としての土器片鱗と思われる
52-176	24	±15	1110 5.26m	縄文土器	粗製 深鉢	晩期 (胎土より)	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]				(外)ナデ(口縁部に指捺痕あり)(内)粗雑なナデ(強い指捺痕があるため白匂している)	微砂粒子(石英・長石など)少量含む 良好	(外)灰黄褐色 10YR5/2 (内)にぶい黄褐色 10YR7/3	5×4.5cm角破片。外面に煤付着
52-177	25	±10	-	縄文土器	粗製 深鉢	晩期	第6遺構面 N3	SR古	黃褐色 砂礫層 [3層]				(外)粗雑なナデ(内)貝殻条痕ナデ	1mm以下の砂粒子(ディサイト岩片・石英など)多く含む 良好	(外)褐灰色 10YR6/1 (内)褐灰色 10YR6/1	8×7cm角破片
52-178	25	±17	1533 4.36m	縄文土器	粗製 深鉢	晩期	第6遺構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]				(外)口縁端部にわずかに平平坦面をつくる。貝殻条痕のち粗雑なナデ(砂移動跡+左も観察される)(内)ナデ	1mm以下の砂粒子(石英・ディサイト岩片など)多く含む 良好	(外)灰黄褐色 2.5Y4/1 ~黒褐色 2.5Y3/1 (内)灰黄褐色 10YR5/2	8×5.5cm角破片
52-179	25	±15	1444 5.03m	縄文土器	粗製 深鉢	晩期	第6遺構面 N3	SR古	黒褐色 有機物 層 [2層深]				(外)口縁端部に浅い平坦面あり。調整不明(内)調整不明	1mm以下の砂粒子(石英など)含む 良好	(外)黒褐色 7.5YR3/2 (内)黒褐色 7.5YR3/2	8×8cm角破片。内外面とともに煤及び内容物がこびり付いている
53-180	25	±10	1435 4.18m	縄文土器	粗製 深鉢	晩期	第6遺構面 N3	SR古	黃褐色 砂礫層 [1層]				(外)口縁端部は尖りぎみ。粗雑なナデ(右→左)(内)ケズリ(右→左)のナデ	1.5mm以下の砂粒子(石英・ディサイト岩片など)やや多く含む 良好	(外)にぶい黄褐色 10YR5/3 (内)黒褐色 10YR5/1	11×7cm角破片
53-181	25	±12	1508 4.81m	縄文土器	粗製 深鉢	晩期	第6遺構面 M3	SR古	灰色砂 層 [3層]				(外)ナデ。粗雑なナデ(内)ナデ	1mm以下の砂粒子(石英など)やや多く含む 良好	(外)黒褐色 10YR5/1 (内)黒褐色 10YR5/2	9×9cm角破片。外面全体に煤付着、内面部分的に内容物付着

## 土器観察表

拂因 番号	因版 番号	実測 番号	出土番号	器種	時期 型式	検出透構面 グリッド	透構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	粘土・焼成	色調	備考
53-182	25	±45	-	縄文土器	深鉢？ 胴部	晩期	第6透構面 N2	SR古	黄色砂 層 [3層]			(外) 粗雑なミガキ (器面には凹凸 あり) (内) 粗雑なミガキ (ただし、裏位 の接縫を消すように平滑に施す)	1 mm以下の砂粒子 (石英 ・長石など) 含む 良好	(外) 黄褐色 10YR5/2 ~ 黒色 2.5Y2/1 ~ 黑褐色 10YR5/1 (内) 黒色 SY2/1	7 × 4 cm角破片。外面上にもミガキ 調整だが、縁部で外面には凹凸がある ので深鉢とした。内面にアワ痕あり (FYK0004 試料)
53-183	37	±9	799 5.944m 800 5.945m 802 5.916m 803 5.946m 804 5.914m 805 5.956m	縄文土器	有文 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6透構面 O3	SR古	灰色砂 層 [3層]	27.0 ~ 28.5		(外) 口縁端部の4ヶ所に突起貼付 (上から押しつぶす)。粗位の粗雑 なナデ。斜め従位の粗雑なナデ (内) 貝殻条痕のナデ(精)	1.5 mm以下の砂粒子 (石 英・長石など) やや多く 含む 良好	(外) にいらい褐色 7.5YR6/3 (内) 黑褐色 7.5YR5/2	下半部欠損。外面上に平に焼、内面 下部に内部物付着。口縁端部の突 起4ヶ所は、上面は横円形の凹み状、 側面はリボン状を呈する
54-184	25	±14	1477 4.944m	縄文土器	有文 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6透構面 M3	SR古	灰色砂 層 [3層]			(外) 貝殻条痕のちナデ (内) ナデの刺突文。貝殻条痕 のちナデ	1.5 mm以下の砂粒子 (石 英など) 含む 良好	(外) 黄褐色 10YR6/2 (内) 黒色 SY2/1 ~ にいらい褐色 10YR6/3	5.5 × 4.5 cm角破片。刺突文が施さ れた外表面は少し擦らみ口縁端部は少し 上がる。刺突文は左一石へ剥して引き ずるよう引き上げ次に割すという 繰り返しによる施文
54-185	25	±14	1192 5.93m	縄文土器	有文 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6透構面 O2	SR古	灰色砂 層 [3層]			(外) ナデ (内) 口縁部に連続刺突文 (そのた め外面が少し膨らむ)。ナデ	1.5 mm以下の砂粒子 (石 英・ディサイト岩片など) やや多く含む 良好	(外) 純灰黄色 2.5Y5/2 (内) オリーブ黒色 5Y3/1	5 × 4 cm角破片
54-186	25	±11	921 5.324m	縄文土器	有文 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6透構面 N2	SR古	黄色砂 層 [3層]			(外) 口縁端部に貝殻条痕によるナ デにより平坦面を作。口縁部に 先端の丸い工具による刺突文 (そ のため外面に若干の出っ張りをも つ)。粗雑なナデ (内) ナデ	1 mm以下の砂粒子 (石英 など) 含む 良好	(外) にいらい黄褐色 10YR6/3 ~ 黃褐色 10YR4/1 (内) 黄褐色 2.5Y4/1	8 × 4.5 cm角破片。外面刺突文より 下に煤付着
54-187	26	±15	1404 6.392m	縄文土器	有文 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6透構面 N3	SR古	砂礫層 [1層] (31.0)			(外) 口縁端部に外側へ刺突文 (半 裁竹管状の工具で斜めに強打す) やや粗雑なナデ。貝殻条痕のちナ デ (内) 頸部以上ナデ。頸部以下ケ ズリ	2 mm以下の砂粒子 (ディ サイト岩片・石英など) 含む 良好	(外) 壁灰褐色 10YR4/1 ~ 黑色 10YR2/1 (内) 黑色 10YR2/1 ~ 黄褐色 10YR4/2	体部約1/6存。外表面頭付近に部 分的に煤付着。口縁部は刺突文時 の盛り上がりにより本来水平口縁だ が多少波打つ。内面に粘土貼付痕 が多い波打つ
54-188	25	±12	1230 5.508m	縄文土器	有文 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6透構面 O2	SR古	灰色砂 層 [3層]			(外) 貝殻条痕のナデ (内) 口縁部節割目 (内面上部から O型を削りつぶす)。それにより外面 に若干の凹みを生じる)。ナデ	1.5 mm以下の砂粒子 (石 英・長石など) やや多く 含む 良好	(外) 不明 (内) 黑褐色 10YR3/1	3.5 × 3 cm角破片。外面部全体に煤こ びり付き
54-189	26	±9	814 5.578m	縄文土器	口端割目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6透構面 N3	SR古	灰色砂 層 [3層]			(外) 貝殻条痕のナデ (内) 口縁部に内側から押しつけた ような割目。ナデ	2 mm以下の砂粒子 (石 英・長石など) やや多く含 む 良好	(外) 暗色 7.5YR7/6 ~ 浅褐色 2.5Y7/3 (内) 白色 10YR8/2	16 × 11 cm角破片
54-190	25	±13	1151 5.414m	縄文土器	口端割目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6透構面 O1	SR古	黄色砂 層 [3層]			(外) 粗雑なナデ。ナデ (内) 口縁部に内側から押しつけた ような割目。ナデ	1 mm以下の砂粒子 (石 英など) やや多く含む 良好	(外) にいらい黄褐色 10YR7/3 ~ 黄褐色 2.5Y5/1 (内) 黄褐色 2.5Y7/2	6 × 6 cm角破片

## 土器観察表

埠団 番号	因版 番号	実測 取上番号	出土標高	種別	器種	時期 型式	検出遺構面 グリッド	遺構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調査	胎土・焼成	色調	備考
54-191	25	±11	808	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6遺構面 O2	SR 古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 貝殻条痕のちナデ (内) 口縁端部に平坦面を作り、内側から上に貝目施す。ナデ	1mm以下の砂粒子(石英など)含む 良好	(外) 黄灰褐色 10YR6/2 (内) にぶい黄褐色 10YR7/2～にぶい黄褐色 10YR5/3	6×5cm角破片。口縁部及び外面の一部に焼付層
54-192	25	±13	1507	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6遺構面 M3	SR 古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 貝殻条痕のちやや粗雜なナデ (内) 口縁端部に内側からの不揃いな刻目。貝殻条痕のちナデ	微砂粒子(石英など)及び若干の1.5mmの大砂粒子含む 良好	(外) 黑褐色 10YR3/2 (内) 黄灰褐色 10YR5/2～黒褐色 10YR3/1	7×7cm角破片。外面に焼付層
54-193	25	±10	1176	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6遺構面 O2	SR 古	灰色砂 礫層 [4層]				(外) 粗雜なナデ (内) 口縁端部に内側から上に刻目。2枚貝条痕のちナデ	1.5mm以下の砂粒子(石英など)含む 良好	(外) 塗褐色 10YR4/1 (内) 反塗褐色 10YR5/2	6×3.5cm角破片。
54-194	25	±10	757	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6遺構面 M3	SR 古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) やや粗雜なナデ (内) 口縁端部に内側からの刻目。貝殻条痕のちナデ	1.5mm以下の砂粒子(石英など)含む 良好	(外) 黄灰褐色 10YR6/2 (内) にぶい黄褐色 10YR5/3	7×6.5cm角破片。外面に黒斑あり。外縁接合のように観察される
54-195	25	±10	869	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6遺構面 O2	SR 古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 調整不明 (内) 口縁部に内側からの刻目(外面と内部に對してかなり斜め方向に施す)。調整不明	1.5mm以下の砂粒子(石英・ディサイ岩片など)含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/3 (内) にぶい黄褐色 10YR7/2～褐灰色 10YR6/3	5×4.5cm角破片
55-196	25	±14	738	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6遺構面 N2	SR 古	(茶) 灰 色砂礫 層 [3層]				(外) 口縁端部に刻目(外から里出すが一つ一つの刻目は正面に向いて右→左に走っている)。貝殻条痕のちナデ。頂部に段あり。貝殻条痕の内) 貝殻条痕のちナデ	1mm以下の砂粒子(石英など)含む 良好	(外) 暗褐色 10YR3/3 (内) 褐灰色 10YR4/1	9×7cm角破片。外面全体に焼付層
55-197	25	±15	1233	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6遺構面 O2	SR 古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 口縁端部に外側からの大きな刻目。貝殻条痕のちナデ (内) 調整不明	2mm以下の砂粒子(石英・ディサイ岩片など)多く含む 良好	(外) 塗褐色 10YR6/1 (内) 褐灰色 10YR6/1	5.5×4cm角破片
55-198	25	±14	一	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6遺構面 O2	SR 古	黃褐色 砂礫層 [3層]				(外) 口縁端部D字状刻目(上から施しているが勢いが弱いと刻目に壁が残る)。頂部に四角形刻突文。 (内) 粗雜なナデ	1mm以下の砂粒子(ディサイト岩片・石英など)含む 良好	(外) 鉄灰付層のため不明 (内) 灰白色 2.5Y7/1～黃灰色 2.5Y5/1	5×5cm角破片
55-199	26	±17	1225	縄文土器	有文 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6遺構面 O2	SR 古	黃褐色 砂礫層 [3層]	(35.4)			(外) 口縁端部D字状刻目(上から施しているが勢いが弱いと刻目に壁が残る)。頂部に四角形刻突文。 (内) 粗雜なナデ	3mm以下の砂粒子(石英・ディサイ岩片など)や多く含む 良好	(外) 黄褐色 10YR4/2 (内) 黑褐色 10YR3/1	体部上半約1/6存。外面全体に焼付層。
55-200	25	±17	778	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6遺構面 N2	SR 古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 口縁端部に上からの大さな刻目。ナデ (内) 粗雜なナデ(強いナデのため凸凹している)	2mm以下の砂粒子(石英・長石など)含む 良好	(外) 黄褐色 10YR6/2 (内) にぶい黄褐色 10YR5/3	6.5×4cm角破片。内面に黒斑あり。底部下側の破面は粘土接合痕
55-201	25	±19	984	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6遺構面 O1	SR 古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 口縁端部に上からの大さな刻目。粗雜なナデ (内) やや粗雜なナデ	1.5mm以下の砂粒子(石英など)及び若干の3mmの大砂粒子を含む 良好	(外) 黄褐色 10YR4/2 (内) 黄褐色 10YR5/2	4.5×3.5cm角破片。外縁付層。両縁に圧力のかかる施文具にて刻目施す
55-202	26	±17	1503	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6遺構面 M3	SR 古	灰色砂 層 [3層]				(外) 口縁端部に上からの大さな刻目。貝殻条痕のち粗雜なナデ (内) 貝殻条痕+ナデ	1.5mm以下の砂粒子(石英など)やや少含む 良好	(外) 白灰色 10YR7/1 (内) 黑色 5Y2/1	13×10cm角破片。外縁部(縁曲部以上)に焼付層、黒斑あり。

土器観察表

拂因 番号	因版 番号	実測 番号	出土番号 出土標高	種別	器種	時期 型式	検出透構面 グリッド	透構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
55-203	26	±150	-	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：三期	第6透構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 口縁端部に上からの工具を押 し付けた刻目。2枚貝条痕のちナ デ。(内) やや粗雑なナデ	1mm前後の砂粒子をまば らに含む 良好	(外) 淡黄色 2.5Y7/3 (内) 黒色 2.5Y2/1	6.5 × 5 cm角破片。内面全体及び外 面縁部に黒斑あり
55-204	26	±107	874 5.327m	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：三期	第6透構面 O1	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 口縁端部に上からの刻目。 貝殻条痕のちナデ (内) やや粗雑なナデ	1mm以下の砂粒子(石英 など)や少量含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR8/3 (内) にぶい黄褐色 10YR7/2	10 × 7 cm角破片。外面部的に焼 付着
55-205	26	±147	1013 5.318m	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：三期	第6透構面 N2	SR古	黃灰色 砂礫層 [4層]				(外) 口縁端部に上からの刻目。 貝殻条痕のちナデ (内) 貝殻条痕のちナデ	1mm以下の砂粒子(石英 など)やや少量含む 良好	(外) 黒褐色 10YR3/1 (内) 黑褐色 10YR3/2 +黒褐色 2.5Y2/1	9 × 4 cm角破片。外面部全体に焼、内 面の一部に内容物付着
55-206	27	±104	1204 5.818m	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：三期	第6透構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 口縁端部に上からの刻目。 貝殻条痕のちナデ (内) 貝殻条痕のちナデ	1mm以下の砂粒子(ディ サイト岩片・石英など) 及び若干の2～5mm大 の砂粒子含む 良好	(外) にぶい黄色 2.5Y6/3～黄灰色 2.5Y6/1 (内) 黄褐色 2.5Y4/1	5 × 5 cm角破片
55-207	27	±148	-	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：三期	第6透構面 N3	SR古	黃褐色 砂礫層 [3層]				(外) 口縁端部に上からの刻目。 調整不明 (内) 粗雑なナデ	1mm以下の砂粒子(石英 など)や多く含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR6/3 (内) にぶい黄褐色 10YR5/3 + 黑褐色 10YR3/1	7.5 × 3 cm角破片。
55-208	27	±130	-	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：三期	第6透構面 L3	SR古	黃灰色 ～灰色 砂層 [3層]				(外) 口縁端部に上からの小さな刻 目。ナデ(上に砂移動跡)をが 観察される。 (内) 凸凹のある粗雑なナデ(下半 に砂移動跡)が観察される。	1mm以下の砂粒子(石英 など)及び若干の 2mm大的砂粒子含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/3 (内) 粗糞黃色 2.5Y4/2	9 × 4.5 cm角破片。内面縁部に内 容物付着
55-209	27	±94	1170 5.156m	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：三期	第6透構面 O1	SR古	黃灰色 砂礫層 [4層] (24.8)				(外) 口縁端部 O字形の刻目(上 から)。横縫の貝殻条痕。斜め縫 横縫の貝殻条痕ナデ。 (内) やや粗雑なナデ。ケズリ(下 一上)のちやや粗雑なナデ	1.5mm以下の砂粒子(石 英・ディサイト岩片など) やや多く、また若干の3 ～4mm大的砂粒子を含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/3 (内) にぶい黄褐色 10YR6/3	体部上半約1/4存。外面部全体に焼 付着。
56-210	27	±103	1161 5.45m	縄文土器	口端刻目 精製 深鉢	晩期：三期	第6透構面 O1	SR古	黃灰色 砂礫層 [3層]				(外) 口縁端部にナデのち上からの 刻目(鳥居状を呈しており貝で造形 された可能性あり)。ミガキ (内) 口縁部に使用による薄い剝 落？ミガキ	1mm以下の砂粒子(石 英・長石など)やや多く、 又若干の2mm大的砂粒 子を含む 良好	(外) 黑色 2.5Y2/1 (内) 黑色 2.5Y2/1	5 × 3.5 cm角破片。黒色磨研土器？
56-211	27	±136	1507 5.012m	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：三期	第6透構面 M3	SR古	灰色砂 層 [3層]				(外) 口縁端部に上からの刻目。 調整不明。貝殻条痕のちナデ (内) 貝殻条痕のちナデ	1mm以下の砂粒子(石 英など)含む 良好	(外) にぶい灰黃褐色 10YR4/2 (内) 灰黃褐色 10YR4/2	5.5 × 4.5 cm角破片。外面部全体に焼、 内面所々に内容物付着。
56-212	27	±135	1505 4.876m	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：三期	第6透構面 M3	SR古	灰色砂 層 [3層]				(外) 口縁端部に上からの刻目。 貝殻条痕のちナデ(粗) (内) 貝殻条痕のちナデ(精)	1mm以下の砂粒子(石 英など)含む 良好	(外) にぶい灰黃褐色 10YR5/3 (内) 灰黃褐色 10YR4/2	5 × 4.5 cm角破片。外面部全体に焼、 内面所々に内容物付着。外焼接合
56-213	27	±146	1403 4.854m	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：三期	第6透構面 M3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]				(外) 口縁端部に上からの刻目。 粗雑なナデ (内) 貝殻条痕のちナデ	1.5mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英など) 含む 良好	(外) 黑褐色 10YR3/2 +灰黃褐色 10YR5/2 (内) 黑褐色 10YR3/1	9 × 7 cm角破片。外面部全体に焼、内 面縁部及び底部破面付近に内 容物付着

## 土器観察表

埠団 番号	因版 番号	実測 取上番号	出土標高	種別	器種	時期 型式	検出遺構面 グリッド	遺構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
56-214	27	±16	-	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6遺構面 N3	SR 古	粘土層 ～砂礫層 [2～3層]				(外)口縁端部に上からの刻目。2枚貝条痕のちナデ(内)2枚貝条痕のちナデ	2.5mm以下の砂粒子(石英など)含む 良好	(外)にぶい黄褐色 10YR7/3 (内)褐灰色 10YR6/1	9×5cm角破片。外面に煤付着
56-215	27	±14	1470 3m	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6遺構面 M3	SR 古	黃褐色 砂礫層 [4層]				(外)口縁端部に上からの刻目。貝殻条痕のち粗粒なナデ(内)貝殻条痕のちナデ	1.5mm以下の砂粒子(石英など)含む 良好	(外)にぶい黄褐色 10YR5/3～褐灰色 10YR4/1 (内)褐灰色 10YR4/1	14×12cm角破片。
57-216	27	±15	728 5.854m	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6遺構面 O1	SR 古	灰色砂 礫層 [3層]				(外)口縁端部は上から押されて平坦面を作り、のちに間隔の空いた小さな刻目(上から)施す。ナデ。貝殻条痕のちナデ(粗)	1.5mm以下の砂粒子(石英、ディサイト岩片など)含む 良好	(外)反黄褐色 10YR5/2～灰褐色 2.5Y4/1 (内)黒色 2.5Y2/1	9.5×6cm角破片。外面に明瞭な粘土貼付痕あり。外面に煤が吸着
57-217	38	±2	829 5.404m	縄文土器	口端刻目 深鉢	晩期：Ⅲ期	第6遺構面 O2	SR 古	灰色砂 礫層 [4層]	(34.0)			(外)口縁端部に小さな刻目(上から)。貝殻条痕のちナデ。ナデ(内)貝殻条痕のちナデ(精)	3mm以下の砂粒子(石英・長石・ディサイト岩片など)含む 良好	(外)にぶい黄色 2.5Y6/3所々に黒斑 あり (内)黒色 2.5Y2/1 上半部の灰褐色部分はらきこぼれ痕?	部体上半1/6存。口縁部は小さな波状を示す。粘土貼付痕が外側に見られるが、断面では不明瞭
57-218	27	±17	1202 5.062m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：Ⅳ期	第6遺構面 O2	SR 古	黃褐色 砂礫層 [3層]				(外)強いナデ。突帯貼付けのち刻目。貝殻条痕のちナデ(内)口縁端部に内側からの大きな刻目。貝殻条痕のちナデ	1.5mm以下の砂粒子(石英・長石など)やや多 含む 良好	(外)反黄褐色 10YR5/2 (内)にぶい黄褐色 10YR5/3	7×6cm角破片。刻目突帯：口端距離9～11mm、突出高6～10mm、刻目幅9mm、D字状
57-219	27	±17	1184 5.654m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：Ⅳ期	第6遺構面 O2	SR 古	黃褐色 砂礫層 [3層]				(外)口縁端部に上からの刻目。突帯貼付けのち刻目。2枚貝条痕のちナデ(内)丁寧なナデ	1.5mm以下の砂粒子(石英など)やや少 量含む かなり良好	(外)オリーブ黒 5Y3/1 (内)黒色 2.5Y2/1	7×6cm角破片。刻目突帯：口端距離9～10mm、突出高5～6mm、刻目幅3～5mm、D字状。口端及び突帯の刻目は直線ではなく平面かく立面上に曲線を描いているので陶具は施文具としている可能性あり
57-220	28	±10	770 5.54m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：Ⅳ期	第6遺構面 O3	SR 古	灰色砂 礫層 [3層]				(外)口縁端部に上からの刻目(逆字)。貝殻条痕のちナデ(粗)。突帯貼付けのち刻目(内)貝殻条痕のちナデ(精)	1.5mm以下の砂粒子(石英・長石・ディサイト岩片など)やや少 量含む 良好	(外)反黄褐色 10YR6/2 (内)褐灰色 10YR6/1 ～反黄褐色 10YR6/2	5×5.5cm角破片。口縁端部は粗粒な仕上げ。外面に黒斑あり、また突帯周辺に煤吸着。内部に内容物が薄(後蓋)。刻目突帯：口端距離11mm、突出高8～9mm、刻目幅3～5mm、S字状。口縁端部及び突帯の刻目は直線ではなく平面かく立面上に曲線を描いているので陶具は施文具としている可能性あり
57-221	28	±16	-	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：Ⅳ期	第6遺構面 N3	SR 古	黃褐色 砂礫層 [1層]				(外)口縁端部に上からの刻目。ナデ。突帯貼付けのち刻目。貝殻条痕のちナデ(精)。ケツリ?	1mm以下の砂粒子(石英など)やや少 量含む 良好	(外)反黄褐色 10YR6/2 (内)反黄褐色 10YR6/2～にぶい橙 7.5YR6/4	7.5×4cm角破片。外面口縁部に煤吸着。刻目突帯：口端距離8～10mm、突出高3～4mm、刻目幅10mm、D字状
57-222	28	±10	760 5.059m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：Ⅳ期	第6遺構面 M3	SR 古	灰色砂 礫層 [3層]				(外)口縁端部に上からの刻目。ナデ。突帯貼付けのち刻目。貝殻条痕のちナデ(精)。ケツリ?	1mm以下の砂粒子(石英など)やや少 量含む 良好	(外)淡黄褐色 2.5Y3/1 (内)黒色 2.5Y2/1	9×6.5cm角破片。内外全体、及び外側の内側から続ける口縁部と胴部に部分的に黒斑のような色調。刻目突帯：口端距離9～10mm、突出高6mm、刻目幅4～5mm、D字状
57-223	28	±11	-	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期：Ⅳ期	第6遺構面 N3	SR 古	黃褐色 砂礫層 [1層]				(外)口縁端部に上から横円形の工具押しつけ、正面からは刻目。工具。突帯貼付けのち刻目。調査不明	1mm以下の砂粒子(石英など)含む 良好	(外)にぶい黄褐色 10YR6/3 (内)にぶい黄褐色 10YR6/3	5×4.5cm角破片。刻目突帯：口端距離7～9mm、突出高3～4mm、刻目幅10mm、D字状

土器觀察表

拂因 番号	因版 番号	実測 番号	出土番号	出土標高	種別	器種	時期 型式	接出透構面 グリッド	透構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考	
57-224	28	±33	-	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期・IV期	第6透構面 N1	SR古	砂糖層 [4層]					(外) 口縁端部に内側への割目。ナデ。突帯貼付のち割目 (内) やや粗雑なナデ	1mm前後の砂粒子をまばらに含む 良好	(外) 線状褐色 10YR4/1 (内) 反黄褐色 10YR5/2	3 × 3 cm 角破片。割目突帯: 口縫距離 8 ~ 9 mm、突出高 5 ~ 6 mm、割目幅 3 ~ 5 mm、D字状	
58-225	38	±10	752	5.574m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期・IV期	第6透構面 O1	SR古	灰色砂 糖層 [3層]	(40.5)				(外) ナデのち縁端部中サイズ刻目(外から)のち突帯貼付のち割目。 粗雑なナデ(妙移動歴一左も観察され)。 (内) ナデ(やや種)	2mm以下の砂粒子(石英、長石など)多く含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR4/3 (内) 反黄褐色 10YR4/2	部断約 1/6。外面上半に煤、内面下位に内容物付着。割目突帯: 口縫距離 8 ~ 9 mm、突出高 5 mm、割目幅 3 ~ 5 mm。小さなD字状
58-226	28	±16	1421	5.826m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期・IV期	第6透構面 M3	SR古	黃褐色 砂糖層 [3層]				(外) 口縁端部に外側への割目(先に平坦面を作り下に押しつけたうきに刻目を施したため、粘土が垂れ下がる所あり)。ナデ。突帯貼付のち割目。貝殻集痕ナデ。ケズリ(右→左) (内) 貝殻集痕のちナデ。ケズリ(右→左)	1mm以下の砂粒子(石英、長石など)やや多く、又若干の 2 ~ 4 mm の砂粒子を含む 良好	(外) 線状黄色 2.5Y4/2 (内) 反黄褐色 10YR6/2	10 × 6.5 cm 角破片。割目突帯: 口縫距離 10 ~ 11 mm、突出高 5 mm、割目幅 5 ~ 6 mm、一応 D字状	
58-227	28	±20	-	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期・IV期	6透構面 N3	SR古	黃褐色 砂糖層 [1層]					(外) 口縁端部の外側への割目。ナデ。突帯貼付のち割目 (内) 口縁端部のみナデ。ケズリ(右→左)	1mm以下の砂粒子(石英、デイサイト岩片など)や や多く含む 良好	(外) 反黄褐色 10YR5/2 (内) 黒褐色 10YR3/2	5 × 4.5 cm 角破片。外面に若干の煤付着。割目突帯: 口縫距離 7 ~ 8 mm、突出高 3.5 ~ 4 mm、割目幅 3 ~ 4 mm、D字状	
58-228	28	±14	-	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期・IV期	6透構面 N3	SR古	灰色砂 糖層 [3層]					(外) 口縁端部に上からのD字状割目、2条の次線。突帯貼付のち割目。 (内) ナデ	砂粒子(石英など)や や少量含む 良好	(外) 反黄褐色 2.5Y7/3 (内) 反黄褐色 10YR6/2	3.5 × 2.5 cm 角破片。割目突帯: 口縫距離 8 mm、突出高 3 ~ 4 mm、割目幅 2.5 ~ 4 mm、D字状	
58-229	28	±35	-	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期・IV期	第6透構面 O1	SR古	灰色砂 糖層 [3層]					(外) 口縁端部に上から外側寄りの割目。ナデ。突帯貼付のち割目 (内) ナデ	1mm前後の砂粒子をまばらに含む 良好	(外) 黑褐色 10YR3/2 (内) 反黄褐色 10YR4/2	4 × 2 cm 角破片。割目突帯: 口縫距離 7 ~ 9 mm、突出高 5 ~ 6 mm、割目幅 3 ~ 4 mm、D字状	
58-230	28	±71	845	5.918m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期・IV期	第6透構面 O2	SR古	灰白色 土質(様 と有機物 を含む) [2層]				(外) 突帯貼付のち割目。ナデ。貝殻集痕のナデ (内) 口縁端部は平坦面を作り上からやや浅めの割目を内側に施す。ナデ	1mm以下の砂粒子(石英、長石など)含む 良好	(外) 反黄褐色 10YR5/2 (内) にぶい黄色 2.5Y6/3 ~ 黄褐色 2.5Y5/1	9 × 7 cm 角破片。割目突帯: 口縫距離 5 mm、突出高 4 mm、割目幅 3 ~ 4 mm、D字状	
58-231	28	±14	1056	5.184m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期・IV~V期	第6透構面 M2	SR古	灰色砂 糖層 [4層]				(外) 口縁端部に外側からの割目。突帯貼付のち割目。粗雑なナデ (内) 貝殻集痕のナデ	1.5 mm以下の砂粒子(石英など)やや多く含む 良好	(外) 反黄褐色 10YR8/2 (内) 黒色 2.5Y2/1	6 × 5 cm 角破片。外口縫部に煤付着。割目突帯: 口縫距離 7 ~ 8 mm、突出高 3 ~ 4 mm、割目幅 3.5 ~ 4.5 mm、D字状	
58-232	28	±19	736	5.996m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期・IV~V期	第6透構面 M2	SR古	灰色砂 糖層 [3層]				(外) 口縫部に上から横円形の工具を押しつけた割目。ナデ。突帯貼付のち割目。調整不明 (内) ナデ	1mm以下の砂粒子やや 少量含む 良好	(外) 黑褐色 10YR3/2 (内) 黒色 10YR2/1	5 × 3.5 cm 角破片。外面ほぼ全体に煤吸着。割目突帯: 口縫距離 7 ~ 8 mm、突出高 5 ~ 5.5 mm、割目幅 2 ~ 3 mm、D字状	
58-233	28	±12	777	5.364m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期・V期	第6透構面 N2	SR古	灰色砂 糖層 [4層]				(外) 口縫部に上からの浅い割目。突帯貼付のち割目。ナデ (内) ナデ	1.5 mm以下の砂粒子(石英、橙色粒子など)含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/2 (内) にぶい黄褐色 10YR7/2 + 黑色 2.5Y2/1	7 × 4.5 cm 角破片。割目突帯: 口縫距離 8 mm、突出高 6 mm、割目幅 3.5 ~ 4 mm、小さなD字状	
59-234	28	±12	734	5.904m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	晩期・V期	第6透構面 O1	SR古	灰色砂 糖層 [3層]				(外) 口縫部に上から開閉を付けたD字状の工具を押しつけた割目。ナデ。突帯貼付のち割目。貝殻集痕のナデ (内) 挟まれたナデ	1.5 mm以下の砂粒子(石英、長石など)多く含む 良好	(外) 黑褐色 10YR3/1 (内) にぶい黄色 2.5Y6/3	6.5 × 5.5 cm 角破片。外面突帯より下に煤付着。割目突帯: 口縫距離 4 ~ 5 mm、突出高 4 ~ 5 mm、割目幅 4 ~ 5 mm、D字状	

## 土器観察表

埠団 番号	因版 番号	実測 倉上番号	出土標高	種別	器種	時期 型式	検出遺構面 グリッド	遺構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
59-235	28	±12	1264 5.45m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第6遺構面 O2	SR古	黄褐色 砂層 [3層]				(外)口縁端部に外側に上からの 刻目。ナデ。突蒂貼付けのち刻目。 調整不良 (内)やや粗雑なナデ	1mm以下の砂粒子(石英 など)含む 良好	(外) 棕褐色 5YR6/6 (内) 灰黃褐色 10YR4/2	6 × 4 cm角破片。刻目突蒂: 口端距 離6 mm、突出高4 ~ 5 mm、刻目幅 ~ 3 mm。小さなD字状
59-236	28	±12	-	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 糖層 [4層]				(外)口縁端部に上から外側に小さ な刻目。やや粗雑なナデ。突蒂貼 付けのち刻目 (内)ナデ	1mm以下の砂粒子(石英 など)やや少量化 良好	(外) 浅黄色 2.5Y7/3 (内) 浅黄色 2.5Y7/3	6 × 5.5 cm角破片。外面突蒂より下 に煤役着。刻目突蒂: 口端距離6 ~ 10 mm、突出高4 ~ 6 mm、刻目幅2.5 ~ 4 mm、V字状
59-237	28	±12	1419 5.92m	縄文土器	有文 刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第6遺構面 M3	SR古	黄褐色 砂層 [3層]				(外)口縁端部不規則の刻目(上 から)。突蒂貼付けのち刻目。ナデ。 胴部の飾った部位に位置のヘラ 描文 (内)ナデ(所々押さえによる凹 みあり)	1mm以下の砂粒子(石英 など)やや少量化 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/3 (内) にぶい黄褐色 10YR7/3	10 × 5 cm角破片。外面全体に煤付 着。突蒂が剥がれていた箇所にも煤が 付着しているので、その箇所は突蒂の つづき目と思われる。刻目突蒂: 口端距離9 ~ 9 mm、突出高4 ~ 5 mm、 刻目幅1 ~ 1.5 mm、V字状
59-238	28	±12	745 6.02m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第6遺構面 N1	SR古	灰色砂 糖層 [3層]				(外)口縁端部に上からの小さな刻 目。貝殻余地のちナデ。突蒂貼付 のち刻目。胴部や上で強め。粗 雑なナデ(砂移動石→左も観察さ れる) (内)粗雑なナデ。胴部や上で 強めナデにより凹ます	1mm以下の砂粒子(石英 -長石など)及び若干の 5 ~ 10 mm大の砂粒子含 む 良好	(外) 灰黄色 10YR6/2 (内) 灰黄色 10YR6/2	10.5 × 7 cm角破片。外面口縁部~ 胴部曲部まで煤付着。刻目突蒂: 口端距離7 mm、突出高3 ~ 3.5 mm、 刻目幅1.5 ~ 2 mm、V字状
59-239	28	±12	809 5.594m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 糖層 [3層]				(外)口縁端部を折り曲げて平坦 面を作り、外側からの刻目。ナデ。 突蒂貼付けのち刻目。ナデ (内)ナデ	1mm以下の砂粒子(石英 など)含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR4/2 (内) にぶい黄褐色 10YR7/2	7 × 6 cm角破片。外面に煤こびり付き。 口端目と刻目突蒂等を一括化して 2条目突蒂の意匠。刻目突蒂: 口端 距離8 ~ 9 mm、突出高4 ~ 5 mm、刻 目幅2 ~ 3 mm、幅広V字状。刻目が 直線状ではなくくがたり長い 部分に凸ぼりがあるのを推文真 は見え思われる
59-240	28	±12	720 6.23m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第6遺構面 N1	SR古	灰色砂 糖層 [1層]				砂粒子を含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/2 (内) にぶい黄褐色 10YR7/2	6 × 4.5 cm角破片。外面所々に煤付 着。刻目突蒂: 口端距離4 ~ 6 mm、 突出高3.5 ~ 4 mm、刻目幅1 ~ 2.5 mm、 V字状	
59-241	28	±12	-	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第6遺構面 L3	SR古	灰褐色 ~灰色 砂層 [3層]				(外)口縁端部に上からの刻目。 突蒂作出しのち刻目。調整不明 (内)調整不良	1.5 mm以下の砂粒子(石 英など)含む 良好	(外) 灰褐色 10YR6/2 (内) 灰褐色 10YR4/2	5 × 3 cm角破片。外面に一部煤付着。 口端目と刻目突蒂等を一括化して 施された砂粒子を上部に貼り付けて いる。刻目突蒂: 口端距離5 ~ 7 mm、 突出高2 ~ 3 mm、刻目幅2 ~ 3 mm、 V字状
59-242	28	±12	-	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 糖層 [3層]				(外)口縁部外側に刻目。突蒂貼 付けのち刻目。貝殻余地のナデ(精) (内)貝殻余地のナデ(精)	1mm以下の砂粒子(石英 など)やや少量化 良好	(外) 灰褐色 10YR5/2 (内) 灰褐色 2.5Y4/1	8 × 6 cm角破片。外面全体に煤が吸 収。口縫部の刻目と貝殻余地の刻目は 隣接しておらず、2条の刻目のような 意匠である。刻目突蒂: 口端距離6 ~ 9 mm、突出高3 mm、刻目幅2 ~ 3 mm、 D字状
59-243	28	±12	-	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第6遺構面 M3	SR古	灰褐色 砂層 [3層]				(外)ナデ。突蒂貼付けのち刻目。 粗雑なナデ (内)調整不良	1.5 mm以下の砂粒子(石 英・長石など)含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR6/3 (内) にぶい黄褐色 10YR6/3	5.5 × 3 cm角破片。外面突蒂文以下 に煤付着。刻目突蒂: 口端距離2 ~ 3 mm、突出高5 mm、刻目幅3 ~ 5 mm、 D字状

土器觀察表

拂因 番号	因版 番号	実測 番号	出土番号 出土標高	種別	器種	時期 型式	接出造構面 グリッド	造構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
59-244	29	±3	748 5.74m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第6造構面 O1	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外)口縁端部はナデのち沈縫施 文、口縫部・突蒂貼付ナデ付のち 割目施文、ナデ(粗) (内)ナデ(精)	2mm以下の砂粒子(石英 など)多く含む 良好	(外)灰黃褐色 10YR8/2 (内)灰黃褐色 2.5Y7/2	4.5×4cm角破片。穿孔が外から内 へ、現状で3穴あり。刻目突蒂・口 縫距離4～5mm、突出高4～5mm、 刻目幅3～3.5mm、小さなD字状
59-245	29	±7	746 6.302m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第6造構面 O2	SR古	灰色砂 礫層(有機 物含む) [2層]				(外)口縫端部に平坦面作る。突 蒂貼付のち割目。粗雜なナデ (内)やや粗雜なナデ	1.5mm以下の砂粒子(石 英など)含む 良好	(外)灰黃褐色 10YR3/2 (内)黒色 2.5Y2/1	5×4cm角破片。外面部分的に煤 付着。刻目突蒂・口縫距離4mm、 突出高3mm、刻目幅3～5mm、不規 いD字状
59-246	29	±10	—	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第6造構面 N3	SR古	黃褐色 砂礫層 [3層]				(外)ナデ(粗)。突蒂貼付のち割 目 (内)ナデ(精)	1mm以下の砂粒子(石英 など)及び若干の3～5 mm大の砂粒子含む 良好	(外)灰黃褐色 10YR8/2 (内)ぶい黄褐色 10YR8/3	8×7.5cm角破片。刻目突蒂・口縫 距離6～10mm、突出高5～6mm、 刻目幅3～5mm、V字状
59-247	29	±14	1047 5.21m	縄文土器	刻目突蒂 小型深鉢	晩期：V期	第6造構面 M2	SR古	黃褐色 砂礫層 [4層]	(15.0)			(外)口縫端部は尖る。貝殻条痕 のちナデ。突蒂貼付のち割目。貝 殻条痕のち粗雜なナデ (内)貝殻条痕のナデ	微砂粒子(石英など)少 量含む 良好	(外)褐灰色 10YR5/1 (内)不明	体部上半約1/10存。外面煤、内面 肉瘤物付着。刻目突蒂・口縫距 離5mm、突出高2～4mm、刻目幅2.5～ 3mm、小さなD字状
59-248	29	±7	780 5.712m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第6造構面 M2	SR古	黃褐色 砂礫層 [3層]				(外)口縫端部尖りざみ。ナデ。突 蒂貼付のち割目。粗雜なナデ (内)指押えナデ。ナデ	1mm以下の砂粒子(石英 など)やや少 量含む 良好	(外)灰黃褐色 10YR4/2 (内)灰黃褐色 10YR6/2	10×5.5cm角破片。外面全体に煤 付着。刻目突蒂・口縫距離7mm、突 出高4mm、刻目幅5～6mm、D字状
59-249	29	±33	719 6.172m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第6造構面 O1	SR古	灰色砂 礫層 [3層]	(24.3)			(外)ナデ。突蒂貼付のち割目 (内)ナデ	1mm以下の砂粒子(石英 など)少 量含む 良好	(外)ぶい黄褐色 10YR5/3 (内)灰黃褐色 10YR6/2	口縫部約1/8存。外面突蒂以下に 煤こびり付着。内面口縫部から下に 内容物付着。刻目突蒂・口縫距離 6mm、突出高4～5mm、刻目幅3.5～ 4.5mm、V字状
60-250	29	±8	758 5.772m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第6造構面 M2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外)口縫端部に狭い平坦面作る。 ナデ。突蒂貼付のち割目。貝殻条 痕のちナデ (内)貝殻条痕のナデ	2mm以下の砂粒子(石英 など)やや少 量含む 良好	(外)灰黃褐色 10YR5/2～ 2.5Y2/1 (内)黃褐色 2.5Y5/3 ～黒色 2.5Y2/1	13×10cm角破片。外面口縫部から 上半部に煤付着。刻目突蒂・口縫距 離7～8mm、突出高4～5mm、刻目幅 7～10mm、大きなD字状
60-251	29	±34	—	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期：V期	第6造構面 O1	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外)やや粗雜なナデ。突蒂貼付 のち割目 (内)粗雜なナデ。ナデ	1.5mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英など) 及び若干の3～5mm大 の砂粒子を含む 良好	(外)ぶい黄褐色 10YR7/2 (内)ぶい黄褐色 10YR7/2	6×5.5cm角破片。外面突蒂以下に 煤付着。内面の黒色は異常? 刻目 突蒂・口縫距離5.5～8mm、突出高 5～7mm、刻目幅4mm、V字状
60-252	29	±38	—	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期： V～VI期	第6造構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外)口縫端部は尖りざみ。やや粗 雜なナデ。突蒂貼付のち割目 (内)2枚貝条痕	1mm前後の砂粒子をまば らに含む 良好	(外)不明 (内)黒褐色 10YR3/1	4×3.5cm角破片。外面全体に煤 吸着。刻目突蒂・口縫距離9～10mm、 突出高4～5mm、刻目幅1～3.5mm、 V～小さなD字状
60-253	29	±101	1029 5.552m	縄文土器	刻目突蒂 深鉢	晩期： V～VI期	第6造構面 M2	SR古	黃褐色 砂礫層 [3層]				(外)調整不明。突蒂貼付のち割 目 (内)ナデ?	1mm以下の砂粒子(石英 など)少 量含む 良好	(外)黒褐色 SYR2/1 (内)黒褐色 SYR2/1	3.5×2.5cm角破片。口縫端部は粗 雜な仕上り。外面全体に煤こびり付 き。刻目突蒂・口縫距離10～11mm、 突出高4～6mm、刻目幅3～5mm、 V字状
60-254	29	±11	—	縄文土器	刻目突蒂 小型深鉢	晩期： V～VI期	第6造構面 M2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外)粗雜な口縫端部を尖らす。 ナデ。突蒂貼付のち割目。粗雜な ナデ (内)貝殻条痕のナデ	1mm以下の砂粒子(石英 など)含む 良好	(外)黒褐色 2.5Y3/1 (内)黒褐色 2.5Y3/1	4×4cm角破片。外面に煤付着。刻 目突蒂・口縫距離7～8mm、突出 高3～4mm、刻目幅1.5～3mm、V 字状

## 土器観察表

埠団 番号	因版 番号	実測 取上番号	出土標高	種別	器種	時期 型式	検出遺構面 グリッド	遺構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
60-255	29	±37	-	縄文土器	刻目突帯 深鉢	後期：VI期	第6遺構面 N3	SR 古	黄褐色 砂礫層 [3層]				(外)口縁端部に平坦面作る。突 帯貼付のち刻目。調整不明 (内)調整不明	1.5 × 1 mmの大砂粒子 (石英など)やや多く含 む(弥生前縦土器の胎 土に似る) やや不良	(外)灰黄色 2.5Y7/2 (内)灰黄色 2.5Y7/2	8.5 × 6 cm角破片。刻目突帯：口縫 距離 5 ~ 6 mm、突出高 4 ~ 5 mm、 刻目幅 1 ~ 3 mm、V字状
60-256	29	±37	759 5.76m	縄文土器	刻目突帯 小型深鉢	後期：VI期	第6遺構面 M3	SR 古	灰色砂 礫層 [3層]	(15.4)			(外)突帯貼付のち口縁端部に平 坦面作り、刻目施す。粗糙なナデ (内)押押さえ感の残る凹凸のある ナデ	2 mm以下の砂粒子(石英 ・長石など)含む 良好	(外)黒褐色 10YR3/2 (内)黒褐色 2.5Y3/1	口縫部約 1/6存。外面全体に焼付層。 刻目突帯：口縫距離 0 mm、突出高 3 mm、刻目幅 0.5 ~ 1.5 mm、V字状
60-257	29	±35	-	縄文土器	無刻目突帯 小型深鉢	後期：VI期	第6遺構面 M3	SR 古	黄褐色 砂礫層 [3層]				(外)口縁端部に平坦面作る。突 帯貼付。調整不明 (内)丁寧なナデ	微砂粒子(石英など)含 む 良好	(外)黒褐色 2.5Y3/2 (内)黒褐色 2.5Y2/1	4 × 2 cm角破片。外縫接合。退化した 無刻目突帯：口縫距離 5 mm、突出 高 3 mm
60-258	29	±35	-	縄文土器	無刻目突帯 深鉢	後期：VI期	第6遺構面 N3	SR 古	黄褐色 砂礫層 [3層]				(外)口縁端部は平坦面を作り外に 尖らせる2點を丸めて出し放 し。粗糙なナデ。突帯貼付 (内)口縫端部に平坦面作る。ナ デ	1.5 mm以下の砂粒子(石 英・ディサイア岩片・金 等)やや多く含 む 良好	(外)灰黄色 10YR4/2 ~ 黑色 2.5Y2/1 (内)黑色 2.5Y2/1	5.5 × 4 cm角破片。外縫接合。外面 の一部に焼付層。無刻目突帯：口縫 距離 3 ~ 5 mm、突出高 4 ~ 5 mm
60-259	29	±4	761 5.94m	縄文土器	刻目突帯 深鉢	後期：V期	第6遺構面 M2	SR 古	灰色砂 礫層 [3層]	(39.0)			(外)口縁端部にナザイズ刻目(上 から)。2条の突帯貼付ナデ?調整 のち刻目施す (内)上半は斜めナデ?、下半はヨ コナデ?調整	1.5 mm以下の砂粒子(石 英・長石など)やや多く 含む 良好	(外)にぶい黄褐色 10YR8/3 ~ 暗灰色 10YR4/1 (内)オリーブ黒色 5Y3/1	口縫部約 1/10存。刻目突帯：口縫 距離 5 ~ 6 mm、上段：突出高 5 ~ 7 mm、刻目幅 3 ~ 5 mm、小さなD字状、 下段の突帯間サイズ
60-260	29	±38	-	縄文土器	2条 刻目突帯 深鉢	後期：V期	第6遺構面 O1	SR 古	灰色砂 層 [3層]				(外)口縁端部に上からの刻目。ナ デ。2条の突帯貼付のち刻目。粗 糙なナデ (内)ナデ	1.5 mm以下の砂粒子(石 英など)少量含む 良好	(外)灰黃褐色 10YR8/2 (内)黑色 10YR2/1	10 × 4 cm角破片。刻目突帯：口縫 距離 8 ~ 9 mm、上段：突出高 3 ~ 4 mm、刻目幅 2 ~ 2.5 mm、V字状、下段： 突出高 3.5 mm、刻目幅 2 ~ 2.5 mm、V 字状
60-261	30	±35	-	縄文土器	2条 刻目突帯 深鉢	後期：V期	第6遺構面 M3	SR 古	黄褐色 砂礫層 [3層]				(外)ナデ。上段突帯貼付のち刻目。 下段突帯貼付のち刻目 (内)口縫端部に平坦面作る。や や粗糙なナデ	1.5 mm以下の砂粒子(石 英・ディサイア岩片など) 含む 良好	(外)褐褐色 10YR5/1 (内)黑色 10YR2/1	8.5 × 5 cm角破片。外面口縫部に 焼付層。刻目突帯：口縫距離 5 ~ 6 mm; 上段：突出高 3 ~ 4 mm、刻目幅 1 ~ 2 mm、 V字状、下段：突出高 4 mm、刻目幅 1 mm、V字状
60-262	30	±35	1450 5.86m	縄文土器	2条 刻目突帯 深鉢	後期：V期	第6遺構面 L3	SR 古	黄褐色 砂礫層 [3層]				(外)口縫端部に深い平坦面あり。 調整不明。上段突帯貼付のち刻目。 下段突帯貼付のち刻目 (内)ナデ(付仔細ナデによる凹 みあり)	2 mm以下の砂粒子(石 英など)多く含む 良好	(外)灰黃褐色 10YR8/2 (内)反黃褐色 10YR4/2	12 × 11 cm角破片。刻目突帯：口縫 距離 6 ~ 8 mm; 上段：突出高 3 ~ 4 mm、 刻目幅 1.5 ~ 2.5 mm、V字状、下段： 突出高 4 ~ 5 mm、刻目幅 1.5 mm、V 字状
60-263	30	±41	983 5.13m	縄文土器	2条 刻目突帯 深鉢胴部	後期： IV ~ V期	第6遺構面 N2	SR 古	灰色砂 層 [4層]				(外)貝殻系痕ナデ。下段の突 帯貼付のち刻目 (内)貝殻系痕のナデ	2.5 mm以下の砂粒子(石 英・ディサイア岩片など) 及び若干の 6 mmの大砂 粒子を含む 良好	(外)淡黄色 2.5Y7/3 (内)灰黄色 2.5Y6/1 ~暗灰黄色 2.5Y4/2	9 × 7 cm角破片。刻目突帯：下段： 突出高 7 ~ 8 mm、上段：突出高 3 ~ 4 mm、 刻目幅 3 ~ 4 mm、V字状、中央 は浅い凹陷のため、窓工具は見 られない
61-264	30	±38	725 6.21m	縄文土器	2条 刻目突帯 深鉢胴部	後期： IV ~ V期	第6遺構面 N1	SR 古	灰色砂 層 [1層]				(外)ナデ。下段突帯貼付のち刻目。 (内)やや粗糙なナデ	1 mm以下の砂粒子(ディ サイア岩片・石英など) 含む 良好	(外)にぶい黄褐色 10YR7/2 (内)黑色 2.5Y2/1	5.5 × 5 cm角破片。内面被熱のため 黒色化。刻目突帯：下段：突出高 3 ~ 4 mm、刻目幅 6 ~ 7.5 mm、D字状
61-265	30	±35	1023 6.51m	縄文土器	2条 刻目突帯 深鉢胴部	後期：V期	第6遺構面 O2	SR 古	灰色微 砂粒黏 土 [1層]				(外)粗糙なナデ。突帯貼付のち刻 目 (内)ナデ	1 mm以下の砂粒子(石 英など)含む 良好	(外)にぶい黄色 2.5Y6/3 (内)灰黄色 2.5Y5/1	5.5 × 5.5 cm角破片。外縫全体に 焼付層。刻目突帯上部の割れ面の幅 が広い。口縫部から距離がある と思われるため、窓工具は見 られない。刻目突帯：突出高 4 mm、 刻目幅 2 ~ 3 mm、小さな D 字状

土器観察表

拂因 番号	因版 番号	実測 番号	出土番号	出土地点	種別	器種	時期 型式	接出透構面 グリッド	透構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考	
61-266	30	土44	1133	5.218m	縄文土器	浅鉢	後期前葉 (縄帯文期) 布勢一崎ヶ 森?	第6透構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 [3層]	(30.6)				(外) 調整不明 (内) 調整不明	2 mm以下の砂粒子(石英 ・長石など)多く含む 良好	(外) オリーブ黒色 5Y3/1 (内) 緩灰黄色 2.5Y5/2	口縁部約1/8存。口縁部は外反し、 底部は弧形。内面の頸部は強調させ ている
61-267	30	土47	-	縄文土器	波状口縁 浅鉢	後期前葉 (縄帯文期) 布勢一崎ヶ 森?	第6透構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]					(外) ミガキ (内) ミガキ	微砂粒子(石英・長石 など)含む 良好	(外) 黒褐色 2.5Y3/1 (内) 細灰黄色 2.5Y4/1	5 × 3 cm角破片	
61-268	30	土44	-	縄文土器	浅鉢	後期前葉 (縄帯文期) 布勢一崎ヶ 森?	第6透構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]					(外) 調整不明 (内) 頸部はミガキが確認できる。 他は調整不明	2 mm以下の砂粒子(石英 ・長石など)多く含む やや不良	(外) 緩灰黄色 2.5Y4/2 ~ 黒色 2.5Y2/1 (内) 黒褐色 2.5Y3/1	6 × 3.5 cm角破片。内→外への穿孔 が現状で1ヶ所確認できる	
61-269	30	土39	-	縄文土器	ボウル形 有文 浅鉢	後期中葉 (縄帯文期) 沖丈~稚瀬山	第6透構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]					(外) 口縁端部はナデ。縄文施文? のち凹線文(区画文)のち磨真し。 (内) 丁寧なナデ	1.5 mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英など) 多く含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR8/3 ~ 黒灰色 10YR5/1 (内) 黑褐色 10YR3/1	7 × 4 cm角破片。口縁端部は若干厚 くなり平面面をもつ。外側の凹線文で 区画された面には表面が磨滅してい るが若干の縄文が觀察される	
61-270	30	土29	1336	5.079m	縄文土器	ボウル形 有文 浅鉢肩部	後期中葉 (縄帯文期) 沖丈~稚瀬山	第6透構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]					(外) 縄文 LR 指文のち現状で4条 の凹線文で区画の1面おきに磨 消し (内) 具股条痕のちナデ。丁寧なナ デ	微砂粒子(石英など)少 量含む 良好	(外) 黒褐色 2.5Y3/1 ~ 黄褐色 2.5Y5/1 (内) 黑褐色 2.5Y3/1 ~ 黄褐色 2.5Y8/1	6.5 × 5 cm角破片。外側の麻渋し面 には縄文が見え退れしている
61-271	30	土34	1333	5.28m	縄文土器	有文 浅鉢胴部	後期後半	第6透構面 O2	SR古	黒褐色 有機物 層 [2層深]					(外) 凹線文(曲線の意匠)。調整 不明 (内) ナデ	1.5 mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英など) 含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR8/2 (内) にぶい黄色 2.5Y8/3	5 × 4 cm角破片
61-272	30	土25	1276	5.279m	縄文土器	ボウル形 浅鉢	後期中葉 (縄帯文期) 沖丈	第6透構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]					(外) 調整不明 (内) ナデにより縁部を作り出し、 端部はつぶすように押しつけて尖ら せる。調整不明	1 mm以下の砂粒子(石英 など) 多く含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR8/3 (内) 黑褐色 10YR3/2	5 × 5 cm角破片
61-273	30	土15	1048	5.284m	縄文土器	有文 浅鉢	後期後葉 (凹線文 期?)	第6透構面 M3	SR古	青灰色 砂礫層 [3層]					(外) 丁寧なナデ。平行凹線文の ち逆U字状へラブキ2段 (内) 逆U字状へラブ。凹線文。調 整不明	微砂粒子(石英・長石 など)多く含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/3 (内) 灰白色 2.5Y7/1	口縁部約1/9存
61-274	30	土28	-	縄文土器	ボウル形 粗製 浅鉢	後期後半~ 晚期前半?	第6透構面 N2	SR古	灰色砂 層 [3層]					(外) 具股条痕のちナデ (内) 粗雑なナデ	1 mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英など) やや少量含む やや不良	(外) にぶい黄褐色 7.5YR7/3 (内) にぶい褐色 7.5YR7/4 ~ 黑褐色 7.5YR3/1	10 × 7 cm角破片	
61-275	30	土16	-	縄文土器	ボウル形 粗製 浅鉢	後期中葉~ 後葉?	第6透構面 N3	SR古	黃灰色 砂礫層 [3層]	(15.5)				(外) 粗雑なナデ (内) 粗雑なナデ	2 mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英など) 及び若干の5~ 10 mm大的砂粒子含む 良好	(外) 黄褐色 7.5YR4/2 (内) 黑色 2.5Y2/1	口縁部約1/6存	
61-276	30	土24	933	5.318m	縄文土器	ボウル形 浅鉢	後期 (胎土より)	第6透構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	(20.6)				(外) 丁寧なナデ (内) ミガキ。単位が確認できない 4段階を踏み消すように施しているた め平滑。	1.5 mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英など) やや多く含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/2 ~ 黑灰色 10YR4/1 (内) 反黄褐色 2.5Y7/2 ~ 黄褐色 2.5Y5/1	上半部約1/5存
61-277	30	土31	754	5.348m	縄文土器	ボウル形 浅鉢	後期	第6透構面 O1	SR古	灰色砂 礫層 [3層]	(23.7)				(外) 具股条痕のちナデ (内) 口縫部ヨコミガキ。下半部削 めタテミガキ	1.5 mm以下の砂粒子(デ イサイト岩片・石英・角 閃石など)含む 良好	(外) 黄褐色 2.5Y4/1 ~ 緩灰黄色 2.5Y5/2 (内) にぶい黄色 2.5Y8/3	口縁部約1/11存

土器観察表

埠団 番号	因版 番号	実測 番号	出土番号	出土標高	種別	器種	時期 型式	検出遺構面 グリッド	遺構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
61-278	30	±375	957	5.208m	縄文土器	浅鉢	晩期前半	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]				(外) 調整不明 (内) 調整不明	1mm以下の砂粒子(石英 ・長石など)多く含む 良好	(外) 淡黄色 2.5Y7/3 ～オリーブ黒色 5Y3/2. (内) 淡黄色 2.5Y7/3 ～オリーブ黒色 5Y3/2.	4.5 × 4 cm角破片。長い頭部が外反し、口縁部は短く立ち上がる
61-279	30	±74	954	5.228m	縄文土器	浅鉢	晩期前半	第6遺構面 N2	SR古	黒褐色 有機物 層 [2層深]				(外) 口縁端部は平坦面を作り、口 縁部は膨らみをもたらす。頭部は強く 屈曲させる。ミガキ (内) 口縁部は肥厚させる。丁寧な ナデ	1mm以下の砂粒子(石英 ・長石・金雲母など)多 く含む 良好	(外) 黒色 5Y2/1 (内) 黒色 5Y2/1	8 × 4.5 cm角破片
61-280	30	±42	—	縄文土器	有文 浅鉢 突起部		晩期前半	第6遺構面 M3・N3	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) ミガキ。突起部に2ヶ所の 瘤状突起。 (内) 四み状の突起。粗雑なミガキ	1mm以下の砂粒子(石英 ・長石など)含む 良好	(外) 黒褐色 2.5Y3/1 (内) 暗灰色 2.5Y4/1	3 × 2.5 cm角破片。内面の凹み状の 突起は、内側から押しつぶしたもの
61-281	30	±171	—	縄文土器	有文 浅鉢 口縁部		晩期・三期	第6遺構面 M2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 口縁部にボン点突起。 丁寧なナデ (内) 丁寧なナデ。何箇所も強いナ デにより屈曲させる	微砂粒子(石英・長石 など)含む 良好	(外) 淡灰黄色 5Y5/2 (内) 淡灰黄色 5Y5/2	5 × 2.5 cm角破片
61-282	31	±41	1207	5.042m	縄文土器	有文 浅鉢 口縁部	晩期・三期	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) ポタリ状突起+リボン状? 突 起。丁寧なナデ (内) 口縁突起部分は貼付。丁寧 なナデ。四文線	1.5mm以下の砂粒子(石英 ・長石など)やや多く 含む 良好	(外) 黑褐色 10YR3/1 (内) 黑褐色 10YR3/1	4.5 × 3.5 cm角破片。口縁部は貼付 で肥厚させる。現状で1ヶ所の穿孔 は凹線上で内→外へ穿たれる
61-283	31	±176	1205	5.082m	縄文土器	浅鉢	晩期	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 口縁部にミガキによる平坦面。 ミガキ。 貝殻条痕のち粗雑なミガキ (内) ミガキ。丁寧なナデ	微砂粒子(石英・長石 など)やや少量含む 良好	(外) 黒色 2.5Y2/1 (内) 黒色 2.5Y2/1	8 × 6 cm角破片。複数で1ヶ所の燒 成後穿孔あり
61-284	31	±370	—	縄文土器	波状口縁 有文 浅鉢		晩期	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 口縁部に1条の平行弦棱線と ミガキ。浅い凹線文。ナデ。ケ ズリ(右→左) (内) 口縁部に1条の平行弦棱線。 ミガキ	1mm以下の砂粒子(石英 ・長石など)少 量含む 良好	(外) 黑色 2.5Y2/1 (内) 黑色 2.5Y2/1	6 × 3.5 cm角破片
62-285	31	±200	971	5.214m	縄文土器	浅鉢	晩期	第6遺構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]				(外) 口縁端部に小さな平坦面。や や粗雑なミガキ。表面緩やかな屈 曲。ケズリ(右→左) (内) やや粗雑なミガキ。頭部は強 いミガキによく出せる。ミガキ	1mm以下の砂粒子(石英 ・長石など)含む 良好	(外) 黑褐色 2.5Y3/1 ～藍色 2.5Y2/1 (内) 黑褐色 10YR3/1	12 × 8 cm角破片
62-286	31	±206	1490	4.834m	縄文土器	浅鉢	晩期 前半?	第6遺構面 M3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]				(外) ミガキ。頭部は屈曲させ。ケ ズリ(右→左) (内) やや粗雑なミガキ。頭部は工 具を当てにくびけさせる。ミガキ	1mm以下の砂粒子(石 英・長石など)含む 良好	(外) 黑褐色 2.5Y3/1 (内) 黑色 2.5Y2/1	11 × 8.5 cm角破片。外側全体に焼 付着
62-287	31	±19	1473	5.068m	縄文土器	浅鉢	晩期 三期?	第6遺構面 M3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]				(外) ミガキ。頭部は屈曲させ。ケ ズリ(右→左) (内) やや粗雑なミガキ。頭部は工 具を当てにくびけさせる。ミガキ	1.5mm以下の砂粒子(石 英・長石・ディサイト岩 片など)やや多く含む 良好	(外) 黑褐色 10YR3/1 (内) 黑色 10YR2/1	8 × 7 cm角破片。外側に輝吸着
62-288	31	±175	1253	5.038m	縄文土器	浅鉢	晩期	第6遺構面 O2	SR古	黄色砂 礫層 [3層]				(外) 調整不明。ミガキ。ケズリ(斜 め下→斜め上)。 (内) 調整不明。ミガキ	1.5mm以下の砂粒子(石英 ・長石など)含む 良好	(外) 暗黄色 10YR4/1 (内) 黑褐色 10YR3/1	7 × 5 cm角破片。外側口縁部に焼付 着
62-289	31	±174	—	縄文土器	波状口縁 浅鉢		晩期	第6遺構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 口縁端部に平坦面を作る。ナ デ。貝殻条痕+ナデ (内) ミガキ	1mm大的砂粒子(石英な ど)含む 良好	(外) 暗黄色 10YR4/2 (内) 黑褐色 2.5Y3/2	8 × 7 cm角破片。外側の一部に焼付 着

土器観察表

拂団 番号	圓版 番号	実測 番号	出土番号	出土標高	種別	器種	時期 型式	接出造横面 グリッド	造構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	治土・焼成	色調	備考
62-290	31	±16	796	5.53m	縄文土器	波状方形 有文 浅鉢	晩期： IV～V期	第6造横面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 口縁部は、波状口縁の頂部は尖り込みだが、斜面は平坦面を作る。やや粗雑なミガキ。やや粗雑なナデ (内) やや粗雑なミガキ。ミガキによる1条の平行沈線文。	1mm以下の砂粒子(石英・長石など)含む 良好	(外) 黒色 2.5Y2/1 (内) 黑褐色 2.5Y3/1	9×8cm角破片
62-291	31	±16	1215	5.844m	縄文土器	波状方形 浅鉢	晩期： IV～V期	第6造横面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 口縁部に平坦面を作る。ミガキ。頭部の屈曲部がわずかに残存。 (内) ミガキ。口縁部に強いミガキによる小さな段あり	1mm以下の砂粒子(石英など)含む 良好	(外) 黄灰色 2.5Y4/1 (内) 黑褐色 2.5Y3/1	8×4cm角破片。接合面は粘土貼付痕
62-292	31	±17	1224	5.879m	縄文土器	波状方形 有文 浅鉢	晩期： IV～V期	第6造横面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 口縁部に平坦面を作る。ミガキ。頭部の屈曲部がわずかに残つて(左一右一)。 (内) やや粗雑なミガキ。頭部にくびれを入れる。	1mm以下の砂粒子(石英・長石など)やや少量含む 良好	(外) 黑褐色 2.5Y3/2 (内) 黄褐色 2.5Y5/3 (内) 黑褐色 2.5Y3/2	8×5cm角破片
62-293	31	±16	779	5.424m	縄文土器	波状方形 有文 浅鉢	晩期： IV～V期	第6造横面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外) 口縁部は平坦面を作る。ミガキ。 (内) ミガキ。ミガキによる1条の平行沈線文	微砂粒子(石英・長石など)やや少量含む 良好	(外) オリーブ黒色 5Y3/1 (内) オリーブ黒色 5Y3/1	3.5×3.5cm角破片。波状口縁の頂部下に現状で1ヶ所の穿孔あり(外→内へ)
62-294	31	±25	987	5.162m	縄文土器	波状方形？ 有文 浅鉢	晩期： IV～V期	第6造横面 N3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]				(外) 口縁部に平坦面を作る。ミガキ。 (内) ミガキ。口縁部に1条の平行沈線文	微砂粒子(石英・ディサイト岩片など)含む 良好	(外) 暗褐色 2.5YB6/6 ~灰褐色 2.5YR4/2 (内) ぶい褐色 2.5YR6/4 ~ 2.5YR6/4	4×4cm角破片。破面は、頭屈曲部の貼付痕が剥がれたもの
62-295	31	±16	751	5.856m	縄文土器	波状口縁？ 浅鉢 口縁部	晩期	第6造横面 O1	SR古	灰色砂 層 [3層]				(外) 口縁部ミガキ。ミガキ(單位を満している) (内) ミガキ	微砂粒子(石英・長石など)含む 良好	(外) 暗褐色 10YR4/1 (内) 黑色 2.5Y2/1	5×3.5cm角破片
62-296	31	±37	-		縄文土器	波状口縁 有文 浅鉢	晩期	第6造横面 P2	SR古	灰色砂 層 [3層]				(外) ミガキ (内) ミガキ。1条の平行沈線文	微砂粒子(石英・ディサイト岩片など)及び若干の1mm大的砂粒子含む 良好	(外) 緋紅色 10YR4/2 ~黒色 2.5Y2/1 (内) ぶい黄褐色 10YR7/2 ~ 黑褐色 10YR7/1	6.5×4cm角破片。内面に若干の擦付着
62-297	31	±20	1495	5.014m	縄文土器	波状口縁？ 有文 浅鉢	晩期： III期？	第6造横面 M3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]				(外) 口縁部は現状で2.5mm(頂部か)~4mm幅の平坦面を作る。やや粗雑なミガキ。頭部は屈曲する。ケズリ(右一左一)+ナデ (内) 粗雑なミガキ。口縁部に鋭利な1条の平行沈線文	1mm以下の砂粒子(石英など)含む 良好	(外) 黑色 2.5Y2/1 (内) 黑色 2.5Y2/1	6.5×4.5cm角破片
62-298	31	±16	-		縄文土器	有文 浅鉢	晩期	第6造横面 O1	SR古	灰色砂 層 [3層]				(外) 口縁部は不規則の平坦面。 粘土を押し付けて丸くおさめる。貝殻痕のミガキ (内) ミガキ。1条の平行沈線文	微砂粒子(石英など)含む 良好	(外) 灰黃褐色 10YR5/2 (内) 暗褐色 10YR4/1	5×2cm角破片
63-299	31	±20	834	5.438m	縄文土器	浅鉢	晩期： III期？	第6造横面 N2	SR古	灰褐色 砂礫層 [4層]				(外) 口縁部は平坦面を作る。頭部不明。頭部屈曲せず (内) 粗雑なミガキ	微砂粒子(石英など)少 含む 良好	(外) 黑色 2.5Y2/1 (内) 黑色 2.5Y2/1	9×8cm角破片。外表面全体に煤こびり付き
63-300	32	±24	1494	5.022m	縄文土器	浅鉢	晩期： V期？	第6造横面 M3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]				(外) やや粗雑なミガキ(所々未調整面が残る)。ケズリ(右一左一) (内) やや粗雑なミガキ(所々未調整面が残る)。丁寧なミガキ	微砂粒子(石英・長石・ディサイト岩片など)含む 良好	(外) 黑色 2.5Y2/1 (内) 黑色 2.5Y2/1	5.5×5cm角破片

土器観察表

埠団 番号	因版 番号	実測 取上番号	出土標高	種別	器種	時期 型式	検出選擇面 グリッド	遺構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
63-301	32	±17	1036	縄文土器	浅鉢	晩期：V (～VI)期	第6遺構面 M2-M3	SR 古	灰色砂 層・灰 色砂礫 層 [4層]	(35.6)			(外)口縁端部は外へ丸めておさまる。縁部は継やかな屈曲。やや粗 雑なミガキ (内)やや粗雑なミガキ	1mm以下の砂粒子(石英 など)含む 良好	(外)灰黄褐色 10YR4/2 (内)黒色 2.5Y2/1	体部上半約1/8存。外面に若干の 焼吸着
63-302	32	±16	1472	縄文土器	浅鉢	晩期：V期	第6遺構面 M3	SR 古	灰色砂 層 [4層]				(外)ミガキ？ 縁部屈曲す。ケ ズリ(左一左、下→上) (内)調整不規	微砂粒子(石英・長石 など)やや多く含む 良好	(外)灰黄褐色 10YR6/2 (内)灰黄褐色 10YR6/2	7×7cm角破片
63-303	32	±13	-	縄文土器	有文 浅鉢	晩期：V期	第6遺構面 N3	SR 古	黃灰色 砂礫層 [4層]				(外)ミガキ？ 口縁部に1条の浅 い平行沈線文。ケズリ(左→右) (内)やや粗雑なミガキ(屈曲部に 指痕痕跡される)	1mm以下の砂粒子(石英 など)含む 良好	(外)口縁部・褐灰 色 10YR4/1、崩部・ 灰黃褐色 10YR6/2 (内)口縁部・黒褐色 10YR3/1、崩部・ 灰黃褐色 2.5Y6/2～に ぶい黄色 2.5Y6/3	8×5.5cm角破片
63-304	32	±17	741	縄文土器	浅鉢	晩期	第6遺構面 N2	SR 古	黃灰色 砂礫層 [3層]				(外)ミガキ？ 屈曲部少し上に粘 土貼付感が明顯。ケズリ(右一左) (内)ミガキ	微砂粒子(石英・長石 など)やや少量含む 良好	(外)灰黄褐色 10YR5/2 (内)褐灰色 10YR4/1	8×5.5cm角破片。外面口縁部に煤 こびり付き
63-305	32	±17	1261	縄文土器	浅鉢	晩期：V期	第6遺構面 O2	SR 古	黃灰色 砂礫層 [3層]				(外)口縁端部はミガキによりきれ いな平滑部を作る。ミガキ(単位を ぼぼ消す)。 (内)一般柔軟のミガキ	2mm以下の砂粒子(石英 など)含む 良好	(外)黑色 2.5Y2/1 (内)黒色 2.5Y2/1	口縁部約1/8存
63-306	32	±14	-	縄文土器	有文 浅鉢	晩期後半	第6遺構面 N3	SR 古	灰色砂 礫層 [3層]				(外)ミガキ (内)口縁部に1条の浅い平行沈 線文。ミガキ。やや粗雑なミ ガキ	微砂粒子(石英・長石 など)少量含む 良好	(外)黑色 2.5Y2/1 (内)黒色 2.5Y2/1	9×4.5cm角破片
63-307	32	±17	-	縄文土器	波状口縁？ 有文 浅鉢	晩期後半	第6遺構面 N3	SR 古	黃灰色 砂礫層 [3層]				(外)ミガキ。ケズリ(右一左) (内)ミガキ。口縁部に1条の平行沈 線文。(屈曲部が合流せずずれてる)。 縁部に強いミガキによる屈曲あり。	微砂粒子(石英など)少 量含む 良好	(外)黑色 2.5Y2/1 (内)黑色 2.5Y2/1	7×4.5cm角破片
63-308	32	±37	1157	縄文土器	有文 精製 浅鉢	晩期： V期？	第6遺構面 O1	SR 古	黃灰色 砂礫層 [4層]				(外)口縁部に1条の平行沈線文、 直下にナナコにより柱状を強調す ミガキ。頭部を屈曲させ (内)ミガキ	微砂粒子(石英・ディサ イト岩など)少量含む 良好	(外)黑色 2.5Y2/1 (内)黒褐色 2.5Y3/1	5×3cm角破片。黒色磨研土器？
63-309	32	±10	765	縄文土器	波状口縁 浅鉢	晩期	第6遺構面 M2	SR 古	灰色砂 礫層 [3層]				(外)口縁端部に平坦面あり。丁寧 なナナコ。捲折痕に沈線を入れる。ケ ズリ(右一左) (内)調整不明。1条の凹凸線文。 ミガキ。頭部を屈曲させ 曲曲させる。調整不規	1mm以下の砂粒子(石英 など)及び若干の 2mmの砂粒子含む 良好	(外)黒色 2.5Y2/1 +灰青褐色 10YR4/2 (内)黒色 2.5Y2/1	7×7cm角破片。外口縁部から屈 曲部下まで煤こびり付き。内面全体 に焦げた内物語こびり付き
63-310	32	±16	-	縄文土器	有文 浅鉢	晩期：V期	第6遺構面 M3	SR 古	黃褐色 砂礫層 [4層]				(外)口縁端部は外へ引き出して平 坦面を作る。ミガキ。頭部は屈曲 する。ナナコ。 (内)ミガキ。1条の平行沈線文	1mm以下の砂粒子(石英 など)含む 良好	(外)にぶい橙色 SYR7/4～淡黄褐色 7.5YR8/3 (内)にぶい橙色 SYR7/4～淡黄褐色 7.5YR8/3	5.5×4.5cm角破片
63-311	32	±17	751	縄文土器	有文 精製 浅鉢	晩期：V期	第6遺構面 O1	SR 古	灰色砂 層 [3層]				(外)ミガキ。口縁部に2条の平行 沈線文。頭部は屈曲 (内)ミガキ	1mm以下の砂粒子(石英 など)及び若干の2mm大 の砂粒子含む 良好	(外)黒色 2.5Y2/1 (内)黒褐色 2.5Y3/1	5×5cm角破片

土器観察表

拂因 番号	因版 番号	実測 番号	出土番号	出土標高	種別	器種	時期 型式	検出透構面 グリッド	透構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
63-312	32	±192	1238 5.514m	縄文土器	有 精製 浅鉢	晩期：V期	第6透構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	(17.6)				(外)ミガキ(単位を消そうとしている)、口縁端部は平坦面。強いミガキにより2条の突帯文裏窓。頭部は屈曲(内)ミガキ(単位を消そうとしている)	微砂粒子(石英・長石など)含む 良好	(外)黒色 2.5Y2/1 (内)黒色 2.5Y2/1	口縁部約1/9存。黒色磨研土器
63-313	32	±307	980 5.184m	縄文土器	鍵形口縁 浅鉢	晩期：IV期	第6透構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]					(外)口縁端部に幅広の平坦面あり。口縁と頭部屈曲する。調整不明(内)口縁部が2段に屈曲(鍵形口縁)。調整不明	微砂粒子(石英など)少 量含む 良好	(外)黒褐色 2.5Y3/1 (内)黒褐色 2.5Y3/1	4×4cm角破片
64-314	32	±191	1462 5.266m	縄文土器	浅鉢	晩期：V期	第6透構面 L3	SR古	黃灰色 砂礫層 [4層]	(21.6)				(外)ミガキ。口縁端部は強いミガキにより外へ曲げる。頭部は屈曲(内)ミガキ	1mm以下の砂粒子(石英など)含む 良好	(外)黒褐色 10YR3/1 (内)黒褐色 10YR3/1 ~黒色 10Y2/1	頭部約1/10存
64-315	32	±198	853 5.218m	縄文土器	精製 浅鉢	晩期：V期	第6透構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]					(外)口縁端部は外へ曲げる。ミガキ(単位はほどんど消している)。頭部屈曲。ミガキ(内)ミガキ(単位をほどんど消している)	微砂粒子(石英など)少 量含む 良好	(外)黒色 2.5Y2/1 +灰青褐色 10YRS/2 (内)黒色 2.5Y2/1	10×5.5cm角破片
64-316	32	±190	1240 5.502m	縄文土器	精製 浅鉢	晩期：V期	第6透構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	(21.7)				(外)口縁端部は小さく外反。ミガキ(内)やや粗粒なミガキ。ミガキ(単位を消している)	微砂粒子(石英など)や や少量含む 良好	(外)黒色 2.5Y2/1 (内)黒色 2.5Y2/1	口縁部約1/7存。口縁部に現状で1ヶの焼成後穿孔(外面から内面に穿つ)
64-317	33	±18	721 6.296m 723 6.18m	縄文土器	精製 浅鉢	晩期：V期	第6透構面 N1	SR古	灰色砂 礫層 [3層]	(29.4)				(外)かなり丁寧なミガキ。そのため稜線部が不明瞭な部分が多い(内)かなり丁寧なミガキ。そのため稜線部の単位が不明瞭な部分が多い	微砂粒子(石英など)や 多く含む 良好	(外)オリーブ黒色 SY3/1 (内)オリーブ黒色 SY3/1	口縁部約1/10存。口縁部と頭部の境はく字状を呈し。口縁部は折り曲げてくれるところ
64-318	33	±194	1071 5.056m	縄文土器	浅鉢	晩期：V期	第6透構面 M2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]					(外)ミガキ。口縁端部を外に曲げる。頭部は屈曲する(内)ミガキ	1mm以下の砂粒子(石英など)含む 良好	(外)暗灰黄色 2.5Y4/2 (内)黒褐色 2.5Y3/1	4.5×3cm角破片。波状口縁か?
64-319	33	±7	979 6.344m	縄文土器	精製 浅鉢	晩期：V期	第6透構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	(24.7)				(外)丁寧なミガキ。特に頭部は棱線を消すように丁寧に施しているため、器蓋も薄い(内)丁寧なミガキ。特に頭部は棱線を消すように丁寧に施しているため、器蓋も薄い	微砂粒子(石英・長石など)含む 良好	(外)褐灰色 10YR4/1 +灰青褐色 10YR4/2 (内)褐灰色 10YR4/1 +灰青褐色 10YR4/2	口縁部約1/7存。口縁部は粘土を貼り付けてくの字に墨書き。口縁部はミガキにより棱線を施して丸くおさめる
64-320	33	±194	—	縄文土器	浅鉢	晩期：V期	第6透構面 O1	SR古	灰色砂 礫層 [3層]					(外)丁寧なナダニ。口縫部下は強くナダニで屈曲させる(内)ミガキ	微砂粒子(石英・長石など)含む 良好	(外)褐灰色 10YR4/1 (内)褐灰色 10YR4/1 +灰青褐色 10YR5/2	5×3cm角破片
64-321	33	±188	768 5.982m	縄文土器	精製 浅鉢	晩期：V期	第6透構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 [3層]	(35.7)				(外)ミガキ(単位を消すほどに平滑に施す)(内)ミガキ(単位を消すほどに平滑に施す)	1mm以下の砂粒子(石英・長石など)やや少量含む 良好	(外)黒色 2.5Y2/1 (内)黒色 2.5Y2/1	口縁部約1/9存。屈曲させて小さな口縁部は内傾する
64-322	33	±194	1132 5.514m	縄文土器	有 文 鉢	晩期：I期	第6透構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]					(外)口縁端部は平坦にする。貝殻によるミガキ。器蓋?による平行凹縁文(内)貝殻脊痕の丁寧なナダニ。貝殻脊痕のやや粗粒なナダニ	1mm以下の砂粒子(石英・長石など)含む 良好	(外)黒色 2.5Y2/1 (内)に少し青褐色 10YR7/2 ~ 7/3	6.5×6cm角破片。外面に煤付着
64-323	33	±35	784 5.368m	縄文土器	ボウル形 有 文 浅鉢	晩期	第6透構面 M2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]					(外)ミガキ。1条の沈縁文。幅広の沈縁による施文。(一筆書きではなく)少しぐつね線を描いてつなげて1本の曲線にしている(内)ミガキ	微砂粒子(石英・長石など)少 量含む 良好	(外)黒色 2.5Y2/1 (内)黒色 2.5Y2/1	9×6.5cm角破片。黒色磨研土器。外面幅広凸縁の中に何箇所か赤色を呈する所があり、赤色顔料(ベンガラ)と思われる(測定NoG4)

土器観察表

埠団 番号	因版 番号	実測 取上番号 出土標高	種別	器種	時期 型式	検出選擇面 グリッド	遺構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考	
64-324	33	±16	-	縄文土器	ポウル形 浅鉢	晩期	第6遺構面 M3・N3	SR古	灰色砂 礫層 [3層]			(外)粗雑なミガキ(単位が明瞭に 残る) (内)ミガキ	微砂粒子(石英・長石 など)少量含む 良好	(外)黒褐色2.5Y3/1 ～黒色2.5Y2/1 (内)黒褐色2.5Y3/1	8.5×5cm角破片	
64-325	33	±18	-	縄文土器	ポウル形 浅鉢	晩期	第6遺構面 N3	SR古	黃褐色 砂礫層 [3層]			(外)丁寧なナデ (内)丁寧なナデ	微砂粒子(石英など)少 量含む 良好	(外)灰褐色7.5YR5/2 (内)黒色2.5Y2/1	8×8cm角破片。外面に煤こびり付 き	
64-326	33	±41	1024 5.27m	縄文土器	ポウル形 浅鉢	晩期後半	第6遺構面 N2	SR古	青灰色 砂礫層 [4層]			(外)ミガキ(器面に若干の凹凸あり) (内)ミガキ(器面に若干の凹凸あり)	微砂粒子(石英など)少 量含む 良好	(外)黒色2.5Y2/1 (内)オリーブ黒色 5Y3/1	口縁部約1/9存。直線的な立ち上 りの黒色磨研土器。破面は底部の剥 落痕? 内面にアワ痕あり(FYK0005 試料)	
64-327	33	±20	1045 5.31m	縄文土器	ポウル形 粗製 浅鉢	晩期後半	第6遺構面 M2	SR古	黃褐色 砂礫層 [4層]	(20.6)	7.1	(8.0)	(外)口縁部に小さな平坦部。 ミ ガキ(単位を消すように施す)。 強 いミガキにより底部を強調する。 底 部ミガキ? (光沢があるが中央付 近は凹凸判明) (内)ミガキ(単位を消すように施す)	微砂粒子(石英など)少 量含む 良好	(外)黒褐色10YR3/1 ～黒色10YR2/1 (内)黒褐色10YR3/1	底部約1/3存。やや凸レンズ状の平 底
65-328	34	±13	1459 5.31m	縄文土器	ポウル形 有文 浅鉢	晩期	第6遺構面 L3	SR古	黃褐色 砂礫層 [3層]	(28.3)		(外)貝殻条痕のナデ (内)口縁部に1条の平行弦線文。 丁寧なナデ	1.5mm以下の砂粒子(石 英・長石など)含む 良好	(外)にぶい黄褐色 10YR5/3～黒褐色 10YR3/1 (内)黒色2.5Y2/1	体部約1/6存。現状で1ヶ所の穿孔 (外側から内側への穿孔と思われる がきつい穴孔のためわかりづらい)	
65-329	33	±24	1075 4.99m	縄文土器	皿形 浅鉢	晩期	第6遺構面 M2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]			(外)やや粗雑なミガキ (内)やや粗雑なミガキ	微砂粒子を若干含む 良好	(外)暗灰黄色 2.5Y5/2 (内)黄褐色2.5Y5/3	6×5.5cm角破片。外面に所々爆 着。内面の一部に内容物付着	
65-330	33	±32	715 4.31m	縄文土器	皿状 浅鉢	晩期	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 層(有機 物含む) [2層]			(外)ミガキ、やや粗雑なミガキ(所 々欠陥部が残る) (内)ミガキ	1mm以下の砂粒子(ディ サイト崩片・石英・震母 など)やや少量含む 良好	(外)黒色2.5Y2/1 (内)黒色2.5Y2/1	8×4.5cm角破片	
65-331	34	±18	1115 5.07m	縄文土器	鉢	晩期	第6遺構面 M3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]			(外)やや粗雑なミガキ(器面に凹 凸がみられる)、ミガキのケズリ (右下→左上) (内)ナデのちまぎ。ミガキ	微砂粒子(石英など)含 良好	(外)黒色7.5YR2/1 ～黒褐色10YR3/2 (内)黒色2.5Y2/1 +暗灰黄色2.5Y5/2	13×11.5cm角破片。外面に所々爆 着	
65-332	33	±18	-	縄文土器	鉢	晩期	第6遺構面 O2	SR古	黃褐色 砂礫層 [3層]			(外)口縁部ナデにより縁部を薄く する。貝殻条痕のちな (内)貝殻条痕のミガキ	微砂粒子(石英など) や少量含む 良好	(外)灰黃褐色 10YR5/2 (内)黒褐色10YR3/1	8×7cm角破片	
65-333	34	±17	1450 5.85m	縄文土器	浅鉢	晩期後半	第6遺構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 [3層]			(外)調整不良、口縁部の下に 沈線を施し丸くおさめる。丁寧なナ デ (内)丁寧なナデ	微砂粒子(石英・長石 など)含む 良好	(外)黒色2.5Y2/1 (内)黒褐色2.5Y3/1 +暗灰黄色2.5Y5/2	8×6cm角破片	
65-334	34	±17	747 5.75m	縄文土器	鉢	晩期：VI期	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]	(22.9)		(外)口縁部に小さな平坦面あり。 ミガキ。頂部と肩部の境に段を作る (内)ミガキ。ナデ	1mm以下の砂粒子(石英 など)少量含む 良好(密度・焼成 同じよう焼成)	(外)黒色2.5Y2/1 (内)黒色2.5Y2/1	頭部約1/9存	
65-335	34	±36	-	縄文土器	刻目突唇 浅鉢	後期： V～VI期	第6遺構面 O2	SR古	黃褐色 砂礫層 [3層]			(外)口縁部は中央に凹みの残 る平坦面、ミガキ。2条の突唇貼 付のちまぎ。ケズリ。 (内)丁寧なミガキ。粗雑な調整	微砂粒子(石英・ディサ イト岩片など)含む 良好	(外)黒褐色10YR2/1 (内)黒褐色10YR3/1	4.5×4cm角破片。刻目突唇：口縁 部基盤上：上段：突出高2～2.5mm, 刻目幅1.5～2mm。小さなD字形 下段：突出高1.5～2mm。刻目幅3.5 ～4mm。O字形：器具の頂部を回転 させたもの。	
65-336	34	±16	790 5.31m	縄文土器	口端刻 粗製 浅鉢	晩期：三期	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]	(17.6)		(外)口縁部に上からのかげ。 貝殻条痕のナデ(粗) (内)貝殻条痕のナデ(精)	1mm以下の砂粒子(石英 など)少量含む 良好	(外)灰褐色7.5YR4/2 ～黒褐色7.5YR3/1 (内)灰褐色10YR4/2	体部上半約1/8存。外面口縁部及 び頸部の部分的に煤付着	

土器觀察表

標因 番号	図版 番号	実測 番号	出土番号	出土標高	種別	器種	時期 型式	接出透構面 グリッド	透構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
65-337	34	±38	-	1029	縄文土器	口端刻目 小型壺	晩期：Ⅲ期	第6透構面 M3-N3	SR古	灰色砂 礫層 [3層]				(外)口縁端部に上から小さな刻目。 (内)ナデ	1mm以下の砂粒子(石英・ 長石・角閃石など)含む 良好	(外)にぶい褐色 5YR6/4～にぶい黃 褐色 10YR8/3 (内)灰黃褐色 10YR5/2	8×5cm角破片
65-338	34	±42	1029	5.552m	縄文土器	刻目突唇 粗製 浅鉢	晩期：V期	第6透構面 M2	SR古	黃褐色 砂礫層 [3層]	(25.9)			(外)口縁端部は丸みのある平坦 面を作る。ナデ。口縁部を折り曲げて端部を突帯とし刻目施す。ナ デ。粗縁など (内)部分的に指揮され残るナデ。 貝殻条痕のナデ	1mm大の砂粒子(石英・ 長石など)含む 良好	(外)褐灰色 10YR5/1 (内)全面に黒つ光 付着のため不明	体部上半約1/4存。外面に煤付着。 刻目突唇: 口縫距離 6～7mm、突 出高 4～6mm。刻目幅 4～5mm、D 字状
66-339	38	±18	810	5.552m	縄文土器	刻目突唇 浅鉢	晩期： IV～V期	第6透構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]	(29.0)	14.8 ～ 8.6		(外)口縁端部にやや大きな刻目 (外から)。突帯貼付ナデ? 調整 のち刻目施文。巻貝条痕のナデ (精)。底部はナデ (内)巻貝条痕+丁寧なナデ	2mm以下の砂粒子(石英・ 長石など)やや多く含む 良好	(外)にぶい黃褐色 7.5YR7/3～褐灰色 10YR4/1 (内)にぶい褐色 10YR7/3～灰褐色 5Y4/1+明赤褐色 2.5YR5/0(褐色粒子 を含む)燒成時に 赤色化したものか)	体部約1/2存。底部完形(平底)。 外面口縫部及び洞部1/2周に煤付 着、内面縫合部周辺に内容物付着。 刻目突唇: 口縫距離 10～12mm、突 出高 3～4mm。刻目幅 3～4mm、崩 れたD字状
66-340	35	±17	1410	6.262m	縄文土器 (内側接 合のた め)	壺颈部	縄文晩期： VI期/ 夜臼系	第6透構面 N3	SR古	黃褐色 砂礫層 [1層]				(外)腹部境に沈線(段を意識した もの)あり。調整不明 (内)調整不明	2.5mm以下の砂粒子(石 英・長石・ディサイト岩 片・褐色粒子など)や や多く含む 本来は良好だったと思わ れるが、現実は被熱(使 用)によりもろくなってい る	(外)明褐灰色 7.5YR7/2 (内)褐褐色 7.5YR6/2	18.5×13cm角破片。外面に煤、内 面に内容物付着(煮炊きに使用され たと思われる)
66-341	34	±34	1152	6.11m	縄文土器	如意剥口縫 鉢	縄文晩期： VII期/ 夜臼式	第6透構面 O2	SR古	灰色砂 層 [1層]	(27.0)			(外)やや粗雑なヨコナデ。貝殻条 痕のち粗雑なナデ (内)やや粗雑なヨコナデ。やや粗 雑なナデ	1mm大の砂粒子(ディサ イト岩片など)含む 良好	(外)灰褐色 7.5YR5/2 (内)灰褐色 7.5YR5/2	口縫部約1/8存。外面ほぼ全体に 煤吸着、内面ほぼ全体に内容物付着
66-342	35	±35	-	1532	縄文土器	深鉢底部	後期	第6透構面 O2	SR古	灰色砂 層 [3層]		(11.0)		(外)調整不明 (内)ナデ	2mm以下の砂粒子(ディ サイト岩片・石英など) やや多く含む 良好	(外)褐灰色 10YR5/1 ～灰黃褐色 10YR5/2 (内)灰白色 10YR8/2 +黄灰色 2.5Y4/1	底部約1/4存。凹底
66-343	35	±21	1532	5.552m	縄文土器	深鉢底部	後期 (胎土より)	第6透構面 N3	SR古	黑色有 機物層 [2層深]		(10.7)		(外)調整不明 (内)調整不明	2mm以下の砂粒子(ディ サイト岩片など)多く含む やや不良	(外)褐色 7.5YR6/6 ～にぶい褐色 7.5YR8/3 (内)褐灰色 10YR5/1	底部約1/5存。ほぼ平底
66-344	35	±17	1544	5.216m	縄文土器	深鉢底部	後期 (胎土より)	第6透構面 N3	SR古	黑色有 機物層 [2層深]		(12.1)		(外)調整不明 (内)調整不明	2mm以下の砂粒子(ディ サイト岩片・石英など) 含む やや不良	(外)褐灰色 10YR4/2 ～灰黃褐色 10YR4/2 (内)暗紅褐色 2.5Y4/2	底部約2/3存。凹底
66-345	35	±16	1074	5.552m	縄文土器	深鉢底部	後期 (胎土より)	第6透構面 M2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]		(8.1)		(外)調整不明 (内)ナデ?	1.5mm大の砂粒子(ディ サイト岩片・石英など) 多く、又若干の3～4mm 大の砂粒子を含む やや良好	(外)にぶい褐色 7.5YR7/3～褐色 5YR7/6 (内)灰黃褐色 10YR5/2	底部約1/4存。凹底(円盤の底辺に 粘土貼付)

## 土器観察表

埠図 番号	因版 番号	実測 取上番号	出土標高	種別	器種	時期 型式	検出造構面 グリッド	造構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考
66-346	35	±30	-	縄文土器	深鉢底部	後期～ 晩期前半	第6造構面 O1	SR古	砂礫層 [4層]		(9.6)		(外)調整不明(指頭痕が観察される) (内)調整不明	1.5mm以下の砂粒子(石英・ディサイト岩片・橙色粒子など)及び若干の4～5mm大の砂粒子を含む 良好	(外)にぶい橙色 7.5YR6/4～にぶい 黄橙色 10YR6/3 (内)にぶい橙色 7.5YR7/4	底部約1/5存。凹底
66-347	35	±10	-	縄文土器	深鉢底部	後期～晩期	第6造構面 O1	SR古	黄灰色 砂層 [3層]		(8.2)		(外)粗雑なナデ(所々指揮さえ痕があり凸凹している) (内)ナデ?	1.5mm以下の砂粒子(石英など)含む やや不良	(外)灰黃褐色 10YR5/2 (内)にぶい橙色 7.5YR7/4	底部約1/3存。凹底(内盤の周囲に 粘土を貼付する)
66-348	35	±12	1218 5.38m	縄文土器	深鉢底部	後期～晩期	第6造構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]		(8.0)		(外)調整不明 (内)調整不明	1.5mm以下の砂粒子(石英・長石など)含む	(外)浅黄色 2.5Y7/3 (内)にぶい橙色 5YR7/4	底部約1/3存。凹底(内盤に貼付けた 粘土により接觸面を作る)底部と 器壁境の接觸面と底盤の中央付近の 破面は丸くなっている、人工的なものなら 2次使用をしているが、用途は不明
66-349	35	±12	1351 6.06m	縄文土器	深鉢底部	後期～晩期	第6造構面 L3	SR古	砂礫層 [1層]		6.5～ 7.0		(外)ナデ(底面周辺と器壁への立 ち上がり部分に特に指揮さえ痕あ り) (内)ナデ(底面周辺を強くナデて 中央が凸状となる)	2mm以下の砂粒子(石英・ディサイト岩片など)及 び若干の3～5mm大の砂粒子を含む 良好	(外)にぶい黄橙色 10YR7/4 (内)褐灰色 10YR5/1	底部完形。凹底(内盤の周囲に粘土 を貼り付け、接觸面に粘土を盛り上げ て難に丸くおさめたため)内面1/2 周辺に凹凸物付着
66-350	35	±15	1275 5.31m	縄文土器	深鉢底部	後期～晩期	第6造構面 O2	SR古	黄褐色 砂礫層 [4層]		(10.1)		(外)ナデ (内)ナデ	微砂粒子(石英など)含 む 良好	(外)にぶい黄橙色 10YR7/2 (内)褐灰色 10YR5/1	底部約1/6存。ほぼ平底
66-351	35	±10	763 5.84m	縄文土器	深鉢底部	晩期 (胎土より)	第6造構面 M3	SR古	灰色砂 礫層 [3層]		(8.6)		(外)調整不明 (内)ナデ	2mm以下の砂粒子(石英・長石など)含む 良好	(外)浅黄色 2.5Y7/3 ～暗灰色 2.5Y5/2 (内)浅黄色 2.5Y7/3	底部約1/4存。凹底(内盤の周囲に 粘土を貼り付けたため)
66-352	35	±12	-	縄文土器	深鉢底部	後期～晩期	第6造構面 M3	SR古	灰色砂 礫層 [3層]		6.0		(外)ナデ (内)ナデ	2mm以下の砂粒子(石英・ディサイト岩片など)多 く含む 良好	(外)にぶい橙色 SYR6/4～にぶい橙色 7.5YR7/3 (内)浅黄色 2.5Y7/4	底部ほぼ完形。凹底(内盤の周囲に 粘土を貼り付けたため)破面が磨 滅して丸くなっている(人工的なもの ではなく2次使用されているが、用 途は不明)
66-353	35	±12	1257 5.52m	縄文土器	深鉢底部	後期～晩期	第6造構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]		(11.2)		(外)調整不明 (内)ナデ	2mm以下の砂粒子(石英・長石など)多く含む やや不良	(外)にぶい黄橙色 10YR7/3 (内)黒褐色 2.5Y3/1	底部約1/6存。わずかに凹底
66-354	35	±10	753 5.34m	縄文土器	深鉢底部	後期～晩期	第6造構面 O1	SR古	灰色砂 礫層 [3層]		(11.8)		(外)調整不明 (内)調整不明	1mm以下の砂粒子(石英・長石・ディサイト岩片 など)多く含む	(外)褐灰色 10YR5/1 (内)黄褐色 2.5Y4/1	底部約1/3存。凹底(内盤に貼付け た粘土により接觸面を作る)
66-355	35	±10	1030 5.1m	縄文土器	深鉢底部	晩期 (胎土より)	第6造構面 M2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]		(9.8)		(外)調整不明 (内)ナデ?	1.5mm以下の砂粒子(石英・長石など)多く含む 良好	(外)明褐灰色 7.5YR7/2～にぶい 橙色 7.5YR7/3 (内)黒褐色 10YR3/1	底部約1/4存。わずかに凹底
66-356	35	±12	762 5.74m	縄文土器	深鉢底部	後期～晩期	第6造構面 M3	SR古	灰色砂 礫層 [3層]		(16.3)		(外)ナデ (内)調整不明	5mm以下の砂粒子(ディ サイト岩片・石英など)やや多く含む やや不良	(外)黄褐色 2.5Y6/1 (内)オーバー黒色 SY3/1	底部約1/8存。凹底(内盤の周囲に 粘土を貼り付け、高台状を呈して凹 底となる)外面には成形時の粘 土こぶしが不十分なためビ割れが多 く入る
66-357	35	±10	1383 6.73m	縄文土器 or 弥生土器	深鉢底部	晩期～ 弥生前期?	第6造構面 N3	SR古	黄褐色 砂礫層 [1層]		8.5		(外)粗雑なナデ (内)ナデ	1.5mm以下の砂粒子(石英・褐色粒子など)多く 含む 良好	(外)にぶい黄橙色 10YR7/3～にぶい 橙色 7.5YR7/4 (内)にぶい黄橙色 10YR7/2	底部完形。凹底。底部から器壁へ 立ち上がりがくびれる

土器觀察表

標団 番号	図版 番号	実測 番号	出土番号 出土標高	種別	器種	時期 型式	検出透構面 グリッド	透構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	土石・機成	色調	備考
67-358	36	±12	997 5.47m	縄文土器	深鉢底部	後期～晚期	第6透構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]				(外) 調整不明 (内) 調整不明	1.5mm以下の砂粒子(石英、長石など)多く含む 魚好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/2 (内) 黒褐色 10YR3/1	5×3.5cm角破片。平底?
67-359	36	±18	857 5.49m	縄文土器	深鉢底部	後期～晚期	第6透構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]		(8.0)		(外) 調整不明 (内) ナデ	2mm以下の砂粒子(石英、長石など)多く含む 良好	(外) 黄褐色 10YR6/2 (内) 黄褐色 2.5Y4/1 ~黒色 2.5Y2/1	底部一部欠損。丸底ぎみの平底
67-360	36	±15	1380 4.82m	縄文土器	深鉢底部	後期～晚期	第6透構面 N3	SR古	黃褐色 砂礫層 [4層]		(4.7)		(外) ナデ (内) 貝殻条痕のちやや粗雑なナデ(上位の方には砂移動跡一上が観察される)	1mm以下の砂粒子(石英) - 黄褐色 - ディサイト岩片など)含む 良好	(外) 渡黄褐色 10YR8/4 - にぶい黄 褐色 10YR6/3 (内) 黄褐色 2.5Y5/1 ~オーブル色 5Y3/1	体部下位約1/4存。凹底(円盤に粘土貼付痕が明瞭に残る)
67-361	36	±15	1131 5.13m	縄文土器	深鉢底部	後期～晚期	第6透構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]		3.5		(外) 貝殻条痕の粗雑なナデ (内) 貝殻条痕のきめ細り(右左)。貝殻条痕のちやや粗雑なナデ	1.5mm以下の砂粒子(石英、ディサイト岩片など) 含む 良好	(外) 黄褐色 10YR5/1 - にぶい黄褐色 10YR7/2 (内) 黄褐色 2.5Y4/1 ~6/1	底部完形。丸底。外面底部に小さな黒斑あり。 ☆ 52-173と同一個体の可能性あり
67-362	36	±14	1481 4.94m	縄文土器	鉢底部	晩期	第6透構面 M3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]		5.0～ 5.2		(外) 貝殻条痕+ケズリ。ケズリ (内) ナデ	1mm以下の砂粒子(石英など) やや多く含む 良好	(外) 黒色 10YR2/1 (内) 黑褐色 10YR4/1	底部ほぼ完形。平底。器壁破面は粘土の剥がれ痕
67-363	36	±10	-	縄文土器	浅鉢?	晩期 (胎土より)	第6透構面 M3	SR古	灰色砂 礫層 [3層] 64-323 の近く		(8.1)		(外) ナデ (内) ナデ	1mm以下の砂粒子(石英等) - 黄褐色 - ディサイト岩片など)含む 良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/2 (内) 黄褐色 2.5Y3/1	底部約1/5存。わずかに底凹
67-364	36	±35	-	縄文土器	浅鉢底部	晩期	第6透構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 [3層]		(5.0)		(外) ミガキ。底面は丁寧なナデ (内) 調整不明	1mm以下の砂粒子(石英等) - 長石、ディサイト岩片など) やや多く含む 良好	(外) オーブル黒色 5Y3/1 (内) 灰色 SY4/1	底部約1/8存。高台状の凹底
67-365	36	±28	1478 4.95m	縄文土器	浅鉢底部	晩期	第6透構面 M3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]		(8.3)		(外) 細かなナデ。底部は粘土貼付の線を押さえて高台状とする。ミガキ (内) 丁寧なミガキ(単位が見えない)	1mm以下の砂粒子(石英等) - 腹部、脚部、褐色 SYR6/6～にぶい黄褐色 10YR7/2、底 部、褐色 10YR4/1 (内) 腹部、脚部、褐色 SYR6/6～にぶい黄褐色 10YR7/2、底 部、褐色 10YR4/1	底部約1/5存。凹底	
67-366	36	±29	889 5.92m	縄文土器	浅鉢底部	晩期	第6透構面 O1	SR古	黃褐色 砂礫層 [4層]		(7.4)		(外) 細かなナデ。底部は粘土貼付のち、立ち上がりには屈曲させ、底 面は線を押さえて高台状にする。(内) 丁寧なミガキ(単位が見られない)	微砂粒子(石英など)含 む 良好	(外) 黑褐色 10YR3/1 - 灰青褐色 10YR6/2 (内) 黑色 2.5Y2/1 ~暗反褐色 2.5Y5/2	底部約1/3存。凹底。外面に若干の煤付着
67-367	36	±18	-	縄文土器	精製 浅鉢底部	晩期	第6透構面 N2	SR古	灰色砂 層 [3層]		1.6～ 1.7		(外) ミガキ(単位をほとんど残さない) (内) ミガキ(脚部繩目、底部繩目、底脚繩目 の関係だが底面に對しては繩目)。底部形成時の指揮され痕観察され る	微砂粒子(石英、長石 など)含む 良好	(外) 黒色 2.5Y2/1 (内) 黑色 2.5Y2/1	底部完形。ほぼ丸底。黒色磨研土器
67-368	36	±12	790 5.76m	縄文土器	浅鉢 底部	晩期	第6透構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [3層]		5.3～ 5.5		(外) ケズリ(一下上)。底面ケズリ (不定方向) (内) ナデ	1mm以下の砂粒子(石英 - 長石など)やや多く含 む 良好	(外) 黑色 2.5Y2/1 (内) 黄褐色 2.5Y5/3	底部ほぼ完形。小さな高台状底

## 土器観察表

埠団 番号	因版 番号	実測 取上番号 出土標高	種別	器種	時期 型式	検出遺構面 グリッド	遺構	層位	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	文様・調整	胎土・焼成	色調	備考	
67-369	36	±210 5.16m	縄文土器	浅鉢底部	晩期：V期	第6遺構面 O2	SR 古	灰色砂 礫層 [4層]		2.8		(外)ケズリ(上一下)、ケズリ(底 部の周りを単位毎に直角にケズリ 上げている)。底面ナデ (内)調整不明	1.5 mm以下の砂粒子(石 英・ディサイト岩片など) やや多く含む 良好	(外)黒色 2.5Y2/1 (内)黒色 2.5Y2/1	底部完形。 ボタン状の凹底。 外底中央部にH字状のヘラ押き(横1本 の間に縦2本)	
67-370	36	±211 4.84m	縄文土器	浅鉢底部	晩期：V期	第6遺構面 M3	SR 古	灰色砂 層 [4層]		4.0		(外)粗糙なミガキ+ケズリ(右下 →左上)、強いミガキにより立ち上 がりを彫曲させ、底部粘土貼付の 粗粒なミガキ+ケズリ (内)粗粒なミガキ+ケズリ(右下 →左上)	1 mm以下の砂粒子(石英 など)含む 良好	(外)灰黒褐色 10YR4/2 ~ 黒褐色 10YR3/1 (内)褐褐色 10YR4/1	底部約2/3存。ボタン状の凹底	
67-371	36	±215	—	土製品	土器片類?	縄文晚期	第6遺構面 O1	SR 古	砂礫層 [4層]	径 7.7 × 7.4	厚さ 1.1	重量 69.94g	(外)調整不明 (内)調整不明	1 mm以下の砂粒子を多く 含む 良好	(外)にぶい黄褐色 10YR7/3 (内)にぶい黄褐色 10YR7/3	完形。 深鉢の脚部片を鋸に再利用した ものか?
67-372	36	±214 6.38m	土製品	土器片類?	縄文晚期	第6遺構面 O2	SR 古	灰色砂 層 [有 機物を 含む] [2層]	径 7.8 × 7.2	厚さ 0.7	重量 48.55g	(外)ミガキ (内)ミガキ	1 mm前後の白色粒子をま ばらに含む 良好	(外)黒色 2.5Y2/1 (内)黒色 2.5Y2/1	完形。 黒色磨研土器の鉢の底部を 再利用	
67-373	36	±225 5.27m	土製品	不明	縄文晚期	第6遺構面 O2	SR 古	灰色砂 礫層 [4層]	径 10.0		重量 45.53g	(外)胸部:調整不明、底部~箇部 ナデ (内)調整不明	1 mm前後の砂粒子を多く 含む 良好	(外)胸部:にぶい 黄褐色 10YR7/2. 底部:にぶい 橙色 7.5YR6/4 (内)にぶい 橙色 7.5YR7/4	土器底部(凹底状)として約1/4存。 深鉢の底部を焼成前に孔(直径約4 cm)をあけたものか?	
67-374	38	±1 5.78m	土製品	耳栓	縄文晚期	第6遺構面 N2	SR 古	灰色砂 層 [3層]	径 2 × 2.1	厚さ 1.2	重量 5.06g	指押さえ	1 mm以下の砂粒子を含 む 良好	表面のみ黒白色。部 分的に黒斑	完形品	
68-375	36	±212 5.102m	縄文土器	ボウル形 精製鉢	晩期	第6遺構面 N1	—	青灰色 粘土 [SR古 の下の 包含層]	(28.0)			(外)口縁端部は調整不明。 ミガキ (内)丁寧なミガキ(単位が見えな い)?	1.5 mm以下の砂粒子(石 英・長石など)含む 良好	(外)黒褐色 10YR3/1 ~にぶい黄褐色 10YR5/3 (内)褐褐色 10YR5/1	口縁部約1/10存。底部側の結合面に 粘土貼付痕あり。内面は剥落著しい	
—	—	—	縄文土器	脚部小破片	晩期?	第5遺構面 O2	—	灰色砂 質土				(外)ミガキ (内)剥落不明	1 mm以下の砂粒子を若 干含む 良好	(外)暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 (内)黄褐色 2.5Y5/3	2 × 1.5 cm角破片。外面に赤色変彩 (ベンガラ)が残る(測定NoG5)	

## 石器観察表

挿図番号	図版番号	実測番号	取上番号	検出遺構面 出土標高	遺構	層位	器種	計測値 (cm・g)			石材	色調	備考
								長さ	幅	厚さ			
69-1	39	14	-	第6遺構面 O1	SR古	砂礫層 [1層]	石錐	9.9	8.6	3.5	383.5	デイサイト	完形。上下に打ち欠き。 縄文晩期突文期
69-2	39	15	929 5.124m	第6遺構面 N3	SR古	黄褐色 砂礫層 [4層]	石錐	10.2	9.2	2.9	368.5	デイサイト	薄緑色 完形。上下に打ち欠き全体に摩滅。裏面の下位打ち欠きは成作時の割れ
69-3	39	22	-	第6遺構面 O1	SR古	灰色砂 礫層 [3層]	石錐	7.8	4.6	1.7	97.18	流紋岩	完形。全体に摩滅している。 縄文時代
69-4	39	107	1543 4.952m	第6遺構面 O2	SR古	黒色有 機物層 [2層厚]	刃器	4.5	8.1	1.1	52.58	頁岩	黒色 完形。右側全面は研磨、表裏面は棱線の鋭利な部分を研磨。上面は刃出しを施す。 縄文晚期
69-5	39	104	930 5.25m	第6遺構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	刃器	6.1	3.2	0.9	17.93	安山岩	完形。一側縁が刃部。 上部と片側の2ヶ所に抉り施す。 縄文晚期
69-6	39	105	1547 4.872m	第6遺構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	刃器	4.3	2.9	0.8	8.56	ガラス質 安山岩 (サヌカ イト?)	完形。両側に抉りを施す。 刃部と思われる両側縁には刃にぼれ、擦痕などが観察されない。 縄文晚期
69-7	39	23	896 5.236m	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	石匙状石器	9.1	11.5	1.35	118.79	安山岩 70-20と よく似る	完形。主要剝離面を両面に多く残す。全体に磨滅しているため剝離方向不明なものあり。 縄文晚期
69-8	39	106	977 5.91m	第6遺構面 N1	SR古	灰色砂 礫層 [3層]	石錐	(5.5)	1.6	0.6	(3.84)	ガラス質 安山岩 (サヌカ イト?)	先端欠損。ドリル部分が磨滅している。 縄文晚期
69-9	39	114	931 5.278m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	打製石斧	14.7	7.3	1.5	246.19	デイサイト (近辺で 採れる)	完形。 縄文晩期
69-10	39	20	-	第6遺構面 O1	SR古	灰色砂 礫層 [3層]	打製石斧	12.2	8.3	1.5	216.57	流紋岩	薄黒灰色 完形。刃部と基部の境に若干の抉りを入れ、基部を狭く作る。刃部は直線的。 縄文晩期
69-11	39	64	-	第6遺構面 O1	SR古	黃灰色 砂礫層 [3層]	打製石斧	(8.3)	6.2	1.2	(130)	デイサイト (流紋岩 に近い) (近辺で 採れる)	明赤灰色 完形。裏面に黒灰色の付着物あり(被熱によるものか)
70-12	39	32	1486 5.244m	第6遺構面 M3	SR古	黃灰色 砂礫層 [3層]	打製石斧	11.0	5.2	1.4	97.92	デイサイト (流紋岩 に近い) (近辺で 採れる)	薄緑色 完形。細身の薄い短冊形を呈するが刃部と基部の境に緩やかな抉りを施している。 縄文晩期
70-13	39	133	7.5 5.486m	第6遺構面 O1	SR古	黃灰色 砂礫層 [4層]	打製石斧	(12.0)	4.8	0.8	(64.18)	塙基性 片岩	基部欠損。刃部が磨滅している。 縄文晩期
70-14	39	21	1086 5.286m	第6遺構面 N2	SR古 磨石集中 箇所	灰色砂 層 [4層]	打製石斧	14.0	5.4	1.6	133.99	綠色片岩	完形。細身の薄い短冊形を呈する。刃部に摩滅痕あり。 縄文時代
70-15	39	13	-	第4遺構面 M1	SR新	灰色砂 礫～灰 色粘質 土層	打製石斧	13.2	4.6	1.4	(125)	泥質片 岩	一部欠損。刃の部分を調整途中放棄したか？ 一側縁が敲打で刃潰している。
70-16	39	10	578 7.038m	第4遺構面 N3	-	灰色砂 質	打製石斧	(8.4)	4.4	1.5	(79)	泥質片 岩	基部欠損。全体的に打ち欠いた後側面を割っていっている？表面に研磨痕あり
70-17	39	63	-	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	打製石斧	(8.1)	5.3	2.2	(126)	安山岩	明青灰色 刃部及び基部欠損
70-18	39	99	1352 6.498m	第4遺構面 L3	SR新	砂礫層	打製石斧	(14.5)	6.2	2.5	(345)	泥質片 岩	刃部欠損。成作途中で欠損したのか？ 縄文晩期
70-19	39	1	43 7.484m	第2遺構面 O3	-	灰色粘 砂層	打製石斧	(13.1)	1.7	8.0	(324)	泥質片 岩	白っぽい 緑色 基部欠損。表面刃部に摩滅痕あり

石器観察表

博団番号	図版番号	実測番号	取上番号 出土標高	検出遺構面 グリッド	遺構	層位	器種	計測値 (cm・g)			石材	色調	備考	
								長さ	幅	厚さ				
70-20	39	17	1016 5.324m	第6遺構面 N2	SR古	黄灰色 砂礫層 [4層]	磨製石斧	8.7	4.25	1.3	88.87	安山岩 69-7と よく似る	黒色	完形。打製、叩きで成形し、その後研磨。全体に摩滅。縄文晩期
70-21	39	25	1536 4.976m	第6遺構面 N3	SR古	黒色有 機物層 [2層度]	磨製石斧	(9.9)	5.35	4.25	38.05	塩基性 片岩		基部欠損(1/2存)。敲打に転用。縄文晩期
71-22	40	108	1122 5.074m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	磨製石斧	16.15	5.0	4.3	570.73	塩基性 片岩		完形。棒状に敲打された面と敲打前から欠損した未敲打部分があり。石棒の可能性もありか? 縄文晩期
71-23	40	30	1535 4.892m	第6遺構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	磨製石斧	11.5	3.7	2.8	181	塩基性 片岩		完形
71-24	40	132	868 5.584m	第6遺構面 O1	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	磨製石斧	(12.5)	5.7	3.5	382.12	塩基性 片岩		刃部欠損。全体に敲打されており。表面の刃部欠損付近に研磨痕あり。縄文晩期
71-25	40	73	1364 6.49m	第4遺構面 L2	SR新	灰色砂 礫層	磨製石斧	11.3	4.6	3.0	231.52	緑色片 岩		ほぼ完形。全体に敲打のち表面に研磨痕あり。蛇刃磨製石斧が壊れた後小型の打製石斧として再利用されたものか? 縄文晩期
71-26	40	109	913 5.482m	第6遺構面 O1	SR古	黄灰色 砂礫層 [4層]	磨製石斧	12.2	4.5	3.2	255.92	塩基性 片岩		完形。敲打のうち全面粗い磨き。刃部付近には剥離痕をこす。刃部先端は刃欠損。基部は敲打によらず。縄文晩期
71-27	40	101	1542 5.05m	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	磨製石斧	(14.9)	5.4	3.6	401.48	塩基性 片岩		刃部欠損。全面敲打。縄文晩期
71-28	40	100	909 5.422m	第6遺構面 O2	SR古	青灰色 砂礫層 [4層]	磨製石斧	15.4	5.3	3.0	328.77	塩基性 片岩		完形。全体に敲打成形している。一部に研磨痕あり。縄文時代
71-29	40	61	—	第6遺構面 O1	SR古	灰色砂 礫層 [3層]	磨製石斧	(7.0)	5.1	(2.4)	(166)	緑色片 岩	緑灰色	基部欠損。敲打による調整後研磨。刃部は使用により多少みを帯びる。欠損部付近の敲打痕は研磨後の2次加工のものと思われる
71-30	40	102	1278 5.352m	第6遺構面 O2	SR古	黄灰色 砂礫層 [4層]	磨製石斧	(15.5)	(4.7)	2.85	348.18	塩基性 片岩		刃部欠損。裏面は自然面を残す。刃部は敲打のち研磨
71-31	40	98	—	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	磨製石斧	(17.3)	4.4	2.7	355.86	泥質片 岩		刃部先端欠損。細身で、中央より刃部近く側面に抉り入れられる、抉り置きの裏面に凹みあり。一側縁には成形のための敲打痕があり。刃部には研磨痕あり。縄文晩期
72-32	47	143	—	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	縫刻石	23.7	27.0	8.9	4500	流紋岩		完形。片面に縫刻あり
72-33	40	103	640 6.904m	第4遺構面 O2	—	灰色砂 層	縫刻石	13.3	10.4	1.15	167.99	凝灰岩	乳白色	完形。片面に10数本の直線が縫刻されている。縄文晩期
72-34	41	137	1148 5.226m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	縫刻石	9.8	7.8	2.9	171.92	凝灰岩		完形。表面に縫刻、裏面に細かい擦痕あり。縄文晩期
72-35	41	45	733 5.998m	第6遺構面 N2	SR古	黃褐色 砂礫層 [3層]	軟質凹石	12.1	9.0	1.9	373.6	凝灰岩	明緑灰 色	完形。平らな石板状の石。片面に1ヶ所凹みあり
72-36	41	139	—	第6遺構面 O1	SR古	灰色砂 礫層 [3層]	軟質凹石	7.4	5.5	1.85	145.24	凝灰岩	乳白色	完形。板状の自然石を切断し、凹石に使用。片面使用。斜め方向に浅い縫刻あり。縄文晩期

石器観察表

排図番号	図版番号	実測番号	取上番号 出土標高	検出遺構面 グリッド	遺構	層位	器種	計測値 (cm · g)				石材	色調	備考
								長さ	幅	厚さ	重量			
72-37	41	119	1081 5.094m	第6遺構面 M3	SR古	灰色砂 礫層 【4層】	軟質凹石	12.5	8.7	6.1	499.23	凝灰岩	淡黃白色	完形。表面に凹部あり。 やや軽量
72-38	41	93	847 5.864m	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 【3層】	軟質凹石	13.2	8.2	4.7	482.54	凝灰岩		ほぼ完形。表裏面の凹 みは同位置にあるので 穿孔しよとしたものか? 軽量。縄文晩期
73-39	41	58	919 5.084m	第6遺構面 M3	SR古	黃褐色 砂礫層 【4層】	軟質凹石	6.8	5.0	1.6	57.6	凝灰岩	灰色	完形。両面の対角位置 に凹みの痕跡あり。やや 軽量
73-40	41	110	1282 5.278m	第6遺構面 O2	SR古	黒褐色 有機物 層 【2層深】	軟質凹石	8.7	6.9	5.5	137.07	凝灰岩	くすんだ 乳白色	完形。片面に深い凹み。 軽量。縄文晩期
73-41	41	121	1069 5.104m	第6遺構面 M2	SR古	黃灰色 砂礫層 【4層】	軟質凹石	10.5	7.7	4.2	372.49 73-44と似る	流紋岩 (地元産)		完形。表面中央に凹部 あり。黒色物付着。側 面の凹凸は握るために のか? 見かけより軽量
73-42	40	55	795 5.576m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 【3層】	軟質凹石	13.0	5.7	3.7	322	凝灰岩	灰色	完形。3面に凹みの痕 跡あり。裏面及び右側縁 に磨滅痕あり。やや軽量
73-43	40	19	626 6.812m	第4遺構面 O2	-	灰色砂 層	軟質凹石	14.0	6.7	3.5	319.95	火山礫 凝灰岩	黄緑色	完形。長楕円形の自然 石をそのまま敲石として 利用し、結果的に凹石と なったものか? 縄文晩期
73-44	40	125	863 5.538m	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 【4層】	軟質凹石	13.6	12.2	5.2	301.16 73-41と似る	流紋岩 (地元産)	乳白色	一部欠損。両面に凹部 あり。見かけより軽量
73-45	40	111	1365 6.76m	第4遺構面 N3	SR新	灰色砂 礫層	軟質凹石	15.7	11.5	6.4	994.33	凝灰岩	乳白色	完形。表裏面とも凹み あり。やや軽量。縄文晩 期
73-46	41	57	887 5.448m	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 【4層】	軟質凹石	(9.6)	6.2	2.5	(187)	凝灰岩	灰色	端部欠損。両面に凹み あり。軽量
74-47	41	66	822 5.408m	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 【4層】	軟質凹石	16.9	8.5	4.6	881.92	凝灰岩	灰白色	完形。表裏面及び一側 面に凹み痕あり。敲打痕 らしき跡3ヶ所あり。や や軽量
74-48	41	43	-	第4遺構面 M1	SR新	灰色砂 礫層	軟質凹石	13.9	10.3	4.2 ~ 2.5	529.88 83-111 と同じ石	火山礫 凝灰岩	淡黄色	完形。表裏面に2ヶ所 ずつ凹みあり。側面には 1ヶ所敲打痕あり。摩耗 が著しい。ごつごつ しているのが軽量
74-49	41	40	-	第4遺構面 M2	SR新	黃灰色 砂礫層	軟質凹石	14.0	(10.0)	5.1	(528)	凝灰岩	灰白色	一部欠損。表裏面に2ヶ 所ずつ凹みあり。側面に も凹みらしき痕跡が1ヶ 所あり。表面の磨減が 著しい
74-50	41	47	1021 6.086m	第6遺構面 O2	SR古	淡茶微 砂粒層 【3層】	磨敲石	10.6	6.75	4.5	450.48	デイサイト		完形。表面中央部及び 側面のほぼ全面を敲打し ている。裏面に研磨痕あ り。縄文晩期
74-51	42	140	1146 5.194m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 【4層】	敲石	8.5	5.5	4.5	238.93	デイサイト		完形。自然の楕円礫を 敲石とする。表裏面及び 4側面頂部に敲打痕あ り。縄文晩期
74-52	42	52	870 5.54m	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 【4層】	敲石	9.3	10.3	5.3	614.64	デイサイト		完形。片面に3ヶ所。も う一片面に2ヶ所の凹み痕 あり。縁辺に敲打痕あり。 縄文晩期
75-53	42	11	-	第4遺構面 M3	SR新	黃褐色 砂礫層	敲石	14.8	9.8	6.8	(347.7)	凝灰岩	灰白色	一部欠損。両面に凹み 痕あり。縁辺上部に敲打 らしき痕跡あり
75-54	42	80	856 5.296m	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 【4層】	敲石	11.7	(8.0)	5.1	(570)	凝灰岩		1/2以上欠損。両面中 央部に敲打による凹みあ り。側縁の一部に敲打 痕あり。見かけより軽量

石器観察表

博団 番号	図版 番号	実測 番号	取上番号 出土層番 グリッド	検出遺構面 位	遺構	層位	器種	計測値 (cm · g)			石材	色調	備考	
								長さ	幅	厚さ				
75-55	42	90	1128 4.926m	第6遺構面 M2	SR古	灰色砂 層 【4層】	磨敲石	10.5	6.75	2.4	286.94	流紋岩	完形。片面使用と思われる。使用面に敲打痕あり。縄文晩期	
75-56	42	51	—	第6遺構面 M3	SR古	灰色砂 疊層 【1層】	磨敲石	10.2	10.6	6.4	855	ディサイト	完形。側面全体に敲打痕あり。表裏面に凹み痕あり。片側面に麻痺痕あり	
75-57	42	134	1289 5.064m	第6遺構面 O1	SR古	灰色砂 疊層 【4層】	敲石	9.55	9.15	4.25	588.38	ディサイト	完形。表裏面とも使用。縄文晩期	
75-58	42	36	1500 4.88m	第6遺構面 M3	SR古	灰色砂 層 【4層】	敲石	10.6	7.0	4.75	514.92	ディサイト	完形。海岸の石を利用。表裏面とも2ヶ所に敲打痕あり。側面敲打痕あり。縄文晩期	
75-59	42	135	1014 5.436m	第6遺構面 N2	SR古	黄灰色 砂疊層 【4層】	敲石	7.85	9.1	6.5	592.08	ディサイト	完形。左側縁の厚みの緩い箇所に敲打痕あり。敲打による割面あり。縄文晩期	
76-60	42	123	1078 5.178m	第6遺構面 M2	SR古	灰色砂 疊層 【4層】	敲石	9.5	11.8	5.2	700.50	ディサイト	一部欠損。縁辺及び表裏面に敲打による凹部あり。全体によく磨滅しているが自然のもの	
76-61	42	116	1138 5.04m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 疊層 【4層】	敲石	12.15	14.1	6.4	1600	花崗岩	完形。縁辺に敲打痕あり	
76-62	42	124	1065 5.032m	第6遺構面 M3	SR古	灰色砂 疊層 【4層】	磨石	10.5	12.1	5.8	1070.95	大江高 山系 ディサイト	完形。表裏面とも研磨によりやすべすべしている。表裏面及び左側縁に敲打痕あり	
76-63	42	92	850 6.058m	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 質土 (疊と有機物を含む) 【2層深】	磨敲石	12.1	9.0	4.3	708.21	安山岩	完形。片面に磨滅痕、両面及び側縁に敲打痕あり。縄文晩期	
76-64	43	91	989 5.222m	第6遺構面 P1	SR古	灰色砂 疊層 【4層】	磨敲石	11.1	9.2	4.5	645.43	ディサイト	完形。片面に磨滅痕。側縁に敲打痕あり。縄文晩期	
77-65	43	72	812 6.17m	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 層 【3層】	敲石	18.3	12.2	6.9	2360	ディサイト	完形。全体によく磨滅している。縁辺に敲打痕あり	
77-66	43	82	1083 5.252m	SR古集中 磨石集中 箇所	第6遺構面 N2	灰色砂 疊層 【4層】	敲石	17.1	11.1	6.0	1700	ディサイト	完形	
77-67	43	89	—	第6遺構面 M3	SR古	灰色砂 疊層 【1層】	磨石	12.9	9.8	3.9	785.36	ディサイト	完形。片面使用と思われる。縄文晩期	
77-68	43	49	783 5.82m	第6遺構面 N2	SR古	黃褐色 砂疊層 【3層】	磨敲石	14.2	8.7	3.8	830	玄武岩	オーリーブ 灰色	完形。表裏面に磨滅痕範囲あり。一側縁に敲打痕あり
77-69	43	28	1509 5.016m	第6遺構面 N3	SR古	黒色有 機物層 【2層深】	敲石	(14.8)	7.3	6.2	(960)	ディサイト	端部欠損。海岸の石を利用(自然石)。4ヶ所に敲打の使用痕あり	
77-70	43	94	932 5.408m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 疊層 【4層】	磨敲石	15.5	8.15	6.9	1071.18	ディサイト	完形。片面に磨滅痕、片面に敲打痕あり。縄文晩期	
78-71	44	26	1271 5.33m	第6遺構面 O2	SR古	黒色有 機物層 【2層深】	磨敲石	15.4	11.95	5.75	1700	ディサイト	完形。全体に研磨され、両面中央付近と縁辺に敲打痕あり。縄文晩期	
78-72	44	48	782 5.79m	第6遺構面 N2	SR古	黃灰色 砂疊層 【3層】	磨石	14.9	12.1	7.0	1809	花崗岩	完形。表裏面に使用による磨滅あり。側面の3ヶ所に敲打らしき痕跡あり	
78-73	44	130	1018 5.346m	第6遺構面 N2	SR古	黃灰色 砂疊層 【4層】	敲石	13.3	9.8	8.1	1017.26	ディサイト	ほぼ完形。全面に強い敲打痕あり。敲打線上に傷痕のある面あり	
78-74	44	41	1519 5.106m	第6遺構面 N3	SR古	黃灰色 砂疊層 【4層】	敲石	9.6	8.1	7.5	719.28	ディサイト	完形。縄文晩期	

石器観察表

排団番号	図版番号	実測番号	測上番号 土石標高	検出遺構面 グリッド	遺構	層位	器種	計測値 (cm・g)				石材	色調	備考
								長さ	幅	厚さ	重量			
78-75	44	29	—	第2遺構面 L3	—	粘土層 直上	磨敲石	8.7	7.4	4.4	345	ディサイト	完形。海岸の自然石を利用。表裏面研磨、縁辺敲打。縄文晚期	
79-76	44	86	1002 5.306m	第6遺構面 N2	SR古	砂礫層 【4層】	磨敲石	18.2	9.6	6.5	1290	流紋岩	完形。両面に研磨使用痕あり。側縁の一部に敲打痕あり。	
79-77	44	42	1539 4.868m	第6遺構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 【4層】	磨石	9.2	7.6	6.5	618.29	ディサイト	完形。表面の磨減面は僅かに凹む。縄文晚期	
79-78	44	75	945 5.166m	第6遺構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 【4層】	磨敲石	14.9	9.5	7.3	1340	ディサイト	完形。平坦面及び上下縁辺部に敲打痕あり。それ以外は研磨されている。	
79-79	44	39	654 6.918m	第4遺構面 N2	—	灰色砂 層	敲石	13.0	8.5	4.8	842	玄武岩	オリーブ 灰色	完形。表裏、両側面に敲打した痕跡あり
79-80	44	88	854 5.586m	第6遺構面 O1	SR古	灰色砂 礫層 【3層】	磨石	12.2	9.65	5.0	759.42	ディサイト	完形。片面使用。縄文晚期	
79-81	44	83	1087 5.872m	第6遺構面 N2	SR古 磨石集中 箇所	灰色砂 礫層 【4層】	磨石	10.9	12.0	6.2	1250	ディサイト	完形。全体に研磨している。両面にキズ痕あり	
79-82	44	97	1349 5.286m	第6遺構面 N3	SR古	黄褐色 砂礫層 【4層】	磨石	16.9	6.1	3.0	378.97	凝灰岩	薄緑色	完形。片面に磨減痕あり。舟形を呈する。縄文晚期
80-83	44	79	1084 5.324m	第6遺構面 N2	SR古 磨石集中 箇所	灰色砂 礫層 【4層】	磨石	13.2	9.0	6.1	1090 (1000万 年以前)	ディサイト	完形	
80-84	44	76	1147 5.216m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 【4層】	敲石	14.7	8.35	3.6	595.5	砂岩	完形。両面及び一部の側面に敲打痕あり。縄文晚期	
80-85	45	24	817 5.974m	第6遺構面 O2	SR古	黃灰色 砂層 【3層】	磨石	14.5	9.8	8.9	1600	ディサイト	濃青灰色	完形。海岸の石を利用。両面の磨減面は平坦。側面の使用痕はない。縄文晚期
80-86	45	117	821 5.482m	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 【4層】	敲石	10.0	6.9	3.4	359.53	凝灰岩	完形。主に縁辺部に敲打痕あり。二次焼成?	
80-87	45	87	833 5.356m	第6遺構面 N2	SR古	黄褐色 砂礫層 【4層】	磨敲石	6.56	5.6	3.25	173.18			完形。片面に磨減痕、側縁の一部に敲打痕あり。縄文晚期(測定 NoG1)
80-88	45	46	743 5.854m	第6遺構面 O1	SR古	灰色砂 礫層 【3層】	敲石	6.7	6.0	5.6	300	ディサイト	明青灰色	完形。球状を呈する。側面全体に敲打痕あり
80-89	45	95	846 5.86m	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 【3層】	磨敲石	11.3	8.0	4.6	575.33	ディサイト		完形。表面に磨減痕、裏面に敲打痕あり。縄文晚期
80-90	45	18	1127 4.874m	第6遺構面 M2	SR古	灰色砂 礫層 【4層】	磨敲石	13.5	9.7	6.1	(1400)	溶結 凝灰岩	薄オリーブ色	一部欠損(使用時の割れ?)。平坦面は全体によく磨減。縁辺部は敲打されている。縄文晚期
80-91	45	96	934 5.47m	第6遺構面 N2	SR古	黄褐色 砂礫層 【4層】	敲石	9.15	8.5	5.0	450.79	ディサイト		完形。片面及び一側縁に敲打痕あり。縄文晚期
81-92	45	56	854 5.35m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 【4層】	磨敲石	10.2	9.1	4.4	(840)	溶結 凝灰岩	暗青灰色	ほぼ完形。側面全体に敲打痕あり。両面のほぼ全面に磨減痕あり
81-93	45	120	949 5.292m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 【4層】	敲石	11.6	(9.0)	4.2	313.06	ディサイト		一部欠損。縁辺部全体に敲打痕あり。全体に自然の磨減
81-94	45	136	—	第6遺構面 O1	SR古	灰色砂 層 【1層】	磨敲石	10.4	9.0	5.1	618.02	凝灰岩		完形。表裏面ともと使用。縄文晚期
81-95	45	118	818 5.978m	第6遺構面 O2	SR古	黄褐色 砂礫層 【3層】	敲石	10.2	7.6	4.5	529.6	溶結 凝灰岩		完形。縁辺部に敲打痕あり
81-96	45	6	569 7.246m	第3遺構面 O3	—	灰色砂 層	磨石	11.5	6.8	3.8	426	ディサイト	灰褐色	完形。扁平な面に非常に滑らかな使用痕あり

石器観察表

拂団番号	図版番号	実測番号	取上番号 出土標高	検出遺構面 グリッド	遺構	層位	器種	計測値(cm・g)	石材	色調	備考
								長さ 幅 厚さ 重量			
81-97	45	126	881 5.458m	第6遺構面 O1	SR古	黄灰色 砂礫層 [4層]	磨石	(10.1) 12.6 6.0 (380)	デイサイト		一部欠損。片面のみ研磨
81-98	45	53	1124 5.1m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	磨石	9.8 10.0 4.1 570.06	大江高 山系 デイサイト		完形。表裏面中央部周辺に磨滅痕あり。縄文晚期
82-99	45	127	788 5.806m	第6遺構面 N2	SR古	黄褐色 砂層 [3層]	敲石	9.75 10.5 6.5 470.12	凝灰岩	淡薄綠 色	完形。片面に凹部、側面に敲打痕あり。軽量
82-100	45	35	1468 4.982m	第6遺構面 M3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	磨敲石	8.95 7.5 4.0 442.83	石英 (変な石)		完形。海岸の石を利用。片面に磨滅痕あり。側面には敲打痕あり。縄文晚期
82-101	45	122	876 5.268m	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	敲石	10.3 7.4 6.3 651.45	デイサイト		完形。特に頂部を使用している。表面には擦痕あり。全体に自然の磨滅
82-102	46	59	961 5.274m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	磨石	12.2 6.0 4.3 481.5	石英 (変な石)	灰色	完形
82-103	46	50	—	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 層 [1層]	敲石	10.8 6.8 5.6 296	凝灰岩	灰色	完形。側面全体に敲打痕あり。軽量
82-104	46	8	—	第6遺構面 N3	SR古	黄灰色 砂礫層 [4層]	磨石	9.0 7.0 2.5 (280)	流紋岩	黄褐色	一部欠損。片面に僅かに擦ったような痕跡あり
82-105	46	34	1427 6.104m	第6遺構面 N3	SR古	黄灰色 砂層 [3層]	敲石	11.9 8.4 5.5 649.55	デイサイト		完形。海岸の石を利用。両面及び側面にも敲打痕あり
82-106	46	38	1537 5.052m	第6遺構面 N3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	敲石	10.32 8.12 5.02 622.08	大江高 山系 デイサイト		完形。海岸の石を利用。敲打痕あり
82-107	46	128	1072 5.086m	第6遺構面 M2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	敲石	7.3 6.0 4.4 169.78	凝灰岩	淡薄黃 緑色	完形。卵形を呈する。表裏面が敲打されている。やや軽量
83-108	46	81	1085 5.32m	第6遺構面 N2	SR古 磨石集中 箇所	灰色砂 礫層 [4層]	敲石	(8.0) (10.5) 6.3 (810)	大江高 山系 デイサイト		約1/2欠損。片面及び縁辺部に敲打痕あり
83-109	46	85	1081 5.312m	第6遺構面 N2	SR古 磨石集中 箇所	黄灰色 砂層 [4層]	磨敲石	(9.2) 10.2 5.8 (730)	大江高 山系 デイサイト		1/2弱存。片面に研磨により平滑化する箇所あり。側縁の一部に敲打痕あり
83-110	46	84	1088 5.326m	第6遺構面 N2	SR古 磨石集中 箇所	灰色砂 礫層 [4層]	磨敲石	(8.4) 11.3 6.7 (890)	デイサイト		約1/2欠損。両面は研磨によりツルツルしている。側面全体に敲打痕あり
83-111	46	78	1090 5.428m	第6遺構面 N2	SR古 磨石集中 箇所	灰色砂 礫層 [4層]	敲石	(9.3) (9.3) 3.6 (342)	火山礫 凝灰岩 74-48と 同じ石		1/2弱欠損。裏面はわずかな敲打痕。自然か?。側面は調整するかのように敲打痕あり。ごくつづつして軽量
83-112	46	68	843 5.442m	第6遺構面 N2	SR古	灰褐色 砂礫層 [4層]	磨石	10.4 (6.5) 5.2 (30.57)	デイサイト		約1/2存。多孔質の自然石を利用。片面のみ使用。縄文晚期
83-113	46	3	346 7.328m	第2遺構面 O2	—	灰色砂 層	不明	10.0 8.8 (7.0) (775)	デイサイト	暗緑色 赤い脈 が所々 混ざる	上部は人為的に割っている。石核の可能性もあり。側面も敲打痕あり。剥離面に敲打痕あり
84-114	46	74	950 5.346m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	磨敲石	(14.8) 10.4 6.4 (1460)	安山岩		古い欠損部あり。片面に磨滅面。もう片面及び側面に敲打痕あり
84-115	46	77	851 5.382m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	磨敲石	(8.0) 9.9 5.5 (840)	閃綠岩 (近場に はない)		約1/2存。片面は研磨によりツルツルし、もう片面は敲打による凹みあり。側面も敲打痕あり。石を割った後に外周を敲打で調整した様相を呈する。石冠を作ろうとしたもののか?

石器観察表

排図番号	図版番号	実測番号	出土番号	検出遺構面 グリッド	遺構	層位	器種	計測値 (cm・g)			石材	色調	備考	
								長さ	幅	厚さ				
84-116	46	112	1304 5.232m	第6遺構面 N2	SR古	黒色有機物層 [2層炭]	敲石	(11.7)	5.5	5.6	175.00	玄武岩 (白御崎産)	くすんだ 乳白色	上部欠損。角柱状の自然石を利用。表面に敲打痕あり。祭祀的な用途に利用されたか？縄文晚期
84-117	46	113	981 5.25m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	敲石	(13.0)	6.5	5.5	130.02	玄武岩 (白御崎産)	くすんだ 乳白色	上下欠損。一面に敲打痕あり。祭祀的な用途に利用されたか？縄文晚期
84-118	43	33	1425 5.678m	第6遺構面 M3	SR古	黄灰色 砂礫層 [3層]	磨石	(19.1)	9.2	7.0	209.0	流紋岩		端部欠損。磨滅痕は一面のみ。下部欠損面を下にすると直立する。一部に被熱による赤変色及び割れあり
84-119	47	2	66 7.208m	第2遺構面 M2	—	砂礫層	線刻石	(3.9)	5.4	(0.7)	(20)	凝灰岩	白っぽく 暗い赤色	両端・表面欠損。片面の研磨面と一側縁に引っ掻いたような線刻
85-120	43	70	1091 5.378m	第6遺構面 O2	SR古	灰色砂 礫石集中 箇所	石皿	19.2	13.5	8.5	128.00	砂岩	茶褐色	完形。3面使用している。縄文晚期
85-121	43	141	1129 4.87m	第6遺構面 M3	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	石皿	(17.6)	9.0	12.0	122.00	砂岩		約半分存。中研ぎ位と思われる
85-122	48	115	—	第6遺構面 M3	SR古	灰色砂 礫層 [3層]	石皿	24.5	11.0	8.4	347.0	ディサイト		完形。上面のみ使用
85-123	48	131	1112 5.178m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	石皿	(12.0)	(6.0)	(14.0)	148.00	ディサイト		一部残存。使用面はツルツルしている。欠損部分に剝離面が多くあるのは二次使用として石核の可能性あり？
86-124	48	16	—	第6遺構面 N2	SR古	黄灰色 砂礫層 [4層]	石皿	29.5	15.3	11.0	597.0	流紋岩 (地元産)		一面のみ反り込んだ摩滅面。割面は縄文時代のもの？
86-125	47	69	844 5.406m	第6遺構面 N2	SR古	灰褐色 砂礫層 [4層]	石皿	21.0	16.1	5.4	207.0	ディサイト		完形。大きな石皿の周囲を打ち欠いて小さくしたもの。画面使用。縄文晚期
86-126	48	67	836 5.628m	第6遺構面 N2	SR古	灰褐色 砂礫層 ～粘土 層上 [2層]	石皿	29.0	20.9	12.2	1005.0	玄武岩？		完形。自然石を利用。両面に磨滅痕あり
86-127	47	142	石1 7.15m	第3遺構面 N2	SX28	—	石皿	14.5	13.2	4.6	142.00	安山岩		一部存。生きてる面は使用。縄文晚期
87-128	48	44	787 6.168m	第6遺構面 N2	SR古	灰色粘 砂層 [1層]	石皿	(14.9)	28.3	11.2	1550.0	大江高 山系 ディサイト	淡黄色	約1/2欠損。表面の中央周辺が研磨されて滑らか
87-129	47	5	460 7.08m	第3遺構面 P2	—	灰色粘 質土	石皿	(13.3)	(20.6)	4.4	(159.0)	ディサイト	黄褐色	縁辺部欠損。表面共ツルツルした滑らかな使用痕あり
87-130	47	129	756 5.746m	第6遺構面 O1	SR古	灰色砂 礫層 [3層]	石皿	(18.5)	(22.3)	4.9	(200.0)	流紋岩		1/2以上欠損。表面に凹部あり。裏面は自然面
88-131	48	37	629 5.974m	第4遺構面 N3	SR新	灰色砂 層	石皿	(25.6)	(23.7)	(6.2)	(590.0)	大江高 山系 ディサイト	灰白色	3線辺部欠損。片面に使用されて滑らかな面あり
88-132	48	144	859 5.43m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂 礫層 [4層]	石皿	(34.5)	21.7	4.3	347.0	凝灰岩		約半分欠損。薄い板状で片面使用で、使用してる箇所が薄くなる
88-133	47	71	737 5.946m	第6遺構面 O1	SR古	灰色砂 礫層 [3層]	石皿	17.7	15.5	2.8	1295.18	ディサ イト質 凝灰岩	淡黄白色	完形。表面及び一側縁に磨滅痕あり。他の一側縁に堆積の筋を利用した2条の溝状研磨痕あり。裏面にも1条の溝状研磨痕あり

石器観察表

拂団番号	図版番号	実測番号	取上番号 出土位置 グリッド	遺構	層位	器種	計測値 (cm · g)			石材	色調	備考	
							長さ	幅	厚さ				
89-134	49	27	1545 4.986m	第6遺構面 N3	SR古	黒色有機物層 [2層深]	石皿	14.65 (39.1)	4.5 ~ 0.9	28500	凝灰岩	乳白色 1/2以上欠損。両面に皿状の凹みが点在する。中央がかなり薄くなっている。縦文晚期	
89-135	47	31	1456 5.57m	第6遺構面 M3	SR古	黄灰色砂礫層 [3層]	石皿	(20.3) (20.3)	5.3 ~ 3.5	(2820)	流紋岩	縦辺部欠損。両面使用。古い割れ縫辺部の一部に黒変あり	
90-136	49	138	717 6.046m	第6遺構面 O1	SR古	灰褐色粘質土 [2層]	石皿	34.5 (19.8)	19.8 3.0	(1600)	凝灰岩	一部欠損。薄い板状で表面面とも使用している薄所が薄くなる	
90-137	47	7	570 7.104m	第3遺構面 N2	—	灰色砂層	石皿	22.5 (14.3)	5.4 ~	(2840)	大江高山系 デイサイト	灰褐色 約1/2欠損。両面使用	
91-138	47	9	石2 約5.2m	第6遺構面 O2	SR古	黄褐色砂礫層 [4層]	石皿	(18.3) (23.5)	7.3 ~	(5330)	流紋岩	橙色 縦辺部欠損。片面に滑らかな使用痕及び1ヶ所に凹みあり	
91-139	47	12	—	第4遺構面 L2	SR新	灰色砂礫層	石皿	(19.3) (11.3)	2.6 ~	(1400)	凝灰岩	灰白色 3縦辺部欠損。片面に擦痕により強い滑らかな範囲及び1ヶ所に凹みあり。もう一方には2ヶ所に凹みあり	
92-140	49	4	1382 6.81m	第3遺構面 N3	—	黄褐色砂礫層	石皿	(27.8) (18.7)	6.5 ~	(5760)	大江高山系 デイサイト	黄褐色 全体的に白っぽい 一部欠損。表面は全体的にスベスベしている。約1/2が被熱により黒変している	
93-141	49	65	1173 4.946m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂礫層 [4層]	石皿	(33.0) (43.4)	(18.0) ~	(2820)	デイサイト	表面以外欠損。	
93-142	49	54	1485 5.292m	第6遺構面 N3	SR古	黄褐色砂礫層 [4層]	石皿	(28.7) (33.5)	15.1 ~	(2840)	砂岩?	約1/3欠損。両面使用。被熱してもろい	
94-143	49	62	608 5.99m	第4遺構面 M3	SR新	灰色砂礫層	石皿	40.0 (33.5)	44.2 ~	7.7 ~	(17390)	砂岩? 95-144 と似る	完形。両面使用。裏面には黒色物質付着あり
95-144	50	60	1108 5.12m	第6遺構面 N2	SR古	灰色砂礫層 [4層]	石皿	36.0 (33.0)	53.0 ~	7.5 ~	(18360)	砂岩? 94-143 と似る	完形。表面とともに利用
41-145	50	145	739 8.294m	第5遺構面 O2	堅果殻集 中範囲1	—	円碟	9.5 ~	8.0 ~	5.7 ~	510	淡灰色 色	完形。碟であるが全体に風化して重い。表面は敲打により剥離しているように見える
41-146	—	—	740 8.538m	第5遺構面 O2	堅果殻集 中範囲1	—	踏台石	54.0 ~	30.0 ~	25.0 ~	15.3kg	完形。鉄石。ステッピングストーン	
25-147	47	147	513 7.162m	第3遺構面 O3	—	灰色砂層	石鉢	(1.2)	1.2 ~	0.1 ~	(0.48)	サスカイト	先端部1/2欠損。平基式

木製品観察表

拂団 番号	圓版 番号	取上番号	検出遺構面 出土標高 グリッド	遺構	層位	器種	計測値 (cm)			樹種	備考
							長さ	幅	厚さ		
96-1	51	木 159 5.2m	第 6 遺構面 O2	SR 古	黒色有機 物層 【2層深】	丸杭	140.4	4.0	4.0		完形。枝と皮は全て取ってから加工、使用。中央付近からケズりが始まるが基部方向にいくに従い不明瞭となる
96-2	51	杭 6 5.25 ~ 5.35m	第 6 遺構面 N3	SR 古	灰色砂層 【4層】	丸杭	137.7	6.0	6.0		完形。上半分に皮を残す
96-3	51	杭 2 5.42m	第 6 遺構面 O2	SR 古	黄灰色砂 礫層 【4層】	丸杭	(121.9)	4.8	4.8		上部欠損。基部のカット面に砂がめり込んでいる
96-4	51	901 5.27m	第 6 遺構面 O2	SR 古	灰黒色砂 礫層 (有 機物含む) 【4層】	丸杭	114.0	4.5	3.4		完形。先端も加工している (弓の可能性あり)
96-5	51	杭 3 5.41m	第 6 遺構面 O2	SR 古	黄灰色砂 礫層 【4層】	丸杭	102.3	4.1	4.1		完形
96-6	51	杭 4 約 5m	第 6 遺構面 O2	SR 古	【4層】	丸杭	(71.7)	5.0	4.6	イヌガヤ	先端欠損。中間に皮が残存する (AMS 測定 FGW4)
96-7	51	杭 5 約 5m	第 6 遺構面 O2	SR 古	【4層】	丸杭	(62.0)	4.4	3.5		先端欠損。一部に皮が残る
97-8	52	木 101 8.7 ~ 6m	第 5 遺構面 O2	—	ミカン削材	133.6	3.1	1.5	針葉樹	完形。先端に加工痕あり	
97-9	52	木 80 6.15m	第 6 遺構面 N2-O2	SR 古	灰色砂層 【1層】	板材	(81.3)	5.0	2.0		上部欠損。上下両端に加工が施され、穿孔の痕跡あり
97-10	52	1484 5.118m	第 6 遺構面 M3	SR 古	【4層】	角杭	38.4	3.4	2.0		完形
97-11	52	—	第 6 遺構面 N2-O2	SR 古	【2層】	板状木製品	(22.8)	2.7	0.65	針葉樹	欠損。箱状のものの一部か? 兩サイドが割れ。端部の一方は木釘孔か?
97-12	52	—	第 2 遺構面 L3	SD01		板材	(19.0)	2.0	1.0	針葉樹	欠損
97-13	52	—	第 2 遺構面 L3	SD01		板材	19.0	(2.6)	1.0	針葉樹	欠損。蓋の一部か? 一部焼けている
97-14	52	木 110 8.11m	第 5 遺構面 O2	—		板材	(67.5)	11.0	2.2	針葉樹	下部欠損。上部に一部焼けた蓋所あり。下部に加工された孔の痕跡あり
97-15	52	295 2.41m	第 2 遺構面 M2	—	灰色砂層	板材	(59.8)	11.7	2.1		上部欠損。全体に焼けている。側面に加工痕あり
97-16	52	木 142 5.92m	第 6 遺構面 O2	SR 古	黒色有機 物層 【2層】	容器?	(58.0)	19.4	3.6		欠損。断面が舟形の容器か? 上部の縁辺にケズり痕あり
97-17	52	木 130 5.7m	第 6 遺構面 O2	SR 古	砂礫層 【3層】	枕形木製品	52.5	13.5	13.0		完形。上下両端に加工痕あり。元来全体が焼けていたものが部分的に炭が剥落したものか?

# 写 真 図 版





古屋敷遺跡G区及びH・I区 空中撮影（南から）



古屋敷遺跡G区及びH・I区 空中撮影（西から）

図版 2



第1遺構面 検出状況（東から）



第1遺構面 弥生の川跡 H-G区の境界（南東から）



第2遺構面 SX02 半裁状況



第2遺構面 SX04 半裁状況



第2遺構面 SX05 半裁状況



第2遺構面 SX06 半裁状況



第2遺構面 SX07 半裁状況



第2遺構面 SX08 半裁状況



第2遺構面 SX09 半裁状況



第2遺構面 SX10 完掘状況

図版 4



第2遺構面 SX11 半裁状況



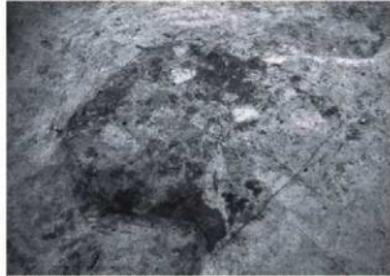
第2遺構面 SX12 半裁状況



第2遺構面 SX13 プラン検出状況



第2遺構面 SX15 完掘状況



第2遺構面 SX14 プラン検出状況



第2遺構面 SX14 半裁状況



第2遺構面 SX17 完掘状況



第2遺構面 SX21 完掘状況



第2遺構面 SX22 完掘状況



第2遺構面 SX23 半裁状況



第2遺構面 SX 集中状況 (SX04~19・21~24)



第2遺構面 M2 20-47 とクルミ集中範囲



第2遺構面 N3 クルミ集中範囲

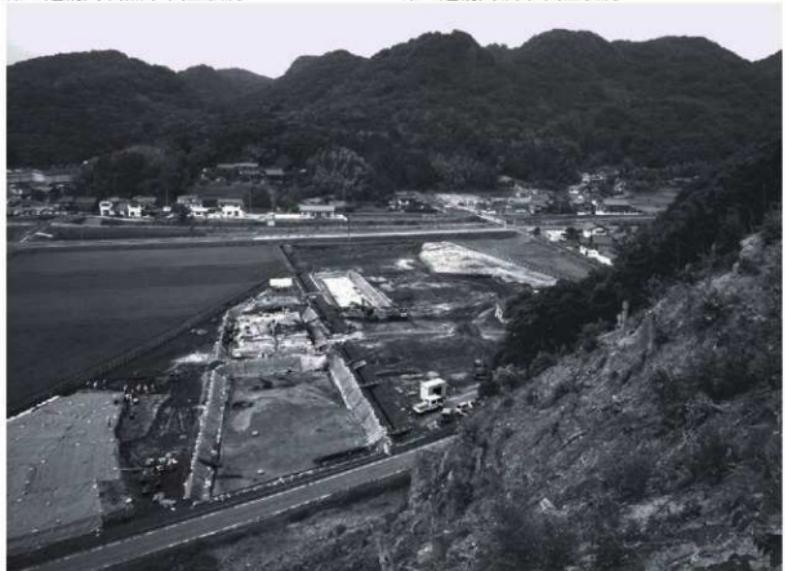
図版 6



第2遺構面 自然木 出土状況



第2遺構面 流木 出土状況



南東山上から調査区遠景（手前 G 区、奥 H・I 区）



第3遺構面 O2 27-71 出土状況



第3遺構面 O3 26-60 出土状況



第3遺構面 SX20 半裁状況



第3遺構面 SX26 半裁状況



第3遺構面 SX28 完掘状況



第3遺構面 P06 半裁状況



第3遺構面 地床炉遺構群 (SX20・28・29・31)

図版 8



第3遺構面 N3 ピット群



第4遺構面 SR 新 全体遠景 (北西から)



第4遺構面 SR 新 35-104 出土状況



第4遺構面 SR 新 44-143 出土状況



第4遺構面 SX32 半裁状況



第4遺構面 SX32 完掘状況



第5遺構面 堅果類集中範囲 1 検出状況



第5遺構面 堅果類集中範囲 1・3~6 (南から)



第6遺構面 O3 SR 古 53-183 出土状況(北から)



第6遺構面 杵 1(O-O') 半裁状況(南から)

図版 10



第6遺構面 中央トレンチ東西南北土層断面交差付近（北西から）



第6遺構面 O2 SR 古 東西南北土層断面 流木出土状況（北東から）



第6遺構面 SR 古 96-3,96-5 出土状況（北西から）



O2 SR 古 96-3,96-5 半裁状況（東から）



O2 SR 古 96-6,96-7 半裁状況（北東から）



N3 SR 古 96-2 周辺流木及び石群出土状況  
(南東から)



第6遺構面 N3 SR 古 96-2 周辺流木出土状況（南から）

図版 12



第6遺構面 O2 SR 古 97-16 出土状況（北から）



第6遺構面 N4 SR 古 木 179 出土状況（北から）



第6 遺構面 N2 SR 古 磨石集中箇所 (E-E'及び杭1付近)



第6 遺構面 SR 古 上半掘削状況 (北東から)

図版 14



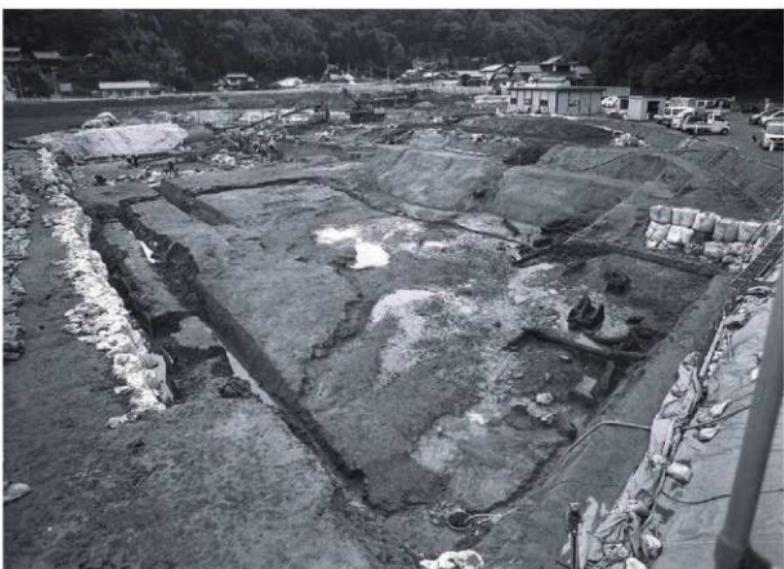
第6遺構面 O2-3 SR 古 黒色有機物層（2層）及び粘土層範囲（南東から）



第6遺構面 SR 古 完掘状況（北東から）

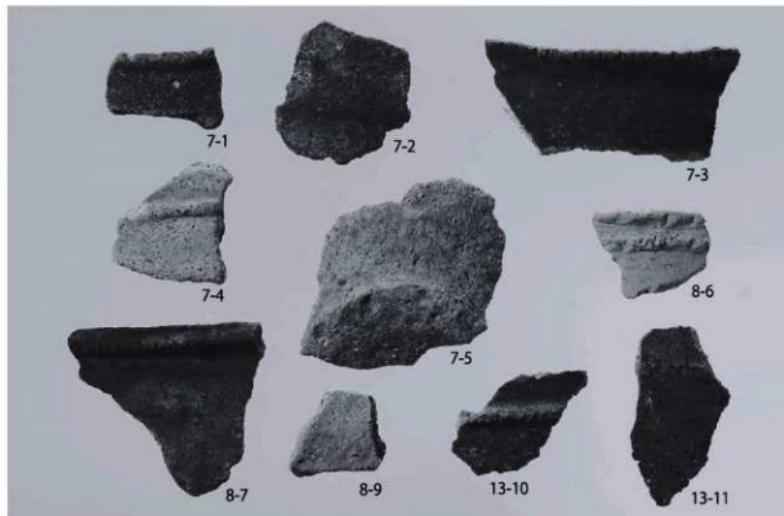


第6遺構面 SR 古 完掘状況（南西から）

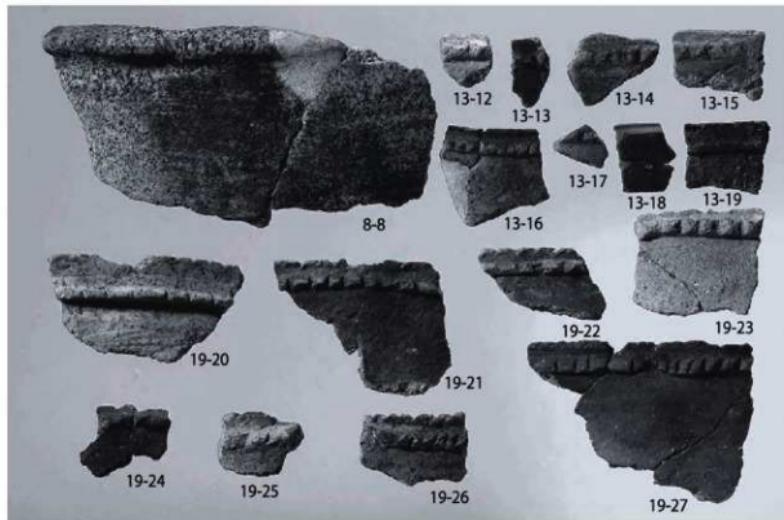


古屋敷遺跡 G区 完掘状況遠景（南西から）

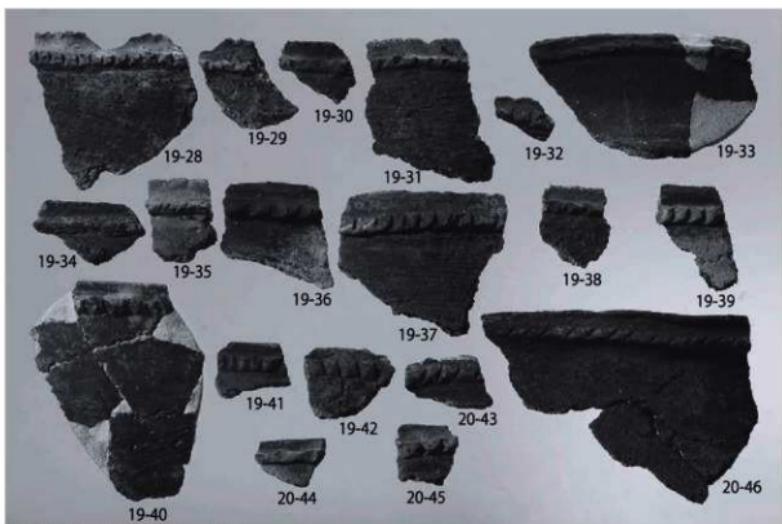
図版 16



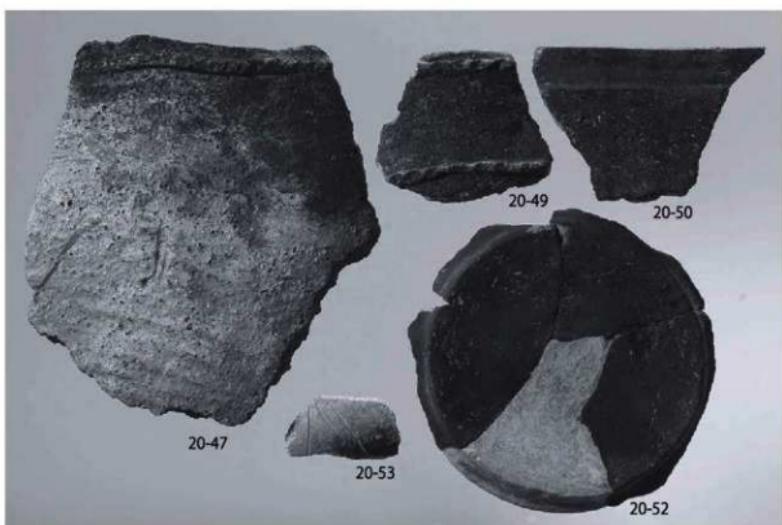
第1遺構面 弥生の川跡及び包含層出土土器 第2遺構面 SX00 出土土器



第2遺構面 SX01-05・12-14・15-18・23 及び包含層出土土器

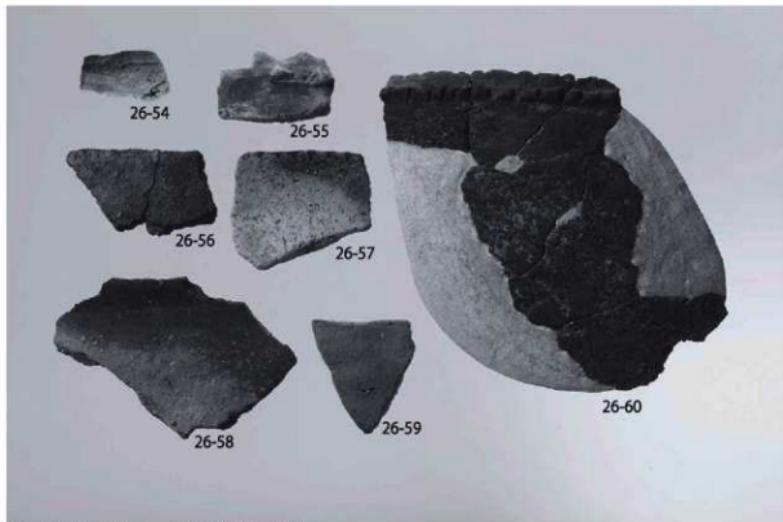


第2遺構面 包含層出土土器



第2遺構面 包含層出土土器

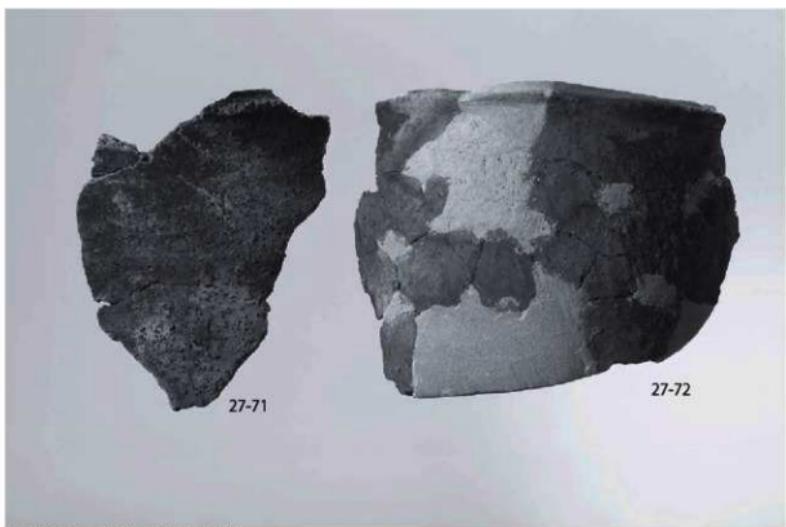
図版 18



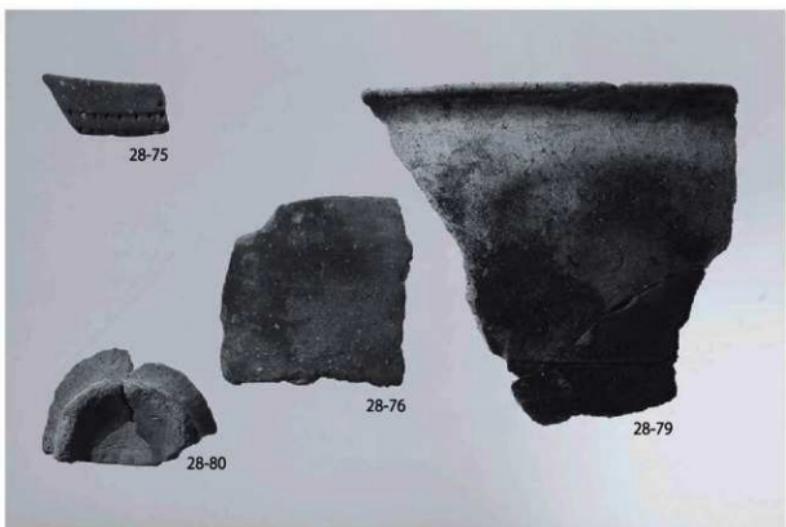
第3遺構面 SX25、包含層出土土器



第3遺構面 包含層出土土器

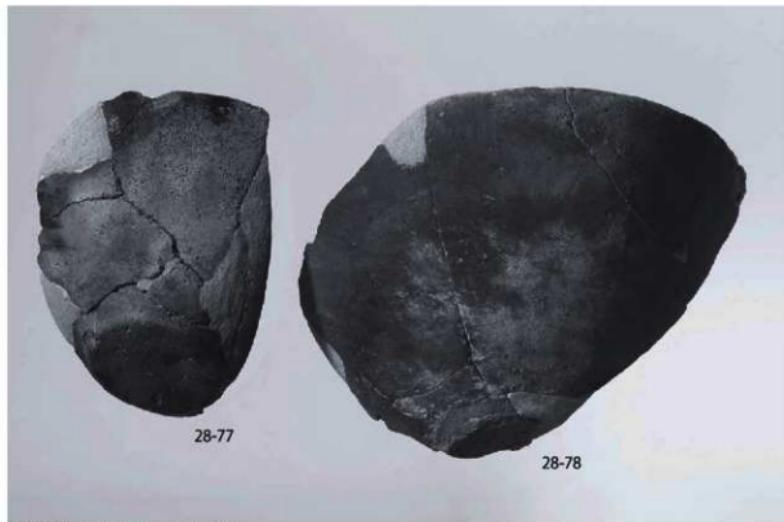


第3遺構面包含層出土土器

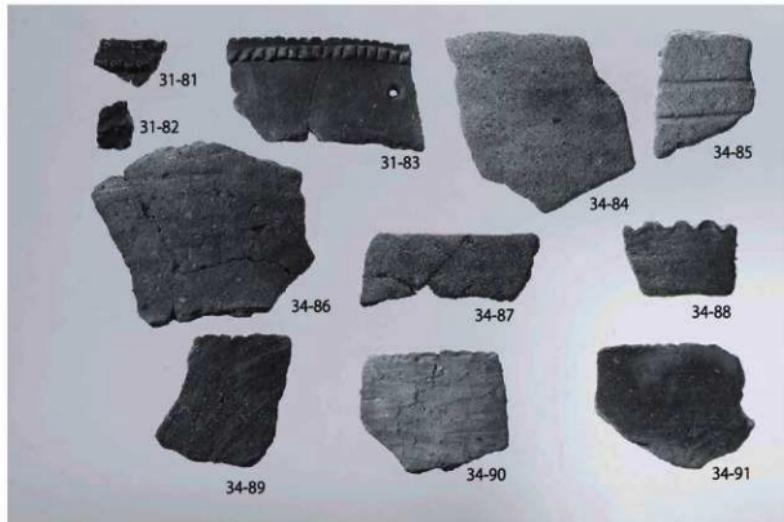


第3遺構面包含層出土土器

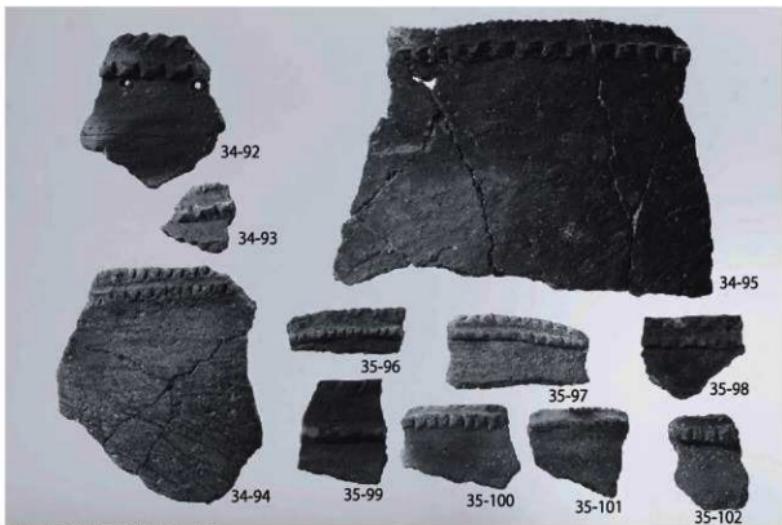
図版 20



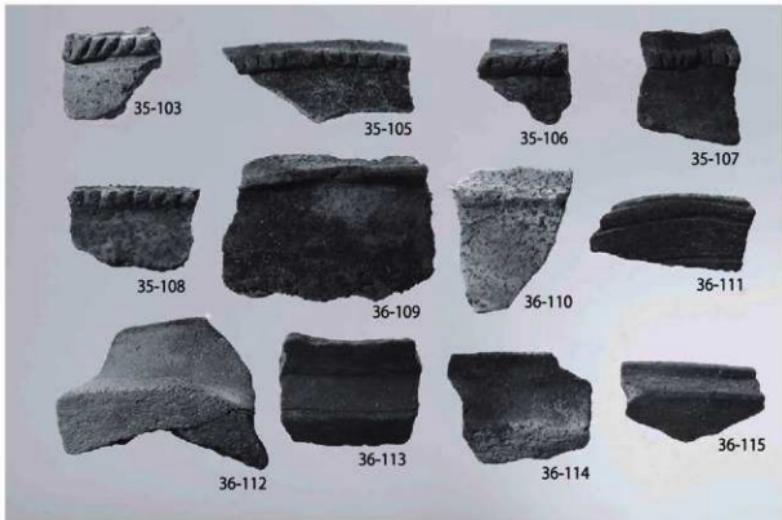
第3遺構面 包含層出土土器



第4遺構面 SX32 及び SR 新出土土器



第4遺構面 SR 新出土土器

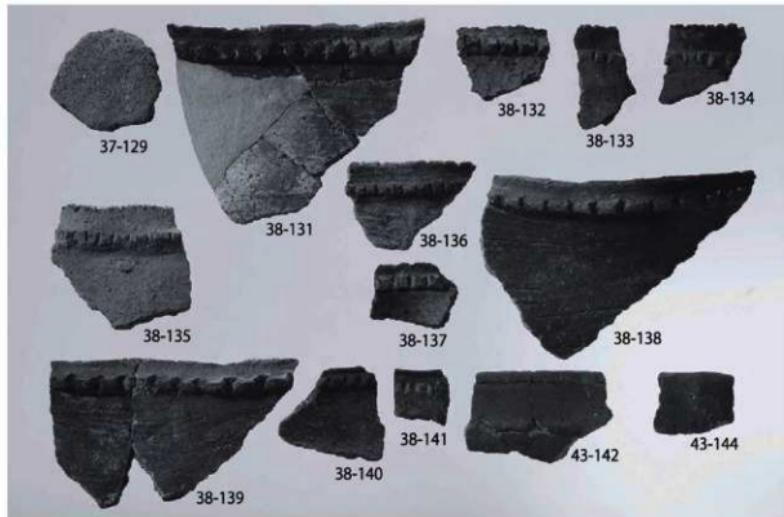


第4遺構面 SR 新出土土器

図版 22



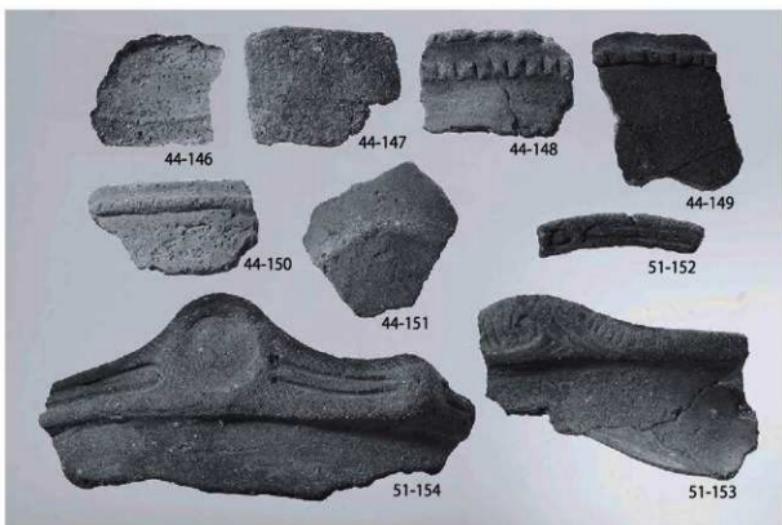
第4遺構面 SR新出土土器



第4遺構面 SR新出土土器 第5遺構面 堅果類集中範囲1・3出土土器

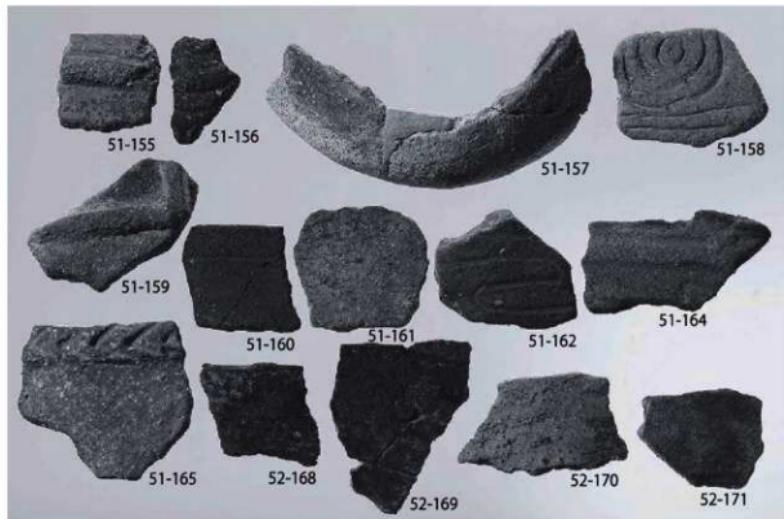


第4遺構面 包含層出土土器 第5遺構面 堅果類集中範囲 2・7 出土土器

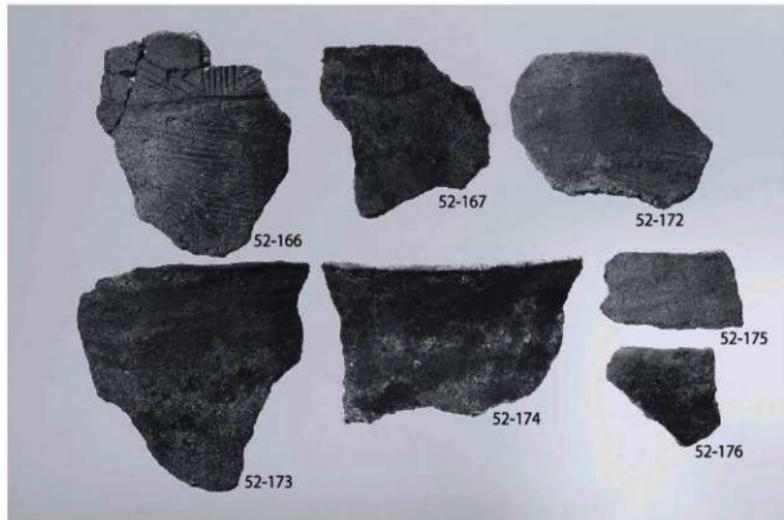


第5遺構面 包含層出土土器 第6遺構面 SR古出土土器

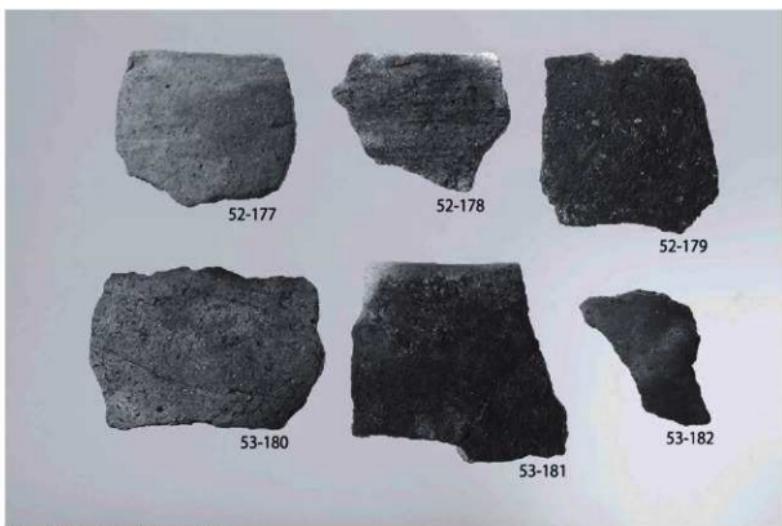
図版 24



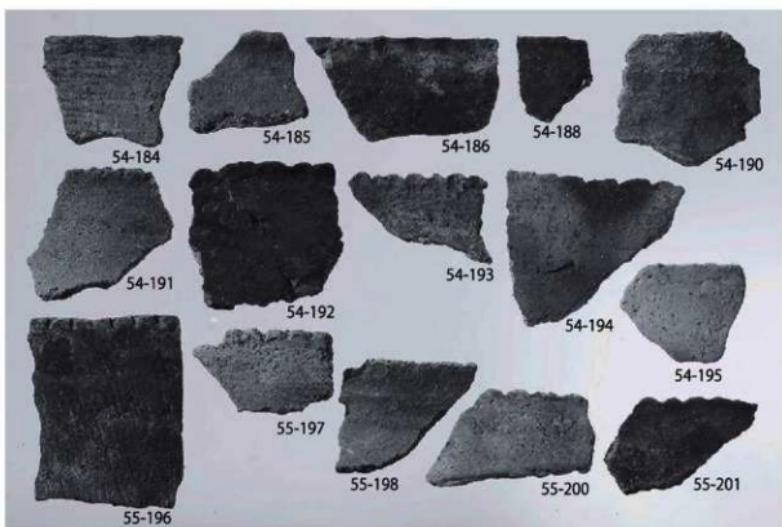
第6遺構面SR古出土土器



第6遺構面SR古出土土器

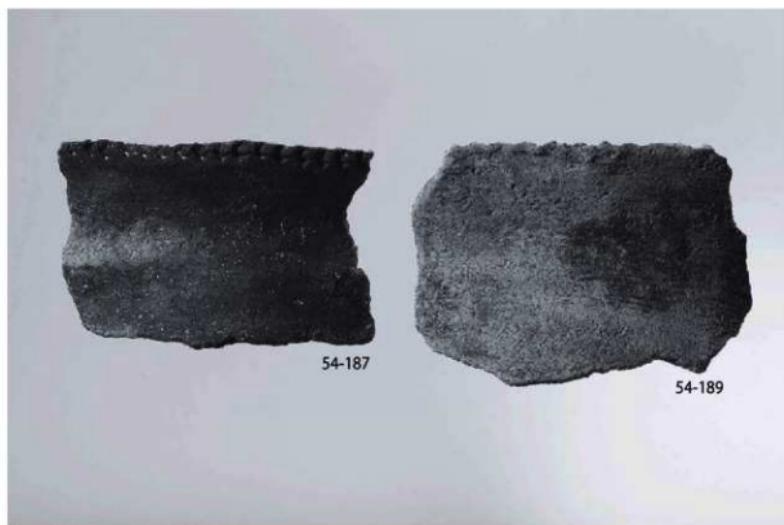


第6遺構面SR古出土土器

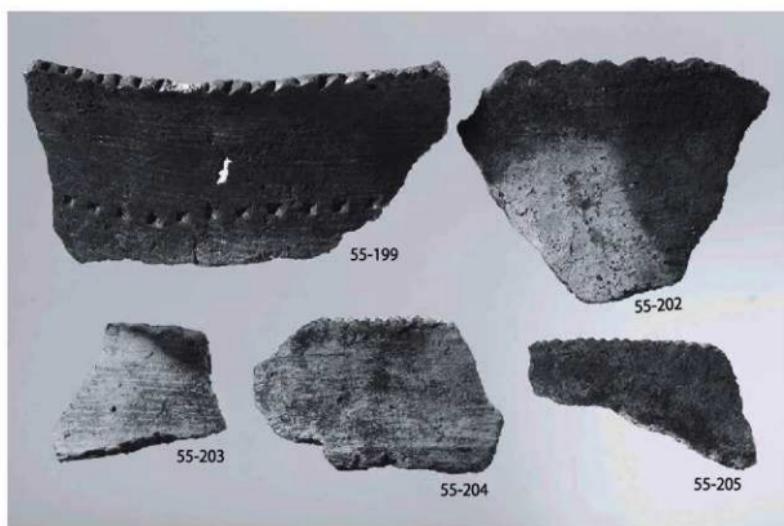


第6遺構面SR古出土土器

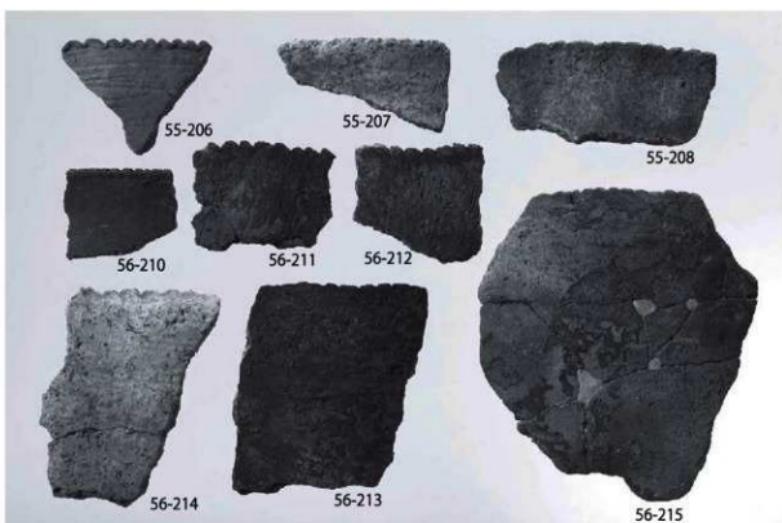
図版 26



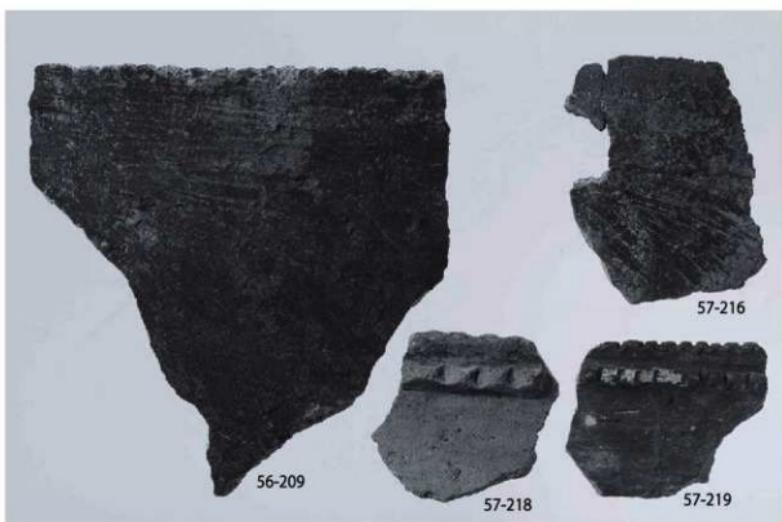
第6 遺構面 SR 古出土土器



第6 遺構面 SR 古出土土器

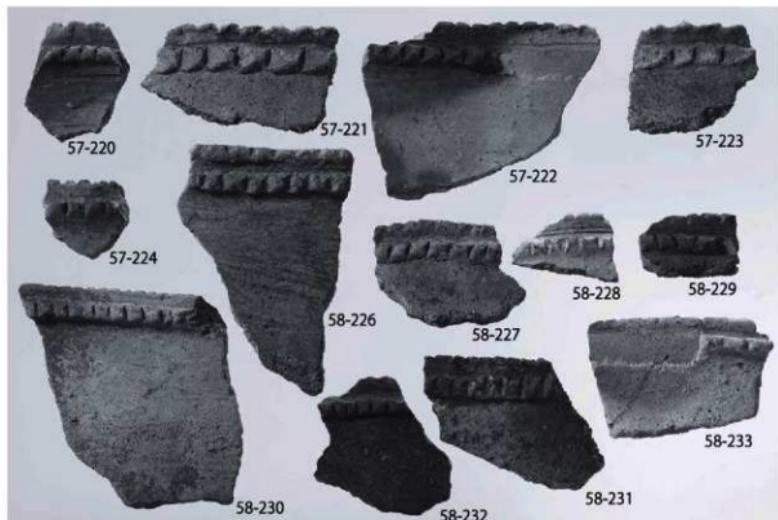


第6遺構面 SR 古出土土器

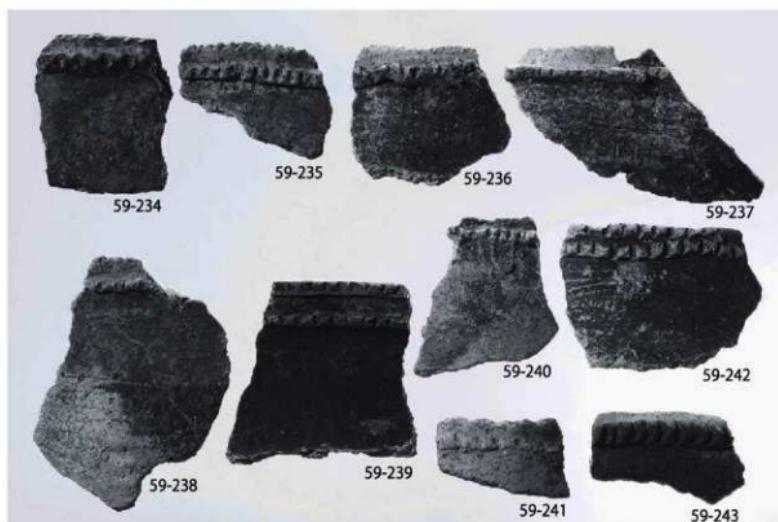


第6遺構面 SR 古出土土器

図版 28



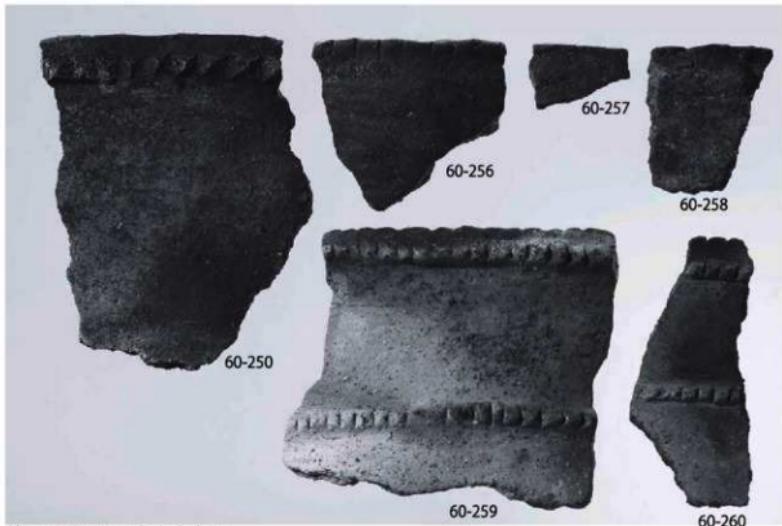
第6遺構面SR古出土土器



第6遺構面SR古出土土器

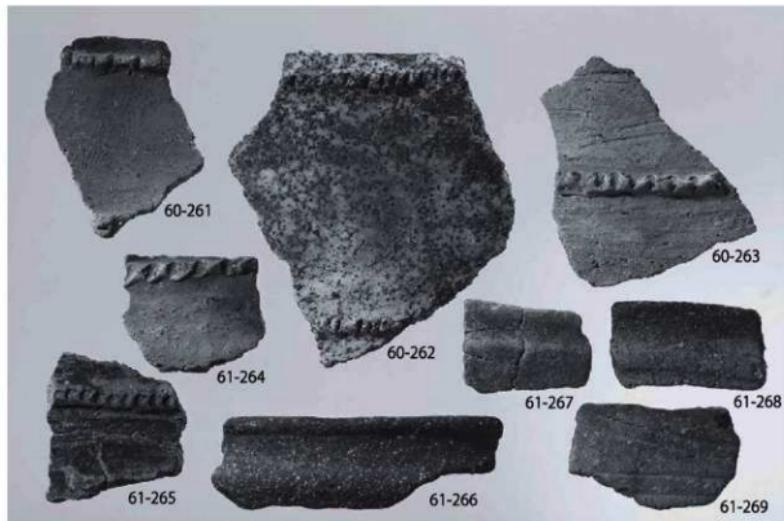


第6遺構面 SR古出土土器



第6遺構面 SR古出土土器

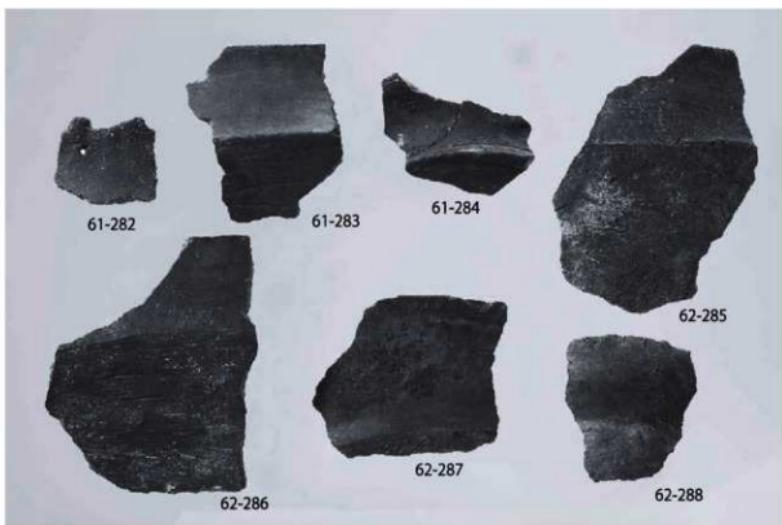
図版 30



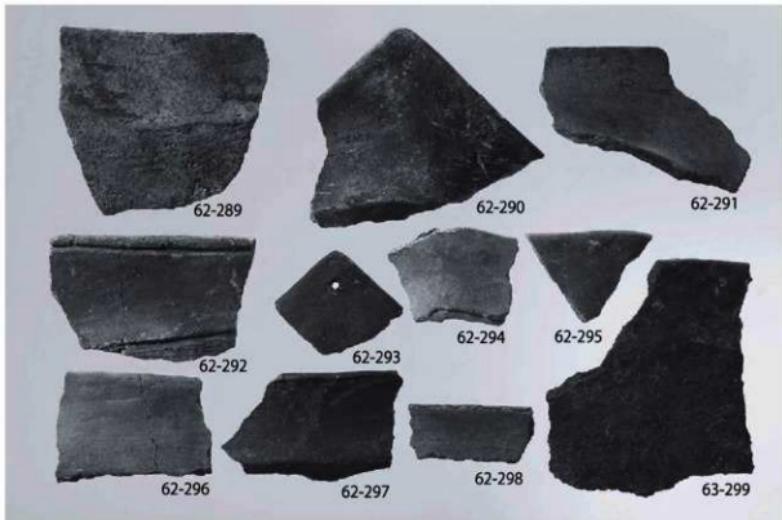
第6遺構面SR古出土土器



第6遺構面SR古出土土器

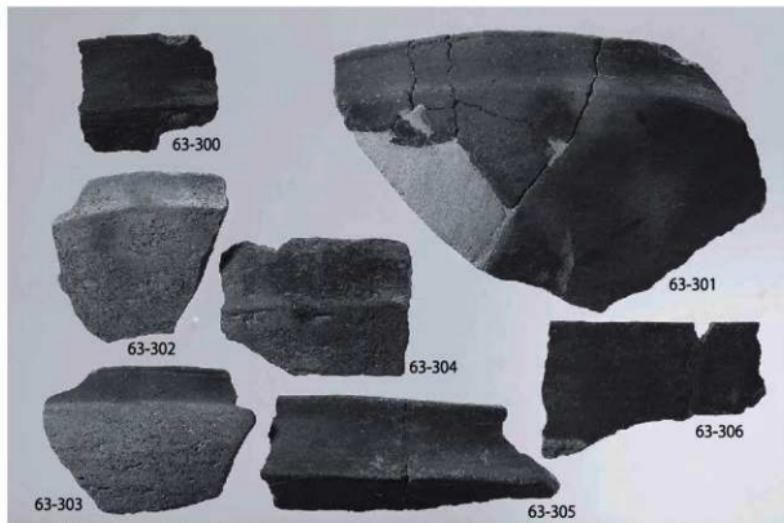


第6遺構面SR古出土土器



第6遺構面SR古出土土器

図版 32



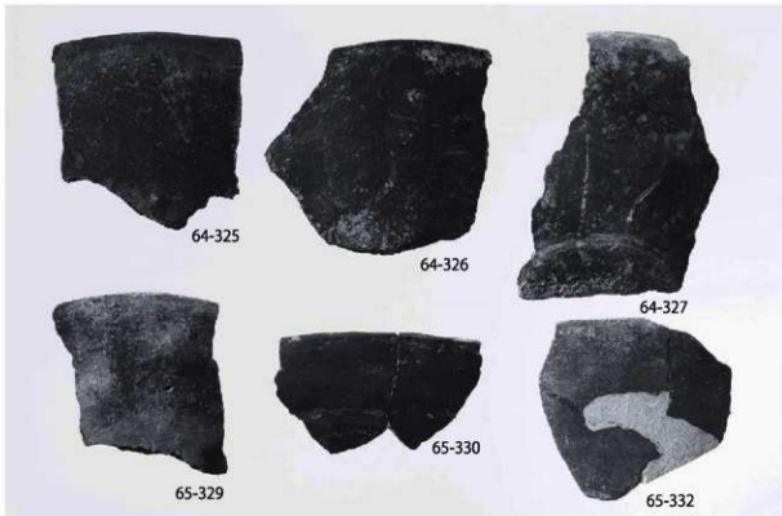
第6遺構面SR古出土土器



第6遺構面SR古出土土器



第6遺構面 SR 古出土土器



第6遺構面 SR 古出土土器

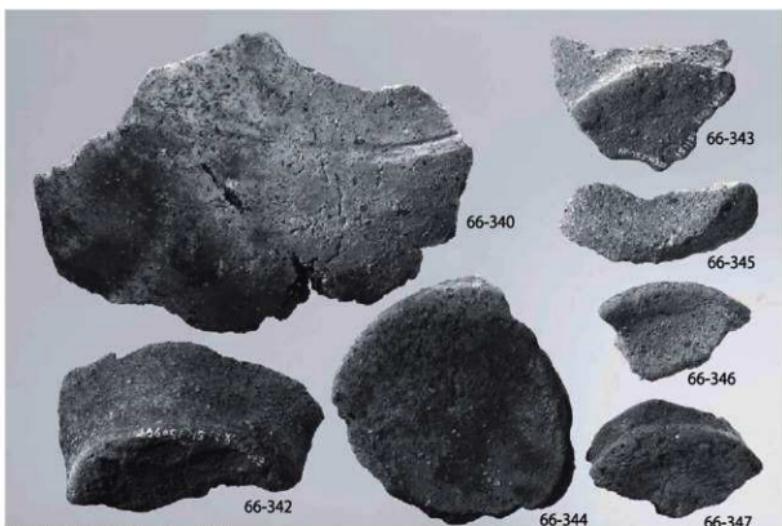
図版 34



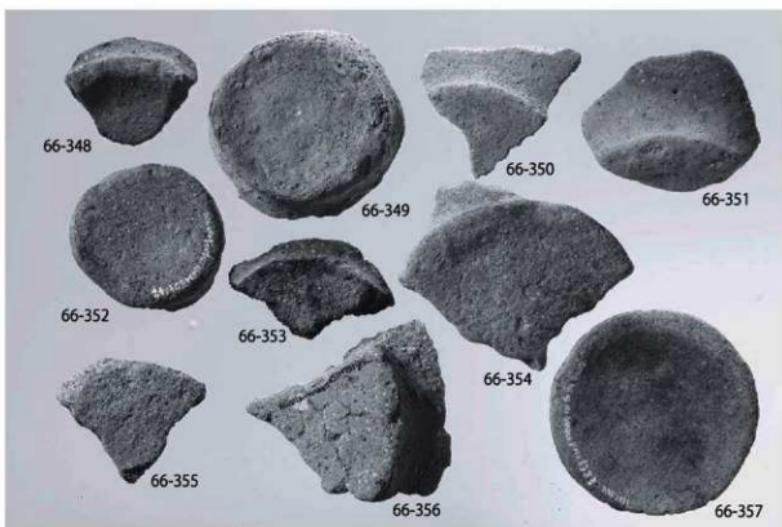
第6 遺構面 SR 古出土土器



第6 遺構面 SR 古出土土器



第6遺構面 SR 古出土土器

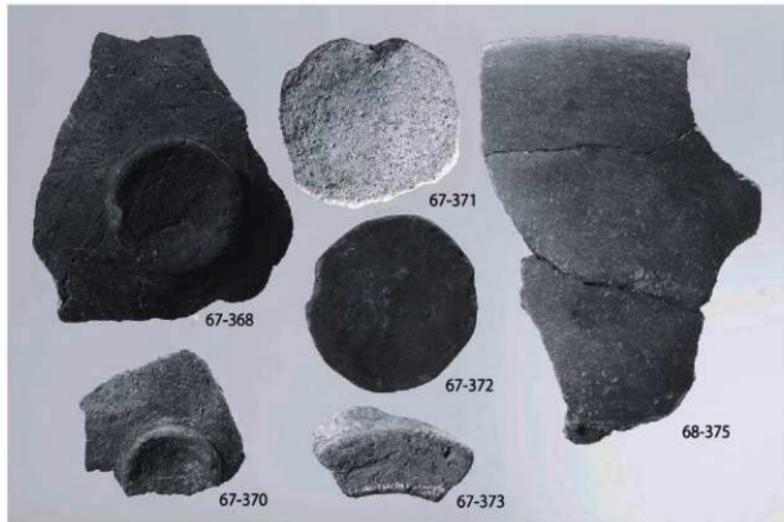


第6遺構面 SR 古出土土器

図版 36



第6遺構面SR古出土土器



第6遺構面SR古、SR古下の包含層出土土器



第2遺構面 包含層出土土器



第2遺構面 包含層出土土器



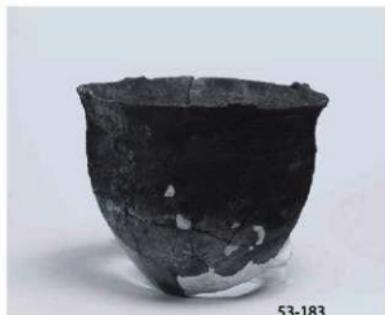
第3遺構面 包含層出土土器



第4遺構面 SR新出土土器



第4遺構面 SR新出土土器



第6遺構面 SR古出土土器

図版 38



51-163 上



51-163 立



57-217



67-374



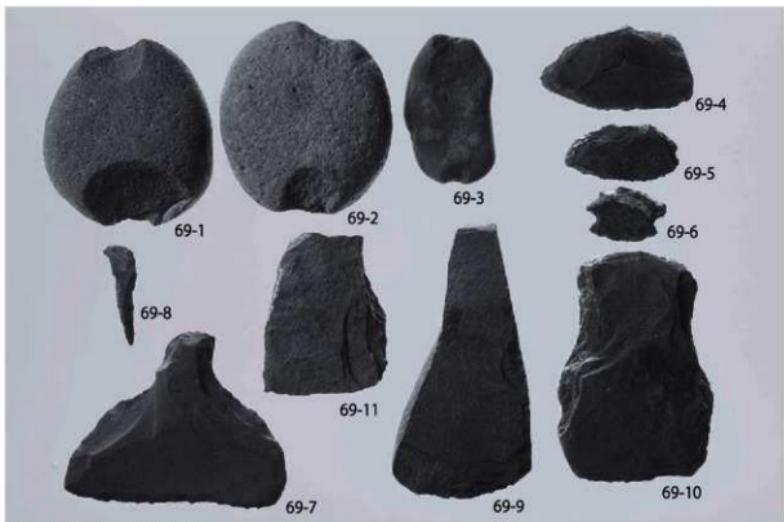
66-339



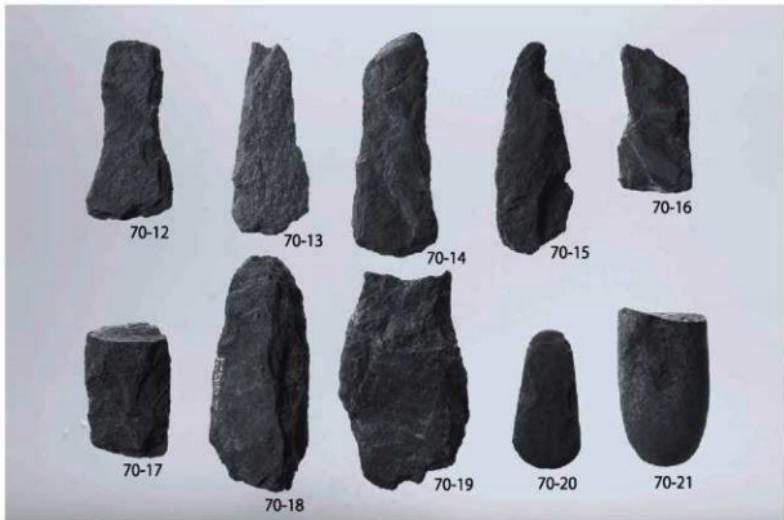
58-225

第 6 遺構面 SR 古出土土器及び土製品

図版 39

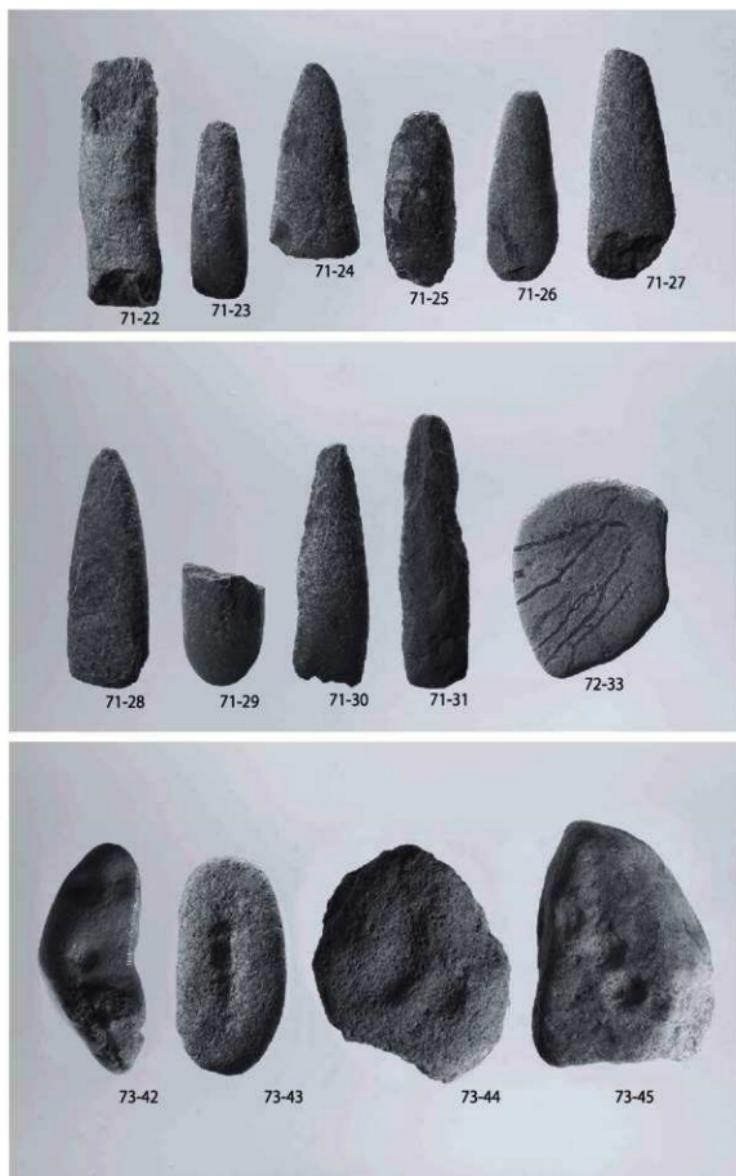


古屋敷遺跡G区 出土石器

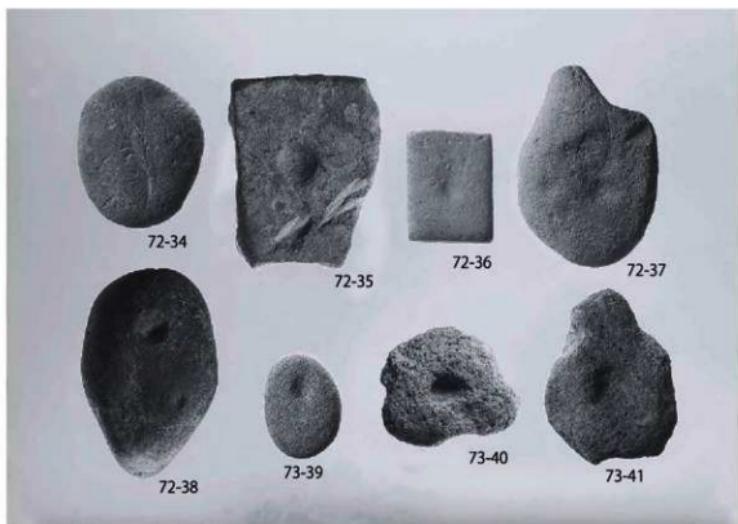


古屋敷遺跡G区 出土石器

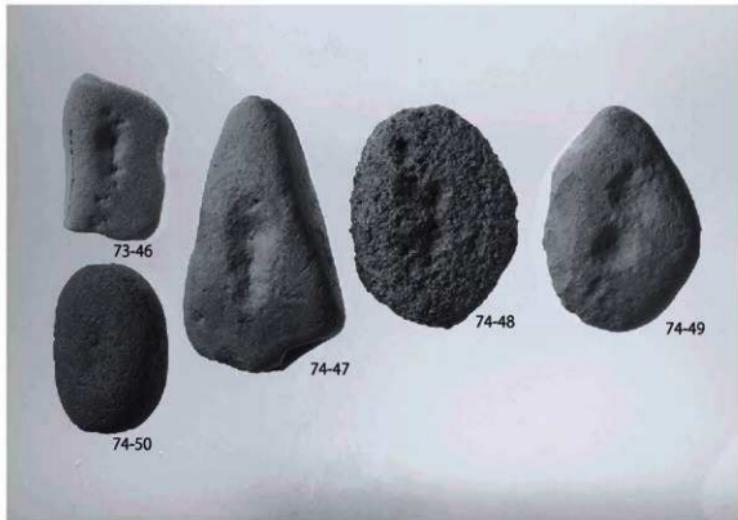
図版 40



古屋敷遺跡G区 出土石器

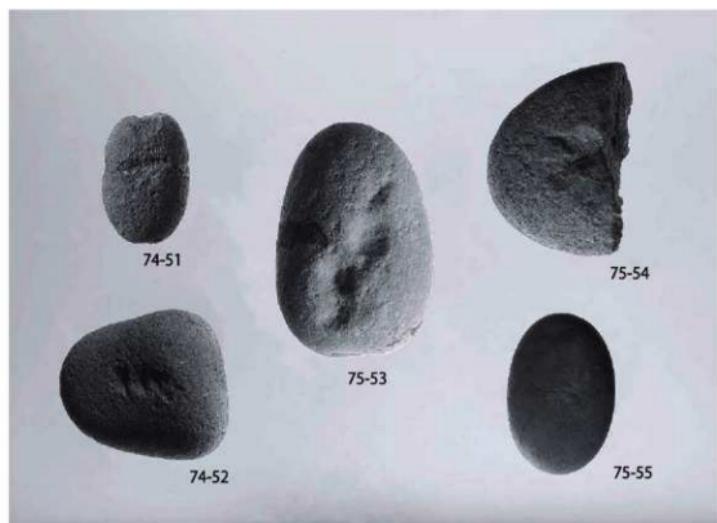


古屋敷遺跡 G 区 出土石器

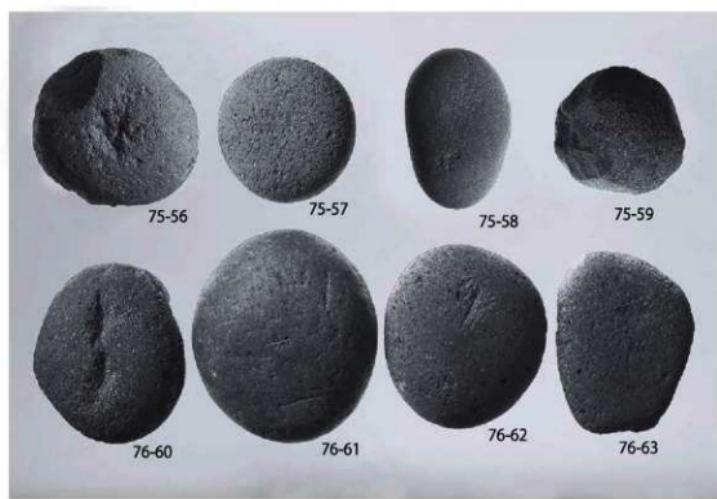


古屋敷遺跡 G 区 出土石器

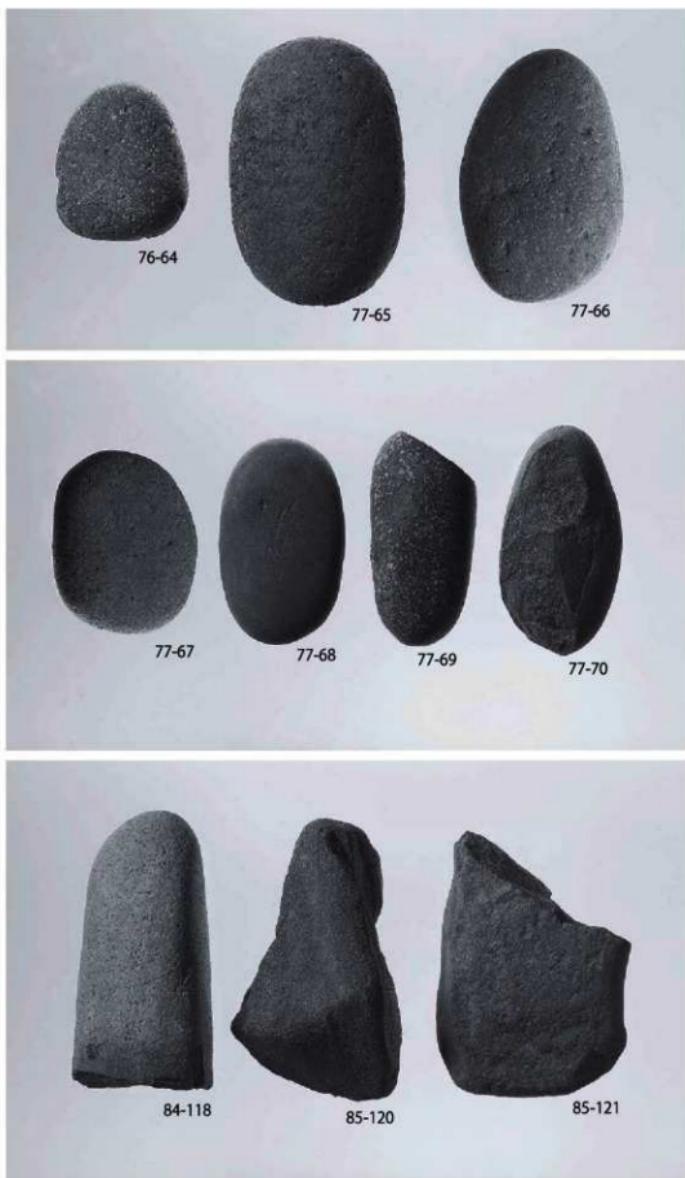
図版 42



古屋敷遺跡G区 出土石器

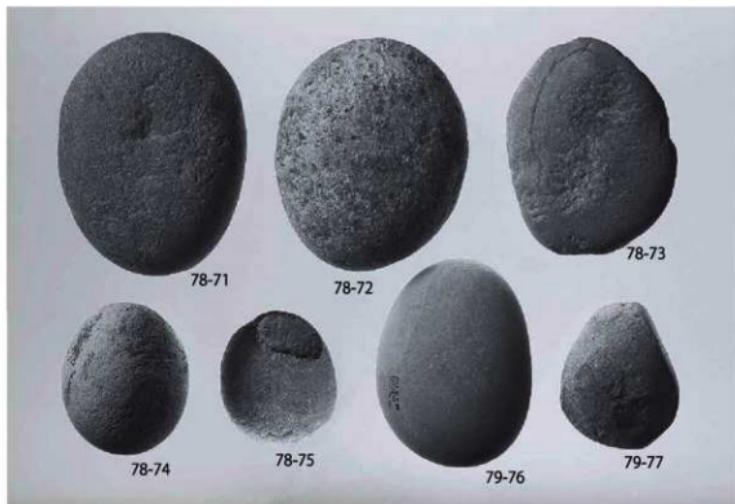


古屋敷遺跡G区 出土石器

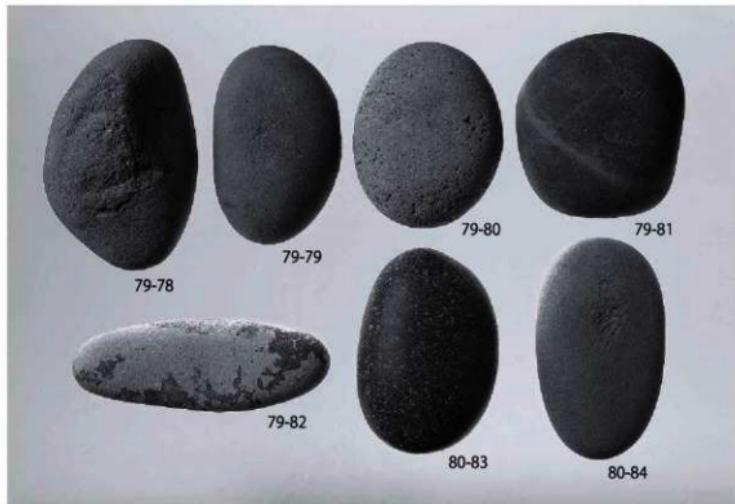


古屋敷遺跡G区 出土石器

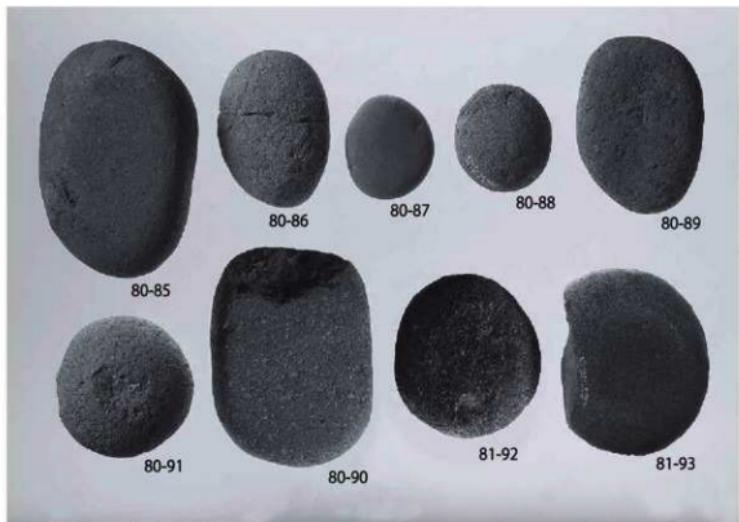
図版 44



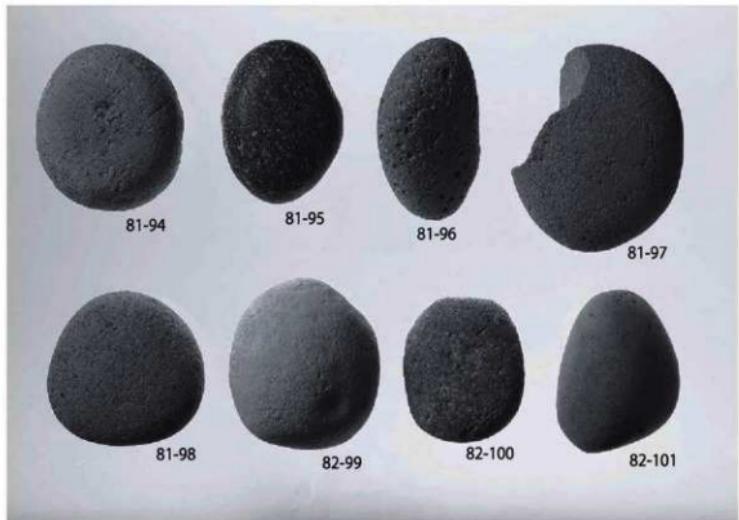
古屋敷遺跡 G 区 出土石器



古屋敷遺跡 G 区 出土石器

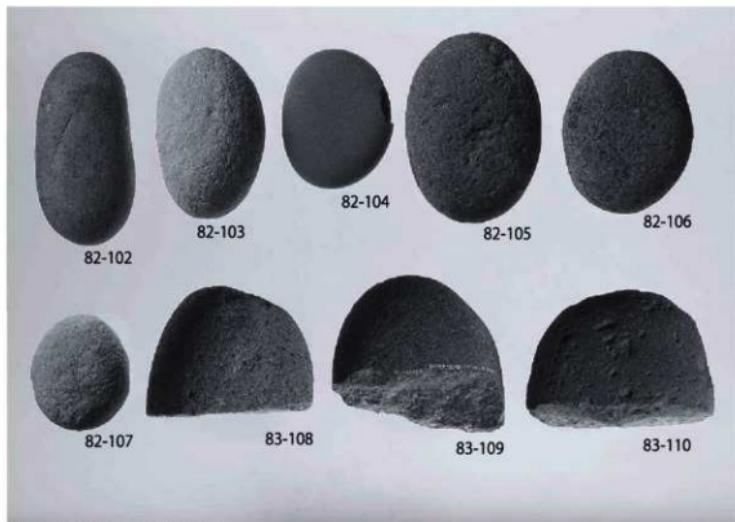


古屋敷遺跡 G 区 出土石器

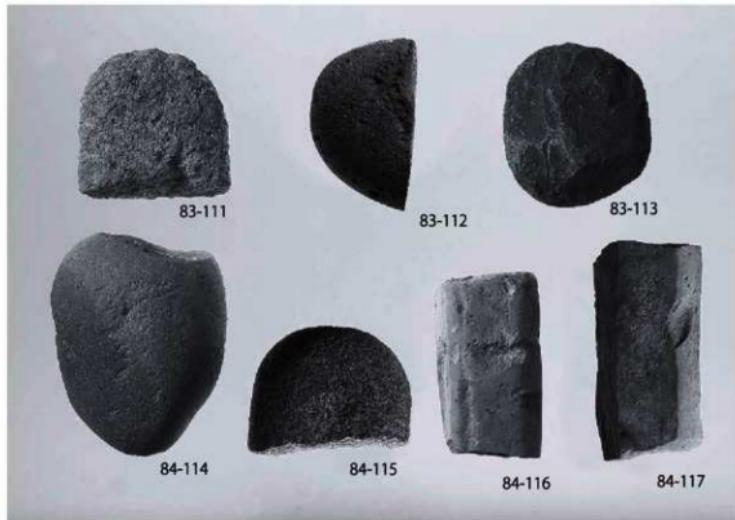


古屋敷遺跡 G 区 出土石器

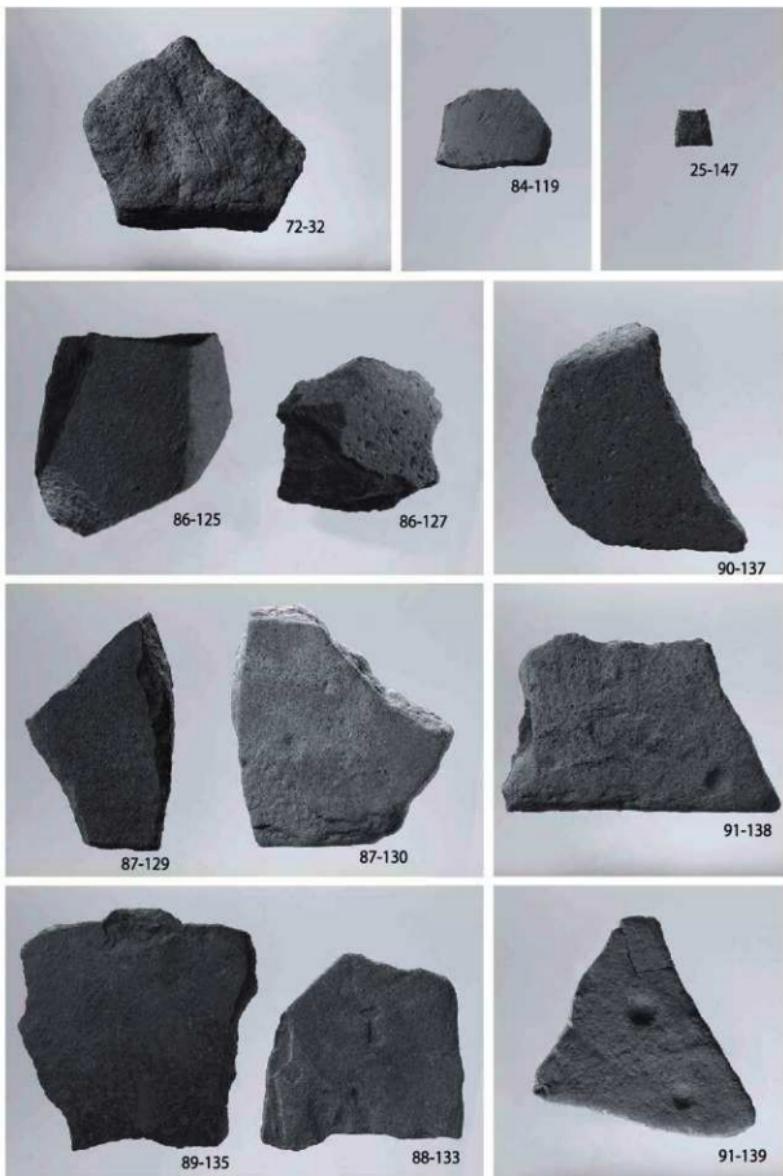
図版 46



古屋敷遺跡 G 区 出土石器



古屋敷遺跡 G 区 出土石器



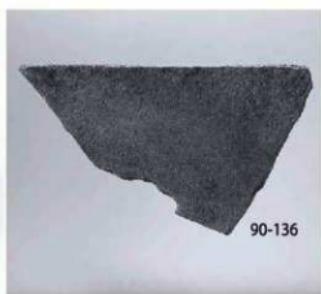
古屋敷遺跡 G 区 出土石器

図版 48



古屋敷遺跡G区 出土石器

図版 49

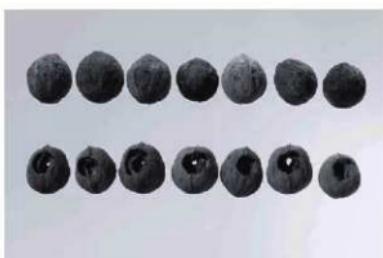


古屋敷遺跡 G 区 出土石器

図版 50



古屋敷遺跡G区 出土石器



第5遺構面 堅果類集中範囲1 出土トチ



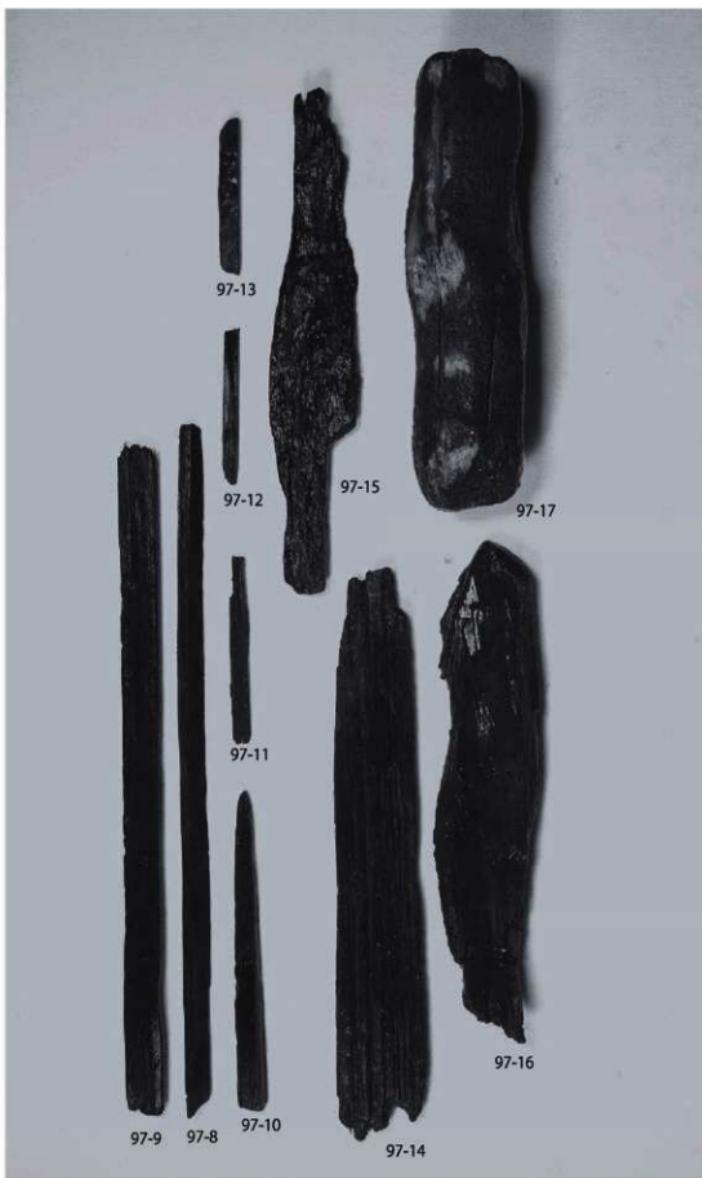
第5遺構面 堅果類集中範囲1 出土クルミ

第6遺構面 SR古96-2周辺出土トチ



古屋敷遺跡G区出土木製品

図版 52



古屋敷遺跡G区 出土木製品

## 報告書抄録

ふりがな	ふるやしきいせき（Gく）					
書名	古屋敷遺跡（G区）					
シリーズ名	一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
シリーズ番号	4					
編著者名	内田律雄・米田美江子・上山晶子・小畠弘己					
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター <a href="http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai">http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai</a>					
所在地	〒690-0130 島根県松江市打出町33番地 TEL 0852-36-8608 E-mail maibun@pref.shimane.lg.jp					
発行年月日	2017(平成29)年7月31日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード	北緯	調査期間	調査面積	調査原因
ふるやしきいせき 古屋敷遺跡 (G区)	しまねけん 島根県 大田市 にまだまち 仁摩町 大国	32205 B 61	35° 08' 35" 132° 24' 55"	20150601 ～ 20151228	1045m <sup>2</sup>	道路建設
遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
古屋敷遺跡 (G区)	集落	縄文時代	地床炉・旧河道・ 堅果類廃棄場	縄文土器・石器・堅果類		
要約	古屋敷遺跡G区では潮川によって形成された沖積平野の中にあって、縄文時代晚期（突帶紋土器）の新旧2本の河道、地床炉、クルミ・トチなどの貯蔵施設や、その殻の廃棄場、河道に打ち込まれた杭列などを検出した。遺物の多くは旧河道から出土した。縄文土器の他には、打製石斧、磨石、石皿、堅果類が多く出土した。旧河道からは倒木や流木も出土したが、トチやイチイガシが遺跡の近くに繁茂していたことが考えられる。					

一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書4

## 古屋敷遺跡（G区）

2017(平成29年)7月

発行者 国土交通省松江国道事務所

島根県教育委員会

編 集 島根県教育府埋蔵文化財調査センター

〒690-0131 島根県松江市打出町33

Tel:0852-36-8608

印 刷 有限会社 松陽印刷所